



N-ONE e:

オーナーズマニュアル

はじめに

安全に関する表示について

「運転者や他の人が傷害を受ける可能性のあること」を回避方法と共に、下記の表示で記載しています。これらは重要ですので、しっかりお読みください。

△危険

指示にしたがわないと、死亡または重大な傷害に至るもの

△警告

指示にしたがわないと、死亡または重大な傷害に至る可能性があるもの

△注意

指示にしたがわないと、傷害を受ける可能性があるもの

その他の表示について



お車が故障や破損することを防ぐためのアドバイスや、取り扱いに注意いただきたいことを説明しています。



カスタマイズ可能な機能であることを示しています。

取扱説明書について



取扱説明書は、全てのモデルを対象としています。お客様のお車にはない装備や機能が記載されている場合があり、内容がお車と一致しない場合があります。イラストは代表例です。実際のお車と必ずしも一致するものではありません。仕様変更やシステムアップデートにより、お車の仕様と異なる場合があります。最新の情報については、Honda ホームページをご覧ください。 <https://www.honda.co.jp/ownersmanual/HondaMotor/auto/>

※: QR コード読み取り機能付きの携帯電話をお持ちの場合は、左の QR コードをご利用ください。ご利用にあたっては、お手持ちの携帯電話取扱説明書をご覧ください。QR コードは（株）デンソーウェーブの登録商標です。

Honda Total Care プレミアム*

Honda CONNECT を搭載したクルマと緊急サポートセンターやスマートフォンがつながることで、お客様のカーライフがさらに安心・ストレスフリーになるコネクティッドサービスを受けることができます。ご利用になるにはお申込み・ご契約が必要です。Honda Total Care プレミアムの詳しいサービスの内容、およびご契約については Honda Total Care プレミアムのホームページをご覧ください。

<https://www.honda.co.jp/hondatotalcare/premium/>

また、本書では、Honda Total Care プレミアムのサービスをご利用されるうえで、車両側の特有部分について説明があります。サービスをご利用になる際は、ホームページの詳細説明とともに本書の内容もご参照ください。

サービス内容並びに仕様について予告なく変更、または終了することがあります。

■ 車両特有部分について

緊急通報

Q 緊急通報 ▶P.283

トラブルサポート

Q トラブルサポート ▶P.284

お車についてのお問い合わせ

お車の取り扱い方法、故障、修理に関するご相談については、お買い上げ頂きました Honda 販売店、または最寄り Honda 販売店にご相談ください。

販売店検索



クルマ Q&A



- お車についてのお問い合わせの際は、「自動車検査証（車検証）」をご用意ください。
- QR コードは、(株) デンソーウェーブの登録商標です。

*: タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

車両データの記録について

この車には、車両の操作や制御、車両に搭載された各機能の作動履歴などに関するデータを記録する機能が装備されています。各機能の作動時や操作状況により、主に次のようなデータを記録します（車内の映像や音声は記録しません）。

- ・車両の状態（車速など）
- ・運転状態（アクセル、ブレーキ、ステアリング等の操作状況）
- ・SRS エアバッグシステムの作動状況
- ・衝突軽減ブレーキ作動時の前方カメラ画像
- ・車両の故障診断情報

データの取り扱いについて

Honda および Honda が委託した第三者は、記録されたデータを、不具合解析のための技術的診断や、Honda の車両の研究開発、品質向上のために、取得し利用することができます。Honda は、取得したデータを、以下の場合を除き、第三者に開示または提供することはありません。

- ・お車の使用者の同意（リース車、レンタカーの場合は借主の同意）がある場合
- ・警察、裁判所、政府機関等からの、法的強制力のある要請に基づく場合
- ・統計的な処理を行う等、所有者や使用者、お車が特定できないように加工したデータを、研究機関等に提供する場合

目次

1	運転の前に	12
	電気自動車の特徴 ▶ 13 運転の前に確認していただきたいこと ▶ 18 キー ▶ 44 施錠/解錠 ▶ 50 ハンドル ▶ 57 シート ▶ 58 シートベルト ▶ 66 ミラー ▶ 72 パワーウィンドー ▶ 74 テールゲート ▶ 76	
2	運転するときの操作	78
	パワーシステムの起動・停止 ▶ 79 シフト操作 ▶ 82 ブレーキ ▶ 85 発進・走行中 ▶ 92 駐停車 ▶ 94 リアワイドカメラシステム* ▶ 96 高電圧バッテリーの充電 ▶ 97 ウィンカー・ライト ▶ 105 ワイパー・ウォッシャー ▶ 111 デフロスター（くもり止め） ▶ 113 走行に関する機能 ▶ 115	
3	各部の操作	121
	室内灯 ▶ 122 室内装備品 ▶ 124 シートヒーター ▶ 133 エアコン ▶ 134 外部給電* ▶ 138 インフォテインメントシステム* ▶ 142 Bluetooth®オーディオ* ▶ 145 情報* ▶ 146	
4	安全運転支援システム	149
	Honda SENSING ▶ 150 衝突軽減ブレーキ（CMBS） ▶ 156 踏み間違い衝突軽減システム ▶ 162 急アクセル抑制機能* ▶ 167 路外逸脱抑制機能 ▶ 170 歩行者事故低減ステアリング ▶ 175 渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール（ACC） ▶ 179 車線維持支援システム（LKAS） ▶ 189 トラフィックジャムアシスト（渋滞運転支援機能） ▶ 193 先行車発進お知らせ機能 ▶ 198 標識認識機能 ▶ 201 パーキングセンサーシステム ▶ 204	
5	メーターについて	207
	警告灯と表示灯 ▶ 208 メーター ▶ 215 マルチインフォメーションディスプレイ ▶ 219	
6	メンテナンス	230
	メンテナンスの前に ▶ 231 ボンネット内のメンテナンス ▶ 233 ワイパー ▶ 236 タイヤ ▶ 239 エアコンのお手入れ ▶ 244 清掃 ▶ 245	
7	万一の場合には	249
	工具、発炎筒 ▶ 250 電球が切れたとき ▶ 252 スマートキーの電池が切れたとき ▶ 254 パンクしたとき ▶ 256 ジャッキの取り扱い ▶ 264 パワーシステムが起動しないとき ▶ 266 12Vバッテリーがあがったとき ▶ 269 異常がおきたとき ▶ 272 ブレーキのヒューズが切れたとき ▶ 274 けん引したいとき ▶ 280 充電用リッドが開かないとき ▶ 281 テールゲートが開かないとき ▶ 282 緊急時や車両トラブルのとき* ▶ 283	
8	車両情報	286
	仕様 ▶ 287 オープンソースライセンス ▶ 289	

*: タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

1

2

3

4

5

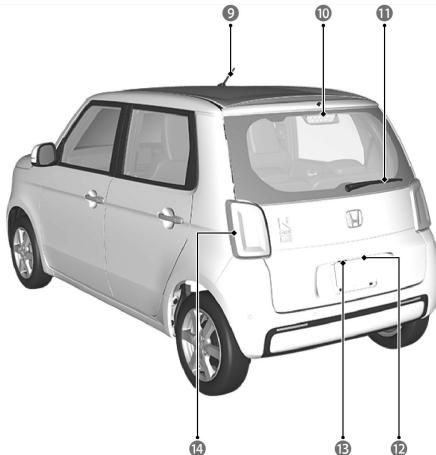
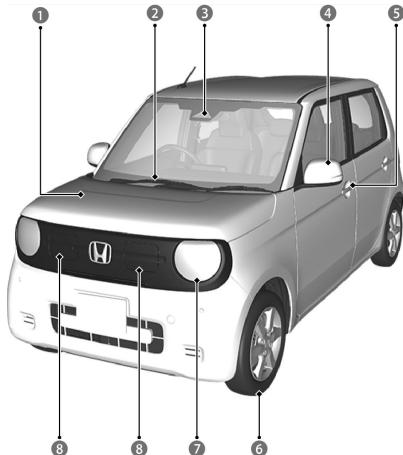
6

7

8

索
引

ビジュアル目次



① ボンネット内のメンテナンス	▶ 233
② ワイパー	▶ 111
	▶ 236
③ フロントワイドビューカメラ	▶ 153
④ ドアミラー	▶ 72
ドアミラーウィンカー	▶ 105
	▶ 252
⑤ 施錠/解錠	▶ 50
⑥ タイヤ	▶ 239
	▶ 256

⑦ ヘッドライト	▶ 105
	▶ 252
デイタイムランニングライト/車幅灯	▶ 105
	▶ 107
ウインカー	▶ 105
	▶ 252
⑧ 高電圧バッテリーの充電	▶ 97
パワーサプライコネクター*	▶ 128
外部給電*	▶ 138
⑨ アンテナ*	
⑩ ハイマウントストップランプ	▶ 252
⑪ リヤワイパー	▶ 112
	▶ 237

*: タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

⑫ テールゲートの開閉	▶76
番号灯	▶252
⑬ リアワイドカメラシステム ^{♦※}	▶96
⑭ 制動灯	▶252
尾灯	▶105
	▶252
ワインカー	▶105
	▶252
後退灯	▶252

※: ナビゲーションの取扱情報をご覧ください。



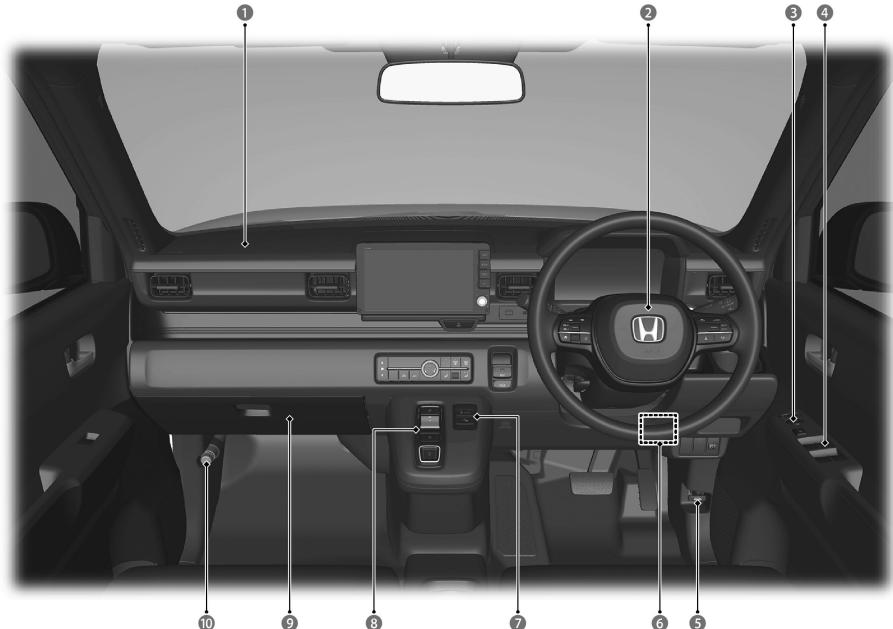
⑪ ルームミラー	▶72
----------	-----

♦: タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

ビジュアル目次

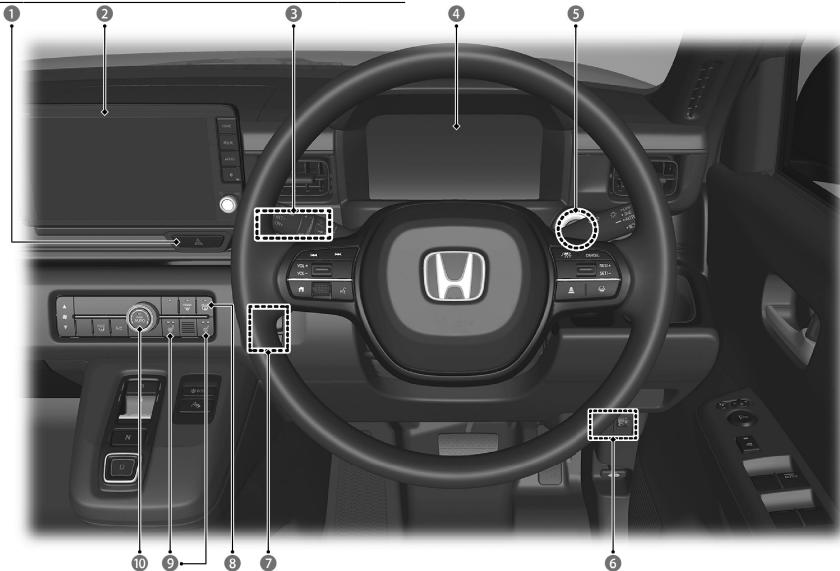
②	▼ マップランプ装備車	▶ 122
	室内灯	▶ 252
▼ マップランプ非装備車		
室内灯		
	マップランプ*	▶ 123
③	緊急通報ボタン*	▶ 283
	トラブルサポートボタン*	▶ 284
④	サンバイザー	
バニティミラー		
⑤	シートベルト	▶ 66

⑥	グラブレール	
⑦	サイドカーテンエアバッグシステム	▶ 40
⑧	室内灯	▶ 122
		▶ 252
⑨	ISOFIX/i-Size 取付装置	▶ 28
⑩	リヤシート	▶ 62
⑪	サイドエアバッグシステム	▶ 38
⑫	アクセサリーソケット	▶ 124
⑬	フロントシート	▶ 61



*: タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

- ① SRS エアバッグシステム (助手席用) ▶36
- ② SRS エアバッグシステム (運転席用) ▶36
- ③ ドアミラー調節スイッチ ▶72
- ④ パワーウィンドースイッチ ▶74
- ⑤ ボンネット解除ノブ ▶234
- ⑥ 室内ヒューズボックス ▶276



- ① 非常点滅表示灯 (ハザードスイッチ) ▶208
- ② ナビゲーション*またはオーディオ* ▶209
- ③ USB ジャック * ▶125
- ④ 充電専用 USB ジャック ▶126

- ⑦ ECON スイッチ ▶117
- ⑧ シングルペダルコントロールスイッチ ▶116
- ⑨ グローブボックス ▶124
- ⑩ 発炎筒 ▶250

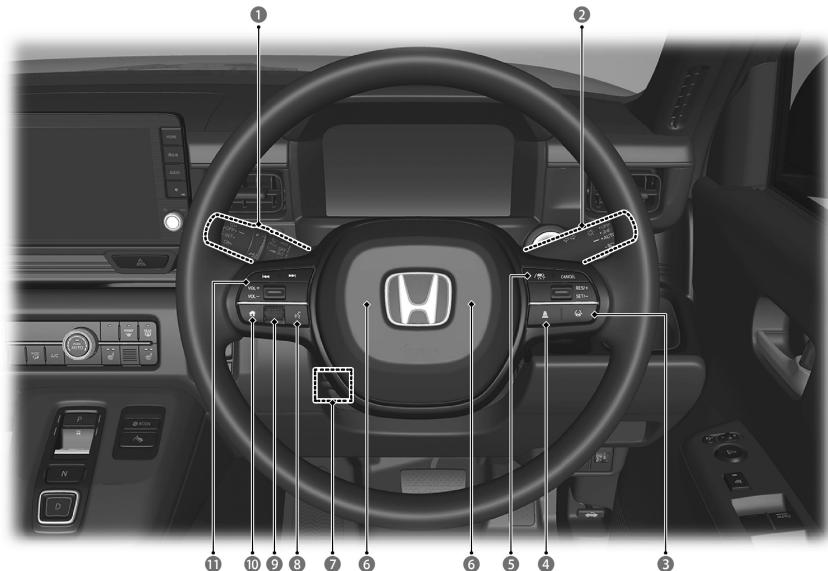
- ④ 警告灯 ▶208
- 表示灯 ▶208
- メーター ▶215
- マルチインフォメーションディスプレイ ▶219
- ⑤ POWER スイッチ ▶79

*: タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

ビジュアル目次

-
- 6  充電リッドオープンスイッチ ▶ 103
-
- 7  ヘッドライトレベリングダイヤル ▶ 107
-
- 7  パーキングブレーキスイッチ ▶ 85
-
- オートマチックブレーキホールドスイッチ ▶ 88
-

※: ナビゲーションの取扱情報をご覧ください。



-
- 1  ワイパー/ウォッシャースイッチ ▶ 111
-
- 2  ライト/方向指示器 (ウインカー) スイッチ ▶ 105
-
- 3  スイッチ ▶ 190
-
- 4  ディスタンススイッチ ▶ 182
-

✿: タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

-
- 8  リヤデフロスター ▶ 113
-
- 9  シートヒータースイッチ ▶ 133
-
- 10  オートエアコン ▶ 134
-

-
- 5  スイッチ ▶ 179
-
- 6  ホーンスイッチ (周辺) ▶ 110
-
- 7  ハンドル位置調節レバー ▶ 57
-
- 8  発話スイッチ* ▶ 182
-
- 9  レフトセレクターホイール ▶ 142
-

⑩  スイッチ ▶142

⑪ オーディオリモートコントロールスイッチ ▶142

※: ナビゲーションの取扱情報をご覧ください。

運転の前に

電気自動車の特徴

電気自動車 13

高電圧システム・バッテリーについて 14

運転の前に確認していただきたいこと

運転の準備 18

運転時の注意事項 20

降車時の注意事項 21

お子さまの安全 21

乳幼児の安全 23

チャイルドシートの取り付けかた 28

大きなお子さまの安全 32

改造とアクセサリー 34

エアバッグについて 35

SRS エアバッグ（フロントエアバッグ） 36

サイドエアバッグ 38

サイドカーテンエアバッグ 40

エアバッグシステム警告灯 41

エアバッグのお手入れ 42

衝突後ブレーキシステム 43

キー

キーについて 44

内蔵キー 48

キーナンバータグ 49

施錠/解錠

キーレスエントリーシステムを使った施錠/解錠方法 50

Honda スマートキーを携帯した施錠/解錠方法 50

降車時オートドアロック機能を用いた施錠方法 52

内蔵キーを使った施錠/解錠方法 54

Honda スマートキーを使わない施錠方法 54

車内の施錠/解錠方法 55

衝撃感知ドアロック解除システム 55

チャイルドブルーフ 55

こんなときは 56

ハンドル

ハンドルの調整方法 57

シート

シートの調整について 58

フロントシートの調整方法 61

リヤシートの調整方法 62

リアシートリマインダー 64

シートベルト

シートベルトについて 66

正しい着用法 67

シートベルトリマインダー 70

シートベルトのアンカーポイント 71

ミラー

ルームミラー 72

ドアミラー 72

パワーウィンドー

パワーウィンドーの開閉方法 74

テールゲート

テールゲートの開閉時の注意 76

テールゲートの開閉方法 77

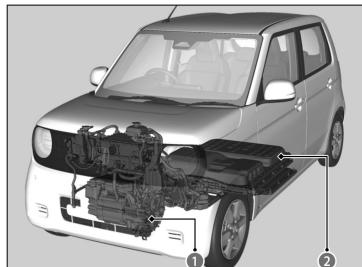
1 運転の前に >

電気自動車の特徴

電気自動車

電気自動車は、充電された電気によりモーターを駆動させて走行します。電費や航続可能距離は、運転のしかたに大きく左右されます。また過度なエアコンの使用は、航続可能距離に影響します。

構成部品



① モーター：

車軸を直接駆動します。また回生ブレーキで得た電気を高電圧バッテリーへ供給します。

② 高電圧バッテリー：

電気をためておき、モーターに電気を供給します。

高電圧部位や高電圧配線部は電磁シールド構造になっているため、従来の車や家電製品の電磁波と大きな差はありません。

■ バッテリーのタイプ

この車には 2 種類のバッテリーが装備されています。エアバッグ、ライト、アクセサリーを使用するための 12V バッテリーと、モーターの駆動と 12V バッテリーの充電をする高電圧バッテリーが装備されています。

高電圧バッテリーの充電

住宅などの普通充電器や、公共の充電設備にある急速充電器で充電ができます。

Q. 充電の前に ▶P.97

Q. 充電方法 ▶P.99

Honda Total Care のアプリを使用して、充電に関する設定を行うことが可能です。詳しくは Honda Total Care のホームページをご覧いただき、Honda 販売店にご相談ください。

回生エネルギーと回生ブレーキ

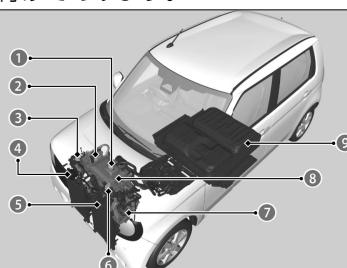
減速時または下り坂では、モーターは発電機として働き、加速時に使った電力の一部を回生エネルギーとして取り戻します。走行中にアクセルペダルから足を離したときや、ブレーキペダルを踏んだときに車両の運動エネルギーを電気エネルギーに変換し、減速力を得ることができます。

»満充電時や低温または高温時など、高電圧バッテリーの状態によっては回生ブレーキが作動しない場合や効きが低下する場合があります。

エネルギーを回生するために、モーター回生作動音が聞こえます。また、低速走行でブレーキを踏んだ場合やブレーキシステムが切り換わるときに、ブレーキ装置から音が聞こえることがあります。

高電圧システム・バッテリーについて

この車両には、モーター、ラジエーターなどの高温部品や、高電圧ユニット、高電圧バッテリー、高電圧ケーブル（オレンジ色）などの高電圧システムがあります。これらには警告ラベルが張り付けてあります。



① エアコン冷却水タンクキャップ

⑥ 高電圧システムラジエーターキャップ B

② エアコンコンプレッサー

⑦ モーター

③ 高電圧システムラジエーターキャップ A

⑧ パワードライブユニット

④ AC 充電リッド

⑨ 高電圧バッテリー

⑤ DC 充電リッド

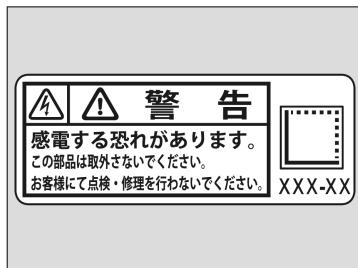
■ 警告ラベル



エアコン冷却水タンクキャップ



高電圧システムラジエーターキャップ



パワードライブユニット

⚠ 警告

高電圧システムには高電圧回路と高電圧部品があります。注意事項を守らないと、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。

- ・高電圧部品、高電圧ケーブル（オレンジ色）またはコネクターを取り外したり、分解したり、交換したりしないでください。
- 高電圧システムの取り扱いは、資格のある技術者のみが行ってください。点検と修理については、Honda 販売店にご相談ください。

高電圧バッテリーの特性

車を使用しない期間が続くと高電圧バッテリーは少しずつ放電をします。このため、長期間駐車をすると高電圧バッテリーの充電量は低下します。

充電量が低い状態で放置するとバッテリー寿命を縮める原因になります。バッテリーの性能を維持するために、少なくとも3ヶ月に一度充電してください。またバッテリーの寿命を長くするために、走行直前にのみ満充電することをおすすめします。

» 高電圧バッテリーは時間の経過や使用状況により蓄電能力が低下します。蓄電能力の低下に伴い航続可能距離が短くなります。

高電圧バッテリーの寿命は温度にも影響されます。極端な高温または低温下での駐車は、高電圧バッテリーの消耗を加速させます。

高電圧バッテリーの温度が高温または低温のときは、充電にかかる時間が通常より長くなります。また温度が低いときは、航続可能距離が短くなります。

高電圧バッテリーの温度が高温または低温の状態になると、出力が制限される場合があります。高電圧バッテリーの温度が適正な温度に戻ると、出力は元に戻ります。出力が元に戻らないときは、Honda販売店で点検を受けてください。

■ バッテリー加温システム

外気温が低いときに充電コネクターを接続している場合は、バッテリー加温システムにより、始動性能や走行性能を維持するために高電圧バッテリーを加温します。充電コネクターを接続したままでしばらく車両を使用しない日が続くと、バッテリー加温システムは停止します。

» 高電圧バッテリーの温度が-25°Cになると、パワーシステム、バッテリー加温システムは起動できません。高電圧バッテリーの温度が極端に低下した場合は、外気温の上昇などにより高電圧バッテリーが温まるのを待つか、けん引などで車両を暖かい場所に移動させてください。

» バッテリー加温システムは、12Vバッテリーを外した状態では作動しません。

ご使用時の注意

高電圧システムの分解や、配線（オレンジ色）の取り外しなどを行うと感電するおそれがあります。点検・修理は、必ずHonda販売店にご相談ください。

⚠ 警告

車体が大きく破損・変形するような事故が起きたときは、感電するおそれがありますので高電圧部位や、それらを接続する配線（オレンジ色）には絶対触れないでください。

高電圧バッテリー液がもれているときは、バッテリー液が目や皮膚に付くとその部分が侵されますので、十分に注意してください。万一付着したときは、すぐに清浄な水で数分間洗浄した後、ただちに医師の診察を受けてください。

! 火災が発生したら電気火災用消火器を使用してください。
少量の水での消火は、かえって危険な場合がありますので、水はかけないでください。

! 車体が損傷を受けたときは、必ず Honda 販売店で修理を受けてください。

■ 高電圧遮断システム

事故などにより車体が衝撃を受けたときに、高電圧遮断システムが作動する場合があります。システムが作動すると、高電圧システムが自動的に OFF になり、走行可能状態になりません。高電圧システムを再始動するには、Honda 販売店にご連絡ください。

■ 廃車にするとき

高電圧バッテリーは、リチウムイオンバッテリーを使用しています。廃棄処分については特別な取り扱いが必要です。廃車するときは、Honda 販売店にご相談ください。

運転の前に確認していただきたいこと

運転の準備

乗車前の確認事項

- 車の周囲に子供はいないか、車の周りに障害物はないか
» 運転席から見えない死角や、バックミラーでは確認できない死角がありますので、乗車する前に確認してください。
- タイヤは正常か
» 空気圧、亀裂、損傷や異常な摩耗がないかを確認してください。
Q タイヤのメンテナンスについて ▶P.239
- ボンネットは完全に閉まっているか
» 走行中にボンネットが開くと、視界がさえぎられて危険です。
- 窓やミラーの視界、灯火器類の光をさえぎるものがないか
» 霜、雪、氷が付着している場合は取り除いてください。
» 屋根に雪が積もっている場合は、走行時に滑り落ちて視界をさえぎる可能性があるため取り除いてください。氷結しているときは、氷が溶けてから取り除いてください。
» 足回りに氷塊が付着している場合は、部品を損傷しないよう注意しながら取り除いてください。
- ドアが凍結していないか
» 凍結している場合は、ドアを無理にはがさずお湯をかけて溶かしてください。お湯をかける際は、ドアのキー穴部にかかるないようにしてください。無理にはがすと、ドアまわりのゴムがはがれます。凍結防止のため、お湯をかけた後は水分をよくふき取ってください。
- ボンネット内に可燃物の置き忘れや、燃えやすいものがないか
» 車両を長期間使用しなかった場合や、メンテナンスの後は、特に注意してください。火災などの思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 充電ケーブルが車に接続されていないか
» 充電ケーブルを取り外してください。



キーの電子部品の故障など、不具合が発生した場合は Honda 販売店にご相談ください。

乗車後の確認事項

- ドア、テールゲートは完全に閉まっているか
» すべてのドア、テールゲートが施錠されていることを確認してください。
Q キーレスエントリーシステムを使った施錠/解錠方法 ▶P.50

1 運転の前に 〉 運転の前に確認していただきたいこと

- ドアやテールゲートが開いていたり、完全に閉まっていないと警告表示がマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。
⇒ドア、テールゲートをもう一度正しく閉め直してください。警告表示は消灯し、正常な状態に戻ります。
- Q マルチインフォメーションディスプレイについて ▶P.219
- 運転しやすい姿勢にシート位置を調節しているか
⇒正しい運転姿勢がとれるよう、シート位置の調節をしてください。
- Q フロントシートの調整方法 ▶P.61
- Q シートの調整について ▶P.58
- 同乗者のシートは安全が保たれるよう調節しているか
⇒ダッシュボードからできるだけ離れた位置までシートを下げてください。
- Q フロントシートの調整方法 ▶P.61
- Q シートの調整について ▶P.58
- 乗員全員が正しくシートベルトを着用しているか
⇒運転者と乗員が正しくシートベルトを着用していることを確認してください。
- Q 正しい着用法 ▶P.67
- エアバッグシステム警告灯などが点灯していないか
⇒エアバッグに関する説明をお読みいただき、シートの位置などを調節してください。
- Q エアバッグについて ▶P.35
- Q エアバッグシステム警告灯 ▶P.41
- お子さまの安全を守るために、チャイルドシートやシートベルトを着用しているか
⇒お子さまが同乗する場合は、お子さまの年齢や身長・体重に応じてチャイルドシートやシートベルトなどで安全を確保するようにしてください。
- Q お子さまの安全 ▶P.21
- フロアマットは車に合ったものを適切に使用しているか
⇒ペダルに引っかかっていたり、固定されていなかったり、重ねて使っているとブレーキやアクセルの操作の妨げとなり危険です。
 - フロントシートの足元にものを置いていないか
⇒ブレーキやアクセルの操作の妨げとなり危険です。
 - 積み込んだ荷物が適切に固定されているか
⇒不適切な荷物の積み込みは、タイヤに負担をかけたり走行中のバランスを維持できず危険です。
 - 荷物はシートの高さを越えていないか
⇒後方視界を妨げたり急ブレーキのときに荷物が飛び出したりするおそれがあり危険です。
 - ルームミラー、ドアミラー、ハンドルは適切に調節したか
⇒正しい運転姿勢ですわり、それぞれ適切な位置に調節します。
- Q ルームミラー ▶P.72
- Q ドアミラー ▶P.72
- Q ハンドルの調整方法 ▶P.57

1 運転の前に 〉 運転の前に確認していただきたいこと

- ・動物を乗せるときは、動きまわらないようにしているか
»運転の妨げになったり、急ブレーキのときなどに思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- ・メーターに異常を示す警告灯などが点灯していないか?
»異常を示す警告灯の異常を解決してから走行します。

Q. 警告灯と表示灯一覧 ▶P.208

運転時の注意事項

■ 霧が出た場合

視界が悪くなるため、昼間でもヘッドライトを下向きで点灯し、中央線、ガードレール、前走車のテールランプなどを目安にして、速度を落として走行してください。

■ 風が強い場合

車が横に流されるようなときは、ハンドルをしっかりと握り、速度を徐々に落として進路を立て直してください。トンネルの出口、橋、土手の上、山を削った切り通しの走行時や大型トラックの追い越し時などには、特に横風の影響を受けやすいため、十分に注意してください。

■ 雨が降っている場合

路面が滑りやすくなっているため、急ブレーキ、急加速、急ハンドルを避け通常より注意深く運転してください。また、わだちなどの水のたまりやすい場所ではハイドロプレーニング現象を起こしやすくなります。



冠水路などの深い水たまりは走行しないでください。

パワーシステムや駆動系の破損、電装品の故障につながるおそれがあります。

■ その他

走行中、床下に強い衝撃を受けたときは、思わぬ事故につながるおそれがあるため、ただちに安全な場所に停車してブレーキフルードの漏れ、各部に損傷がないかを確認してください。

停車中や極低速のときハンドル操作を繰り返したり、ハンドルに力をかけて保持すると、EPS（電動パワーステアリング）システムの温度が上昇し、システム保護がはたらきハンドル操作が徐々に重くなります。

»システムの温度が下がると復帰します。

»断続的にシステム保護がはたらくと、システム破損の原因となります。

1 運転の前に 〉 運転の前に確認していただきたいこと

降車時の注意事項

■ 坂道で駐車する場合

- ・パーキングブレーキをかけ、シフトポジションを **P** にしているか

» タイヤに輪留めをすると効果が高まります。

Q シフトポジションについて ▶P.82

■ 車から離れる場合

- ・お子さまや介護を必要とされる方、ペットを車内に残していないか

» 炎天下などでは車内が高温になることがあります。車内にお子さまや介護を必要とされる方、ペットを残したままにしないようにしてください。

- ・車内にライターや炭酸飲料缶を放置していないか

» 車内温度上昇によりライターなどの可燃物が自然発火したり、缶などは破裂したりするおそれがあります。

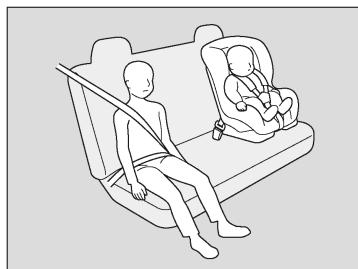
お子さまの安全

お子さまの安全を守るために

お子さまが乗車するときは、下記の注意点を確認し、お子さまの安全を確保してください。

- ・お子さまはリヤシートに乗せる

» お子さまを助手席に乗せると、不意の動作が気になったり、スイッチ類をいたずらしたりするなど運転の妨げになるおそれがあります。また、SRS エアバッグが膨らむ際、強い衝撃があります。



- ・お子さまにも必ずシートベルトを着用させる

» お子さまを抱えたり、ひざの上に乗せないでください。衝突したときに支えることができません。正しい着用方法でお子さまにもシートベルトをしてください。

- ・乳幼児にはチャイルドシートを使用する

» 乳幼児を乗せるときは、必ずチャイルドシートを使用します。

1 運転の前に 〉 運転の前に確認していただきたいこと

- 車外に手や顔、ものに出さない
⇒走行中や一時停止時などに、お子さまが車外に手や顔、ものなどを出さないようにしてください。思わぬ障害物により事故のおそれがあります。
- ドア、ウィンドー、シートなどの操作は必ず大人が行う
⇒思わぬけがの原因となりますので、お子さまにはドア、ウィンドー、シートなどの操作をさせないでください。
- 車を離れるときは、お子さまを連れて出る
⇒お子さまだけを車内に残さないでください。特に、炎天下の車内は高温になります。また、お子さまのいたずらにより、車の発進、火災などの思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 警告

チャイルドシートは後席に設置する。

助手席に設置すると SRS エアバッグが作動したときの衝撃で、重大な傷害を受けたり、死亡するおそれがあります。

⚠ 警告

AIRBAG



シート前方の作動可能なエアバッグで保護されたシートには、後ろ向きチャイルドシートを絶対に取り付けないでください。

お子さまが死亡、または重大な傷害を受けるおそれがあります。



お子さまを助手席に乗せることをおすすめしない理由は下記の通りです。

- お子さまが助手席のシートに正しく乗車できないと、SRS エアバッグが膨らんだときに重大な傷害を負うおそれがある
- お子さまの体の一部がサイドエアバッグの作動範囲に入ると、サイドエアバッグが膨らんだときに重大な傷害を負うおそれがある

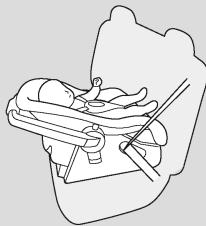
1 運転の前に 〉 運転の前に確認していただきたいこと

乳幼児の安全

乳児のチャイルドシート

首のすわっていない乳児は、乳児用のチャイルドシートを正しく固定し、乗せてください。

■ 後ろ向きのチャイルドシートの設置場所



リヤシートに設置することができます。

» 推奨するのは、助手席の真後ろの席への設置です。その場合、助手席には人を乗せず助手席のシートをできるだけ前に出してください。

» 設置したチャイルドシートとフロントシートが接触していないことを確認してください。

△警告

後ろ向きのチャイルドシートを前向きにして使わない。

前向きにして使うと前方から衝突したときに、乳児が重大な傷害を負うおそれがあります。

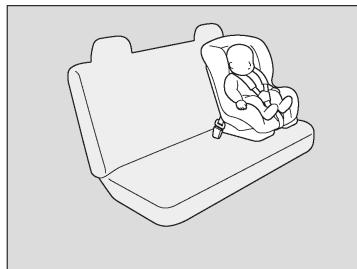
後ろ向きのチャイルドシートは助手席に設置しない。

助手席のSRSエアバッグが膨らんだときに、チャイルドシートの背面にエアバッグが当たり、乳児が重大な傷害を負ったり死亡したりするおそれがあります。

幼児のチャイルドシート

チャイルドシートメーカーが指定する範囲内の幼児は、前向きのチャイルドシートを正しく固定し、乗せてください。

■ 前向きのチャイルドシートの設置場所



リヤシートへの設置を推奨します。

⚠️ 警告

助手席に前向きのチャイルドシートを設置しない。

助手席に前向きのチャイルドシートを設置すると、助手席のシートが前に出すぎていたり、衝突したときに幼児の頭が前に投げ出されると SRS エアバッグで強い衝撃を受けるため、重大な傷害を負ったり死亡したりするおそれがあります。やむをえず助手席に前向きのチャイルドシートを設置する場合は、助手席のシートをできるだけ後ろに下げて設置してください。

チャイルドシートの選びかた

チャイルドシートを購入するときは、シートベルト固定タイプチャイルドシートまたは ISOFIX/i-Size チャイルドシートをお選びください。

シートベルト固定タイプチャイルドシートは、シートベルトを用いて座席に固定します。

ISOFIX/i-Size チャイルドシートは、リヤシートに付属している下部取付金具とトップテザー取付金具またはサポートレッグで固定します。

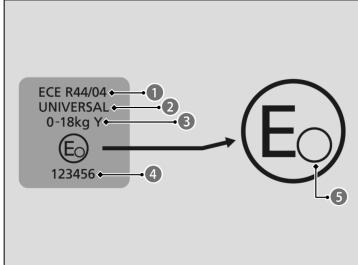
■ チャイルドシート選択の条件

- ・ チャイルドシートが一覧表に案内されているお子さまに合ったタイプとサイズであること
- ・ チャイルドシートが取り付ける車の座席にあったものであること
- ・ チャイルドシートが安全基準に適合したものであること
UN R44/R129 に適合したチャイルドシートをお勧めします。

1 運転の前に 〉 運転の前に確認していただきたいこと

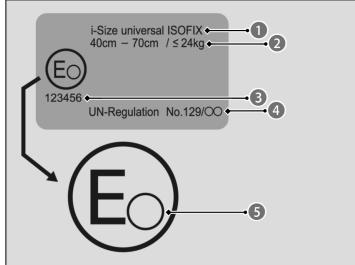
UN 基準の認可を受けたチャイルドシートには、認可マークが表示されています。
チャイルドシートについている認可マークを確認してください。

UN R44 認可表示 (例)



- ① 法規番号
- ② カテゴリー
- ③ 体重範囲
- ④ 認可番号
- ⑤ 国番号

UN R129 認可表示 (例)



- ① カテゴリー
- ② 身長範囲/体重範囲
- ③ 認可番号
- ④ 法規番号
- ⑤ 国番号

! Honda 純正のチャイルドシートをご用意しています。ご購入、ご使用に際しては Honda 販売店にご相談ください。

チャイルドシートについて

■ シート位置別チャイルドシート情報



	車両のシートベルトで固定するタイプの汎用(ユニバーサル)チャイルドシートに適している
	車両のシートベルトで固定するタイプの前向きに取付ける汎用(ユニバーサル)チャイルドシートに適している
	i-Size および ISOFIX チャイルドシートに適している
	前向きチャイルドシートのみに適している
	後ろ向きのチャイルドシート取り付け禁止
	トップテザー取付金具を装備している座席

※1: チャイルドシートを取り付ける場合、シートスライドを最も後ろの位置に調節すること。

チャイルドシートがヘッドレストに干渉して安定して取り付けられない場合は、ヘッドレストを上に上げてください。

※2: ベルトユニバーサルタイプを取り付ける時はシートバックを最も前のロック位置に調節してください。

サポートレッグ付きのチャイルドシートは、i-Size チャイルドシートが搭載可能ではない着座位置にも取り付けることができます。

1 運転の前に 〉 運転の前に確認していただきたいこと

		シートの位置及びシート位置番号		
サイズグループ 重量 身長		①	②	③
		助手席 ^{※1}	後席(左側)	後席(右側)
ベルト固定の汎用(ユニバーサル)チャイルドシートが搭載可能な着座位置(有/無)	グループ0	10kg 以下	無	有 ^{※2}
	グループ0+	13kg 以下		
	グループI	9-18kg	有 ^{※2}	有 ^{※2}
	グループII	15-25kg		
	グループIII	22-36kg		
i-Size チャイルドシートが搭載可能な着座位置(有/無)	150cm 以下		無	有
推奨チャイルドシートが搭載可能な着座位置(有/無) ^{※3}	Honda 純正チャイルドシートリスト参照		有	有
搭載可能な横向きチャイルドシート固定具(L1/L2)	—		無	無
搭載可能な最大の後ろ向きチャイルドシート固定具(R1/R2X/R2/R3)	グループ0	10kg 以下	無	R3
	グループ0+	13kg 以下		
	グループI	9-18kg		
搭載可能な最大の前向きチャイルドシート固定具(F2X/F2/F3)	グループI	9-18kg	無	F3
搭載可能な最大の前向きジュニアシート固定具(B2/B3)	150cm 以下		B3	B3

※1: チャイルドシートを取り付ける場合、シートスライドを最も後ろの位置に調節すること。

チャイルドシートがヘッドレストに干渉して安定して取り付けられない場合は、ヘッドレストを上に上げてください。

※2: ベルトユニバーサルタイプを取り付ける時はシートバックを最も前のロック位置に調節してください。

サポートレッグ付きのチャイルドシートは、i-Size チャイルドシートが搭載可能ではない着座位置にも取り付けることができます。

※3: 記載のチャイルドシートは車両販売時点の Honda 純正チャイルドシートです。最新の Honda 純正チャイルドシートについては販売店にお問い合わせください。

Honda 純正チャイルドシート以外にも取り付けることができる場合があります。チャイルドシートメーカーにお問い合わせください。

1 運転の前に 〉 運転の前に確認していただきたいこと

■ 推奨チャイルドシート

適用範囲	チャイルドシート	カテゴリー
身長 100cm 以下	Honda Baby & Kids i-Size	i-Size(後向き)
身長 71cm 以上 かつ月齢 15 か月以上ー身長 100cm 以下	Honda Baby & Kids i-Size	i-Size
身長 100cm 以上 150cm 以下	Honda Junior i-Size	i-Size Booster seat

推奨チャイルドシートのご購入は Honda 販売店にご相談ください。

固定具	お子さまの大きさ	使用の向き	形状、大きさ
ISO/L1	乳児	左	寝台式
ISO/L2	乳児	右	寝台式
ISO/R1	乳児	後ろ	—
ISO/R2X	幼児	後ろ	小型
ISO/R2	幼児	後ろ	小型
ISO/R3	幼児	後ろ	大型
ISO/F2X	幼児	前	低型
ISO/F2	幼児	前	低型
ISO/F3	幼児	前	全高
ISO/B2	学童	前	狭幅
ISO/B3	学童	前	全幅

△警告

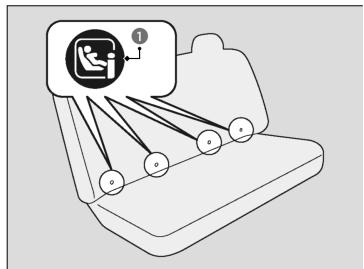
シートベルトは必ず正しく着用する。

シートベルトを正しく着用しないと、衝突したときに重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

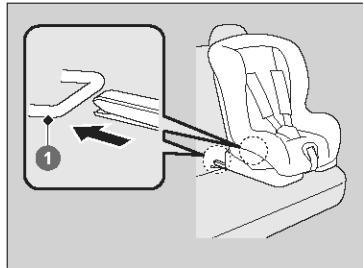
チャイルドシートの取り付けかた

ISOFIX/i-Size チャイルドシートの取り付け

ISOFIX/i-Size チャイルドシートは、リヤシートに設置できます。チャイルドシートは、下部取付金具とトップテザー取付金具で固定します。



① マーク



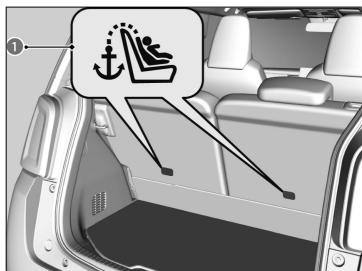
① 下部取付金具

- [1] マークの下にあるシートの切れ目から下部取付金具を確認する。
- [2] リヤシートの背もたれが、手前の位置になっていることを確認する。

【リヤシートの調整方法 ▶P.62】

- [3] チャイルドシートを座席に置き、チャイルドシートの取扱説明書にしたがって下部取付金具に取り付ける。
※取り付けの際に、異物やシートベルトなどが下部取付金具にかみ込まないようにしてください。

▼ トップテザーストラップ付きチャイルドシート



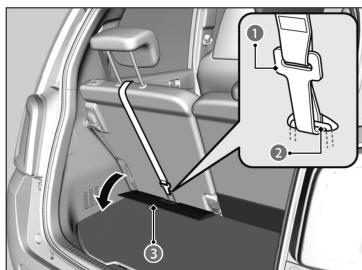
① トップテザー取付金具シンボル

[4] ヘッドレストを調節して最上段で固定する。トップテザーストラップが1本タイプの場合はストラップをヘッドレストの下に通し、2本タイプの場合はヘッドレストの外側に通す。

» このときトップテザーストラップがねじれないように注意してください。

- [5] カバーを開きながら、トップテザーストラップをトップテザー取付金具に引っかけ、ストラップを締める。
- [6] チャイルドシートを前後左右にゆすり、しっかり固定されていることを確認する。

▼ 1本タイプ



① トップテザーストラップ

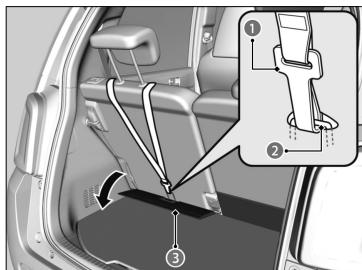
② トップテザー取付金具

③ カバー

⚠ 注意

トップテザー取付金具シンボルが無いifikに、トップテザーストラップを使用しないでください。

▼ 2本タイプ



① トップテザーストラップ

② トップテザー取付金具

③ カバー

1 運転の前に 〉 運転の前に確認していただきたいこと

▼サポートレッグ付きチャイルドシート



[4] サポートレッグをチャイルドシートの取扱説明書にしたがってフロアにつくまで伸ばす。

» サポートレッグを設置するフロア面は水平な面であることを確認してください。サポートレッグの設置フロア面が水平ではない場合、安定しないことがあります。

» 設置したチャイルドシートとフロントシートが接触していないことを確認してください。

① サポートレッグ

- ISOFIX/i-Size チャイルドシートは、シートベルトで固定する必要はありません。
- チャイルドシートに付属の取扱説明書をよく読んでください。

⚠ 注意

チャイルドシートが確実に固定されているか確認する。

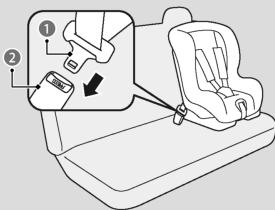
確実に固定されていないと、ブレーキや衝突のときなどにチャイルドシートが飛び出し、傷害を受けるおそれがあります。

⚠ 注意

下部取付金具周辺に、異物やシートベルトのかみ込みがないか確認する。

異物やシートベルトをかみ込むとチャイルドシートが確実に固定されず、ブレーキや衝突のときなどにチャイルドシートが飛び出し、傷害を受けるおそれがあります。

シートベルトでの取り付け



[1] リヤシートの背もたれが、手前の位置になっていることを確認する。

Q リヤシートの調整方法 ▶P.62

[2] チャイルドシートを座席に置く。

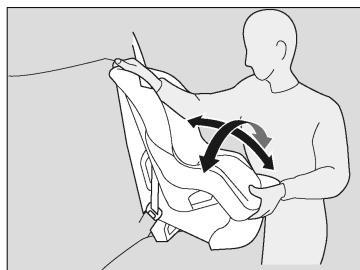
[3] シートベルトをチャイルドシートに通し、タングプレート(①)をバックル(②)に差し込む。

»このとき、バックルが「カチッ」という音がするまできちんと差し込んでください。

»チャイルドシートの種類によりシートベルトの固定に固定金具(ロッキングクリップ)が必要になります。

[4] チャイルドシートに付属の取扱説明書にしたがって取り付ける。

[5] チャイルドシートを前後左右にゆすり、しっかりと固定されていることを確認する。



- ・チャイルドシートに付属の取扱説明書をよく読んでください。

⚠ 注意

チャイルドシートが確実に固定されているか確認する。

確実に固定されていないと、ブレーキや衝突のときなどにチャイルドシートが飛び出し、傷害を受けるおそれがあります。

大きなお子さまの安全

シートの使用について

幼児用のチャイルドシートの使用条件を超えるお子さまは、リヤシートに乗せて三点式シートベルトを着用させてください。お子さまをシートに深くすわらせ、以下の確認項目でひとつでも適合しない場合、ジュニアシートの使用が必要です。

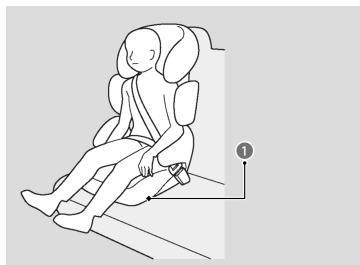
1 運転の前に 〉 運転の前に確認していただきたいこと

■ 確認項目



- お子さまのひざがシートの前端で無理なく曲がっているか？
- 肩ベルトがお子さまの首と腕の間にかかっているか？
- 腰ベルトが低い位置にあり、お子さまの太ももに触れているか？
- 乗車中、無理なくすわっていられるか？

ジュニアシートに乗せる場合



三点式シートベルトを使用できず、ジュニアシートを用いる必要があるお子さまは、ジュニアシートをリヤシートに設置して使用してください。安全のため、お子さまがジュニアシートの使用に適した範囲に入っているか確認してください。

① ジュニアシート

- ジュニアシートの取り付けについては、ジュニアシートに付属の取扱説明書をよく読み、正しく取り付けてください。ジュニアシートには、座高の高いものと低いものがあります。お子さまが適切にシートベルトを着用できるものを選択してください。

やむをえず、お子さまを助手席に乗せる場合

正しい姿勢ですわる、走行中にシートベルトを着用するなどの規則をお子さまが守ることができ、お子さまを助手席に乗せても安全と判断した場合、下記の項目を守ってお子さまを乗車させてください。

- 取扱説明書をよく読み、シートベルトに関する指示と安全に関して十分に理解する
- 助手席を一番後ろまで下げる
- 上体を起こし、シートに深く腰かけるように指示する
- お子さまのシートベルトが正しい位置で、しっかりと固定されているか確認する

⚠ 警告

お子さまは助手席に乗せない。

お子さまを助手席に乗せると、SRS エアバッグが膨らんだときに、重大な傷害を負うおそれがあります。やむをえず、助手席にお子さまを乗せる場合は、できるだけシートを後方に下げ、必要ならばジュニアシートを使用し、適切にシートベルトを着用してすわらせてください。

改造とアクセサリー

改造について

- 車の改造はしないでください。
- Honda 純正部品以外の、車の性能や機能に適さない部品を使用しないでください。
⇒ Honda が国土交通省に届け出をした部品以外のものを装着すると、違反になることがあります。
- 診断コネクターは、故障診断用の診断装置などの機器のみを接続するためのものです。
⇒ それ以外の機器を接続すると、車の電子機器に悪影響をおよぼしたり、12V バッテリーがあがるなど、思わぬトラブルを招くおそれがあります。
- 無線装置などの取り付けの際には、必ず Honda 販売店にご相談ください。
⇒ 装置や取り付け方法が適切でない場合、電子機器部品に悪影響をおよぼすことがあります。

⚠ 警告

不正改造、電装品の分解・改造は、絶対に行わないでください。

- 法律で禁止されています。
- 適正な性能や機能を発揮しない可能性があります。
- 故障や火災など思わぬ事故につながる可能性があります。

⚠ 警告

高電圧バッテリーは、純正品の使用をおすすめします。純正品以外のバッテリーを使用した場合、過充電や火災など思わぬ事故につながる可能性があります。

1 運転の前に 〉 運転の前に確認していただきたいこと

! 車の性能、品質を維持するために、Honda 車に最も適した Honda 純正部品をお使いください。

純正部品には下記のマークが付いています。

! お求め、装着に際しては、Honda 販売店にご相談ください。

HONDA

GENUINE PARTS

アクセサリーの取り付け

アクセサリーを取り付ける場合は、下記の項目を確認してください。

- アクセサリーを取り付けていないか
 - アクセサリーの揺れる動きが車外の状況認識を遅らせることがあります。
 - 吸盤がレンズのはたらきをして、火災につながるおそれがあります。
- エアバッグの作動や視界の妨げになる場所にアクセサリーを取り付けていないか

エアバッグについて

エアバッグは、パワーモードが ON モードのときに車体が衝突による衝撃を受けると膨らみ、運転者および同乗者の受ける衝撃を緩和させます。エアバッグには下記の種類があり、衝突の方向や条件などにより作動が一部異なります。

- SRS エアバッグ：フロントシートの前方向エアバッグ
- サイドエアバッグ：フロントシートの横方向エアバッグ
- サイドカーテンエアバッグ：窓側の天井部両側についていたエアバッグ

! この車にはイベントデータレコーダー (EDR) が装備されています。SRS エアバッグが作動したとき、もしくは一定以上の衝突が発生した場合に車両データを記録します。

○ 車両データの記録について ▶P.3

⚠ 警告

エアバッグ装備車でもシートベルトは必ず使用する。

エアバッグは、衝撃を緩和するためのシステムで、シートベルトの補助拘束具です。エアバッグ装備車であっても、必ず正しくシートベルトを着用してください。シートベルトを着用しないと、衝突時にエアバッグの効果が十分に発揮されず、重大な傷害や死亡などの危険性が高くなります。

⚠ 注意

エアバッグが膨らんだ直後は、構成部品に触れない。

エアバッグの構成部品が熱くなっているため、やけどなどの思わぬけがをすることがあります。

エアバッグの分解、取り外しはしない。

不適切な取り扱いは故障や誤作動の原因となります。



エアバッグは非常に速い速度で膨らみます。

エアバッグとの接触により、すり傷、やけど、打撲などを受けることがあります。



エアバッグが膨らむときに、空中に粉が舞うことがあります。

この粉は無害ですが、場合によっては一時的に不快感をおぼえることがあります。安全を確認後、ただちに車外に出てください。

SRS エアバッグ（フロントエアバッグ）

SRS：サブリメンタルレストRAINTシステム（Supplemental Restraint System）の略で、シートベルトの補助拘束の意味。

運転席と助手席についています。前方向からの衝突により、SRS エアバッグが膨らんで運転者と助手席の同乗者の頭と胸部への衝撃を緩和します。

格納場所

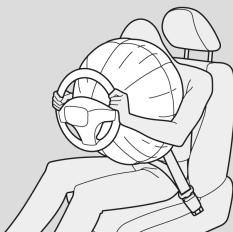
運転席側はハンドルの中央、助手席側はダッシュボードに SRS エアバッグが格納されています。どちらも「SRS AIRBAG」と表示されています。

1 運転の前に 〉 運転の前に確認していただきたいこと

作動のしくみ

SRS エアバッグが作動するのは、一定以上の衝撃で前方向から衝突したときです。このとき、センサーが衝突による急激な減速を検知し、コントロールユニットのはたらきにより運転席と助手席の SRS エアバッグが膨らみます。

SRS エアバッグの作動



前方向から衝突すると、シートベルトが乗員の下半身と胴体を拘束し、SRS エアバッグが頭と胸部を保護します。運転者の視界を妨げたり、ハンドル操作の邪魔にならないように、SRS エアバッグは膨らんだ後すぐにしほみます。

SRS エアバッグは、次のような場合に作動します。

- ・20~30km/h 以上の速度で、きわめて厚い固定されたコンクリートの壁に真正面から衝突したときと同等か、それ以上の衝撃を受けたとき
- ・車両の前方左右約 30 度以内の方向から強い衝撃を受けたとき
- ・衝撃を吸収できるもの（車やガードレールのように変形するもの）に衝突した場合、作動するときの車速は高くなります。

次のような場合、車両下部に強い衝撃を受け、SRS エアバッグが作動することがあります。

- ・縁石や地面の突起物に衝突したとき
- ・深い溝や穴に落ちたとき
- ・高いところから落ちたとき

次のような場合、SRS エアバッグが作動しないことがあります。

- ・電柱、立ち木などへの衝突
- ・トラックなどへの潜り込み
- ・部分的な衝突や斜め方向からの衝突

車体の部位によって衝撃の吸収度合いが異なりますので、損傷状態の大小と SRS エアバッグの作動は必ずしも一致しません。

シートベルトだけで乗員を保護できるような低い速度での衝突や次のような場合、乗員保護の効果がないので作動しません。

ただし事故の状況、形態によっては、SRS エアバッグが作動することがあります。

- ・横方向からの衝突
- ・後部からの衝突
- ・横転または転覆

⚠ 警告

インストルメントパネルに手をついたり頭や胸を近づけた状態で乗車しない。

SRS エアバッグが膨らむ際、強い衝撃を受け重大な傷害を受けるおそれがあります。

⚠ 注意

ハンドルやインストルメントパネル上面に、ステッカーを貼ったり、ものを置いたりしない。

SRS エアバッグが正常に機能しなくなったり、エアバッグが膨らんだときに置いたものが飛んで運転者や同乗者がけがをする原因になります。

サイドエアバッグ

フロントシートの背もたれの外側にあるエアバッグです。

側面からの衝突により、エアバッグが膨らみ、運転者と助手席の同乗者の胸部への衝撃を緩和します。

⚠ 注意

ドアやその周辺にアクセサリーなどを取り付けたり、ものを置いたりしない。

正常に作動しなかったり、作動時にこれらのものが飛ぶことがあります。

サイドエアバッグ格納部に衝撃や無理な力を加えない。

ドアに寄りかからない。

サイドエアバッグの格納部に手や顔を必要以上に近づけない。

後席の同乗者は、フロントシートの背もたれを抱えない。

サイドエアバッグが膨らむ際、強い衝撃を受け傷害を受けるおそれがあります。

サイドエアバッグの分解、取り外しはしない。

不適切な取り扱いは故障や誤作動の原因となります。

1 運転の前に 〉 運転の前に確認していただきたいこと

! サイドエアバッグは、シートベルトを着用し上体を起こしてシートに深く腰かけているときに保護効果を発揮します。
サイドエアバッグの保護効果を維持するために、シートベルトは正しく着用してください。

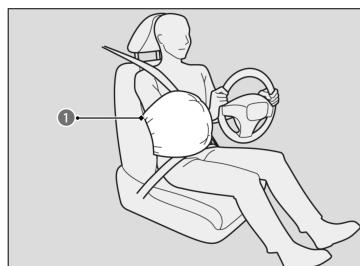
! サイドエアバッグがシートカバーによっては、正常に機能できなくなります。
フロントシートへのシートカバー装着にあたっては Honda 販売店にご相談ください。

! サイドエアバッグを制御するための圧力センサが、ドアに装備されています。
不適切なドアの修理や部品の変更により、サイドエアバッグが正常に作動しない可能性があります。ドアの修理については、Honda 販売店にご相談ください。

格納場所

運転席、助手席ともにシートの背もたれ外側に格納されています。どちらも「SIDE AIRBAG」と表示されています。

作動のしくみ



センサーが一定以上の衝撃で側面方向から衝突を検知し、コントロールユニットのはたらきにより検知した側のサイドエアバッグが膨らみます。

① サイドエアバッグ

次のような場合、車両下部に強い衝撃を受け、サイドエアバッグが作動することがあります。

- ・縁石や地面の突起物に衝突したとき
- ・深い溝や穴に落ちたとき

1 運転の前に 〉 運転の前に確認していただきたいこと

- 高いところから落ちたとき

次のような場合、サイドエアバッグが作動しないことがあります。

- 乗員付近以外の側面への衝突

サイドエアバッグは乗員の受ける衝撃の大きさによって作動するようになっていま
すので、車両の損傷状態の大小とサイドエアバッグの作動は必ずしも一致しません。

低い速度での衝突や次のような場合、乗員保護の効果がないので作動しません。

ただし事故の状況、形態によっては、サイドエアバッグが作動することがあります。

- 正面衝突
- 後部からの衝突
- 横転または転覆

サイドカーテンエアバッグ

窓側の天井部にあるエアバッグです。側面からの衝突により、エアバッグが膨らみ、
乗員の頭部への衝撃を緩和します。

⚠ 注意

サイドカーテンエアバッグが正常に作動しなかったり、作動時にもの
が飛んだりすることがあるので、以下のことに注意する。

- フロントガラス、ドアガラス、フロント、センター、リヤの各ピラー
まわりにアクセサリーなどを取り付けない
- グラブレールにものをかけない

サイドカーテンエアバッグ収納部に衝撃を加えない。

収納部に傷が付いていたり、ひび割れがあるときは、Honda 販売店で交換
してください。



サイドカーテンエアバッグは、シートベルトを着用し上体を起こして
シートに深く腰かけているときに保護効果を発揮します。

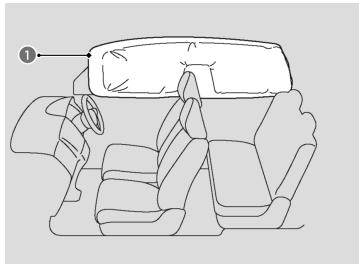
サイドカーテンエアバッグの保護効果を維持するために、シートベルトは正し
く着用してください。

1 運転の前に 〉 運転の前に確認していただきたいこと

格納場所

運転席側、助手席側ともに窓側の天井部に格納されています。どちらも「SIDE CURTAIN AIRBAG」と表示されています。

作動のしくみ



サイドカーテンエアバッグが作動するのは、一定以上の衝撃で側面方向から衝突したときです。運転席側または助手席側のサイドカーテンエアバッグが膨らみます。

① サイドカーテンエアバッグ

サイドカーテンエアバッグの作動条件は、サイドエアバッグと同じ条件です。

前方向から衝突したときのサイドカーテンエアバッグの作動について

- 前方向からの衝突時、横方向に一定以上の力がかかると、SRS エアバッグが膨らんだ後必要な側のサイドカーテンエアバッグが膨らみます。

サイドカーテンエアバッグは側面からの衝突に対して作動するため、衝撃を受けた側のみ作動します。また、助手席側が衝撃を受けた場合は、助手席側に乗員がいないときでもサイドカーテンエアバッグが作動します。

エアバッグシステム警告灯

エアバッグやシートベルトプリテンショナーの異常などを、警告灯やマルチインフォメーションディスプレイで知らせます。

エアバッグシステム警告灯



- ・パワーモードを ON モードにしたとき
パワーモードを ON モードにすると、エアバッグシステム警告灯が数秒間点灯し、消灯すれば正常です。
- ・異常が発生したとき
エアバッグシステムまたはプリテンショナーシステムに異常があるときに点灯します。

エアバッグシステム警告灯が点灯状態のときは、Honda 販売店で点検を受けてください。

パワーモードを ON モードにしたときにエアバッグシステム警告灯が点灯しない場合も、エアバッグシステムまたはプリテンショナーシステムに異常がある可能性があります。ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。

⚠ 警告

エアバッグシステム警告灯を無視しない。

エアバッグシステム警告灯を無視すると、エアバッグシステム、プリテンショナーシステムが正しく機能せず、重大な傷害を受けたり死亡したりするおそれがあります。エアバッグシステム警告灯が点灯する場合は、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。

エアバッグのお手入れ

エアバッグシステムは、メンテナンスを必要とせず、部品交換の必要もありません。ただし、以下の場合は Honda 販売店で点検を受けてください。

エアバッグが作動し、膨らんだとき

一度作動したエアバッグは、コントロールユニットやその他の関連部品とともに必ず交換する必要があります。
また、シートベルトプリテンショナーも同様に、一度作動した場合は新品と交換する必要があります。



エアバッグ関連部品の再利用はしないでください。

1 運転の前に 〉 運転の前に確認していただきたいこと

衝突後ブレーキシステム

衝突後ブレーキシステムについて

エアバッグシステムが衝突を検知して作動したとき、衝突後ブレーキシステムがブレーキをかけるとともに駆動力を抑制させ、二次衝突による被害を軽減します。このシステムの作動で必ずしも二次衝突の被害を軽減できるとは限りません。事故の状況によって変わります。

衝突が発生した場合は、周囲の状況を確認し、適切に車両を操作して停車させてください。

■ 衝突後ブレーキシステムの作動条件

走行中に前方向または横方向からの衝突により、エアバッグまたはシートベルトブリテンショナーが作動したときに衝突後ブレーキシステムが作動します。ただし、システムを構成する部品が破損している場合は作動しません。

■ 衝突後ブレーキシステムの解除条件

衝突後ブレーキシステムが作動したとき、次のいずれかの条件でシステムが解除されます。

- ・車両が停車したとき
- ・アクセルペダルを離した後に踏み込んだとき

キー

キーについて

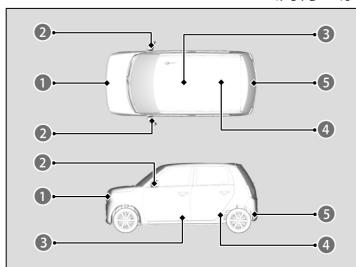
パワーシステムの起動、停止のほかに、すべてのドア、テールゲート、充電リッド（普通充電）の施錠・解錠に使用できます。

微弱電波

Honda スマートキーを使用してドア、テールゲートの施錠/解錠操作をするときやパワーシステムを起動するとき、Honda スマートキーとの電子照合を行うために車両から電波が発信されます。

そのため、次のような場合に正常に作動しなかったり、不安定な動作となったりすることがあります。

- 急速充電器など強い電磁波を発する機器や設備が近くにあるとき
- 携帯電話や無線機などの通信機器やノートパソコンと一緒に Honda スマートキーを携帯しているとき
- Honda スマートキーが金属物に触れていたり覆われていたりするとき



- 車室外発信機（フロントグリル内）
- 車室外発信機（ドアミラー内）
- 車室内発信機（センターコンソール下）
- 車室内発信機（リヤフロア内）
- 車室外発信機（リヤバンパー内）

電池寿命は、使用状況により異なりますが約 2 年間です。Honda スマートキーは車両との通信のために常に受信動作をしているため、常に電池を消耗しています。

電波の受信動作を停止させ、電池の消耗を抑えることができます。Honda スマートキーの施錠ボタンと解錠ボタンを同時に約 3 秒長押しするとインジケーターが 2 回点滅し、電波の受信が停止します。Honda スマートキーのいずれかのボタンを 1 回押すと電波の受信が再開します。

△ 注意

植込み型心臓ペースメーカーや植込み型除細動器などの医療機器を装着されている方は、車両に搭載されている発信機から 22cm 以内に近づかない。

Honda スマートキーシステムで発信されている電波が、機器の作動に影響を与える可能性があります。医療用電子機器を使用しているかたは、医師や医療用機器製造者に影響を確認してからご使用ください。

!**キーの故障を防ぐため、下記の点をお守りください。**

- 日本国内でのみ使用する。
- 直射日光が当たる場所、高温、多湿の場所に置かない
- キーを落としたり、重いものをのせない
- キーに液体をかけない
- 砂や埃を避ける
- 電池交換時以外は分解しない
Q スマートキーの電池交換方法 ▶P.254
- 改造をしない
- 火であぶらない
- テレビ、オーディオなど磁気を帯びた機器の近くに置いたりしない

!**Honda スマートキーは、特定小電力無線設備の技術基準適合証明を受けています。**

キーの内部にある技術基準適合表示を故意に消去、改ざんしないでください。分解・改造したものを使用することは法律で禁止されています。

!**Honda スマートキーは運転者が携帯し、車内に残したまま降車しないでください。他の動作で施錠されると、キーの閉じ込めが起こるおそれがあります。**

!**ドア、テールゲートが開いているときは、Honda スマートキーシステムで施錠できません。**



強い電波を受信し続けると電池を著しく消耗することがあるため、テレビやパソコンなどの電化製品の近くには置かないでください。

Honda スマートキー持ち去り警告ブザー

■ パワーモードが ON のとき

Honda スマートキーを車外に持ち出しドアを閉めると、メーター内に警告を表示するとともに、車内警告ブザーと車外警告ブザーが鳴ります。

■ パワーモードがアクセサリーモードのとき

Honda スマートキーを車外に持ち出しドアを閉めると、車外警告ブザーが鳴ります。



Honda スマートキーを、インストルメントパネル、グローブボックスなどに置いた場合、電波状態により警告ブザーが鳴ることがあります。Honda スマートキーがパワーシステム起動の作動範囲内にあっても、周囲の環境や電波状態により警告ブザーが鳴ることがあります。



Honda スマートキーを持ち出した状態で、パワーモードを OFF モードにすると、パワーモードの操作ができなくなります。パワーモードを操作するときは、Honda スマートキーを持っていることを確認してください。



窓からの受け渡しでは、Honda スマートキー持ち去り警告は作動しません。

■ 警告ブザーの解除方法

パワーモード ON の作動範囲内に Honda スマートキーを戻してドアを閉める。

» 警告状態が続くときは、Honda スマートキーの携帯位置を変更してください。

イモビライザーシステム

イモビライザーシステムとは、あらかじめ登録されたキーでないとパワーシステムの起動ができないようにしたシステムです。イモビライザーシステムでは、車両とキーの電子照合を行うときに微弱な電波を使用するため、下記の点に注意してください。

- ・**POWER**スイッチの近くに強い電波を発するものを近づけない
- ・キーを金属に触れさせたり、覆ったりしない
- ・ほかの車両のイモビライザーシステムのキーを近づけない
- ・磁気を帯びたキーホルダーなどをキーと一緒に取り付けない
- ・システムの改造や追加をしないでください。システムが故障するおそれがあります。



POWERを押したとき、キーの情報を認識できないとメーター内のイモビライザーシステム表示灯が点滅します。

① イモビライザーシステム表示灯

セキュリティアラームシステム

Honda スマートキーシステムまたはキーレスエントリーシステムを使わずにドア等を開けると警報装置が作動するシステムです。作動時はホーンが断続的に鳴り、非常点滅表示灯が点滅します。

■ セットするには

セキュリティアラームシステムは、以下の条件が整うと自動的にセットされます。

- ・パワーモードが OFF モードのとき
- ・ボンネットが閉まっているとき
- ・Honda スマートキーシステムまたはキーレスエントリーシステムですべてのドアとテールゲートが施錠されているとき

■ セットされると

メーター内にあるセキュリティアラームシステム作動表示灯が点滅し、約 15 秒後に点滅間隔が長くなります。

■ セットを解除するには

Honda スマートキーシステムまたはキーレスエントリーシステムで解錠するか、パワーモードを ON モードにすると解除されます。同時に作動表示灯が消灯します。

警報装置はセキュリティアラームシステムを停止させるまで、約 5 分間作動します。ホーンおよび非常点滅表示灯は、1 回の作動につき約 30 秒間作動し、その警報作動が 10 回行われます。

状況によっては、5 分間以上作動することがあります。

車内に人が乗っているときやウィンドーが開いているときでも、セキュリティアラームシステムは作動します。警報装置の思わぬ作動を防ぐために、人が乗っていたりウィンドーが開いているときには、セキュリティアラームシステムをセットしないでください。

セキュリティアラームシステムをセットした後に 12V バッテリーがあがり、12V バッテリーの充電、交換をすると、警報装置が作動することがあります。

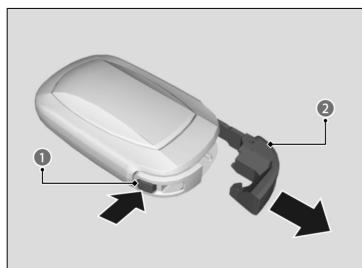
そのときは、解錠操作でセキュリティアラームシステムを解除してください。

システムの改造や追加をしないでください。システムが故障するおそれがあります。

内蔵キー

Honda スマートキーの電池が切れたときや車の 12V バッテリーがあがったときは、内蔵キーを使用してください。

■ 取り出し方法



ボタンを押しながら取り出します。

» 収納するときは、「カチッ」と音がするまで差し込みます。

① ボタン

② 内蔵キー

キーナンバータグ



キーナンバータグには、キーを購入する際に必要となる番号が記載されています。

- キーを紛失したときや、追加購入したいときは、Honda 販売店に依頼してください。

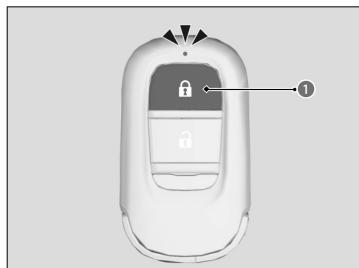


キーナンバータグは、キーとは別に車両以外の場所に大切に保管してください。

施錠/解錠

キーレスエントリーシステムを使った施錠/解錠方法

■ 施錠



施錠ボタン (①) を押す。

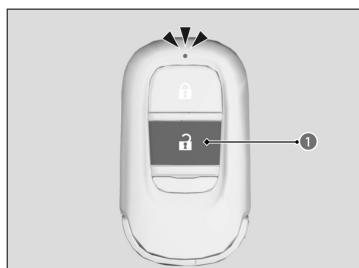
1 回目：

» 非常点滅表示灯が 1 回点滅し、すべてのドア、テールゲート、充電リッド（普通充電）が施錠されます。

2 回目（施錠ボタンを押して 5 秒以内）：

» アンサーバックブザーが鳴りドア、テールゲートが施錠されたか確認できます。

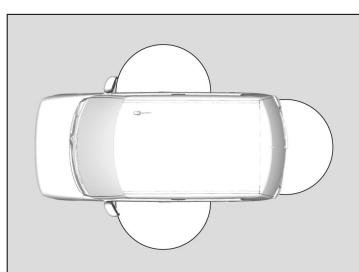
■ 解錠



解錠ボタン (①) を押す。

» 非常点滅表示灯が 2 回点滅し、すべてのドア、テールゲート、充電リッド（普通充電）が解錠されます。

Honda スマートキーを携帯した施錠/解錠方法



ドアのロック/アンロックボタン、テールゲートハンドルやテールゲートのロックボタンを操作することで、施錠/解錠します。

» 施錠/解錠の作動範囲は約 80 cm 以内です。

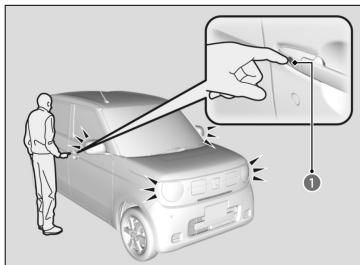
1 運転の前に 〉 施錠/解錠



施錠/解錠時に鳴るアンサーバックブザーは、マルチインフォメーションディスプレイを使って音量を変えたりブザーが鳴らないようにすることができます。

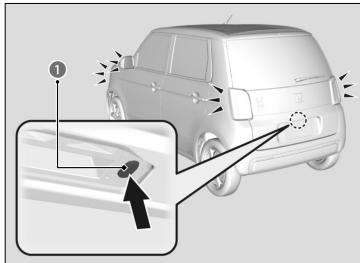
○ 時計* / 車両設定 ▶ P.226

■ 施錠



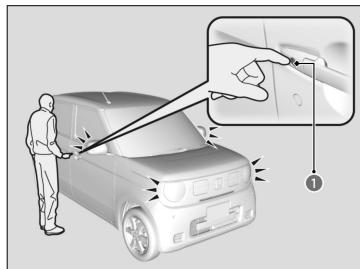
- 運転席ドア、助手席ドアのロック/アンロックボタン、テールゲートのロックボタンを押します。
- 「ピッ」というアンサーバック音が鳴り非常点滅表示灯が1回点滅し、すべてのドア、テールゲート、充電リッド（普通充電）が施錠されます。

① ロック/アンロックボタン



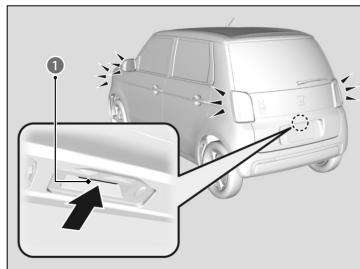
① ロックボタン

■ 解錠



運転席ドア、助手席ドアのロック/アンロックボタンを押すか、テールゲートハンドルを押します。
⇒「ピピッ」というアンサーバックブザーが鳴り非常点滅表示灯が2回点滅し、すべてのドア、テールゲート、充電リッド（普通充電）が解錠されます。

① ロック/アンロックボタン



① テールゲートハンドル

Hondaスマートキーシステムで解錠してから、約30秒以内にドア、テールゲートを開けなかった場合は、自動的に再度施錠されます。

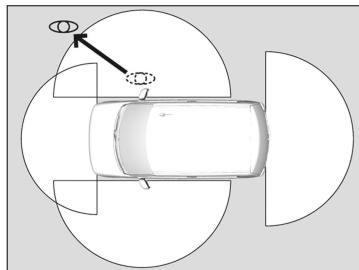
パワーモードがOFFモード以外のときはHondaスマートキーシステムによる施錠/解錠はできません。

■ 施錠/解錠ができないとき

- ・テールゲートハンドルを押した直後
 - ・Hondaスマートキーが地面の近くや高い位置にあるとき
 - ・ドアやドアガラス、テールゲートに近づきすぎているとき
- Q Hondaスマートキーを携帯した施錠/解錠方法 ▶P.50

降車時オートドアロック機能を用いた施錠方法

Hondaスマートキーを携帯し、パワーモードがOFFの状態で車から離れるとき、すべてのドアやテールゲート、充電リッド（普通充電）が自動的に施錠します。



Honda スマートキーを携帯し、降車する。すべてのドアとテールゲートを閉める

[1] 運転席または助手席のドアハンドル、テールゲートハンドルから周囲約 1.5 m 以内で待つ

⇒ 音が鳴り、降車時オートドアロック機能が起動します。

[2] 運転席または助手席のドアハンドル、テールゲートハンドルから周囲約 1.5 m 以上離れて、約 2 秒待つ

⇒ 音が鳴り、非常点滅表示灯が 1 回点滅し施錠します。

- 降車時オートドアロック機能起動後に、作動範囲内で約 30 秒待つ場合も施錠します。
- 降車時オートドアロック機能起動後に、正常に作動しなかった場合はオートロック作動中止警告ブザーが鳴ります。

⇒ オートロック機能が起動してからドアを開けた場合、オートロック機能は中断されます。



降車時オートドアロック機能の工場出荷時の設定は OFF になっています。ON にすることは、マルチインフォメーションディスプレイのカスタマイズ機能で設定を変更してください。

Q 時計*/車両設定 ▶ P.226

オートロック機能を使用する時は、車内に残っている人がいないことを確認し、車から離れてください。

意図しないタイミングでオートロック機能が作動した場合、車外にいるときは再度解錠してください。

乗車しているときは、**POWER** スイッチを押し、車両を ON モードにしてください。

■ 一時的にオートロック機能を OFF にするとき

[1] パワーシステムを停止し、運転席ドアを開ける。

[2] 運転席ドアのノブを「施錠→解錠→施錠→解錠」の順番で操作する。

⇒ アンサー バック音が鳴ります。

■ 降車時オートドアロック機能を ON に戻すとき

以下のいずれかの操作をした場合、降車時オートドアロック機能が ON に戻ります。

・パワーシステムを起動する

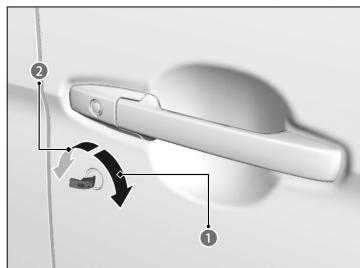
・内蔵キー、キーレスエントリーシステムもしくは Honda スマートキーシステムですべてのドアとテールゲートを施錠する

- Honda スマートキーを携帯したまま降車時オートドアロック機能の作動範囲内から離れる
- いずれかのドアを開ける

内蔵キーを使った施錠/解錠方法

Honda スマートキーのボタンで施錠/ 解錠できない場合は内蔵キーを使用してください。

○ 内蔵キー ▶ P.48



キーを差し込んで回す。

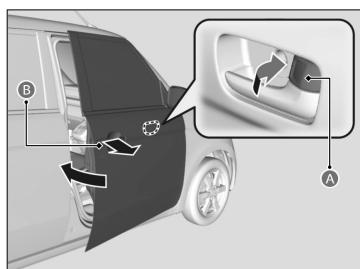
» 運転席ドアにキーを差し込んで施錠/ 解錠すると、ほかのすべてのドアやテールゲート、充電リッド（普通充電）も同時に施錠/ 解錠されます。

- ① 施錠
② 解錠

Honda スマートキーを使わない施錠方法

Honda スマートキーが正常に作動しなくなったときや、内蔵キーを所持していないときに、Honda スマートキー/内蔵キーを使わずに施錠することができます。

■ 運転席のドアの施錠方法



ノブ(A)を押し込み、外側のドアハンドル(B)を引いたままドアを閉める。

» 運転席ドアで施錠すると、他のすべてのドアやテールゲート、充電リッド（普通充電）も同時に施錠されます。

■ 運転席以外のドアの施錠方法

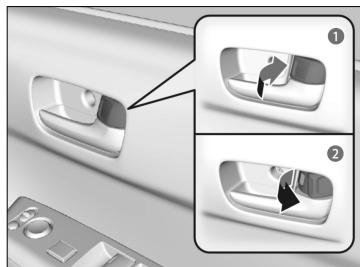
ノブを押し込み、ドアを閉める

キー閉じ込み防止装置

Honda スマートキーが車内の作動範囲内に置いてあると、施錠できません。

車内の施錠/解錠方法

■ ノブを利用した施錠/解錠



- ① 施錠
- ② 解錠

〈施錠〉ノブを押し込む

〈解錠〉ノブを引き出す

⇒ほかのすべてのドアやテールゲート、充電リッド（普通充電）も同時に施錠/解錠されます。

衝撃感知ドアロック解除システム

車両に衝撃が加わったときに、自動的にすべてのドア、テールゲートを解錠するシステムです。作動するのは以下の場合です。

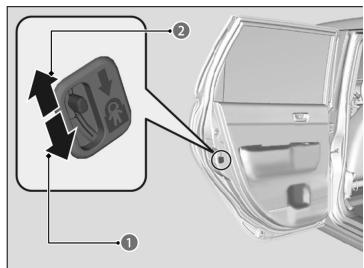
- ・正面からの衝撃：SRS エアバッグが作動したとき
 - ・側面からの衝撃：サイドエアバッグ/サイドカーテンエアバッグが作動したとき
 - ・後面からの衝撃：衝撃が大きいとき
- ⇒いずれの場合も、安全性を考慮して衝撃を受けてから約 10 秒後に解錠します。
- ・衝撃の加わりかたや大きさによっては解錠しない場合があります。

チャイルドプルーフ

走行中などにお子さまが車外に放り出されることを防止するため、ノブの位置に関係なく、後席ドアを車内から開けることができないようにする機能です。

⇒お子さまをリヤシートに乗せるときなどにお使いください。

■ チャイルドプルーフのセット方法



後席ドアについているツマミを、施錠（①）の位置にしてドアを閉める。

- ① 施錠
② 解錠

- ドアを開ける場合は、外側のハンドルで開けてください。
- チャイルドプルーフセット時に車内から開けたい場合は、ノブを解錠状態にして後席ウインターを下げ、窓から手を出して外側のドアハンドルを引いてください。

こんなときは

■ 後席ドアが車内から開けられないとき

チャイルドプルーフが施錠の位置になっていると思われます。後席ドアを外から開け、チャイルドプルーフのレバーを解錠の位置にしてください。

Q. チャイルドプルーフ ▶P.55

■ 運転席ドアを開けるとブザーが鳴るとき

以下の場合に該当していることが想定されます。

- パワーモードがアクセサリーモードになっている
- ライトを消し忘れている

■ ドアを閉めた後、車から離れるとブザーが鳴るとき

ドアが閉まりきる前に降車時オートドアロックの作動範囲から離れている可能性があります。

Q. 降車時オートドアロック機能を用いた施錠方法 ▶P.52

■ スマートキーの作動が安定しないとき

作動距離が不安定になった場合は、電池の消耗が考えられます。

ボタンを押したときにインジケーターが点灯しない場合は、電池切れです。

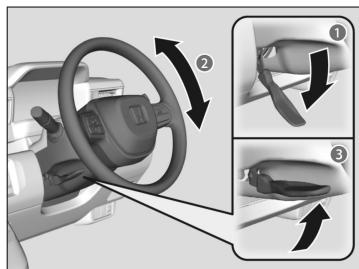
Q. スマートキーの電池が切れたとき ▶P.254

1 運転の前に >

ハンドル

ハンドルの調整方法

適切な運転姿勢で無理なくハンドルを握れるように、ハンドルの位置を調節することができます。



- ① 解除
- ② 調節
- ③ 固定

- [1] ハンドル位置調節レバーを押し下げる。
⇒ハンドル位置調節レバーは、ステアリングコラムの左側にあります。
- [2] ハンドルの位置を調節する。
⇒調節した位置で、メーターや表示灯が見えることを確認してください。
- [3] ハンドル位置調節レバーを引き上げ、ハンドルを固定する。
⇒位置調節後、ハンドルに上下前後方向の力を加え、ハンドルがしっかりと固定されていることを確認してください。

△注意

走行中にハンドル位置を調節しない。

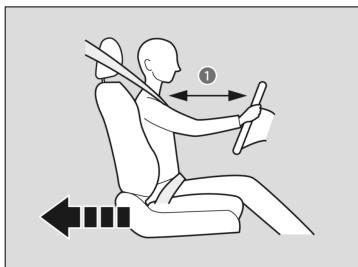
走行中に調節すると、ハンドル位置が動き、正確なハンドル操作ができないことがあります。衝突して重大な傷害を負うおそれがあります。ハンドルの調節は、必ず停車中に行ってください。

シート

シートの調整について

正しい姿勢

正しい姿勢がとれるようにシートを調節します。正しい運転姿勢とは、シートに深く腰かけた状態で、背もたれから背を離すことなくペダルを十分に踏み込め、ハンドル操作が楽にできる姿勢をいいます。同乗者の正しい姿勢とは、シートに深く腰かけた状態で、背もたれから背が離れていない姿勢をいいます。

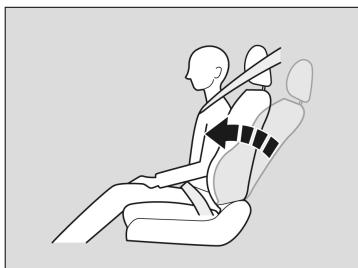


■ シート位置の調整

運転者とハンドルとの間に十分な距離をとれるように、シートをできるだけ後ろに下げます。

助手席の同乗者のシートも同様に、ダッシュボードの SRS エアバッグからできるだけ離れた位置までシートを下げます。

① 十分な距離をとる



■ 背もたれ角度の調節

シートに深く腰かけ、楽な姿勢ですわれるよう背面もたれを起こし調節します。

助手席の同乗者のシートも同様に、楽な姿勢ですわれるよう背面もたれ角度を調節します。

⚠警告

SRS エアバッグからできるだけ離れた位置までシートを下げる。
ハンドルやダッシュボードに近づきすぎると、フロントエアバッグが膨らむ際に重大な傷害を受けたり、死亡したりするおそれがあります。

背もたれを必要以上に倒さない。

背もたれを必要以上に倒すと、衝突したときに重大な傷害を受けたり、死亡したりするおそれがあります。

背もたれと背中の間にクッションなどを入れない。

正しい運転姿勢がとれません。また、シートベルトなどの効果が十分に発揮されません。

走行中にシートの調節はしない。

走行中に調節するとシートが必要以上に動くことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあります。調節は走行前に行い、確実に固定されていることを確認してください。

シートを操作するときは、手や足などをはさまないように十分注意する。

シートの下に物を置かない。

物がはさまってシートが固定されず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

座面をはね上げたときや戻したときは、座面を前後にゆすって確実に固定されていることを確認する。

固定されていないと、座面が前に倒れるおそれがあります。

座面を戻すときは、以下のことを確認する。

- ・ガイド周辺に異物がないか
- ・フロアマットがズレて、ガイドに乗り上げていないか
- ・座面の下にものやシートベルトを置いていないか異物をかみ込んだり、フットがガイドにきちんと入っていないと座面が確実に固定されず、走行中に座面がはね上がり思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

操作するときは十分注意する。

背もたれが急に動いてシートがはね上がり、顔などにけがをしたり、手や足などをはさむおそれがあります。特にお子さまには気をつけてください。

● フロントシートに純正以外のシートカバーを取り付けないでください。

サイドエアバッグがシートカバーによっては、正常に機能できなくなります。フロントシートへのシートカバー装着にあたっては Honda 販売店にご相談ください。

ヘッドレスト

フロントシートのヘッドレストは調節式ではありません。リヤシートに乗車するときは、走行する前にヘッドレストを引き上げて、確実に固定します。

⚠ 警告

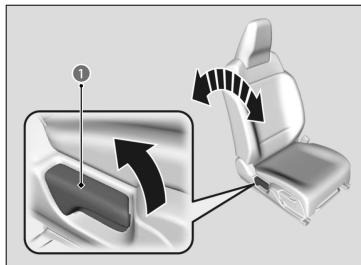
ヘッドレストを外した状態で走行しない。

衝突したときに重大な傷害を受けるおそれがあります。

△警告

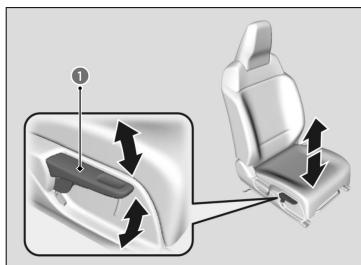
リヤシートのヘッドレストを下げた状態で走行しない。
衝突したときに重大な傷害を受けるおそれがあります。

フロントシートの調整方法



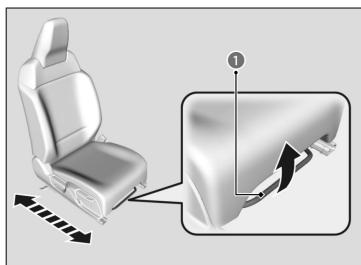
背もたれの角度調節
レバーを引き上げる

① レバー



高さの調節(運転席)
レバーを繰り返し引き上げ/下げする

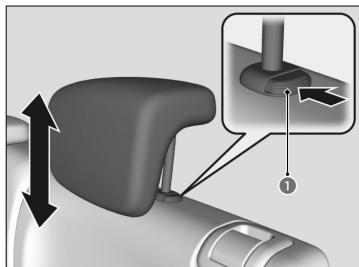
① レバー



前後位置の調節
レバーを引き上げる

① レバー

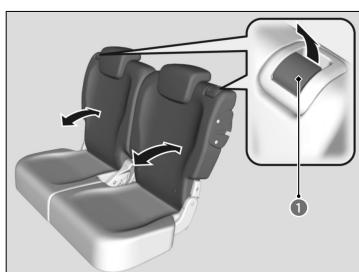
リヤシートの調整方法



① ノブ

ヘッドレストの調節

- 高くするときは、引き上げる
 - 低くするときは、ノブを押しながら下げる
 - 取り外すときは、ノブを押しながら引き上げる
 - 取り付けるときは、ヘッドレストの脚を元の位置に差し込む
- ※ヘッドレストを軽く上下させ、確実に固定する

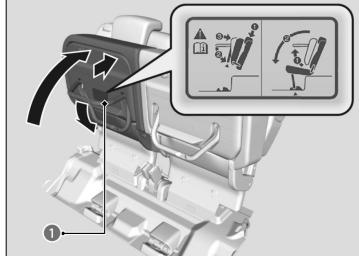


① レバー

背もたれの角度調節

背もたれの角度調節レバーを引き上げる。

■ 座面をはね上げて固定する（チップアップ）

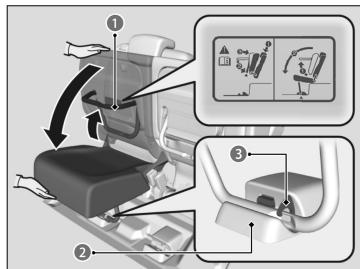


座面は、左右別々にはね上げることができます。

座面のはね上げかた

- ヘッドレストを下げる。
- リヤシートの調整方法 ▶P.62
- 座面を引き上げる。
- フットを格納する。
- 座面を背もたれに押しつけ、固定する。

① フット



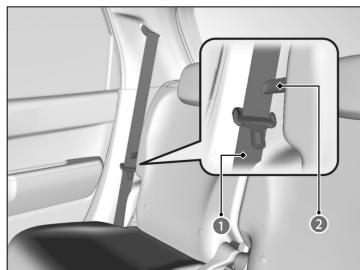
- ① フット
② ガイド
③ フック

戻しかた

- [1] 座面を押さえながら、フットをいっぱいに開く。
» 座面が前に倒れ込むので必ず手を添えて操作してください。
- [2] 座面を静かに前方に倒して、フットをガイドに入れる。
» ガイドからフックが出ていることを確認してください。

フットを格納した状態で座面を倒さないでください。

■ 背もたれの倒しかた



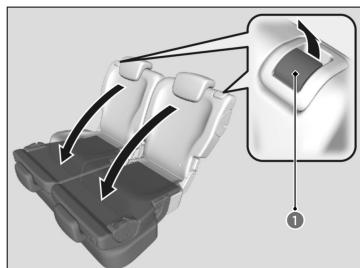
- ① シートベルト
② ベルトホルダー

リヤシートを倒してカーゴスペースを広くできます。

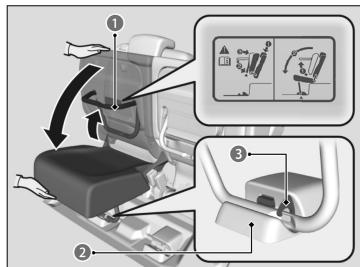
片側ずつ独立して行えます。
ヘッドレストがフロントシートに当たるときは、ヘッドレストを外してください。

倒しかた

- [1] ヘッドレストを下げる。
Q リヤシートの調整方法 ▶P.62
- [2] シートベルトをベルトホルダーに差し込む。
- [3] 背もたれのレバーを引き、前方に倒す。



- ① レバー



- ① フット
- ② ガイド
- ③ フック

戻しかた

- [1] 背もたれを起こして固定する。
- [2] 座面を押さえながら、フットをいっぱいに開く。
» 座面が前に倒れ込むので必ず手を添えて操作してください。
- [3] 座面を静かに前方に倒して、フットをガイドに入れる。
» ガイドからフックが出ていることを確認してください。

シートを元に戻したら、シートを前後にゆすり、固定されていることを確認します。

背もたれを起こすときは、シートベルトを背もたれではさみ込まないように注意してください。

⚠ 警告

リヤシートのヘッドレストを下げた状態で走行しない。
衝突したときに重大な傷害を受けるおそれがあります。

! シートを格納する前にシートの周りを確認してください。
シートの上にものやシートベルトやバックルを置いたまま操作しないでください。シートベルトやバックルが破損することがあります。

! 背もたれを倒すときは、カーゴスペースの荷物等を固定してください。
急停止のときなどに飛び出すおそれがあります。

リアシートリマインダー

後席への人や荷物の置き去りがないようにお知らせする機能です。この機能は、パワー・モードをONモードにする直前または直後に、後席ドアを開けた場合に作動します。

1 運転の前に > シート



後席への置き忘れに
注意してください

作動後、パワーモードを OFF モードにしたとき、マルチインフォメーションディスプレイにお知らせが表示され、音が鳴ります。

- パワーモードを OFF モードにしたとき、お知らせが行われ機能が終了します。
- 後席ドアを開けた後、10 分以内にパワーモードを ON モードにしなかった場合は作動しません。
- このシステムは後席の人や荷物をセンサーで検出するのではなく、後席ドアの開閉の記録から後席に人や荷物がある可能性をお知らせします。



お知らせ機能が作動しないように設定することができます。

Q 時計*/車両設定 ▶ P.226

シートベルト

シートベルトについて

シートベルトは、シートに体を固定することで安全を確保するための安全装置です。体の動きに合わせて伸縮し、強い衝撃を受けるとベルトが自動的にロックします。すべての席に三点式シートベルトが装備されています。

△警告

シートベルトは乗員全員が必ず正しく着用する。

シートベルトを正しく着用しないと、エアバッグが装備されていても、衝突したときに重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

乗車中は正しい姿勢を保つ。

正しい姿勢ですわらないと、衝突したときに傷害を受ける危険性が高くなります。

! シートベルトの着用にあたっては、以下の点に注意してください。

- 運転者は正しい運転姿勢で、シートベルトを必ず着用
- 同乗者にも必ずシートベルトを着用
- シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、必ずチャイルドシートを使用
- 1本のシートベルトを2人以上で使用しない
- ベルトにはクリップや洗たくばさみなどでたるみをつけない

! シートベルトがロックしたとき

一度ベルトを強く引いてからゆるめ、ベルトをゆっくり引き出してください。

! シートベルトがスムーズに巻き取られないとき

ベルトが汚れていないことを確認してください。

ベルトが汚れているとスムーズに巻き取られない場合があります。

ベルトが破損していたり、正しく作動しない場合は、ベルトを交換してください。

シートベルトの点検方法

シートベルトを安全にお使いいただくために、以下の点検を定期的に行ってください。異常がある場合は Honda 販売店で点検を受けてください。

- ・すべてのベルトをいっぱいまで引き出し、ほつれ、切れ、焼けこげ、すり切れがないか
- ・バックルが確実に固定されているか
- ・ベルトがスムーズに巻き取られるか

シートベルトプリテンショナー

シートベルトプリテンショナーは、フロントシートおよびリヤシート外側 2 座席に装備しています。一定以上の前方向や側面からの衝撃を受けると自動的にシートベルトを引き込み、拘束します。

シートベルトプリテンショナーは、一度作動すると使用できません。

衝突によりシートベルトプリテンショナーが作動するとエアバッグシステム警告灯が点灯します。

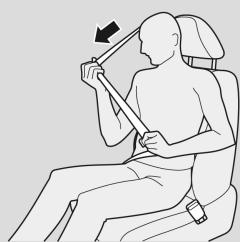
衝突したときは、Honda 販売店で点検を受け、作動済みの場合は交換してください。

△ 注意

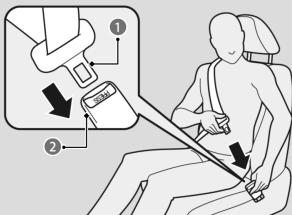
シートベルト引き込み装置の取り外し、分解などはしない。

誤作動や故障の原因となります。

正しい着用法



- [1] 正しい姿勢でシートにすわる。
- [2] シートベルトをゆっくり引き出す。



- [3] タングプレート（①）をバックル（②）に差し込む。
 ≫ベルトにねじれや引っかかりがないようにしてください。



- [4] シートベルトが正しく着用できているか確認する。
 ≫肩ベルトは鎖骨の中心を通るように合わせ、首やあごに当たらないようにしてください。
 ≫腰ベルトは腰骨のできるだけ低い位置に合わせてください。
 ≫ベルトにたるみやねじれがないようにしてください。
- [5] ベルトを引っ張り、バックルが固定されていることを確認する。

- シートベルトを外すには、バックルの赤色の[PRESS]を押してください。そのとき、ベルトが完全に収納されるようベルトに手を添えてください。



シートベルトが完全に引き込まれた位置でロックされた場合、一度シートベルトをしっかりと引っ張り、それでもう一度巻き取らせることでロックが解除できます。

シートベルトロックを解除することが出来ない場合、そのシートに着座しないでください。

○ シートベルトについて ▶P.66

⚠ 注意

肩ベルトは腕の下に通したり、首の後ろに回さない。

シートベルトを正しく着用しないと、本来の機能を果たさず衝突時などに、けがをするおそれがあります。

1 運転の前に > シートベルト

- !
シートベルトを十分に機能させるため、バックルおよび自動巻き取り装置の内部に異物を入れないようにしてください。
- !
シートベルトの分解、改造はしないでください。正常に作動しないことがあります。

- !
シートベルトを着用した状態で事故にあったときは、Honda 販売店で点検を受け、ベルトが破損していたり、正しく作動しない場合は、ベルトを交換してください。

■ 妊娠中ののかたの着用法



肩ベルトは腹部を避け胸部にかかるように着用する。

腰ベルトは腹部を避けて、必ず腰骨のできるだけ低い位置にぴったり着用する。

△ 注意

妊娠中のシートベルト着用は、医師に確認する。

万一のとき、腹部、胸部、肩部などに圧迫を受けることがあります。

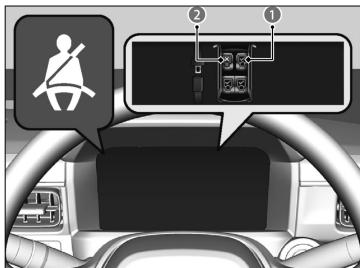
- !
妊娠中ののかたが運転または同乗するときは、ご自身と赤ちゃんを守るために、常に三点式シートベルトを着用してください。

- !
妊娠中ののかたは以下の点を注意してください。

万一の衝突時にフロントエアバッグによって、ご自身と赤ちゃんが傷害を受ける危険性が軽減されます。

- 運転するときは上体を起こして、運転に支障のない範囲でシートをなるべく後ろに下げる
- 助手席にすわる場合も、シートはできるだけ後ろに下げる

シートベルトリマインダー



シートベルトリマインダーは乗員のシートベルトの未着用をお知らせします。シートベルトを着用すると警告は消えます。

- ① シートベルト着用
- ② シートベルト未着用

シートベルトを着用せずに走行した場合、停車したときや一定時間経過したときは、ブザーが停止します。

⇒助手席に人がいないときでも、荷物を置くと反応することがあります。

⇒助手席にお子さまや小柄な方を乗せたり、クッションを使用しているときは、反応しないことがあります。

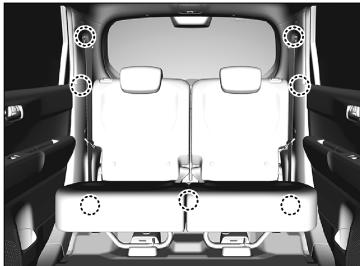
シートベルトのアンカーポイント

フロントシート



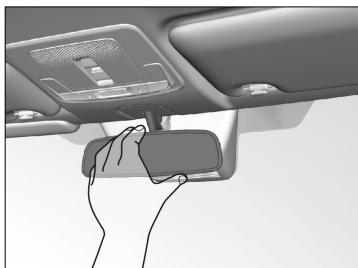
シートベルトを交換する場合、図の中で示されるアンカーポイントを使用してください。

リヤシート



ミラー

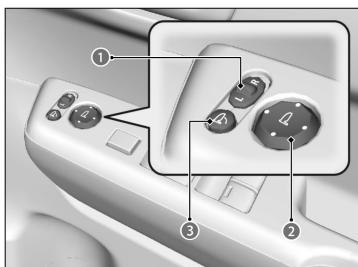
ルームミラー



ルームミラーの角度は、正しい運転姿勢ですわった位置で走行前に調節してください。

ドアミラー

ドアミラーの操作は、パワーモードが ON モードのときに作動します。



① 左右切り替えスイッチ：

右か左を選択するスイッチです。角度調節後、中央の位置に戻します。

② 角度調整スイッチ：

上下左右に鏡面を動かすスイッチです。

③ 格納スイッチ：

ドアミラーの格納ができます。もう一度押すと、元の位置に戻ります。

オートリトラミラー*

キーレスエントリーシステムや Honda スマートキーシステムでのドアの施錠や解錠に連動して、パワーモードが OFF モードの状態でも、ドアミラーの格納や元の状態への復帰が行えます。

■ 格納するときの操作方法

- Honda スマートキーの施錠ボタンを押す

*: タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

1 運転の前に > ミラー

- Honda スマートキーを携帯し、運転席ドア、助手席ドアのロック/アンロックボタンを押すか、テールゲートのロックボタンを押す

■ 元の位置に戻すときの操作方法

- Honda スマートキーの解錠ボタンを押す
- Honda スマートキーを携帯し、運転席または助手席ドアのロック/アンロックボタンを押すか、テールゲートハンドルを押す
- パワーモードを ON モードにする
- 格納スイッチを押してドアミラーを格納した場合、オートリトラミラー機能ではドアミラーを元の位置に戻せません。



オートリトラミラーの設定を変更することができます。

時計*/車両設定 ▶P.226

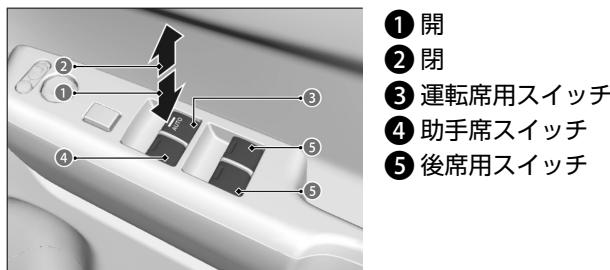
パワーウィンドー

パワーウィンドーの開閉方法

パワーモードがONモードのときに、パワーウィンドーの開閉操作を行うことができます。開閉はそれぞれのドアにあるスイッチで行います。

運転席のスイッチでは、すべてのウィンドーの開閉操作を行なうことができます。運転席以外のウィンドーの開閉は、運転席のパワーウィンドーロックボタンをOFFにしてから行います。パワーウィンドーロックボタンをOFFにすると、ボタンにある表示灯が消灯します。

パワーウィンドーロックボタンをONにしておくと、運転席以外のウィンドーは作動しません。お子さまを乗せているときなどは、パワーウィンドーロックボタンをONにしておいてください。



■ 手動開閉

希望の位置で手を放すことで、窓の開閉を調節します。

開けるとき

スイッチを軽く押す

閉めるとき

スイッチを軽く引き上げる

■ 自動開閉（運転席用スイッチのみ）

自動的に全開/全閉します。途中で止めるには、スイッチを反対側に軽く上げ/下げします。

開けるとき

スイッチを強く押す

閉めるとき

スイッチを強く引き上げる

- ・パワーモードをOFFモードにしても、約10分間は運転席（自動開閉機能付き）のパワーウィンドーを開閉できます。ただし、運転席のドアを開閉すると、ウィンドーの開閉はできなくなります。

1 運転の前に 〉 パワーウィンドー

- はさみ込み防止のため、障害物を検知するとウィンドーが少し開いて止まります。
- 故障や路面、走行条件による衝撃などではさみ込み防止機構が作動し、自動でウィンドーを閉めることができなくなったときは、スイッチを軽く引き上げ続けると閉めることができます。

! お子さまだけを車内に残さない。必ず Honda スマートキーを携帯しドアをロックしてお子さまと一緒に車外に出てください。

⚠ 警告

パワーウィンドーを閉めるときは、同乗者が窓から手や顔などを出していないことを確認する。

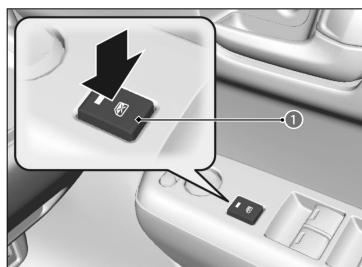
手や顔などをパワーウィンドーにはさむと、重大な傷害を負うおそれがあります。特にお子さまには気をつけてください。

⚠ 注意

指などをはさみ込まないように注意する。

確実に閉めるため、閉め切る直前の部分に、はさみ込みを検知しないエリアがあります。

パワーウィンドーロックボタン



パワーウィンドーロックボタンを ON (表示灯点灯) にしておくと、運転席以外のウィンドーは作動しません。

① パワーウィンドーロックボタン

! お子さまを乗せているときなどは、パワーウィンドーロックボタンを ON にしておいてください。

テールゲート

テールゲートの開閉時の注意

テールゲートを開閉する前に、必ず人や物がテールゲートから離れていることを確認してください。

- テールゲートは上までしっかりと開ける。
⇒途中までしか開けていないと、自重で閉まることがあります、手などをはさむおそれがあります。
- 風にあおられてテールゲートが閉まらないようにする。
⇒テールゲートにはさまれて、けがをするおそれがあります。

お子さまだけを車内に残さない。必ず Honda スマートキーを携帯してドアをロックしてお子さまと一緒に車外に出てください。

- テールゲートを開けたまま走行しない。
⇒テールゲートが破損するおそれがあります。
- Honda スマートキーは運転者が携帯してください。
- 作動範囲内に Honda スマートキーがある場合、携帯していない人がテールゲートを解錠できます。

⚠ 注意

テールゲートを閉めるときは、頭をぶつけたり手をはさまないようにする。

重大な傷害を負うおそれがあります。特にお子さまには気をつけてください。

⚠ 注意

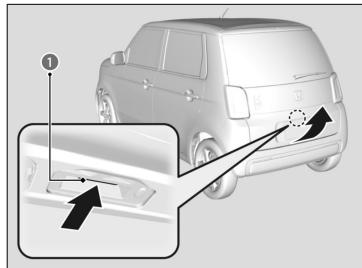
カーゴスペース内に、人を乗せない。

ブレーキや加速、衝突のときにはけがをするおそれがあります。

テールゲートの開閉方法

テールゲートハンドルを使った開閉方法

■ 開ける場合の操作方法



ドアを解錠し、テールゲートハンドルを押して引き上げる。

① テールゲートハンドル

■ 閉める場合の操作方法

テールゲートのインナーハンドルを持って引き下げ、外側より押して閉めます。

運転するときの操作

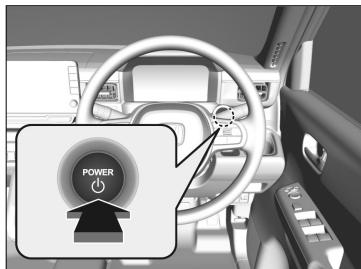
パワーシステムの起動・停止	
パワーモードについて	79
パワーシステムの起動	80
パワーシステムの停止	81
こんなときは	81
シフト操作	
シフトポジションについて	82
ブレーキ	
フットブレーキ	85
電子制御パーキングブレーキ	85
オートマチックブレーキホールド	88
ABS (アンチロックブレーキシステム)	91
エマージェンシーストップシグナル	91
発進・走行中	
発進時の操作	92
駐停車	
駐停車の操作	94
リアワイドカメラシステム*	
リアワイドカメラシステムについて	96
高電圧バッテリーの充電	
充電の前に	97
充電方法	99
ウィンカー・ライト	
ウィンカー (方向指示器) の操作方法	105
ヘッドライト・車幅灯	105
ワイパー・ウォッシャー	
フロントワイパー・ウォッシャーの操作方法	111
リヤワイパー・ウォッシャーの操作方法	112
こんなときは	112
デフロスター (くもり止め)	
デフロスターの使用方法	113
こんなときは	114
走行に関する機能	
シングルペダルコントロール	115
ECON モード	117
車両接近通報装置	117
VSA (ビーグルスタビリティアシスト)	118
アジャイルハンドリングアシスト	119

*: タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

パワーシステムの起動・停止

パワーモードについて

パワーモードの切り替え一覧



Honda スマートキーを携帯し、パワーボタンを押すごとにモードが切り換わります。

OFF モード（消灯）

すべての電源が OFF になる

アクセサリーモード

オーディオシステムなどのアクセサリーが使用できる

ON モード

すべてのアクセサリーが使用できる

- Honda スマートキーが車内にある場合にパワーモードを切り換えることができます。
- Honda スマートキーが車外にあっても、ドアやドアガラスに近づきすぎていると、パワーモードが ON モードになることがあります。

小物入れなど車両との通信に影響がある場所に Honda スマートキーが置かれている場合、パワーモードが切り換わらないことがあります。

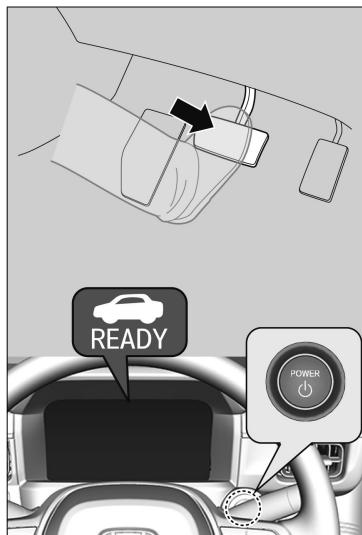
パワーモードオートオフ機能

シフトポジションが[P]でパワーモードがアクセサリーモードのときに 30 分～60 分経過すると、12V バッテリー保護のため自動的にパワーモードが OFF モードになります。

パワーモード警告ブザー

パワーモードがアクセサリーモードの状態で、運転席ドアを開けた場合、警告ブザーが鳴ります。

パワーシステムの起動



[1] パーキングブレーキスイッチ(1)をゆっくりと確実に引き上げる。

Q 電子制御パーキングブレーキ ▶P.85

[2] ブレーキを踏んだままアクセルペダルを踏まずに、**POWER**を押す。

» READY 表示灯が点灯すると、運転することができます。

» READY 表示灯が点灯するまでブレーキペダルを踏み続けてください。

» 外気温が極端に低いときは、READY 表示灯が点灯せず条件が整うまで走行できません。

⚠ 警告

12V バッテリー液が不足しているときは、パワーシステムを起動しない。

12V バッテリーが破裂するおそれがあります。

⚠ 注意

パワーシステム起動時は、ブレーキペダルをしっかりと踏む。

- ・ 寒いときのパワーシステムの起動は、12V バッテリーの消耗を防ぐためにライト、空調などの電気アクセサリーを OFF にしてください。
- ・ 起動しない場合は、30 秒以上待ってから再度操作してください。
- ・ Honda スマートキーが強い電波を受けていると、パワーシステムが起動しないことがあります。
- ・ パワーシステムが低温のとき、「高電圧バッテリー低温 出力が制限されます 急発進・急加速・高速走行を避けてください」が表示されることがあります。パワーシステムが適正な温度に戻ると、メッセージが消えます。消えないときは、Honda 販売店で点検を受けてください。

パワーシステムの停止

車が完全に停車した状態でシフトポジションを **P** にし、**POWER** を押す。

こんなときは

■ Honda スマートキーの電池が切れているとき

起動するには、キーを **POWER** にかざして直接認識させる必要があります。

Q スマートキーの電池が切れたときの起動方法 ▶P.267

Honda スマートキーの電池は早めの交換をお勧めします。

Q スマートキーの電池交換方法 ▶P.254

■ パワーシステムが起動しないとき

あらかじめ登録されたキーが必要です。

Q イモビライザーシステム ▶P.47

Honda スマートキーをインストルメントパネル上、カーゴスペースやグローブボックス、ドアポケットなどの各種小物入れに置いた場合、電波状態によってはパワーモードの ON 機能が作動しないことがあります。

■ パワーシステムの起動時にブレーキペダルが押し込まれる感じがあるとき

ブレーキ装置の作動によるものです。

■ ボンネット内からモーター音が聞こえたとき

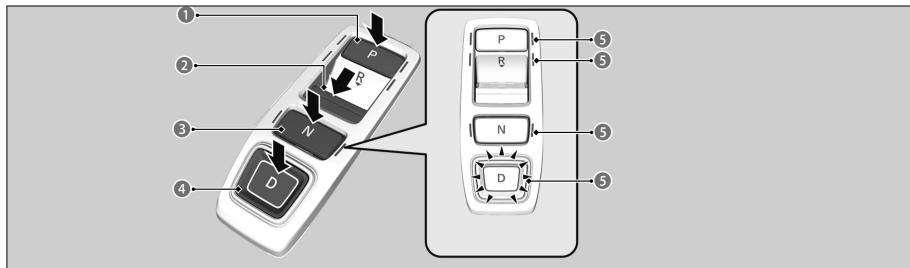
パワーシステムの起動直後や走行中にシステムチェックのため、ボンネット下からモーター音が聞こえることがあります。

■ **POWER** を押しても電源が OFF にならないとき

シフトポジションを **P** にしてください。

シフト操作

シフトポジションについて



① P パーキング : Pスイッチを押す

» 駐車またはパワーシステム起動時に使用

② R リバース : Rスイッチを押す

» 車を後退させるときに使用

③ N ニュートラル : Nスイッチを押す

» 駆動力を伝達させないときに使用

④ D ドライブ : Dスイッチを押す

» 通常走行時に使用

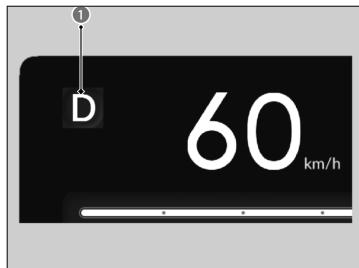
⑤ シフトポジション表示

駐車時の注意 :

パワーモードが ON モードの状態で車両を安全な場所に駐車し、ブレーキペダルを踏みながら Pスイッチを押してください。

» Pスイッチのシフトポジション表示が点灯します。

メーターの表示



① シフトポジション表示灯/トランスミッション警告灯

- シフト操作の前後に、シフトポジション表示灯とシフトポジション表示を確認してください。

2 運転するときの操作 〉 シフト操作

- 外気温がマイナス 30 度以下とき、シフトポジションの表示が少し遅れることができます。

! トランスミッションの破損を防ぐため、車が完全に停車した状態でブレーキペダルを踏んだまま前進と後退を切り替えてください。
シフトポジションを **P** に切り換えるときは、メーターのシフトポジション **P** が表示されるまでブレーキペダルを離さないでください。

! トランスミッション警告灯が点滅しているときは、トランスミッションに異常があります。急加速を避け、Honda 販売店で点検を受けてください。

! 故障と予期しない作動を防止するため：

- シフトポジションスイッチに液体などをこぼさないでください。
- シフトポジションスイッチやまわりに、衝撃を与えるものを落とさないでください。
- お子さまや運転者以外の方がシフトポジションスイッチを操作しないようご注意ください。

シフトポジション **P** 自動選択機能

ドア Open 自動パーキング選択制御

以下の条件を満たすとき、運転席ドアを開けるとシフトポジションが自動で **P** になります。

- パワーモードが ON モードで車が停止、または車速が 2 km/h 以下のとき
- シフトポジションが **P** 以外のとき
- 運転席のシートベルトをはずしたとき

! システムは条件が揃うと自動で **P** に変更されますが、安全のために駐車をするときは運転席ドアを開ける前にシフトポジションを **P** にしてください。

○ 駐停車の操作 ▶P.94

! 自動でシフトポジションが **P** に切り替わった後に発進する場合は、ドアを閉めてシートベルトを装着し、シフト操作をしてください。

■ パワーモード Off 自動パーキング選択制御

停止中にシフトポジションが **P** 以外のままパワーモードを OFF モードにすると、シフトポジションが自動で **P** になります。

■ シフトポジションの選択制限

不正な操作をすると、安全のためシフトポジションの選択が制限されます。

» 安全な状態でブレーキペダルを踏んで停車し、適切なシフトポジションを選択してください。

» READY 表示灯の点灯していることを確認してください。

操作前のシフトポジション	1. 操作・走行状態	2. 選択したシフトポジション	3. 選択後のシフトポジション
P	ブレーキペダルを踏んでいない	他のシフトポジションを選択する	P
	アクセルペダルを踏んでいる		
N	低速走行中で、ブレーキペダルを踏んでいない		N
	低速走行中で、アクセルペダルを踏んでいる		
N D	前進している	R を選択する	
R N	後退している	D を選択する	
R N D	走行中	P を選択する	
P N	READY 表示灯が点灯していない	P N 以外を選択する	操作時のシフトポジションのまま

2 運転するときの操作

ブレーキ

フットブレーキ

車の減速や停止をするためのブレーキで、ブレーキペダルで操作します。

» ブレーキペダルを踏んだとき、ブレーキ装置の作動のためモータールームからモーター音などが聞こえることがあります。

! 水たまりを走行したときは、ブレーキの効き具合を確認してください。効きが悪いときは、効き具合が戻るまでブレーキペダルを何回か軽く踏んでください。

! ブレーキを踏んでいる間、絶えず金属的な摩擦音が聞こえる場合はブレーキパッドを交換してください。Honda販売店で点検を受けてください。

! 長い下り坂では、ブレーキペダルを踏み続けないでください。ブレーキが過熱し、ブレーキの効きが悪くなり危険です。長い下り坂などでは回生ブレーキも使用してください。

電子制御ブレーキアシスト

緊急制動時に、より大きな力を発生させ運転者のブレーキ操作を補助する装置です。ブレーキペダルを強く踏み込んだときに、ブレーキがより強く効くようになります。

» ブレーキアシストが作動すると、ペダルが小刻みに動いたり、作動音が聞こえたりすることがあります。

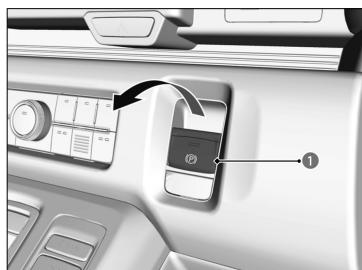
電子制御パーキングブレーキ

停車中や駐車時に使用するブレーキです。自動での解除および手動での操作ができます。

- ・パーキングブレーキを操作すると作動音が聞こえます。
- ・パーキングブレーキを操作するとブレーキペダルが動くことがあります。
- ・12Vバッテリーがあがっているときは、パーキングブレーキは操作できません。

- 走行中にパーキングブレーキスイッチを引き続けている間はパーキングブレーキがかかります。

手動でパーキングブレーキをかける



パーキングブレーキスイッチ (1) を引き上げる。

» パーキングブレーキが作動すると、スイッチのインジケーターとメーター内のブレーキ警告灯 (レッド) が点灯します。

手動でパーキングブレーキを解除する

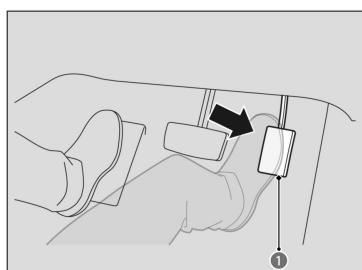


右足でブレーキペダルをしっかりと踏んだ状態で、パーキングブレーキスイッチ (1) を押す。

» ブレーキ警告灯 (レッド) が消灯します。

- パワーモードが ON モードのときに操作してください。
- 急な下り坂の発進時などに利用するとスムーズな発進を行うことができます。

自動でパーキングブレーキを解除する



アクセルペダル (1) をゆっくりと踏み、車両を発進させる。

» ブレーキ警告灯 (レッド) が消灯します。

次の警告灯が点灯しているときは、自動解除できないことがあります。

2 運転するときの操作 〉 ブレーキ

- トランスミッション警告灯、ブレーキ警告灯（オレンジ）、VSA 警告灯、ABS 警告灯、エアバッグシステム警告灯

! 運転席シートベルトを装着していない場合はパーキングブレーキは自動で解除されません。

自動パーキングブレーキ作動機能

パワーモードを OFF モードにすると自動でパーキングブレーキがかかります。

» この機能は工場出荷時 OFF になっています。

■ 自動作動機能の ON/OFF

パワーモードが ON モードのときに、以下の操作で ON と OFF が切り替わります。

- シフトポジションを **P** にする。
- ブレーキペダルを踏まずにパーキングブレーキスイッチを引き上げる。
- 音が鳴り始めたら手を離し、3 秒以内に再びパーキングブレーキスイッチを引き上げる。
- 操作完了音が聞こえたらスイッチから手を離す。
» ON: 「ピーッ ピーッ」と鳴ります。
» OFF: 「ピー」と鳴ります。
» パーキングブレーキの作動状態は、ブレーキ警告灯（レッド）で確認してください。

以下の状態のときは、パーキングブレーキが自動で作動します。

- 10 分以上渋滞追従機能付 ACC またはオートマチックブレーキホールドシステムが作動している状態で停車しているとき
- 渋滞追従機能付 ACC またはオートマチックブレーキホールドシステムが作動している状態で運転席のシートベルトを外したとき
- 渋滞追従機能付 ACC またはオートマチックブレーキホールドシステムが作動している状態でパワーシステムを停止したとき
- ブレーキホールドシステム作動中にシステムに問題が発生したとき

! 寒冷時は、自動パーキングブレーキ作動機能を OFF にし、石などで輪留めをしてください。パーキングブレーキをかけると、凍結するおそれがあります。また、自車をけん引する場合は、必要に応じて機能を OFF にしてください。

■ 自動作動機能の一時 OFF

下記操作を行うと自動作動が一時的に OFF になります。

[1] ブレーキペダルを踏んで停車する。

[2] パワーモードを OFF モードにした後、2 秒以内にパーキングブレーキスイッチを押す。

» 自動作動機能の ON/OFF 設定は変わりません。

» 渋滞追従機能付 ACC、オートマチックブレーキホールドシステムが OFF の状態で行ってください。

» パーキングブレーキの作動状態は、ブレーキ警告灯（レッド）で確認してください。

オートマチックブレーキホールド

停車中に、ブレーキペダルを踏み続けなくてもブレーキを保持する機能です。保持中に発進操作をすると、自動でブレーキが解除されます。信号待ちや渋滞などの一時的な停車に適しています。

⚠警告

急な坂道やすべりやすい路面の場所では、ブレーキペダルから足を離さない。

急な坂道やすべりやすい路面の場所では、オートマチックブレーキホールドが作動していても、ブレーキペダルから足を離したときに車が動くことがあります。

不意に車が動くことにより衝突の原因となり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

駐車をする目的でオートマチックブレーキホールドを作動させない。

不意に車が動くことにより衝突の原因となり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

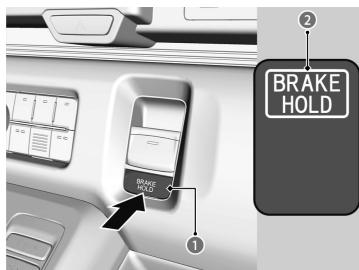
オートマチックブレーキホールドシステム作動中は絶対に車から離れないでください。駐車する際はシフトポジションを **P** にしてパーキングブレーキをかけてください。

オートマチックブレーキホールドを使用する際は、オートマチックブレーキホールド表示灯が点灯するまでブレーキペダルから足を離さない。

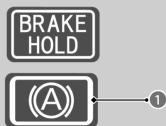
不意に車が動くことにより衝突の原因となり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

オートマチックブレーキホールド表示灯が点灯した後にブレーキペダルから足を離してください。

作動方法



- [1] シートベルトを着用し、パワーシステムを起動してからオートマチックブレーキホールドスイッチ (1) を押す。
 ≫ オートマチックブレーキホールドシステム表示灯 (2) が点灯し、システムが待機状態になります。



[2] シフトポジションが[D]の状態で、ブレーキペダルを踏んで停車する。

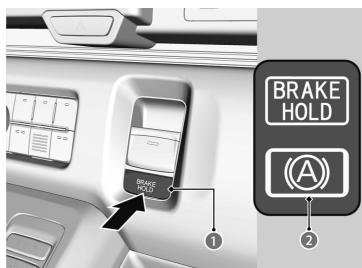
» オートマチックブレーキホールド表示灯 (1) が点灯し、ブレーキホールド機能が作動します。ブレーキペダルから足を離してください。
» ブレーキホールド機能は、10 分間作動します。

- ・次回以降のパワーシステム起動時に運転席シートベルトを着用すると、待機状態で復帰します。



自動洗車機を使用するときは、システムが OFF になっていることを確認してください。

■ システムの OFF



① を押すと、システムが OFF になります。

② が点灯しているときは、ブレーキペダルを踏みながら OFF にしてください。

- ・システムを OFF にした場合は、次回以降のパワーシステム始動時も OFF のままでです。

■ ブレーキホールド機能が自動的に解除されるとき

- ・シフトポジションが[P]もしくは[R]で、ブレーキペダルを踏んでいるとき
- ・パーキングブレーキスイッチを引いたとき

以下のときは、ブレーキホールド機能が解除されてパーキングブレーキが自動で作動します。

- ・10 分以上ブレーキを保持したとき
- ・運転席のシートベルトを外したとき
- ・パワーモードを OFF にしたとき
- ・オートマチックブレーキホールドシステムに問題が発生したとき

2 運転するときの操作 〉 ブレーキ

ABS (アンチロックブレーキシステム)

10km/h 以上で走行時に急制動や滑りやすい路面で制動するとき、車輪のロックを防止することで車両の姿勢を安定させ、ハンドルの効きを確保しようとするための装置です。

- ブレーキペダルを踏んだとき、ブレーキペダルが小刻みに動くことがあります。これは ABS の正常な動作です。そのままブレーキペダルを強く踏み続けてください。

! タイヤは必ず、同一指定サイズ、同一種類のタイヤを指定空気圧で使用してください。

種類やサイズの異なるタイヤが混在していると、ABS が正常に機能しないことがあります。

! 運転中に ABS 警告灯が点灯するときは、システムの異常が考えられます。

ABS が作動していない可能性があるため、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。

! ABS は、制動距離を短くするためのものではありません。路面が滑りやすいほど長い制動距離が必要になります。

エマージェンシーストップシグナル

60km/h 以上で走行時に急ブレーキをかけると、非常点滅表示灯が高速で点滅し、後続車に急ブレーキを知らせるシステムです。

以下の状態になると、エマージェンシーストップシグナルが停止します。

- ブレーキペダルを離したとき
- ABS が停止したとき
- 急減速でなくなったとき
- ハザードスイッチを ON にしたとき

! エマージェンシーストップシグナルは、追突されるおそれを低減するシステムであり、追突を完全に防ぐものではありません。

運転するときは不必要的急ブレーキを避け、安全運転を心がけてください。

発進・走行中

発進時の操作

[1] ブレーキペダルを踏んだ状態で、シフトポジションを選択する。

[2] ブレーキペダルを離して、アクセルペダルをゆっくりと踏む。

» パーキングブレーキは自動で解除されます。パーキングブレーキスイッチの操作でも解除することができます。

Q 電子制御パーキングブレーキ ▶ P.85

⚠ 注意

アクセルペダルを踏んだまま、シフトポジションを操作しない。

急発進して思わぬ事故の原因となります。

! 走行中はパワーシステムを停止しないでください。下記の状態になり危険です。

- ブレーキの倍力装置が作動しないため、ブレーキの効きが悪くなる
- パワーステアリングのパワー装置が作動しないためハンドル操作が重くなる

! 走行中はシフトポジションを **N** にしないでください。

回生ブレーキが全く効かず、思わぬ事故の原因となります。

! 滑りやすい路面やカーブでは、アクセルペダルは特に慎重に操作してください。

ヒルスタートアシストシステム

ヒルスタートアシストは、ブレーキペダルからアクセルペダルに足を移す際に車両が傾斜で後退するのを防ぐため、一時的にブレーキを保持します。

» 非常に急な坂では車両が後退することがあります。また緩やかな傾斜では作動しません。

クリープ現象

▼ シングルペダルコントロール OFF 時

シフトポジションが **D**、または **R** のときは、アクセルペダルを踏まなくても車がゆっくり動き出します。

停車時はブレーキペダルをしっかりと踏むか、オートマチックブレーキホールドが作動していることを確認してください。

Q オートマチックブレーキホールド ▶P.88

駐停車

駐停車の操作

- [1] ブレーキペダルをしっかりと踏んで車両が停止したことを確認する。
- [2] ブレーキペダルを踏んだまま、パーキングブレーキスイッチをゆっくりと確実に引き上げる。
- [3] シフトポジションを **P** にし、パワーシステムを停止する。
⇒ メーターのシフトポジション **P** が表示されるまでブレーキを離さないでください。
⇒ 車から離れるときは必ず施錠してください。

⚠ 注意

駐車時はパワーシステムを停止する。

万一、シフトポジションが **P**・**N** 以外に入っていた場合、クリープ現象により車が動き出したり、乗り込む際に誤ってアクセルペダルを踏み、急発進するおそれがあります。

⚠ 注意

停車中は不必要にアクセルペダルを踏み込まない。

万一、シフトポジションが **P**・**N** 以外の場合、思わぬ急発進のもとになります。

! 坂道に駐車をするときは、かならずパーキングブレーキをかけてください。

! 以下を行うと、駆動系が損傷したり、パワーシステムのオーバーヒートの原因となります。

- アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏む
- 車が完全に止まらないうちに **P** に入れる
- 上り坂で、アクセルを調節しながら車を停車させる

! 寒冷時は、パーキングブレーキをかけずに、輪留めをしてください。路面の凍結によって車が動き出し、思わぬ事故につながるおそれがあります。

- !
シフトポジションを[N]にすると同時に[POWER]スイッチを押さないでください。[N]ポジションの状態になることがあります。シフトポジションは[P]にしてください。

リアワイドカメラシステム*

リアワイドカメラシステムについて

リアワイドカメラシステムの取り扱いについては、ナビゲーションまたはオーディオの取扱情報をご覧ください。

*: タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

高電圧バッテリーの充電

充電の前に

充電を始める前に下記の項目を確認してください。

- 接地施工された専用回路を使用しているか？

» 施工状態がわからないときは、電気工事業者に確認を依頼してください。
- 充電専用コンセントに充電ケーブルのプラグを直接差し込んでいるか？

» 延長コード、コードリール、プラグ変換アダプターは使用しないでください。たこ足配線はしないでください。
- 充電ケーブルは伸ばした状態で使用をしているか？

» 伸ばした状態で使用をしてください。
- 充電コネクター、充電ケーブルが破損していないか？

» 破損している場合は、使用を中止してください。
- 充電コネクターや充電口に異物が入っていないか？

» 異物が入っている場合は、Honda 販売店にご相談ください。充電コネクターと充電口は常に清潔な状態にしてください。
- 充電コネクター、充電ケーブルが水で濡れていないか？

» 水の近くや濡れた手で充電ケーブルの使用をしないでください。

Honda 推奨工事仕様については Honda 販売店に確認してください。



充電専用コンセントは変形していないことを確認してください。充電専用コンセントが磨耗または損傷していると、充電ケーブルのプラグにうまく接触しません。充電ケーブルのプラグが完全に接続され、取り付け後に充電専用コンセントから出でていないことを確認してください。正しく接続しないと、プラグ内が高温になり、プラグが損傷することがあります。

Honda 推奨工事仕様については Honda 販売店に確認してください。

⚠ 警告

ブレーカーに単独配線をされ、接地施工された充電専用コンセントを使用します。

適切な電源回路を使わないとときは、火災になるおそれがあります。

施工状態がわからないときは、電気工事業者に確認を依頼してください。

以下の状態のときに高電圧バッテリーに充電をすると、感電や火災の原因になり、重大な傷害や死亡に至るおそれがあります。

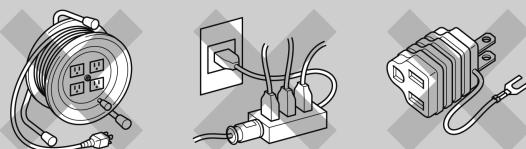
- ・落雷のおそれがあるときは充電を行わないでください。
- ・水の近くや濡れた手で、充電コネクター、充電ケーブルの使用をしないでください。
- ・充電コネクター、充電ケーブルが破損している場合は、使用しないでください。

これらの状態のときは、充電をしないでください。

⚠ 警告

充電機器の不適切な取扱いは火災や重大な傷害につながるおそれがあるため、次のことを守る。

- ・接地施工された適切なコンセントを使用すること
- ・延長コードやコードリールは使用せずにコンセントに直接プラグを差し込むこと
- ・たこ足配線はしないこと
- ・発電機は使用しないこと
- ・充電コネクターや充電口に異物が入っていないことを確認すること
- ・電源プラグや充電コードは水や他の液体に浸さないこと
- ・充電ケーブルを落下させる、衝撃を与える、水没させる、プラグや充電コネクターへ異物を挿入させるなどの行為をしないこと



⚠ 警告

損傷や改造された充電機器を使用することは、感電や火災の原因となり、重大な傷害や死亡に至るおそれがあります。決して分解や改造をしないでください。もし、充電機器に損傷があるときは、使用を中止し、Honda 販売店にご相談ください。

⚠ 警告

植込み型心臓ペースメーカーや植込み型除細動器などの医療機器を装着されているかたは、充電時には充電スタンドや充電ケーブルに植込み部位を近付けず離してください。また急速充電*はご自身で行なわないでください。充電により、機器の作動に影響を与えるおそれがあります。

充電方法

充電には走行時の充電以外に普通充電と急速充電*があります。普通充電は、住宅などで AC200V の充電器で行う充電です。急速充電*は、充電施設に設置された急速充電器で行う充電です。

充電方法	充電時間
普通充電 (AC200V 16A のとき)	満充電まで約 10 時間 (約 600 分)
普通充電 (AC200V 30A* ¹ のとき)	満充電まで約 5 時間 (約 300 分)
急速充電 (50kW 125A* ¹ のとき)	80% 充電まで約 30 分

※1：充電可能な最大値

- 充電時間は、充電残量警告灯が点灯した時点で充電を開始した場合の時間です。(気温 25 °C のとき)
- 充電時間は、バッテリーの残量や気温、使用する充電器により異なります。
- AC100V の充電器を使用しても充電できますが、AC200V と比べ充電終了までの時間が長くなります。
- 満充電までの残り時間の目安は、メーターで確認できます。
- 充電リッドが氷結して開かない場合は、ぬるま湯をかけて氷を溶かし、水分を十分にふき取ってから、充電リッドを開けてください。
- 充電ケーブルに、汚れや水滴が付着している場合は、乾いたきれいな布で拭き取ってください。水洗いやケミカル類を使用しての掃除は行わないでください。

*: タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

- 充電口とコネクターの金属部分が損傷や腐食している場合は、Honda 販売店にご相談ください。
- 12V バッテリーが外されると、充電できません。12V バッテリーを再接続した場合は、パワーシステムの起動、停止を行ってください。その後、充電コネクターを再接続し、充電が開始されることを確認してください。
- 充電中に停電が発生したときは、電力が復旧して、充電システムが充電可能な状態になると自動的に充電が再開されます。普通充電コネクターと急速充電コネクターを同時に接続しないでください。両方を接続した場合は充電を停止します。
- 外気温が-20 °C以下の場合、高電圧バッテリーの充電が開始されないことがあります。
- 充電中は、電磁波によるノイズにより、ラジオが聞こえなくなることがあります。
- 下り坂を走行するときは回生エネルギーによって充電されるため、満充電付近になると回生ブレーキの効きが低下することがあります。そのため山や丘など高いところで充電する場合は満充電を避けてください。



車両カバーを装着したまま充電しないでください。

誤動作を引き起こしたり、車両や充電機器が故障する可能性があります。



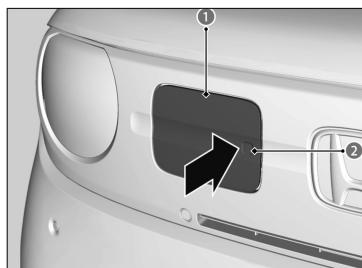
充電機器の損傷を防ぐために、次の点に注意してください。

⇒充電機器に強い衝撃をあたえない

⇒ケーブル部分を引っ張らない、ねじらない、折り曲げない、踏みつけない、引きずらない

⇒充電機器は、ヒーターなどの温度が高くなるものに近づけたり、高温場所で保管や使用しない

普通充電

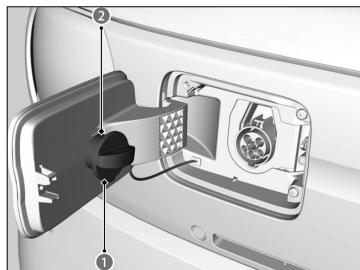


[1] パワーモードが OFF モードになっていることを確認する。

[2] 充電リッド (1) 右端のプッシュマーク (2) を「カチッ」と音がするまで押し、手を離す。

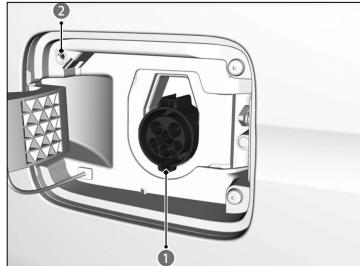
⇒リッドが少し浮き上がります。

⇒Honda スマートキーを携帯するか、運転席のドアを解錠してから操作してください。



- [3] 充電リッドを開け充電口キャップ (1) を抜き取る。

- [4] 充電口キャップをホルダー (2) にかける。

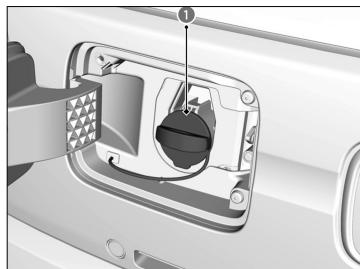


- [5] 充電コネクターを充電口 (1) に差し込む。

⇒ 充電インジケーター (2) (ホワイト) の点滅が停止し、充電インジケーター (2) (ブルー) がスイープ (連鎖点灯) します。

⇒ 充電が完了すると、充電インジケーター (ブルー) のスイープ (連鎖点灯) が停止し、約 15 秒後充電インジケーターが消灯します。

充電が完了したとき



- [1] 充電コネクターロック解除ボタンを押しながら充電コネクターを抜き取る。

- [2] 充電口キャップ (1) をしっかりと取り付け、充電リッドを閉める。

- 推奨の充電ケーブル（別売）のご購入や取り扱いは、Honda 販売店にご相談ください。
- 充電を行うには専用のコンセントが必要です。また、漏電遮断器付コンセントを使用することをおすすめします。
- 充電機器に付属の指示と安全上の注意事項に必ず従ってください。
- 充電コネクターを差し込んだらゆっくりと手前に引いて抜けないことを確認してください。
⇒ 充電コネクターは充電口に斜めに差し込まない
⇒ 充電コネクターを差し込む際は、上下に動かさない
- 満充電付近になると充電される速度が遅くなります。また高電圧バッテリーの温度が低いときは充電される速度が遅くなったり満充電にならないことがあります。
- 充電を途中でやめたいときは、充電コネクターを抜き取ってください。充電は自動的に中止されます。

■ 充電が開始されないとき

充電が開始されない場合は、以下をご確認ください。

- 充電コネクターが正しく接続されていない

» 充電口から「カチッ」という音が鳴るまで、再度差し込んでください。
- 車両が故障している

» メーターを確認してください。
- 12V バッテリー電圧が低下している

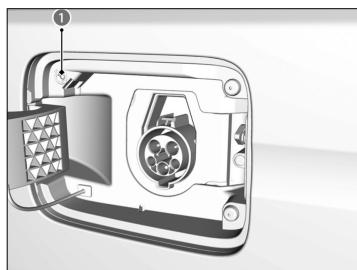
» 12V バッテリーを充電、または交換してください。
- パワーモードが ON モードになっている

» パワーモードをアクセサリーモードまたは OFF モードにしてください。
- 高電圧バッテリーが低温になっている

» 高電圧バッテリーの保護のため充電を制限しています。けん引などで暖かい場所へ移動し、高電圧バッテリーの温度があがると充電できるようになります。
- タイマー充電で充電を行う時間を設定している

» すぐに充電を開始したい場合は、充電コネクターを再接続して充電コネクターのロック解除ボタンを長押しすると、充電が開始されます。

充電インジケーター（普通充電）



充電インジケーター（①）は高電圧バッテリーの充電状態を表示します。

ゆっくり点滅（ホワイト）：

- 充電待機状態のとき

スイープ（連鎖点灯）（ブルー）：

- 充電をしているとき

点灯（ブルー）：

- 充電が完了したとき

1回点滅（ブルー）：

- 充電が完了し、バッテリー加温システムが作動しているとき

点滅（レッド）：

- 充電システムに異常があり、充電が開始できないとき

点灯（レッド）：

2 運転するときの操作 〉 高電圧バッテリーの充電

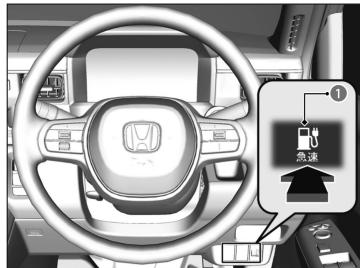
- 充電コネクターが正しく接続されていないとき

⇒接続の際は、充電コネクターが傾かないよう奥側に突き当たるまで差し込んでください。

点灯 (ホワイト) :

- 充電機器の停止操作をしたとき
- タイマー充電により充電が停止したとき

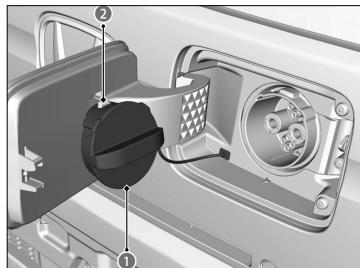
急速充電*



[1] パワーモードが OFF モードになっていることを確認する。

[2] 充電リッドオープンスイッチ (1) を長押しする。

⇒充電リッドが開きます。

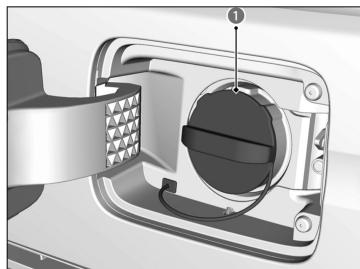


[3] 充電口キャップ (1) を抜き取る。

[4] 充電口キャップをホルダー (2) にかける。

[5] 急速充電器に表示されている手順に従って、充電を開始する。

充電が完了したとき



充電コネクターを充電口から取り外す。

⇒充電完了後は充電口キャップ (1) をはめてから充電リッドを閉めます。

- 必ずこの車に対応した急速充電器を使用してください。対応していない充電器を使用すると、故障の原因になります。故障時は Honda 販売店にご相談ください。

- 30 mをこえる充電ケーブルは使用しないでください。

*: タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

- ここでは急速充電の手順の一例を説明しており、急速充電器の種類によっては手順が異なる場合があります。必ず急速充電器本体に表示された手順をご確認ください。間違った操作を行うと、車両または急速充電器を破損するおそれがあります。
- CHAdeMO（チャデモ）仕様の急速充電器が使用できます。CHAdeMO とは、CHAdeMO 協議会が標準規格として提案する急速充電器の商標名です。
- 急速充電中に、エアコンやアクセサリーを使用すると充電時間が長くなる、もしくは充電が完了しない場合があります。急速充電器の仕様（最大出力/ 電流や制限時間）によっては、充電時間が長くなる、もしくは途中で充電終了する場合があります。
- 充電中は急速充電コネクターを外すことはできません。外す必要があるときは充電を中止してください。充電が停止すると急速充電コネクターを外すことができます。
- 充電中、充電器に表示される残充電時間、高電圧バッテリーの残量、充電電流等の値は実際の値とは異なる場合があります。
- 急速充電が終了したあとは、ほかの利用者のため、充電用駐車スペースからすみやかに移動してください。

■ 充電が開始されないとき

充電が開始されない場合は、以下をご確認ください。

- 普通充電コネクターが接続されている
 » 普通充電コネクターを外してください。
- 急速充電コネクターが正しく接続されていない
 » 急速充電コネクターを正しく接続してください。
- すでに満充電付近まで充電されている
- 急速充電器が充電できない状態になっている
 » 急速充電器の電源が ON であり、正常であることを表示で確認してください。
- 車両が故障している
 » メーターを確認してください。
- 12V バッテリー電圧が低下している
 » 12V バッテリーを充電、または交換してください。
- 高電圧バッテリーが低温になっている
 » 高電圧バッテリーの保護のため充電を制限しています。けん引などで暖かい場所へ移動し、高電圧バッテリーの温度があがると充電できるようになります。

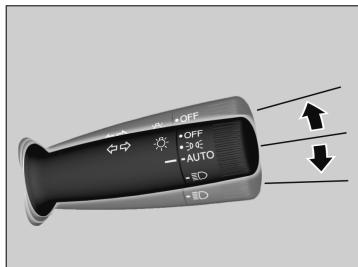
2 運転するときの操作 >

ウィンカー・ライト

ウィンカー（方向指示器）の操作方法

パワーモードがONモードのときに、ウィンカースイッチを上下に操作すると、ウィンカー（方向指示器）が点滅します。

» メーター内の  方向指示器表示灯が同時に点滅します。



ワンタッチターンシグナル

レバーを軽く押し下げ/押し上げて放すと、方向指示器が3回点滅します。

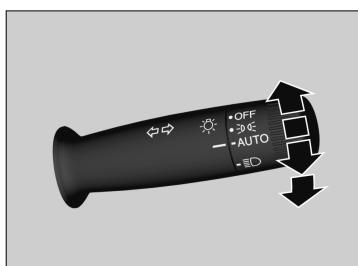
» 点滅中にレバーを反対方向に軽く押して放すと点滅が停止します。



ワンタッチターンシグナルのON/OFF設定を変更することができます。

 時計*/車両設定 ▶ P.226

ヘッドライト・車幅灯



車外の明るさに応じて自動で点灯します。手動で点灯/消灯させることもできます。

» メーター内の  ライト点灯表示灯が点灯します。

パワーモードがONモードのとき、ライトスイッチを **AUTO** にすると自動点灯が作動します。

■ 手動点灯/消灯

ヘッドライト・車幅灯の点灯：

ライトスイッチを  にします。

車幅灯の点灯：

車幅灯が点灯するまでライトスイッチを  にして手を放します。

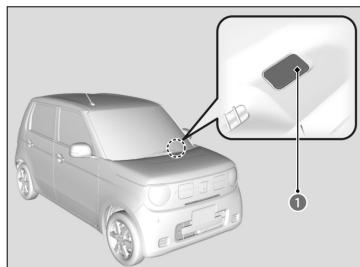
- » ヘッドライトは車外の明るさに応じて自動点灯します。
- » 停車中に行うとヘッドライトは消灯します。低速でしばらく走行するか一定以上の車速で走行するとヘッドライトの自動点灯が再開します。
- » 車幅灯の自動点灯を再開するにはスイッチを  にしたあと、**AUTO** にします。

ヘッドライト・車幅灯の消灯：

シフトポジションが **P** もしくはパーキングブレーキをかけて停車しているとき、消灯するまでライトスイッチを **OFF** にして手を放します。

- » 発進すると車幅灯の自動点灯が再開します。低速でしばらく走行するか一定以上の車速で走行するとヘッドライトの自動点灯が再開します。

車幅灯が点灯しているときは尾灯、番号灯も点灯します。



照度感知センサーは、図の位置にあります。

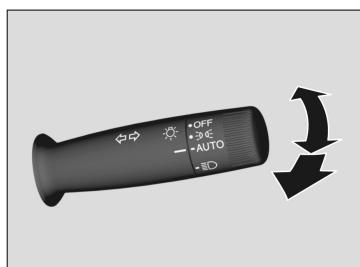
① 照度感知センサー

! パワーシステムが停止しているときにライト類を点灯したままにしないでください。

運転席のドアを開けたときにライト消し忘れ警告ブザーが鳴ります。

12V バッテリーあがりの原因となります。

ハイビーム



ヘッドライトが点灯しているとき、レバーを前方に押すとハイビームに切り換わります。手前に引くとロービームに戻ります。

ハイビームが点灯しているときは、メーター内の  ハイビーム表示灯が点灯します。

パッシング

レバーを手前に引き、放します。

ヘッドライトオートオフ機能

パワーモードを OFF モードにして、Honda スマートキーシステム、およびキーレスエントリーシステムですべてのドア、テールゲートを施錠すると、ヘッドライト、車幅灯、尾灯、番号灯やインストルメントパネルの照明が消灯します。

» 運転席ドアを開けると再び点灯し、ライト消し忘れ警告ブザーが鳴ります。ライトスイッチを **[AUTO]** にしているときはパワーモードを OFF モードにすると消灯します。

デイタイムランニングライト

デイタイムランニングライトは以下の条件をすべて満たしたときに点灯します。

- ・パワーモードが ON モード
- ・車両の周囲が明るい
- ・ヘッドライトが消灯している

消灯するには、停車しているときに消灯するまでライトスイッチを **[OFF]** にして手を放します。

車両を発進させると再び点灯します。



デイタイムランニングライトの ON/OFF 設定を変更することができます。

Q 時計*/車両設定 ▶ P.226

ヘッドライトレベリングダイヤル



車幅灯が点灯しているとき、ヘッドライトの照らす方向（光軸）を下向きに調節することができます。光軸の調節はダイヤルを回して行います。ダイヤルの数字が大きいほど光軸は下向きになります。

■ ダイヤル位置の目安

乗員の人数や荷物の量に応じて、下表を目安にダイヤル位置を選択してください。

乗員やカーゴスペースの積載状況	ダイヤル位置
運転席のみ乗車時	0
運転席と助手席に乗車時	
4名乗車時	1
4名乗車時でカーゴスペース満載時	2
運転席のみ乗車でカーゴスペース満載時	3

車検などで光軸調節をするときは、ダイヤルを0の位置に戻してから行ってください。

オートハイビーム

夜間走行時にフロントワイドビューカメラで前方車両のライトや街灯などを検知し、状況に応じてヘッドライトのハイビームとロービームを自動で切り換えるシステムです。

オートハイビームはあらゆる状況で作動する機能ではありません。あくまでも運転者をアシストするための機能です。常に周囲の状況を確認し、必要に応じて手動でハイビームとロービームを切り換えてください。

カメラが認識できる範囲や距離は周囲の状況により変化します。

フロントガラス上部に装備されているカメラの取り扱いについては下記を参照してください。

Q フロントワイドビューカメラ ▶P.153

オートハイビームを正しく動作させるために次のことをお守りください。

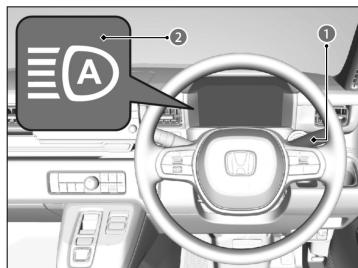
- ・インストルメントパネルの上に光を反射するものを置かない
- ・カメラ付近のガラスはきれいにしておく
- ・フロントガラスのお手入れのときは、ガラスクリーナーがレンズに付着しないようにする
- ・カメラ付近のガラスにアクセサリー、ステッカーやフィルムを取り付けない
- ・カメラのレンズに触れない

カメラに強い衝撃が加わったときやカメラ周辺の修理を行うときはHonda販売店にご相談ください。

■ オートハイビームの使いかた

システムの作動

以下の条件をすべて満たすとオートハイビーム表示灯が点灯し、状況に応じて自動的にハイビームとロービームが切り換わります。



- ・パワーモードがONモード
- ・ライトスイッチが[AUTO]の位置
- ・レバーがロービームの位置
- ・ヘッドライトが自動で点灯している
- ・車両の周囲が暗い

① ライトスイッチ

② オートハイビーム表示灯

上記の条件を満たしていてもオートハイビーム表示灯が点灯しないときは、続けて以下のいずれかの操作を行うことで、オートハイビーム表示灯が点灯します。

- ・レバーを手前（パッシングの位置）に引いた後すぐに手を放す
- ・ライトスイッチを[OFF]に回したあと、[AUTO]に戻す

次のような場合、ヘッドライトの切り替えタイミングが変化したり適切に切り替えが行われない場合があります。運転者の感覚に合わない場合は手動で切り替えを行ってください。

- ・対向車や先行車のランプが明るい場合や暗い場合、片側点灯や無灯火の場合
- ・天候の状況（雨、雪、霧、フロントガラスの霜など）
- ・周囲にある街灯、電光掲示、信号機などの光源が明るいとき
- ・周囲の明るさが連続的に変わるとき
- ・カーブが多い道、起伏の激しい道路を走行しているとき
- ・前方の車両が突然現れたり、適切な方向を向いていないとき
- ・カーゴスペースに重い荷物を積んで車が傾いているとき
- ・車両前方に標識やミラーなどの光を強く反射するものがあるとき
- ・中央分離帯、街路樹などで対向車が見え隠れするとき
- ・対向車や先行車が二輪車、自転車などのとき

フロントワイパーが高速（HI）作動しているとき、または、フロントワイドビューカメラが濃霧と判断しているときは、ロービームが継続します。



オートハイビームのON/OFF設定を変更することができます。

Q 時計* / 車両設定 ▶ P.226

■ ハイビーム/ロービームの自動切り換え

オートハイビーム表示灯が点灯しているとき、以下の条件によりハイビームとロービームが自動で切り換わります。

ハイビーム

以下の条件をすべて満たすとハイビームに切り換わります。

- ・車速が 30km/h 以上
- ・前方にライトを点灯した車両がない
- ・前方に街灯などの光が少ない

ロービーム

以下の条件のいずれかを満たすとロービームに切り換わります。

- ・車速が 24km/h 以下
- ・前方にライトを点灯した車両がいる
- ・前方に街灯などの光が多い

■ ハイビーム/ロービームの手動切り換え

ハイビームとロービームを手動で切り換える場合は、以下のいずれかの操作を行ってください。このとき、オートハイビーム表示灯が消灯し、オートハイビームが停止します。

レバーによる操作：

レバーを手前（パッシングの位置）に引いた後すぐに手を放す。

» オートハイビームを復帰させる場合は、以下のいずれかの操作を行ってください。

- ・レバーを手前（パッシングの位置）に引いた後すぐに手を放す
- ・レバーがロービームの位置のときにライトスイッチ  をに回した後、**AUTO** に戻す

ライトスイッチによる操作：

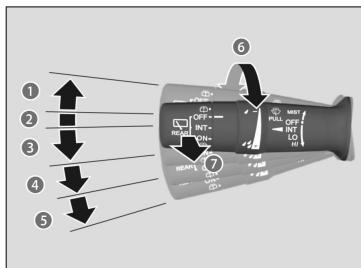
ライトスイッチを  に回す。

» オートハイビームを復帰させる場合は、レバーがロービームの位置のときにライトスイッチを **AUTO** に戻してください。このとき、オートハイビーム表示灯が点灯します。

2 運転するときの操作 >

ワイパー・ウォッシャー

フロントワイパー・ウォッシャーの操作方法



① MIST

レバーを押し上げている間、高速で作動します。霧や小雨のときに使用します。

② ワイパースイッチ OFF (停止)

③ ワイパースイッチ INT (間欠)

雨量が少ないときに使用します。

④ ワイパースイッチ LO (低速)

普通の雨量のときに使用します。

⑤ ワイパースイッチ HI (高速)

雨量が多いときに使用します。

⑥ 間欠時間の調節

リングを回して、ワイパーの間欠時間を調節します。

：間欠時間が長い

：間欠時間が短い

⑦ ウォッシャー

レバーを手前に引くと、ウォッシャー液が噴射します。

レバーを 1 秒以上引くとワイパーが作動します。

レバーを放すと数回ワイパーが作動して止まります。

- 間欠作動中は、車速が速くなると間隔が停止時より数秒短くなります。間欠時間を短いほうにいっぱいに回っている状態で車速が速くなると、ワイパーが間欠から低速作動に切り換わります。

△ 注意

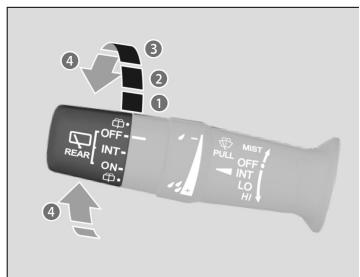
寒冷時はフロントガラスが暖まるまでウォッシャー液を噴射させない。

ウォッシャー液が凍りついて視界の妨げとなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

!
① ワイパーを乾拭きさせないでください。
ガラスが傷付いたりブレードラバーを傷めたりします。

!
② ウォッシャー液が出ないときは、スイッチを切ってください。
ポンプ故障の原因となります。

リヤワイパー・ウォッシャーの操作方法



- ① リヤワイパースイッチ OFF (停止)
- ② リヤワイパースイッチ INT (間欠作動)
- ③ リヤワイパースイッチ ON (低速作動)
- ④ ウォッシャースイッチ

スイッチを **①** まで回すと、ウォッシャー液が噴射します。スイッチを回している間はワイパーが作動し、スイッチを放すと数回ワイパーが作動して止まります。

- フロントワイパー作動中にシフトポジションを **R** にするとリヤワイパーが連動します。

こんなときは

■ ワイパーが動かないとき

ワイパーには、内蔵モーターの保護機能を搭載しています。ワイパーモーターの負荷が大きい状態が続いたときなどは、モーターの保護のため一時的にワイパーが停止することがあります。数分経過すると、通常通り使用できるようになります。

■ 寒冷時、凍結によりワイパープレードがガラスに張りつくとき

デフロスターでフロントガラスを暖めてから、ワイパーを作動させてください。

Q デフロスターの使用方法 ▶ P.113

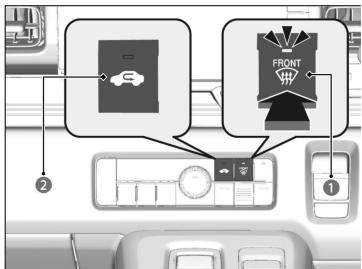
■ ワイパーに雪がたまっているとき

雪などがたまりワイパーが停止したときは、安全な場所に停車してください。ワイパースイッチを OFF、パワーモードをアクセサリーモードまたは OFF モードにしてから、ワイパーが作動できるように障害物を取り除いてください。

デフロスター（くもり止め）

デフロスターの使用方法

フロント・サイドガラスのくもりを取りたい場合



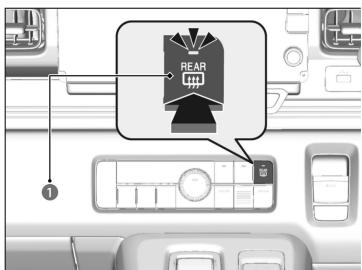
フロント・サイドガラスのくもりを取りたい場合、スイッチ（①）を押すとエアコンが作動し、自動的に外気導入（②の表示灯が消灯）に切り換わります。

スイッチ（①）をもう一度押すと曇り止めが停止し、前の状態に戻ります。

設定温度表示が「- -」になっているときは回生ブレーキが使用できるようにエアコンを起動して電気を消費しています。このとき、デフロスターは操作することができます。

Q 電気自動車 ▶P.13

リヤガラスのくもりを取りたい場合



スイッチ（①）を押すと、リヤガラスを暖め、曇りをとることができます。

- 外気温に応じて約10~30分経過すると、システムは自動的に停止します。ただし、外気温が0°C以下のときは自動的に停止しません。

!
安全のため、運転する前に視界が確保されていることを確認してください。

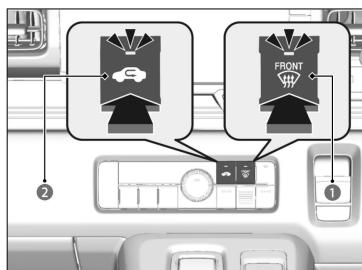
!
霜が取れたら、ただちに外気導入に切り換えてください。
内気循環で使い続けると車内の湿気で窓ガラスが曇り、視界の妨げになります。

!
設定温度を最大冷房付近にしないでください。
冷風が前面ガラスに当たると、ガラスの外側が曇ることがあります。

!
消費電力が大きいため、曇りが取れたら OFF にしてください。バッテリー容量が低下し、パワーシステムの起動に影響することがあります。

こんなときは

■ 急速に霜を取りたいとき



スイッチ (①) を押し、スイッチ (②) を押す。

■ 側面ガラスが曇ったとき

吹き出し風が側面ガラスに当たるよう、側面吹き出し口を調節してください。

走行に関する機能

シングルペダルコントロール

アクセルペダルの操作により加減速の調整や停車、停車状態の保持を行なうシステムです。

⚠ 警告

シングルペダルコントロールは減速の補助システムとして使用する。

停車中に車両が動き出したり、減速が足りない場合は、状況に応じて運転者自身でブレーキペダルを操作して減速をしてください。機能に頼った運転をすると、思わぬ事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。

常に周囲の状況を確認し、安全運転を心がけて走行してください。

システムが車両を停車しているあいだは、車から離れない。不意に車が動くことにより衝突の原因となり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

駐車する際はシフトポジションを **P** にしてパーキングブレーキをかけてください。

⚠ 警告

急な坂道やすべりやすい路面では、ブレーキペダルから足を離さない。

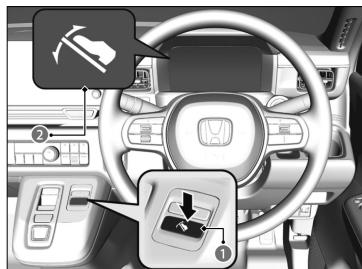
急な坂道やすべりやすい路面ではシステムが作動していても、停車できない、または停車中に車が動くことがあります。

不意に車が動くことにより衝突の原因となり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



人が乗降するときや荷物の積み下ろしをするときなど、長時間停車する状況ではシフトポジションを **P** にし、システムを OFF してください。パーキングブレーキが確実にかかっているか確認してください。

システムの ON/OFF



[1] 運転席のシートベルトを着用し、パワーモードを ON モードにする。

[2]  スイッチ (1) を押す。

⇒ シングルペダルコントロール表示灯 (2) が点灯し、システムが ON になります。

パワーモードを OFF にすると、システムは自動的に OFF になります。

走行中、または停車中にブレーキを踏み込んだ状態で ON/OFF の切り換えが可能です。

⇒ 加減速を繰り返したとき、長い下り坂を走行したとき、重い荷物を積んで長く走行したとき、ブレーキシステム警告灯（オレンジ）が点灯したときは、ON にできません。

システムが自動的に解除されるとき

- 渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール（ACC）を作動させたとき
- 走行中に運転席シートベルトを外したとき（停車後ブレーキペダルを踏んだときに解除）
- 滑りやすい坂道等で、自車が横滑りしたとき
- 加減速を多く繰り返したとき
- 長い下り坂を走行したとき
- 重い荷物を積んで長く走行したとき
- ブレーキシステム警告灯（オレンジ）が点灯したとき
- ターンテーブルを使用したとき
- 走行中にブレーキシステム警告灯（オレンジ）が点灯したとき

以下の状態のときは、パーキングブレーキが自動で作動し、システムが解除されまます。

- 停車中にパワーモードを OFF モードにしたとき
- 停車中にブレーキシステム警告灯（オレンジ）が点灯したとき
- 停車中に運転席シートベルトを外したとき
- 停車中に勾配の影響により車両が大きくずり下がったとき

シングルペダルコントロールの操作方法

アクセルペダルの操作により速度調整をすることができ、アクセルペダルを緩めると停車まで減速し、停車したあとは自動的に停車状態を保持します。アクセルペダルを踏むと停車保持機能が解除し発進します。

停車状態の保持中はオートマチックブレーキホールド表示灯が点灯します。

⇒ 10 分以上停車保持したときはパーキングブレーキが自動で作動します。

2 運転するときの操作 〉 走行に関する機能

- ・アクセルペダルを離しても減速の強さが足りないときは、ブレーキペダルを踏んでください。
- ・システムがON状態では、クリープ現象により車が動き出すことはありません。
- ・システムの作動には、回生ブレーキのほか、フットブレーキと同様のブレーキも併用しているためブレーキパッドの摩耗が発生します。

⚠ 注意

減速する際は、十分注意する。

滑りやすい路面では、減速によりタイヤのスリップを招くことがあります。



異常を示す表示が出た場合、システムの故障が考えられます。
ただちにHonda販売店で点検を受けてください。

ECON モード

ECONモードは、省電費運転をしやすくなるように制御します。

⇒ECONモードのONとOFFを切り替えるには、ECONスイッチを押します。



① ECONスイッチ

② ECONモード表示灯

- ・ECONモードにするとエアコンの効きが弱くなり加速の応答性が低くなります。
- ・運転状況などによってはモードの変更ができない場合があります。また、車両に異常があるときなどもモードの変更ができません。

車両接近通報装置

約25km/h以下で走行しているときに、歩行者に車両の接近を知らせるために走行音を発生させるシステムです。

VSA (ビーグルスタビリティアシスト)

VSA とは、ABS 機能、TCS 機能および横滑り抑制機能を総合的に制御し、急激な車両の挙動変化を抑制しようとする装置です。

ABS (アンチロックブレーキシステム)

急制動や滑りやすい路面で制動するとき、車輪のロックを防止することで車両の姿勢を安定させ、ハンドルの効きを確保しようとします。

TCS (トラクションコントロールシステム) 機能

滑りやすい路面などでの駆動輪の空転を防止し、駆動力、操舵能力を確保しようとします。

横滑り抑制機能

急激なハンドル操作や滑りやすい路面などでの旋回時に、車輪の横滑りなどを抑制して車両の安定性を確保しようとします。

また、緊急制動時に運転者のブレーキ操作を補助する電子制御ブレーキアシストも装備しています。



VSA が作動した状態でも車両の安定性の確保には限界があるため、無理な運転はしないでください。

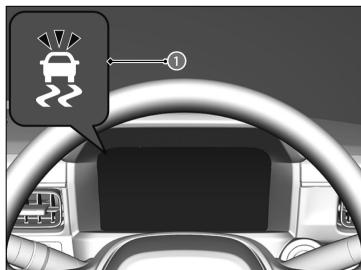
» カーブ手前では十分に速度を落とす

» 雪道、凍結路を走行するときは、スノータイヤ、またはタイヤチェーンを装着して安全な速度で運転する



VSA を正常に機能させるために、タイヤは必ず同一指定サイズ、同一種類のタイヤを指定空気圧で使用してください。

VSA の作動



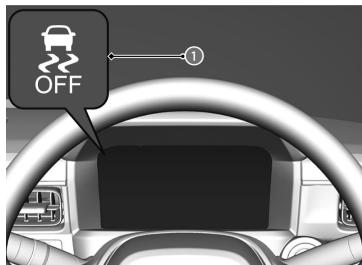
TCS 機能または横滑り抑制機能作動中は、VSA 警告灯 (1) が点滅します。

2 運転するときの操作 〉 走行に関する機能



VSA 警告灯が運転中に点灯するときや、パワーモードを ON モードにしたときに点灯しない場合は、システムの異常が考えられます。通常の運転には支障はありませんが、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。

システムの ON/OFF



マルチインフォメーションディスプレイを使用して、VSA 機能を部分的に停止 (OFF) 状態にすることができます。

TCS 機能が制限され、低速で駆動輪が回転しやすくなります。

Q 表示の切り換えた ▶ P.219

Q VSA モード設定 ▶ P.226

① VSA OFF 警告灯



VSA を OFF にすると TCS 機能が制限されるため、新雪やぬかるみからの脱出に効果的な場合があります。

- 前回の走行時に OFF にした場合でも、再度パワーシステムを起動させると自動的に ON になります。



VSA を OFF にすると TCS 機能が制限され、新雪やぬかるみからの脱出に効果的な場合があります。ただし、脱出後はすみやかに VSA を ON にしてください。

VSA を OFF にしたまでの走行はお勧めしません。

アジャイルハンドリングアシスト

運転者のハンドル操作に応じて、4 輪それぞれに軽いブレーキをかけることで、車両の動きを滑らかにし、安定感のあるコーナリングを可能にします。

- VSA 警告灯が点灯しているときは、アジャイルハンドリングアシストは作動しません。
- アジャイルハンドリングアシストが作動すると作動音が聞こえることがあります。



カーブ走行時は、状況に応じた適正な速度で、十分に車間距離をとつて走行してください。

アジャイルハンドリングアシストは、すべての走行条件で安定性を向上させる機能ではありません。

各部の操作

室内灯

室内灯スイッチ	122
マップランプ*	123

室内装備品

グローブボックス	124
アクセサリーソケット	124
USB ジャック	125
ドリンクホルダー	126
パワーサプライコネクター*	128

シートヒーター

シートヒーターの操作方法	133
--------------	-----

エアコン

エアコンについて	134
オートエアコンの使用方法	136

外部給電*

外部給電のしかた	138
----------	-----

インフォテインメントシステム*

車載インフォテインメントシステムについて	142
オーディオリモートコントロールスイッチ	142
デバイスの接続	143

Bluetooth®オーディオ*

オーディオを聞く	145
----------	-----

情報*

使用できる iPod、iPhone	146
オープンソースライセンスについて	146
商標	147

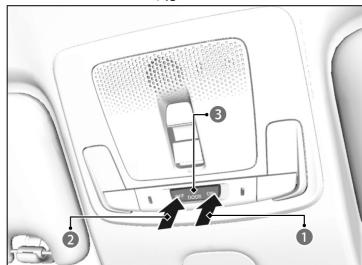
*: タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

室内灯

室内灯スイッチ

▼ フロントマップライト装備車

フロントシート用



① ON

ドア、テールゲートの開閉に関係なく室内灯が点灯。

② OFF

ドア、テールゲートの開閉に関係なく室内灯が消灯。

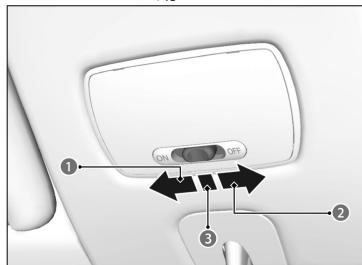
③ ドア連動

以下のときに点灯

- ・いずれかのドア、テールゲートを開けたとき
- ・運転席ドアを解錠したとき
- ・パワーモードを OFF モードにしたとき

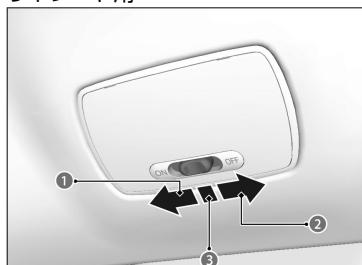
▼ フロントマップライト非装備車

フロントシート用



▼ 共通

リヤシート用



3 各部の操作 〉 室内灯

- ドア連動で室内灯が点灯している場合は、ドアを閉めると約 30 秒後に消灯します。
- 運転席ドアの解錠や車両のパワーモードを OFF にすると室内灯が点灯します。このときドアを開けなければ室内灯は 30 秒後に消灯します。
- パワーモードが OFF モードのときに、いずれかのドアを開けたままにすると、約 15 分後に室内灯は消灯します。



室内灯の消灯する時間を変更することができます。

Q 時計* / 車両設定 ▶P.226

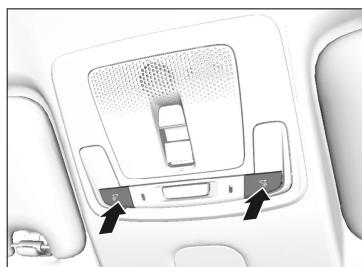


12V バッテリーが上がる恐れがあるため、パワーシステムを停止しているときは、室内灯を長時間点灯させないでください。

マップランプ*

夜間、車を停めて地図を見るときなどに使用するライトです。

■ フロントシート用



スイッチを押すと点灯し、もう一度押すと消灯します。

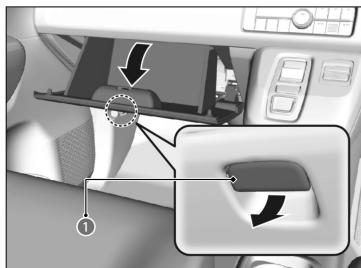
■ 次の場合はマップランプを消灯できません。

- 室内灯スイッチが ON のとき
- 室内灯スイッチがドア連動のときで、ドアが開いているとき

*: タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

室内装備品

グローブボックス



ノブを引くと開きます。

① ノブ

△警告

走行中は必ずグローブボックスを閉める。

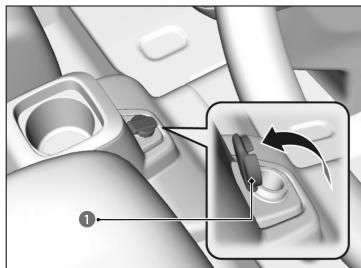
グローブボックスが開いていると、衝突したときに同乗者が重大な傷害を負うおそれがあります。

アクセサリーソケット

パワーモードがアクセサリーモードまたはONモードのときに使用できます。カバーを開けて使います。

消費電力 180W (15A) 以下のアクセサリーに、直流12Vの電源を供給します。

■ センターコンソール



① カバー

!
シガレットライターは差し込まないでください。
発熱するおそれがあります。

!
パワーシステムが OFF のときに使用しないでください。
12V バッテリーがあがるおそれがあります。

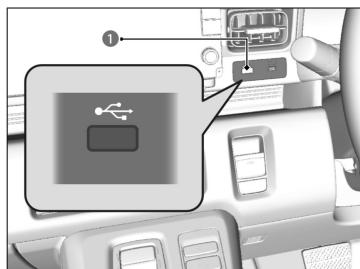
!
使用しないときは異物の侵入を防ぐためカバーを閉めてください。

!
アクセサリーソケットや USB ジャックなどの電装品に液体がかかつたり、異物が入ったりしないように注意する。
電装品に水がかかつたり、ゴミやほこりなどの異物が入ったりすると故障の原因となったり車両火災につながったりする恐れがあります。

USB ジャック

通信/充電用 USB ジャック*

■ フロントパネル



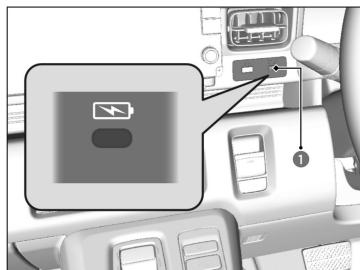
USB ジャックを使用して機器を充電したり、オーディオファイルを再生できます。
»ナビゲーションまたはオーディオの装備がない場合は使用できません。

① 通信/充電用 USB ジャック

*: タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

充電専用 USB ジャック

■ フロントパネル



USB ジャック (3.0A) は充電専用です。

» ミュージックプレーヤー等を接続しても、音楽やビデオの再生はできません。

① 充電専用 USB ジャック

- 接続した機器の種類によっては充電できない場合があります。
- 充電器が高温になった場合、充電停止する場合があります。
- データ破損のおそれがあるため、ファイルのバックアップをおすすめします。

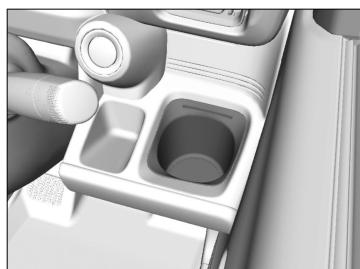
! 接続した機器を車内に放置しないでください。

! ハードディスクやカードリーダー、メモリーリーダーは機器およびデータが破損することがあるため、使用しないでください。

誤って接続した場合はパワーモードを OFF モードにしてから取り外してください。

ドリンクホルダー

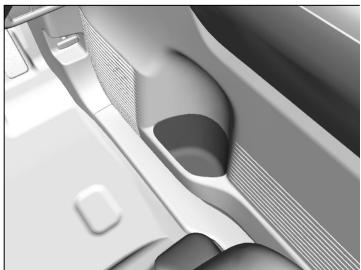
■ フロントシート用



フロントパネルのドリンクホルダーは、運転席側にあります。

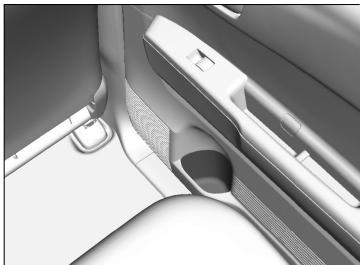


センターコンソールドリンクホルダーは、運転席と助手席の間にあります。



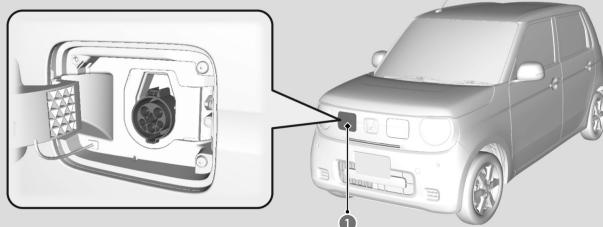
ドアのドリンクホルダーは、運転席側と助手席側にあります。

■ リヤシート用



ドアのドリンクホルダーは、運転席側と助手席側にあります。

パワーサプライコネクター*



① 充電リッド（普通充電）

パワーサプライコネクター（別売）を使用して車両から電気機器へ給電することができます。

パワーサプライコネクターを使用する前に下記の項目を確認してください。

- 充電口/ 給電口に異物が入っていないか？

※異物が入っている場合は、Honda 販売店に連絡をしてください。

※充電口/ 給電口は常に清潔な状態にしてください。

⚠ 注意

以下のことを守らない場合、感電や火災の原因になり、重大な傷害や死亡に至るおそれがあります。

- 落雷のおそれがあるときは給電を行わない

適切な指示、説明なしでは絶対に本機を操作させないでください。また、お子さまには操作させないでください。

⚠ 注意

植込み型心臓ペースメーカーや植込み型除細動器などの医療機器を装着されているかたは、給電の操作はご自身で行わないでください。

給電時は、車両、パワーサプライコネクター、給電ケーブルに近づかないでください。機器の作動に影響を与えるおそれがあります。

*: タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

消費電力 1,500W (15A) 以下のアクセサリーに、交流 100V の電源を供給します。車両の状態によっては、自動的に給電が停止することがあります。

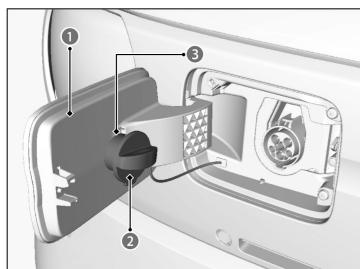
消費電力が 1,500W (15A) 以下であっても、次のような電気製品は正常に作動しないおそれがあります。

- ・起動時の電力が大きい電気製品
 - ・精密なデータ処理をする計測機器
 - ・極めて安定した電力供給を必要とする電気製品
 - ・プログラム機能やタイマー設定する機器など、コンセントの出力が連続して必要な電気製品
- 以下の状態では使用できません。
- ・高電圧バッテリー残量が少ないとき
 - ・車内が高温、または低温のとき

使用する電気機器によっては、ラジオやテレビに雑音が入ることがあります。

工場出荷時、電源周波数は 50Hz に設定されています。使用する電気機器側で 50Hz/60Hz の切り換えができる場合は、車両側に設定を合わせてください。車両側の電源周波数を切り換える場合は、Honda 販売店にご相談ください。

給電のしかた



- ① 充電リッド（普通充電）
- ② 充電口キャップ
- ③ ホルダー

[1] Honda スマートキーを携帯し、パワーモードを OFF モードにする。

[2] ドアを解錠する。

○ 施錠/解錠 ▶ P.50

» ドアが施錠されている状態でも、Honda スマートキーを携帯していれば、充電リッド（普通充電）を解錠することができます。

[3] 充電リッド（普通充電）を開ける。

» 充電リッド（普通充電）の開け方については、下記を参照してください。

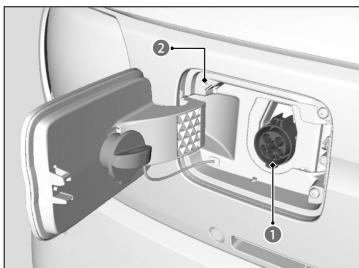
○ 普通充電 ▶ P.100

[4] 充電口キャップを抜き取る。

[5] 充電口キャップをホルダーにかける。

[6] パワーサプライコネクターの電源プラグ差込口に電気機器のプラグを差し込む。

[7] 充電口/給電口にパワーサプライコネクターを差し込む。



[8] パワーサプライコネクターの給電開始ボタンを2回連続で押す。充電インジケーターがゆっくり点滅（ホワイト）し、スイープ点灯（ブルー）へ変わります。

[9] 電気機器の電源を入れる。

[10] ドアを閉めて、ドアロックする。

① 充電口/ 給電口

② 充電インジケーター

パワーサプライコネクターはパワーモードをONモードのままでも使用できます。

パワーモードをONモードのまま使用している時に、給電が自動的に停止してもパワーモードはOFFモードにはなりません。

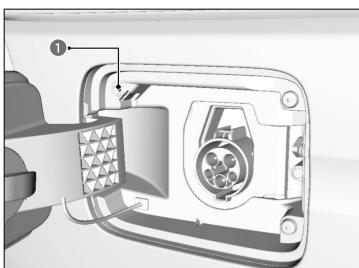
12Vバッテリーがあがるおそれがあるため、以下の理由で給電が自動的に停止したときは、すみやかにパワーモードをOFFモードにしてください。

- ・消費電力が給電可能電力を超えたとき
- ・接続やシステムに異常があるとき
- ・漏電しているおそれがあるとき

パワーサプライコネクターを使用している時は、車両から離れないでください。

外部給電機能*および急速充電機能*を使用している時に、パワーサプライコネクターを併せて使用することはできません。

停止のしかた



① 充電インジケーター

[1] 電気機器の電源をOFFにする。

[2] Hondaスマートキーを携帯した状態でパワーサプライコネクター側のボタンを押す。充電インジケーターが点灯（ホワイト）したあと、パワーサプライコネクター側の解除ボタンを押したまま、パワーサプライコネクターを引き抜く。

[3] パワーサプライコネクターの電源プラグ差入口から電気機器のプラグを引き抜く。

[4] 充電口キャップを差し込む。

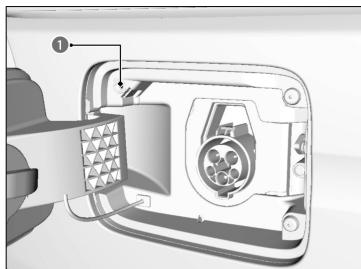
[5] 充電リッド（普通充電）を閉める。

*: タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

- !
気温が低いときなど、パワーサプライコネクターが氷結して取り外せないときは、40 ℃以下のぬるま湯をかけて氷を溶かし、水分を十分にふき取ってから、パワーサプライコネクターを引き抜いてください。
氷解剤や熱いお湯で溶かすと、破損や故障するおそれがあります。

パワーモードを ON モードで使用している場合は 12V バッテリーがあがるおそれがあるため、給電終了後はすみやかにパワーモードを OFF モードにしてください。

充電インジケーター



パワーサプライコネクターの状態を表します。

① 充電インジケーター

充電インジケーターの状態	説明
ゆっくり点滅 (ホワイト)	<ul style="list-style-type: none"> パワーサプライコネクター準備中
スイープ (ブルー)	<ul style="list-style-type: none"> パワーサプライコネクター給電中
点滅 (レッド)	<ul style="list-style-type: none"> 給電システムが異常のとき ⇒給電は開始されません。
点灯 (レッド)	<ul style="list-style-type: none"> パワーサプライコネクターが正しく差し込まれていない ⇒パワーサプライコネクターを車両に接続する際は、パワーサプライコネクターが傾かないように奥まで差し込んでください。 外部給電機*と同時に接続されている
点灯 (ホワイト)	<ul style="list-style-type: none"> 操作して給電が停止した 車両の高電圧バッテリーの残量が少なくなったとき パワーサプライコネクターの取り外し操作が完了した 消費電力が給電可能電力を超えた*

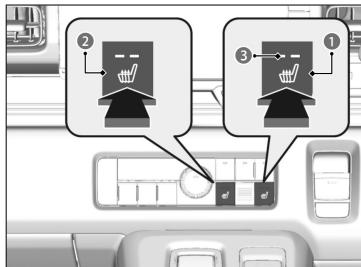
※：消費電力が給電可能電力を超え給電が停止した場合は、接続している機器を減らしもう一度パワーサプライコネクターを取り外したあとに、給電操作を最初から開始してください。

*: タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

シートヒーター

シートヒーターの操作方法

シートヒーターは、パワーモードがONモードのときに使用できます。



① 運転席シートヒータースイッチ

運転席のシートを暖めます。

② 助手席シートヒータースイッチ

助手席のシートを暖めます。

③ インジケーター

各シートのヒータースイッチを押すたびに、温度設定が切り換わりインジケーターの点灯数で温度を表示します。点灯数が多いほど高温であることを示します。

リヤシートにはヒーターが付いていません。

- パワーモードを一度OFFしてから再度ONにしても、シートヒーターは前回と同じ設定で復帰します。

ECONモードをONにしたとき、エアコンの作動状況に応じて運転席側のシートヒーターが自動的に作動することがあります。作動したシートヒーターを止めたいときは、シートヒータースイッチを押してOFFにしてください。

警告

低温やけどに注意する。

毛布などの保温性の高いものをかけて使用すると低温やけどをすることがあります。

次のようななかたは、低温やけどに十分注意してください。

- 乳幼児、お年寄り、体の不自由なかた
- 皮膚の弱いかた
- 疲労の激しいかた



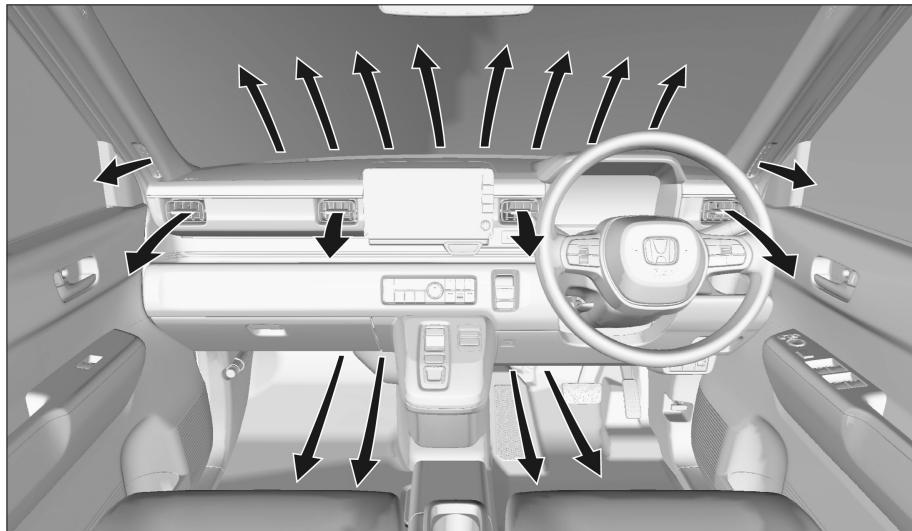
この装置は消費電力が大きいため、パワーシステムを起動させていないときは長時間使わないでください。

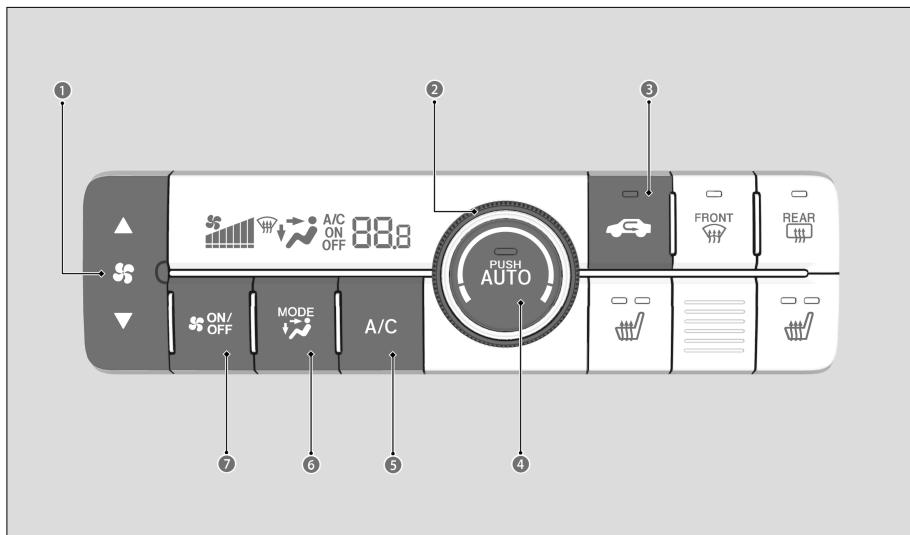
バッテリー容量が低下し、パワーシステムの起動に影響することがあります。

エアコン

エアコンについて

エアコンの吹き出し口





① ファンスピード切り替えスイッチ

風量を切り替えます。

② 温度調節ダイヤル

設定温度表示で Lo は最大冷房を、Hi は最大暖房を示します。

③ スイッチ

状況に合わせてスイッチを押して、内気/外気を切り替えます。

- ・内気（表示灯点灯）：トンネルや渋滞などで、汚れた空気を車内に入れたくない場合
- ・外気（表示灯消灯）：換気を行う場合

④ AUTO スイッチ

自動制御に切り替えます。冷房・暖房の切り替え、吹き出し口、風量、内気・外気切り替えを自動調節して設定した温度に保ちます。

⑤ A/C スイッチ

冷房・除湿機能の ON/OFF を切り替えます。

⑥ MODE スイッチ

吹き出し口を切り替えます。

上半身送風

足元送風、上半身送風

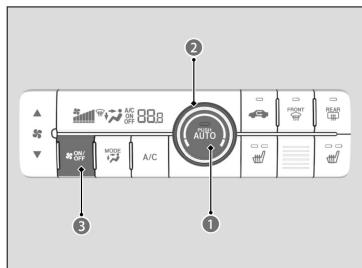
足元送風


足元送風、窓ガラスの曇り取り
7  スイッチ

エアコンの ON/OFF を切り替えます。

⇒ ON すると OFF する前の状態に戻ります。

オートエアコンの使用方法



- [1] **AUTO** スイッチ (1) を押す。
- [2] 温度調節ダイヤル (2) で温度を調節する。
- [3] 停止するときは、**ON/OFF** スイッチ (3) を押す。

- オート (AUTO) で使用中いずれかのスイッチを押すと、押したスイッチの機能が優先されます。このとき **AUTO** の表示灯は消灯しますが、押したスイッチ以外の機能は自動制御されます。
- 高電圧バッテリーの残量が少ないとエアコンの効きが弱くなることがあります。
- ECON モードのときは、走行中にエアコンの効きが弱くなる場合があります。
- 外気温が低いときは、冷風の吹き出しを防ぐため、**AUTO** を押してもすぐにファンが回転しないことがあります。

内気/ 外気の切り換え

状況に合わせて  を押して、内気/ 外気を切り替えます。

内気 (表示灯点灯) : トンネルや渋滞などで、汚れた空気を車内に入れたくない場合

外気 (表示灯消灯) : 換気を行う場合

除湿暖房

AUTO で使用中、自動で除湿暖房となります。

AUTO でないとき、暖房中に **A/C** を押して **A/C** ON にすると除湿暖房となります。

ON/OFF を押すたびに ON や OFF に切り換わります。ON すると OFF する前の状態に戻ります。

高電圧バッテリーの残量が少ないとエアコンの効きが弱くなることがあります。

ECON モードが ON のときは、設定温度表示に「Ec.0」が表示されます。走行中にエアコンの効きが弱くなる場合があります。

AUTO スイッチや  スイッチ、エアコンの温度設定を変更操作をした時にエアコンのみ通常制御へ戻ります。

ECON モード ▶P.117

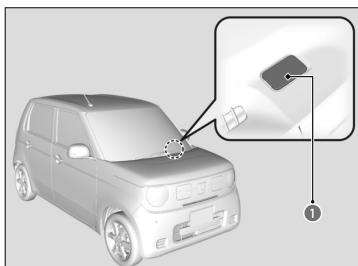
設定温度表示が「- -」になっているときは回生ブレーキが使用できるようにエアコンを起動して電気を消費しています。内気/外気の切り替え以外のエアコン操作はできません。充電できる状態になると以前に使用していたエアコン設定に戻り、操作できます。

電気自動車 ▶P.13

パワーモードをONモードにしたときには、前回と同じ設定になります。また、Hondaスマートキーに刻印されている番号ごとにエアコンの設定を記憶します。

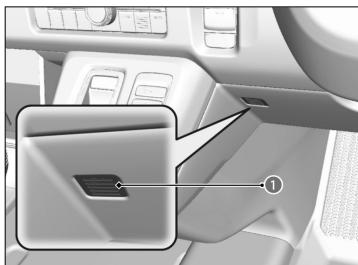
! 炎天下に駐車していたときは、窓を開けて熱気を追い出しながら、冷房を開始してください。

オートエアコンセンサー



オートエアコンには、センサーが付いています。センサーの上にものを置いたり、水をかけたりしないでください。

① センサー



① センサー

外部給電*

外部給電のしかた

本機は、一般社団法人電動車両用電力供給システム協議会が発行する電動自動車用充放電システムガイドライン（V2H DC 版、V2L DC 版）に準拠しています。

電動自動車用充放電システムガイドライン（V2H DC 版または V2L DC 版）に適合した機器との接続・通信の互換性はありますが、供給できる電力、給電可能時間、その他機能については、機器の組み合わせにより異なります。

ご使用の際は、必ず本機ならばに接続する機器の取扱説明書をご確認ください。

本機を電動自動車用充放電システムガイドライン（V2H DC 版または V2L DC 版）に適合した機器と接続することで、電気機器へ電気を供給できます（高温/低温環境下では出力制限や、停止する場合があります）。

給電を始める前に下記の項目を確認してください。

- 急速充電口/ 給電口に異物が入っていないか？
⇒ 異物が入っている場合は、Honda 販売店にご相談ください。
- 急速充電口/ 給電口は常に清潔な状態にしてください。
- 急速充電口/ 給電口が水で濡れていないか？
⇒ 水の近くや濡れた手で使用しないでください。
- 急速充電口/ 給電口と接続先の給電コネクターは直接接続されているか？
⇒ 延長コード等は使用しないでください。

△警告

以下のことを守らない場合、感電や火災の原因になり、重大な傷害や死亡に至るおそれがあります。

- 落雷のおそれがあるときは給電を行わない
- 雨の中や水のかかる場所で、本機を使用しない
- 濡れた手で本機を使用しない
- 給電コネクターや給電ケーブルが破損している場合は使用しない

接続する機器の取り扱い説明書に従わないと、本機や接続の電気機器を故障させたり、火災あるいは人身事故の原因になります。

適切な指示、説明なしでは絶対に本機を操作させないでください。また、お子さまには操作させないでください。

*: タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

⚠ 警告

車庫、倉庫、トンネル内などの換気の悪い場所では使用しないでください。

換気の悪い場所は、酸素不足の危険があります。

⚠ 注意

植込み型心臓ペースメーカーや植込み型除細動器などの医療機器を装着されているかたは、給電の操作はご自身で行わないでください。

給電時は、車両、本機、給電ケーブルに近づかないでください。機器の作動に影響を与えるおそれがあります。

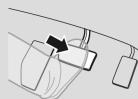
車両側の最大供給電力は 9.0kW です。ただし、供給できる電力は機器の組み合わせによって異なります。

電力会社からの電気配線から分離して使用できる非常時の給電システムなどに給電する場合は接続先システムの製造業者、販売業者などに事前に相談してください。医療用電気機器を使用するときは、医療機器メーカー・医師・病院等に事前に相談してください。

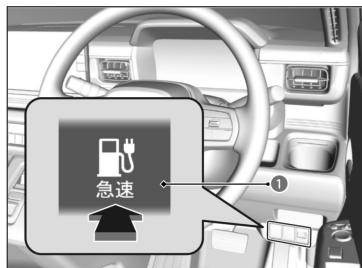
精密機器を使用するときは、他の電気機器の干渉がないことを確認してください。外部給電機能を使用している時に、パワーサプライコネクター*を併せて使用することはできません。

給電の準備

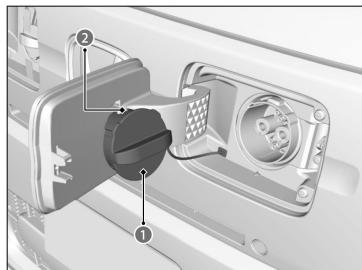
[1] ブレーキペダルを踏みながら、**POWER**を押し、パワーシステムを起動する。



*: タイプやオプションなどにより、装備が異なります。



① 充電リッドオーブンスイッチ



① 充電口キャップ

② ホルダー

- [2] 充電リッドオーブンスイッチを長押しする。
⇒充電リッド（急速充電）が開きます。

- [3] 充電口キャップを抜き取る。
 [4] 充電口キャップをホルダーにかける。
 [5] 給電コネクターを急速充電口/ 給電口に確実に挿し込む。
 [6] 接続先の機器を操作する。
 ⇒接続先の機器の取扱説明書を確認してください。
 ⇒車両側のシステム準備のため、電源を入れてから給電開始するまで数分かかることがあります。
 ⇒マルチインフォメーションディスプレイに「外部給電」と表示されます。
 [7] 車両の **POWER** を押して、パワーモードを OFF モードにする。

外部給電

使用可能電力 1.0 kW
使用可能時間 2 h

給電中は、ラジオやテレビに雑音が入ることがあります。



外部給電が自動的に停止してもパワーモードは OFF モードになります。12V バッテリーがあがるおそれがあるため、以下の理由で外部給電が自動的に停止したときは、すみやかにパワーモードを OFF モードにしてください。

- ・消費電力が給電可能電力を超えたとき
- ・接続やシステムに異常があるとき
- ・漏電しているおそれがあるとき

- !** 充電リッド（急速充電）が氷結して開かない場合は、ぬるま湯をかけて氷を溶かし、水分を十分にふき取ってから、充電リッド（急速充電）を開けてください。

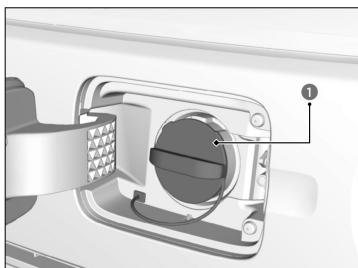
外部給電中は車両から離れないでください。

停止のしかた

[1] 電気機器の電源を切り、外部給電器のコンセントからプラグを抜く。

[2] 接続先の機器の電源を切る。

給電コネクターの取り外し



- [1] 給電コネクターを急速充電口/給電口から取り外す。
»接続先の機器の取扱説明書を確認してください。
- [2] 充電口キャップを差し込む。
- [3] 充電リッド（急速充電）を閉める。

① 充電口キャップ

- !** 気温が低いときなど、給電コネクターが氷結して取り外せないときは、40 °C以下のぬるま湯をかけて氷を溶かし、水分を十分にふき取ってから、コネクターを引き抜いてください。
- !** 氷解剤や熱いお湯で溶かすと、破損や故障するおそれがあります。
- !** 再度給電コネクターを接続するときは、十分に乾かしてから、給電コネクターおよび急速充電口/給電口が濡れていないことを確認してください。

インフォテインメントシステム*

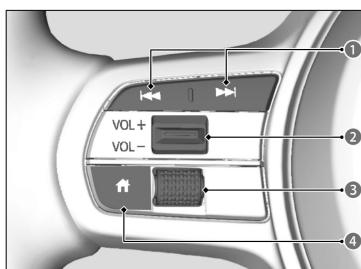
車載インフォテインメントシステムについて

本システムはパワーモードがONモードのときにBluetooth®対応のデバイスによる音楽再生ができます。

操作にはオーディオリモートコントロールスイッチを使います。

- ! 接続するデバイスにより、アーティスト名、曲名が正しく表示されないことがあります。

オーディオリモートコントロールスイッチ



ステアリングホイール左側に付いているスイッチで、運転中もオーディオの操作ができます。

- ① [◀]/[▶] (曲戻し／曲送り) スイッチ
- ② VOL+ / VOL- (音量) スイッチ
- ③ レフトセレクターホイール
- ④ [家] スイッチ

(曲戻し／曲送り) スイッチ

[▶] スイッチを押す：次の曲へスキップします。

[◀] スイッチを押す：現在、または前の曲の先頭に戻ります。

*: タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

VOL+／VOL-（音量）スイッチ

上側に押す：音量を上げます。

下側に押す：音量を下げます。

レフトセレクター ホイール

■ スイッチを押し、レフトセレクター ホイールを回して「オーディオ」を表示させ、レフトセレクター ホイールを押して選択してください。

接続可能な Bluetooth® デバイスのリスト閲覧と選択ができます。

※ レフトセレクター ホイールを回すことで、以下の順に切り替えられます。

戻る → 新しいデバイスの接続 → (デバイス名)

○ 表示の切り換えかた ▶ P.219

デバイスの接続

Bluetooth® デバイスと本システムを接続できます。

- デバイス登録数は 5 つまでです。



接続操作の際は車両を安全な場所に停車し、シフトポジションを  に
入れて電子制御パーキングブレーキをかけてください。

無線接続について

Bluetooth® デバイスと本システムを接続します。

接続には、デバイス側の Bluetooth® 設定をオンにする必要があります。

■ 新しいデバイスを接続する

[1] レフトセレクター ホイールを回して、メーターに表示される「新しいデバイスの接続」を選択する。

[2] 接続したい Bluetooth® デバイスがメーターに表示されたら、デバイス名を選択する。

※ メーターにデバイス名が表示されない場合、デバイス側から「Honda Audio」の通知を探してください。

[3] デバイスに「Honda Audio」とペアリングコードの通知が送られる。

[4] 車両メーターとデバイス上で表示されるペアリングコードが同じであることを確認し、デバイス側でペアリングを許可する。

※ 接続に成功すると、メーター上に「デバイスを接続しました」と表示されます。

■ デバイスを切り替える

- [1] レフトセレクター ホイールを回して、デバイスリストを表示する。
- [2] 接続したい Bluetooth® デバイス名を選択する。
- [3] レフトセレクター ホイールを回して、「デバイス選択」を選択する。

■ 登録したデバイスの削除

- [1] レフトセレクター ホイールを回して、デバイスリストを表示する。
- [2] 削除したい Bluetooth® デバイス名を選択する。
- [3] レフトセレクター ホイールを回して、「デバイス消去」を選択する。
- [4] 「はい」を選択する。

Bluetooth®オーディオ*

オーディオを聴く

Bluetooth®オーディオを聴く

はじめて Bluetooth®オーディオを利用するときは、Bluetooth®デバイスを本システムにペアリングする必要があります。

Q 無線接続について ▶P.143

ステアリングホイールに付いている  (曲戻し/曲送り) スイッチで、曲を変更できます。

- Bluetooth®デバイスの種類によっては、本システムでご利用になれない場合や、操作できる機能に制限がある場合があります。詳しくは、お使いの Bluetooth®デバイスの取扱説明書をご覧ください。
- Bluetooth®デバイスの種類によっては、電話発着信または通話中に音楽再生が止まることがあります。
- デバイス名、アーティスト名、曲名が正常に表示されない場合があります。
- Bluetooth®オーディオで一度に利用できる Bluetooth®デバイスは 1 台までです。
- 車両始動時は、最後に使用した Bluetooth®デバイスが自動的に接続されます。
- VOL  (音量) スイッチを操作しても音量が小さい場合は、デバイス側の音量を調整してください。

*: タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

情報*

使用できる iPod、iPhone

iPod と iPhone の対応モデル

Model

iPod touch (第 7 世代)/iPod nano (第 8 世代)

iPhone 8/iPhone 8 Plus/iPhone X/iPhone XS/iPhone XS Max/iPhone XR/iPhone 11/iPhone 11 Pro/iPhone 11 Pro Max/iPhone SE (2nd generation)/iPhone 12 mini/iPhone 12/iPhone 12 Pro/iPhone 12 Pro Max/iPhone 13 mini/iPhone 13/iPhone 13 Pro/iPhone 13 Pro Max/iPhone SE (3rd generation)/iPhone 14/iPhone 14 Plus/iPhone 14 Pro/iPhone 14 Pro Max/iPhone 15/iPhone 15 Plus/iPhone 15 Pro/iPhone 15 Pro Max

オープンソースライセンスについて

■ 本製品には、以下のソフトウェアが含まれています

- (1) Hangsheng により、または Hangsheng のために開発されたソフトウェア
- (2) Hangsheng にライセンスされた第三者所有のソフトウェア
- (3) GNU GENERAL PUBLIC LICENSE Version 2 (【GPL】) に基づいてライセンスされたソフトウェア
- (4) GNU LESSER GENERAL PUBLIC LICENSE Version 2.1 (【GPL】) に基づいてライセンスされたソフトウェア
- (5) GPL, LGPL 以外に基づいてライセンスされたオープンソースソフトウェア

■ 上記 (3)、(4) に分類されるソフトウェアについては、それぞれ、以下の GPL および LGPL 所定の条件をご参照ください

GPL : <http://www.gnu.org/licenses/old-licenses/gpl-2.0.html>

LGPL : <http://www.gnu.org/licenses/old-licenses/lgpl-2.1.html>

また、上記 (3)、(4) に分類されるソフトウェアについては、多数の人が著作権を保有しています。

これらの著作権者の著作権表示については、以下をご参照ください。

<http://tech.hangsheng.com.cn/>

*: タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

GPL/LGPL に基づきライセンスされるソフトウェア（「GPL/LGPL ソフト」）は、有用であることを願って頒布されますが、全くの無保証です。

商業可能性があることや特定の目的に適合していることについては、默示的保証も含め、一切保証されません。

Hangsheng は、製品発売から少なくとも 3 年間、以下の問い合わせ窓口にご連絡いただいた全ての方に対してソースコードの提供に必要な物理的コストを上回らない程度の料金と引き換えに、GPL/LGPL ソフトに対応した完全かつ機械で読み取り可能なソースコードを提供します。

ソースコードの内容等についてのご質問はお答えできませんので、あらかじめご了承ください。

またインターネット接続環境はお客様ご自身でご用意していただく必要があります。

Web サイトの閲覧中およびダウンロード中のインターネット接続、回線使用料等はお客様ご負担となります。

[問い合わせ窓口]

2/F Hangsheng Technology Building, South 6th road of Hi-tech Park,
Nanshan District, Shenzhen

518057, P.R.China

Shenzhen Hangsheng Electronics Co.,Ltd.

Shenzhen R&D Center 責任者

また、上記の GPL/LGPL ソフトに対応したソースコードは、以下のウェブサイトで、誰でも自由に入手することができます。

<http://tech.hangsheng.com.cn/>

商標

Bluetooth

The Bluetooth® word mark and logos are registered trademarks owned by Bluetooth SIG, Inc. and any use of such marks by SHENZHEN HANGSHENG ELECTRONICS CO., LTD. is under license. Other trademarks and trade names are those of their respective owners.

<https://www.bluetooth.com/develop-with-bluetooth/marketing-branding/>

Windows Media

This product is protected by certain intellectual property rights of Microsoft. Use or distribution of such technology outside of this product is prohibited without a license from Microsoft.

Apple

“Made for iPod,” and “Made for iPhone,” mean that an electronic accessory has been designed to connect specifically to iPod, or iPhone, respectively, and has been certified by the developer to meet Apple performance standards. Apple is not responsible for the operation of this device or its compliance with safety and regulatory standards. Please note that the use of this accessory with iPod, or iPhone, may affect wireless performance.

Apple, the Apple Logo, iPhone, iPod touch are trademarks of Apple Inc., registered in the U.S. and other countries. iPod, iPhone, and iTunes are trademarks of Apple Inc. App Store is a service mark of Apple Inc.

Made for
iPhone | iPod

安全運転支援システム

Honda SENSING

Honda SENSING とは	150
各機能を作動させるための装備と表示	151
フロントワイドビューカメラ	153
ソナーセンサー	154
衝突軽減ブレーキ (CMBS)	
CMBS について	156
システムの作動	156
作動条件	157
CMBS の ON/OFF	158
CMBS の制限	158

踏み間違い衝突軽減システム

踏み間違い衝突軽減システムについて	162
システムの作動	162
踏み間違い衝突軽減システムの ON/OFF	164
踏み間違い衝突軽減システムの制限	165

急アクセル抑制機能*

急アクセル抑制機能について	167
システムを作動させるには	167
システムの作動	168
急アクセル抑制機能の制限	169

路外逸脱抑制機能

路外逸脱抑制機能について	170
システムの作動	170
作動条件	171
路外逸脱抑制機能の ON/OFF	172
路外逸脱抑制機能の制限	172

歩行者事故低減ステアリング

歩行者事故低減ステアリングについて	175
作動条件	176
歩行者事故低減ステアリングの ON/OFF	176
歩行者事故低減ステアリングシステムの制限	177

渋滞追従機能付アダプティブクルーズ

コントロール (ACC)	
渋滞追従機能付 ACC について	179
渋滞追従機能付 ACC の作動方法	180
クルーズモードへの切換え	184
渋滞追従機能付 ACC の制限	186

車線維持支援システム (LKAS)

LKAS について	189
作動条件	190
LKAS の作動方法	190
LKAS の制限	191

トライックジャムアシスト (渋滞運転支援機能)

トライックジャムアシストについて	193
作動条件	194
トライックジャムアシストの作動方法	195
トライックジャムアシストの制限	196

先行車発進お知らせ機能

先行車発進お知らせ機能について	198
作動条件	198
先行車発進お知らせ機能の制限	199

標識認識機能

標識認識機能について	201
システムの作動	201
標識認識機能の制限	202

パーキングセンサーシステム

パーキングセンサーシステムについて	204
パーキングセンサーの取付位置と検知範囲	204
パーキングセンサーの ON/OFF	204
障害物を検知したときの作動	205
パーキングセンサーの制限	206

*: タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

Honda SENSING

Honda SENSING とは

衝突被害の軽減、衝突事故の回避、運転者の負担を軽減するために、運転者のアクセル・ブレーキ・ハンドル操作などを支援します。

Honda SENSING には、次の機能があります。

Q CMBSについて ▶P.156

Q 踏み間違い衝突軽減システムについて ▶P.162

Q 急アクセル抑制機能について ▶P.167

Q 路外逸脱抑制機能について ▶P.170

Q 歩行者事故低減ステアリングについて ▶P.175

Q 渋滞追従機能付 ACCについて ▶P.179

Q LKASについて ▶P.189

Q トラフィックジャムアシストについて ▶P.193

Q 先行車発進お知らせ機能について ▶P.198

Q 標識認識機能について ▶P.201

Q オートハイビーム ▶P.108

Q パーキングセンサーシステムについて ▶P.204

⚠ 警告

Honda SENSING は、補助システムとして使用してください。

自動運転システムではありません。あくまでも運転者をアシストするためのシステムです。

各機能の能力（認識能力・制御能力）には限界があります。

機能に頼った運転をすると衝突などの事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。常に周囲の状況を確認し、十分な車間距離を保ち安全運転を心がけ走行してください。

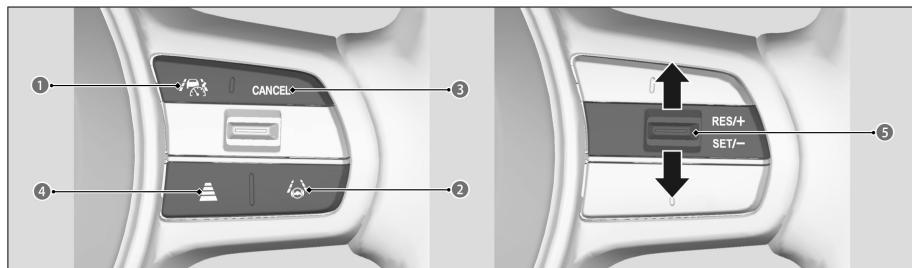


駐車場のターンテーブル上など、車両が動いているときにパワーモードを ON モードにしないでください、各機能が作動しない場合があります。

- !** システムを正常に作動させるために、以下をお守りください。
- ・タイヤは、四輪とも同一指定サイズ、同一種類、同一銘柄および摩耗差のないタイヤを使う
 - ・サスペンションの改造はしない

各機能を作動させるための装備と表示

ステアリングスイッチ



① スイッチ

渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール (ACC)、車線維持支援システム (LKAS)、トラフィックジャムアシストの待機状態の設定を行います。

② スイッチ

渋滞追従機能付 ACC 作動中に LKAS、トラフィックジャムアシストの作動と解除の設定を行います。

③ **CANCEL** スイッチ

渋滞追従機能付 ACC、LKAS、トラフィックジャムアシストの解除を行います。

④ ディスタンススイッチ

渋滞追従機能付 ACC の車間距離設定を行います。

⑤ **RES/+SET/-** スイッチ

渋滞追従機能付 ACC の車速のセットと復帰、設定車速の調整を行います。LKAS、トラフィックジャムアシストの作動と復帰を行います。

メーターの表示

各機能の現在の状態を表示します。



① 渋滞追従機能付 ACC の作動状態

グリーン、ホワイト/グリーン：作動中

※先行車を検知していないとき、ホワイト/グリーンで表示

ホワイト：待機中

オレンジ：システムが異常のとき

② LKAS、トラフィックジャムアシストの作動状態

グリーン：作動中

ホワイト：待機中

オレンジ：システムが異常のとき

③ LKAS およびトラフィックジャムアシストの ON と OFF の状態と制御状態

グリーン：作動中

ホワイト：車線を検知した状態

オレンジ：点灯した側の車線逸脱を検知

④ 渋滞追従機能付 ACC の先行車検知状態

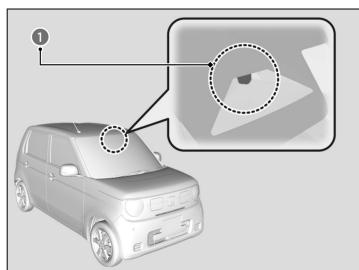
⑤ 渋滞追従機能付 ACC の設定車速

ホワイト：設定車速

グレー：解除前の設定車速

⑥ 渋滞追従機能付 ACC の設定車間

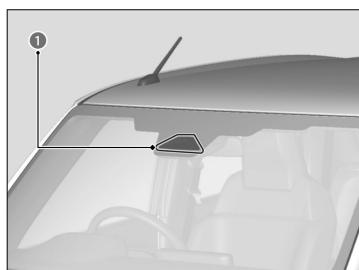
フロントワイドビューカメラ



フロントワイドビューカメラ (①) は、フロントガラス上部に設置されています。

カメラの取り扱い

- ・カメラ機能の一時停止を防ぐため、室内温度が高温になることを避ける
⇒駐車時は、太陽光を避けて日陰に駐車することをおすすめします。
- ・カメラへの熱の集中を避けるため、反射サンシェード使用時はカメラを覆わない
- ・フロントガラスにフィルムを貼ったり、カメラの視野を遮るものを取り付けない



① ステッカ一貼り付け不可範囲

- ・カメラのレンズ、フロントガラスを汚したり傷つけたりしない
⇒カメラの視野内に傷、打痕、損傷があると、システムが正常に作動しなくなることがあるため、フロントガラスの交換をお勧めします。Honda 純正品以外のフロントガラスを使用するとシステムが正常に作動しなくなる場合がありますので、修理や交換の際は Honda 販売店にご相談ください。
- ・インストルメントパネル上部に物を置かない
⇒物がフロントガラスに反射して車線等を的確に検知できない場合があります。
- ・カメラを取り外さない
⇒システムが正常に作動しなくなる場合があります。
- ・必要に応じてデフロスターを使用し、フロントガラスを曇らせない
- ・ボンネットやフロントグリルの上にカメラの視野を妨げるものを装着しない
メーターに「運転支援システムの一部が使用できません カメラの温度が下がるまでお待ちください」が表示されたときは、エアコンを使用して車内の温度を下げてください。必要に応じてデフロスターを使用し、カメラに向けて送風してください。

また、車両を走行させ、フロントガラスとカメラ周辺の温度を下げてください。

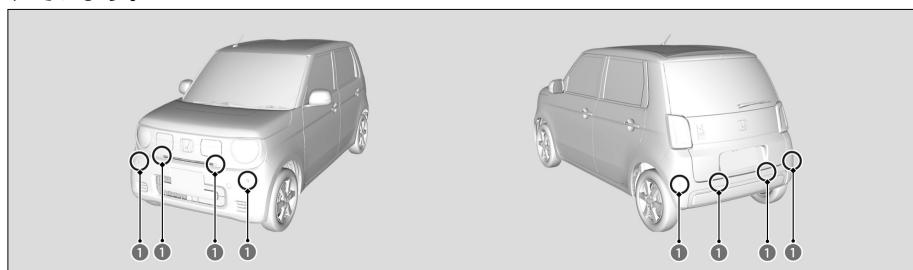
メーターに「運転支援システムの一部が使用できません カメラ視界不良のため認識できません」が表示されたときは、安全な場所に駐車してフロントガラスが汚れていないか確認してください。汚れている場合は、清掃してください。

また、雨、霧、雪などの悪天候や、夜間やトンネル内、夜明け、夕暮れなど周囲が暗いときなどのカメラ視界不良のときも表示されます。

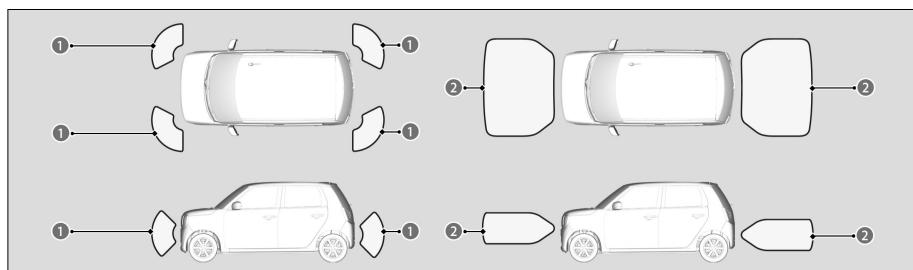
- 対処した後、しばらくしてもメッセージが消えない場合は、Honda 販売店で点検を受けてください。

ソナーセンサー

ソナーセンサーはフロントバンパー、フロントグリル、およびリヤバンパーに設置されています。



① ソナーセンサー



① コーナーセンサーの検知範囲

② センターセンサーの検知範囲

ソナーセンサーの取り扱い

- ・センサーヤやその周囲にステッカーなどを貼り付けない。
- ・センサーの周囲に強い衝撃をあたえない。
- ・分解は行わない。
- ・センサーの近くにアクセサリーを取り付けない。

以下の場合は、Honda 販売店にご相談ください。

- ・ソナーセンサーに衝撃が加わったとき
- ・ソナーセンサー周辺の修理を行うとき
- ・フロントバンパー、フロントグリル、およびリヤバンパーが段差、縁石、輪留め、盛り土などに接触したとき
- ・深い水たまりに進入したとき
- ・車両前方または後方が衝突、接触したとき

メーターに「踏み間違い衝突軽減システムが作動しません ソナーの汚れを取り除いてください」が表示されたときは、安全な場所に駐車してソナーセンサーやその周囲の汚れなどの遮蔽物を取り除いてください。



対処した後、しばらくしてもメッセージが消えない場合は、Honda 販売店で点検を受けてください。

衝突軽減ブレーキ (CMBS)

CMBS について

自車が、前方の車両（二輪車含む）のほぼ真後ろから追突するおそれがあるときや、対向車両に正面から衝突するおそれがあるとき、前方の交差車両に衝突するおそれがあるとき、歩行者に衝突するおそれがあるとき、人が乗車し移動している自転車（移動する自転車）に衝突するおそれがあるときに、運転者のブレーキ操作を支援し、衝突回避を支援したり衝突被害の軽減を支援したりするシステムです。

⚠ 警告

CMBS は、運転者の運転を支援するためのシステムであり、あらゆる状況で衝突を回避できるシステムではありません。カメラは天候や速度、路面状況によって検知しにくいことがあります。

機能に頼った運転をすると衝突などの事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。常に周囲の状況を確認し、十分な車間距離を保ち安全運転を行ってください。

!
車両の整備や検査の際に、シャシーダイナモやフリーローラーを使用するときは CMBS を OFF にしてください。

!
頻繁に警報が作動するなど、異常を感じたときは Honda 販売店で点検を受けてください。

システムの作動

自車の車速が約 5km/h 以上になるとフロントワイドビューカメラが前方の車両（二輪車含む）、歩行者および移動する自転車の検知を開始します。システムが衝突のおそれがあると判断したときに CMBS が作動します。

Q. フロントワイドビューカメラ ▶P.153

CMBS の作動には衝突の可能性に応じ 3 つの段階があります。

〈第 1 段階〉衝突のおそれがでてきた状況

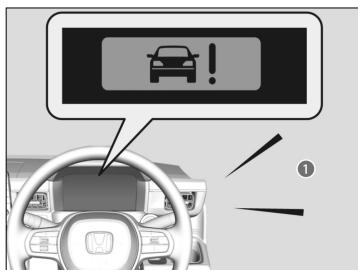
警告表示が点滅します。さらに接近すると、警告表示およびブザーによる警報を行います。

＜第2段階＞衝突の危険が増し、衝突するまでの余裕が少なくなった状況

警告表示およびブザーによる警報を行い、軽いブレーキがかかります。

＜第3段階＞回避が困難な状況

警告表示およびブザーによる警報を行い、強いブレーキがかかります。



システムは警告表示と警告音（①）で衝突のおそれがあることを運転者に知らせます。

» ブレーキやハンドルを操作するなどの適切な行動で衝突を回避してください。

- ・状況によっては途中段階から作動することがあります。
- ・CMBS によるブレーキが作動しているときは制動灯が点灯します。
- ・CMBS の作動により停車、または減速した後は、システムの判断により CMBS は解除されます。
- ・衝突を回避しようとして、運転者がハンドル、ブレーキペダル、アクセルペダルを操作したときは、システムが解除することができます。



CMBS の警報距離を遠め・標準・近めの 3 段階から選択することができます。

Q. 時計*/車両設定 ▶ P.226

作動条件

CMBS が作動する条件と作動対象は、以下の通りです。

■ 直進時

自車の速度が約 5km/h 以上かつ、作動対象との速度差が約 5km/h 以上のとき

- ・前走する車両（二輪車含む）

自車の速度が約 5~100km/h かつ、作動対象との速度差が約 5km/h 以上のとき

- ・停止している車両（二輪車含む）
- ・対向する車両
- ・交差する車両
- ・歩行者
- ・移動する自転車

■ 右左折時 (正面で衝突する恐れがあるときのみ)

自車の速度が約 5～30km/h かつ、作動対象との速度差が約 5km/h 以上のとき

- ・対向する車両 (二輪車含む) ^{※1}
- ・歩行者
- ・移動する自転車

※1: 対向車線側に曲がる場合のみ作動

- ・パワーシステム起動後、約 15 秒の間は CMBS は作動しません。
- ・アクセルペダルの踏み込み量が大きいときに、システムが作動しない場合があります。

CMBS の自動停止

以下の場合、CMBS が自動的に停止し、警告灯が点灯することがあります。

- ・悪路の走行や山岳路を長時間走行したとき
- ・雨、霧、雪などの悪天候のとき
- ・パーキングブレーキをかけて走行したとき
- ・フロントガラスの汚れ、曇り、雨粒、泥、湿った雪、シール、アクセサリー、ステッカーやフィルムなどによりカメラ前方が覆われているとき
- ・タイヤの異常を検出したとき

作動できる状態になると、CMBS は自動復帰します。

CMBS の ON/OFF

メーターでシステムの ON/OFF を切り換えることができます。

Q 表示の切り換えかた ▶P.219

Q 安全支援情報 ▶P.223

- ・CMBS を OFF にした状態でパワーモードを OFF にした場合でも、再度パワーモードを ON にすると自動的に ON になります。
- ・運転中は CMBS を OFF にすることはできません。

CMBS の制限

次のような場合、カメラが作動対象や路面状況を正しく検知できず、CMBS が正常に作動しない場合があります。

■ 環境によりカメラが正しく検知できない事例

- ・雨、霧、雪などの悪天候のとき

- ・トンネルの出入り口や、木、建物の影などで周囲の明るさが変化したとき
- ・作動対象と背景のコントラストが低いとき
- ・夜明けや夕暮れ時に太陽に向かって走行するとき
- ・強い光が作動対象、または路面に反射しているとき
- ・前方の車両（二輪車含む）による水しぶきや雪の巻上げがあるとき
- ・夜間やトンネル内などで周囲が暗く、作動対象の全体が照らされていないとき

■ 道路の状態によりカメラが正しく検知できない事例

- ・不鮮明な車線、タイヤのあと、ライトの反射、水しぶき、高いコントラストなどがある雪道、または湿った路面のとき
- ・カーブ、うねった道路、坂道などのとき
- ・坂道や、丘の頂上に近づいているとき
- ・段差などにより車両が大きく揺れたとき

■ 自車の状態によりカメラが正しく検知できない事例

- ・夜間やトンネル内などの暗いところで、ヘッドライトが点灯していない状態で走行しているとき
- ・フロントガラスの汚れ、曇り、雨粒、泥、湿った雪、シール、アクセサリー、ステッカー やフィルムなどによりカメラ前方が覆われているとき
- ・ワイパーの拭き残しがあるとき
- ・フロントガラスの内側が曇っているとき
- ・ヘッドライトのレンズが汚れて照射が弱いときや光軸がずれて、暗いところで前方が見にくいたとき
- ・パーキングブレーキがかかった状態で走行中のとき
- ・ウィンドウオッシャーからの水滴またはワイパークリーナーによってカメラの視野が遮られているとき
- ・滑りやすい路面などで車の動きが不安定なとき
- ・サイズや種類、構造の違うタイヤやホイールを装着していたり、タイヤ空気圧が適切でないとき
- ・カーゴスペースや後席に重い荷物を積んで、車が傾いているとき
- ・サスペンションを変更したとき
- ・タイヤチェーンを装着しているとき

■ 作動対象の状態によりカメラが正しく検知できない事例

- ・作動対象との距離が極端に短いとき
- ・作動対象が急に割り込んできたり、飛び出してきたとき
- ・自転車が停止しているとき
- ・前方の車両（二輪車含む）、対向車両が横、または斜めを向いているとき
- ・作動対象が背景に紛れて検知できないとき

- ・歩行者が集団で前方にいるとき
- ・移動する自転車が集団で前方にいるとき
- ・歩行者や移動する自転車の横断速度が速いとき
- ・歩行者や移動する自転車が対向して接近してきたとき
- ・暗がりで前方の車両、対向車両が片側点灯または無灯火のとき
- ・歩行者の一部（頭や手足など）が荷物などによりかくれているとき
- ・歩行者が前かがみやしゃがんだ姿勢をとっているとき、手を挙げたり、走っているとき
- ・歩行者の身長が約1m以下、または約2m以上のとき
- ・歩行者がベビーカーや自転車などを押しているとき
- ・車両（二輪車含む）が斜め横から接近してきたとき
- ・特殊な形状の車両（タンクローリーなど）が側方から接近してきたとき
- ・カーブや坂を走行中の車両（二輪車含む）が側方から接近してきたとき

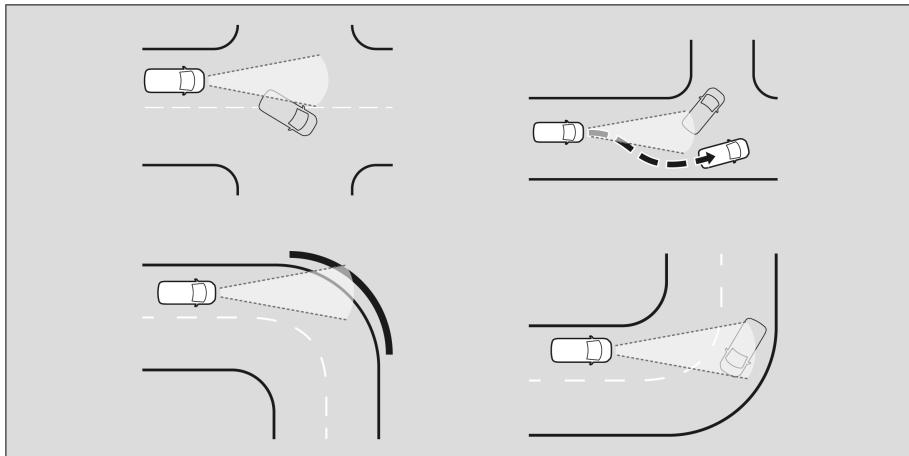
■ その他検知、作動できない事例

- ・小さい二輪車やサイドカー付き二輪車、特殊な形状の車両および車いす
- ・荷物を積んでいないトランクなど前側に対して後側の高さが低い、もしくは幅が狭い車両
- ・作動対象が自車の正面にいないとき
- ・作動対象と自車との速度差が大きいとき
- ・作動対象と自車との速度差が小さく、距離が短いとき
- ・側方から接近する作動対象と自車との速度差が大きいとき
- ・側方から接近する作動対象と自車との速度差が小さく、距離が短いとき
- ・前方の車両（二輪車含む）や移動する自転車が急減速したとき
- ・運転者が衝突を回避しようとして、ブレーキやハンドルを操作したとき
- ・運転者が急加速やハンドル操作（交差点などの右折時を除く）^{※1}をしながら、作動対象に接近したとき
- ・子供用自転車、折り畳み自転車、または三輪車などのタイヤ径が小さい自転車やタンデム自転車などの全長が長い自転車
- ・作動対象の形状をカメラが正しく検知できないとき
- ・前方または側方から接近する車両の最低地上高が極端に高いとき
- ・右左折時に自車の進行方向と同方向に方向指示器（ウィンカー）を操作していないとき

※1: 右折時に対向車両に対して正面で衝突のおそれがあるときにCMBSが作動しますが、急なハンドル操作などによっては作動できない場合があります。

■ 衝突の可能性が高くない場合の作動について

衝突の可能性が高くなくても、システムが衝突の可能性があると判断した場合にはCMBSが作動することがあります。



- 右左折する前方の車両（二輪車含む）に接近したとき
- 追い越しのために先行車（二輪車含む）に接近して走行するとき
- カーブ周辺の道路付近に作動対象や構造物などがあるとき
- カーブ走行などで自車の正面に対向車両がいるとき
- 作動対象と自車が接近したとき
- 作動対象が自車の前方を通過したとき
- 低い構造物の下や狭いゲートの間などを規制速度を超えるような速度で通過しようとするとき
- 駐車時など、停止している車両（二輪車含む）や壁に接近するとき
- カーブを走行中に側方から車両（二輪車含む）が接近するとき
- 前方の側方から近づいてくる作動対象の前を通過するとき
- 左折または右折中に前方の車両（二輪車含む）、または自転車の前を通過しようとしたとき
- 左折または右折中に車両（二輪車含む）、または自転車が自車の前方を通過しようとしているとき
- 作動対象が自車の進路に入る手前で止まったとき、または進路変更したとき
- 左折または右折中に横断中の歩行者が自車の進路に入る手前で止まったとき、または進路変更したとき
- 作動対象の付近を通過するとき
- 路上の設置物（ガードレール、電柱、木、駐車車両、建物、壁など）や、路面標示と車線表示を作動対象と誤って認識したとき

踏み間違い衝突軽減システム

踏み間違い衝突軽減システムについて

踏み間違い衝突軽減システムは近距離衝突軽減ブレーキ、誤発進抑制機能、後方誤発進抑制機能の3つの機能を持ったシステムです。

ソナーセンサーによって、自車が、壁などの障害物に衝突するおそれがある場合のブレーキ制御や壁などの障害物があるにもかかわらずアクセルペダルを必要以上に強く踏み込んだ場合のパワーシステムの出力抑制により、衝突回避を支援したり衝突被害の軽減を支援したりするシステムです。

Q ソナーセンサー ▶P.154

- 踏み内に閉じ込められた場合など、意図しないタイミングでシステムが作動したときは、ブレーキペダルを踏み、システムが解除されてから運転を続けてください。
- 縁石・輪留め、道路上の段差によりシステムが作動し、駐車や段差を乗り越えることができない場合には機能をOFFにしてください。
- 不要な作動を防ぐために、車両の整備や船舶、トラックなどへの積載時、検査時にシャシーダイナモやフリーローラーを使用するときはシステムをOFFにしてください。
- システムが一度作動した後は、同じ障害物に近づいた場合は作動しません。作動後一定距離走行した場合に再作動が可能となります。
- 近距離衝突軽減ブレーキが作動した場合、誤発進抑制機能および後方誤発進抑制機能の再作動には一定距離の走行が必要となります。

⚠ 警告

踏み間違い衝突軽減システムは、あらゆる状況でアクセルペダルの踏み間違いや踏みすぎ、または見落としによる衝突を回避したり、衝突による被害を軽減できるものではありません。

機能に頼った運転をすると衝突などの事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。

運転者がシフトポジションやペダルの位置および周囲の状況を確認し、安全運転を心がけ走行してください。

システムの作動

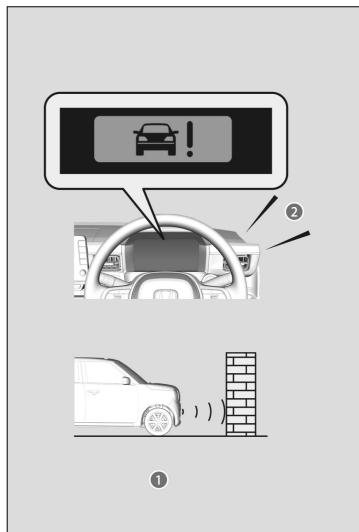
近距離衝突軽減ブレーキ

約2km/h～約10km/hで走行しているとき、壁などの障害物に衝突するおそれがあるとき運転者のブレーキ操作を支援し、音と表示でお知らせします。

①緊急ブレーキ作動開始

»作動したらすぐにブレーキペダルを踏んでください。

②警告音



システムが作動してから一定時間経過するとブレーキ操作の支援が解除されます。停車状態を保持するには、ブレーキペダルを踏み続けるか、シフトポジションを **P** にしてください。

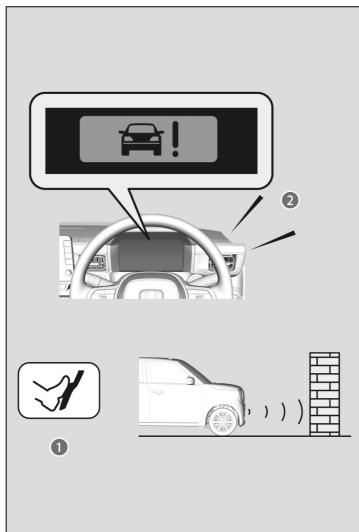


リヤパーキングセンサーを OFF にして、後退時の近距離衝突軽減ブレーキの作動を OFF にすることができます。

○、時計*/車両設定 ▶P.226

誤発進抑制機能、後方誤発進抑制機能

停車時や約 10km/h 以下で走行しているとき、自車のほぼ正面もしくは真後ろの近距離に壁などの障害物があるにもかかわらず、アクセルペダルを必要以上に強く踏み込んだ場合には、音と表示で知らせるとともに出力抑制をすることで急な前進・後退を防止します。



- ① アクセル誤踏み込み/パワーシステムの出力を抑制
② 警告音

システムが作動しないとき：

前進時：急な坂道やシフトポジションが、[P]、[R]、[N]のとき

後退時：急な坂道やシフトポジションが[R]以外のとき

以下のいずれかの操作をしたとき、出力抑制の支援が解除されます。

- ・アクセルペダルを離したとき
- ・アクセルペダルを踏み続けたとき
- ・ブレーキペダルを踏んだとき



リヤパーキングセンサーを OFF にして、後方誤発進抑制機能の作動を OFF にすることができます。

○ 時計*/車両設定 ▶P.226

踏み間違い衝突軽減システムの ON/OFF

メーターでシステムの ON/OFF を切り換えることができます。

○ 表示の切り換えかた ▶P.219

○ 安全支援情報 ▶P.223

- ・機能を OFF にしても、パワーモードを ON にするたびに機能は自動的に ON になります。

踏み間違い衝突軽減システムの制限

次のような状態のときは、システムが正常に作動しない場合があります。

■ ソナーセンサーが検知しない障害物の事例

- ・人・雪・布・スポンジなど音波を反射しにくい障害物のとき
- ・フェンス・自転車・標識の支柱など細い障害物のとき
- ・背が低い・小さい障害物のとき
- ・バンパーのすぐ近くにある障害物のとき
- ・地面に対して垂直でない壁などの障害物のとき
- ・移動する物体など進路上に飛び出してきた障害物のとき

■ ソナーセンサーが障害物を正しく検知できない事例

- ・ソナーセンサーが汚れているとき（雪、氷、泥などで覆われているとき）
- ・車両が高温または低温の状況にあるとき
- ・障害物に対して斜めに接近する場合やハンドルを大きく切っているとき

■ その他システムが正しく作動しない事例

- ・荷室や後席に重い荷物を積んで、車が傾いているとき
- ・雨・霧・雪など悪天候のとき
- ・気温・湿度が高いまたは低いとき
- ・急勾配の坂道を走行するとき
- ・未舗装路などの走行時に草や岩があるとき
- ・他の車両のソナーセンサーなど、超音波を発するものが付近にあるとき
- ・サイズや種類、構造の違うタイヤやホイールを装着していたり、タイヤ空気圧が適切でないとき
- ・サスペンションを変更したとき

■ 衝突の可能性がなくてもシステムが作動する場合

- ・低いゲートや狭いゲートなどの間を通過しようとするとき
- ・凸凹な路面や、草地、段差がある場所を走行するとき
- ・高い位置に斜めの柱や壁などが突き出しているとき
- ・道路脇に障害物があるとき
- ・旗や幕、木の枝、踏切やETCゲートのバーなどに向かって走行するとき
- ・冠水した道を走行するとき

!
リヤセンサーや、その周囲にアクセサリー（自転車ラックなど）を取り付けた場合、アクセサリーを障害物として検知して踏み間違い衝突軽減システムが作動する恐れがありますので、リヤパーキングセンサーをOFFにしてください。

○ 時計*/車両設定 ▶P.226

急アクセル抑制機能*

急アクセル抑制機能について

アクセルペダルの踏み間違いや踏みすぎによる急加速を抑制するとともに、音と表示で知らせる運転支援機能です。

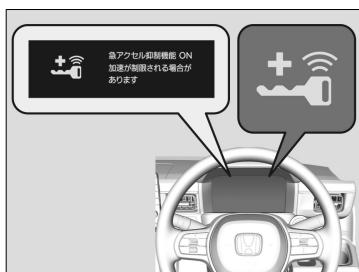
- 急アクセル抑制機能は Honda 販売店で機能が作動するように設定された Honda スマートキーが必要となります。設定については Honda 販売店にご相談ください。
- 急アクセル抑制機能が作動するように設定されていないキーと同時持ち込みをしないでください。
同時持ち込みをすると急アクセル抑制機能が起動しないことがあります。起動のためには必ず設定されているキーで、内蔵キーを使わずに解錠するようにしてください。

⚠ 警告

急アクセル抑制機能は、運転者の運転を支援するためのシステムであり、あらゆる状況でアクセルペダルの踏み間違いや踏みすぎによる衝突を回避したり、衝突による被害を軽減できるものではありません。

システムに頼った運転をすると衝突など思わぬ事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。運転者はシフトポジションやペダルの位置や常に周囲の状況を確認し、安全運転を心がけ走行してください。

システムを作動させるには



急アクセル抑制機能が作動するように設定された Honda スマートキーを携帯していることを確認し、内蔵キーを使わずに解錠する。

» パワーシステムを起動したとき、急アクセル抑制機能の起動メッセージ、急アクセル抑制機能表示灯の点灯を確認してください。

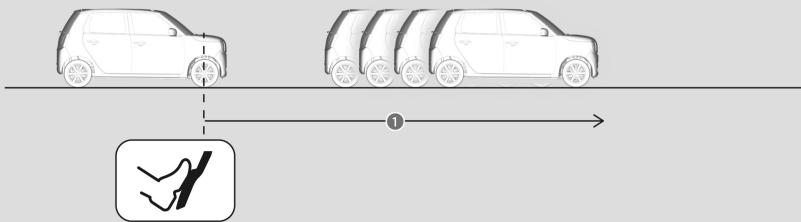


Honda スマートキーが電池切れの場合、急アクセル抑制機能が起動しない場合があります。

*: タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

システムの作動

車速が約 30km/h 以下のとき、踏み間違いや踏みすぎでアクセルペダルを素早く強く踏み込んだ場合には、音と表示で知らせるとともに急加速を抑制します。



① 急加速を抑制

加速抑制状態中に、アクセルペダルを数秒間踏み続けたときや、加速抑制状態になった後、すぐにアクセルペダルを早く強く踏み直したときは、一定の速度まで徐々に加速します。

次の場合、急アクセル抑制機能は作動しません。

- ・方向指示器が点滅中、または、消灯後、約 2 秒間
- ・ブレーキペダルを踏んでいるとき、またはブレーキペダルを離したあと、約 2 秒間
⇒ オートマチックブレーキホールド作動時に急発進しようとすると、急アクセル抑制機能が作動する場合があります。
- ・上り坂を走行しているとき

作動解除の条件

アクセルペダルを離したとき

急アクセル抑制機能の制限

次のような状態のときは、急アクセル抑制機能が正常に作動しない場合があります。また、加速したい場合に作動することがあります。

■ 道路状況

- ・坂道、凸凹道、砂利道など非舗装路の走行
- ・雪道などスリップが発生するような道路の走行
- ・坂道の出口など、車両姿勢が急激に変化したとき
- ・スピードブレーカー、縁石など、大きな段差を乗り越えたとき

■ 自車の状態

カーゴスペースや後席に重い荷物を積んで、車が傾いているとき

■ その他

惰性走行から急いで加速したとき（たとえば、ETC レーン通過後の加速）

路外逸脱抑制機能

路外逸脱抑制機能について

システムにより車両の車線逸脱、草、砂利などの道路境界や対向車両への接近の可能性を検知すると、路外逸脱を回避するように運転を支援し警告で知らせる機能です。

Q フロントワイドビューカメラ ▶P.153

⚠ 警告

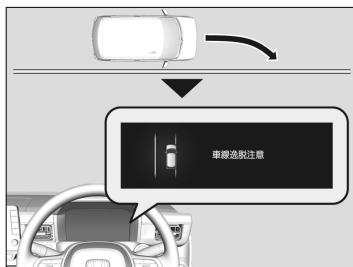
路外逸脱抑制機能は、補助システムとして使用してください。

路外逸脱抑制機能は、自動運転システムではなく、運転者のハンドル操作に代わるものではありません。あくまでも運転者をアシストするためのシステムです。

機能に頼った運転をすると衝突などの事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。

常に周囲の状況を確認し、安全運転を心がけ、走行してください。

システムの作動



フロントワイドビューカメラによって左右の白線（黄線）、草、砂利などの道路境界や対向車両を検知し、方向指示器（ウィンカー）を使用せずに白線（黄線）を逸脱した、または草、砂利などの道路境界や対向車両へ接近したことを判断したとき作動します。

» 車線区画線（白線や黄線）を検出できない場合、対向車両への接近を回避する支援は行いません。

メーターの警告表示とハンドルを短時間振動させることで運転者の操作を促し、車線逸脱を防ぐ方向にハンドル操作を支援します。



繰り返し路外逸脱抑制機能が作動しても、運転者の操作がない場合は警報音が鳴ります。その後、路外逸脱抑制機能操舵アシスト一時停止警告灯 (❶) が点灯し、操舵アシストが一時停止して警報音のみで警告します。

⇒数分経過すると、警告灯が消灯し機能が復帰します。

- 路外逸脱抑制機能は OFF になると、安全支援情報警告灯（オレンジ）、路外逸脱抑制機能警告灯（オレンジ）が点灯します。

Q. 警告灯と表示灯一覧 ▶P.208

- 運転者による操作が行われているときや、路面の状況によっては支援が感じられないことがあります。
- カーブ内側にはみ出して走行している、または車線幅が狭いときは、路外逸脱抑制機能の作動が抑制されます。



車線維持支援システム (LKAS) を作動させていない場合、車線逸脱、草、砂利などの道路境界や対向車両への接近の可能性を検知した場合にメッセージが表示される場合があります。

作動条件

以下の条件を満たすとき作動します。

- 直線またはゆるやかなカーブの道路を走行しているとき
- 方向指示器（ウィンカー）を使用していないとき
- システムがアクセル、ブレーキ、ハンドルの操作の量と頻度から運転意志がないと判断したとき
- 白線（黄線）の場合：車速が約 60~120km/h のとき
⇒対向車両が走行している場合：車速が約 30~120km/h のとき
- 草、砂利などの道路境界の場合：車速が約 30~120km/h のとき

パワーシステムを起動後、約 15 秒の間は路外逸脱抑制機能は作動しません。



路外逸脱抑制機能のアシストタイミングの設定を変更することができます。

Q. 時計*/車両設定 ▶P.226

路外逸脱抑制機能の ON/OFF

メーターでシステムの ON/OFF を切り換えることができます。

○ 表示の切り替えかた ▶P.219

○ 安全支援情報 ▶P.223

- パワーシステムを起動したときは、パワーモードを OFF する前の状態 (ON または OFF) を保持します。

路外逸脱抑制機能の制限

以下の条件下では、システムは白線 (黄線)、草、砂利などの道路境界や対向車両を検知できず、システムが正しく機能しない場合があります。

■ 環境の状態によりカメラが正しく検知できない事例

- 白線 (黄線) と道路表面の区別ができないとき
- 雨、霧、雪などの悪天候のとき
- 路面に雪が残っていたり湿っているとき
- 夜明けや夕暮れ時の太陽に向かって走行するとき
- 白線 (黄線) の付近に影が映っているとき (木々、建物、ガードレール、車両など)
- トンネルの出入り口や、木、建物の影などで明るさが変化したとき
- 強い光が道路に反射しているとき
- 夜間やトンネル内などで周囲が暗く、車線や路面、対向車両の全体が照らされていないとき
- 前方の車両との距離が極端に短く、車線や路面がかくれているとき
- 道路境界が草や砂利以外などのとき

■ 道路の状態によりカメラが正しく検知できない事例

- 車線規制や仮設車線がある区間を走行するとき
- 道路の修復や劣化などにより重複やかかれてる白線 (黄線)、タイヤ痕、さまざまな線が道路にあるとき
- 交差点や横断歩道など車線の数が増減している区間や車線が複雑に交差している区間を走行するとき
- 車線の幅が極端に狭いときや広いとき、または変化しているとき
- 車両などが白線 (黄線) の一部を隠しているとき
- 坂道や、丘の頂上に近づいているとき
- 段差などにより車両が大きく揺れたとき
- 路上のもの (縁石、ガードレール、パイロンなど) を白線 (黄線) と認識したとき

- ・カーブ、うねった道路、起伏のある道など、道路状況により白線（黄線）を正しく認識できないとき
- ・舗装されていない道路や荒れた道路を走行するとき
- ・車線が二重に描かれている道路を走行するとき
- ・凍結路や積雪路など滑りやすい路面を走行するとき
- ・分岐・合流路などを走行するとき
- ・雪上路や路上の雪・水溜まりなどで舗装路が部分的に見えているとき
- ・未舗装路やわだちのある道路を走行しているとき

■ 自車の状態によりカメラが正しく検知できない事例

- ・ヘッドライトのレンズが汚れて照射が弱いときや光軸がずれて、暗いところで前方が見ににくいとき
- ・フロントガラスの汚れ、曇り、雨粒、泥、湿った雪、シール、アクセサリー、ステッカー、フィルムなどによりカメラ前方が覆われているとき
- ・夜間やトンネル内などの暗いところで、ヘッドライトが点灯していない状態で走行しているとき
- ・運転者がアクセル、ブレーキまたはステアリングを操作したとき
- ・ワイパーの拭き残しがあるとき
- ・フロントガラスの内側が曇っているとき
- ・サイズや種類、構造の違うタイヤやホイールを装着していたり、タイヤ空気圧が適切でないとき
- ・荷室や後席に重い荷物を積んで、車両が傾いているとき
- ・サスペンションを変更したとき
- ・タイヤチェーンを装着しているとき

■ 対向車両の状態により正しく検知できない事例

- ・対向車両が横、または斜めを向いているとき
- ・前方に対向車両が飛び出したとき
- ・対向車両が背景に紛れて検知できないとき
- ・暗がりで対向車両が片側点灯または無灯火のとき
- ・対向車両との距離が極端に短いとき
- ・対向車両の一部が前方の車両によりかくれているとき
- ・対向車線が複数あるとき、または右左折専用車線があるとき
- ・隣接車線に駐停車もしくは極端に遅い速度で移動している車両があるとき
- ・対向車両が特殊な形状の車両
- ・対向車両の形状をカメラが正しく検知できないとき

■ 衝突の可能性のない場合の作動について

以下のとき、路外逸脱抑制機能が作動することがあります。

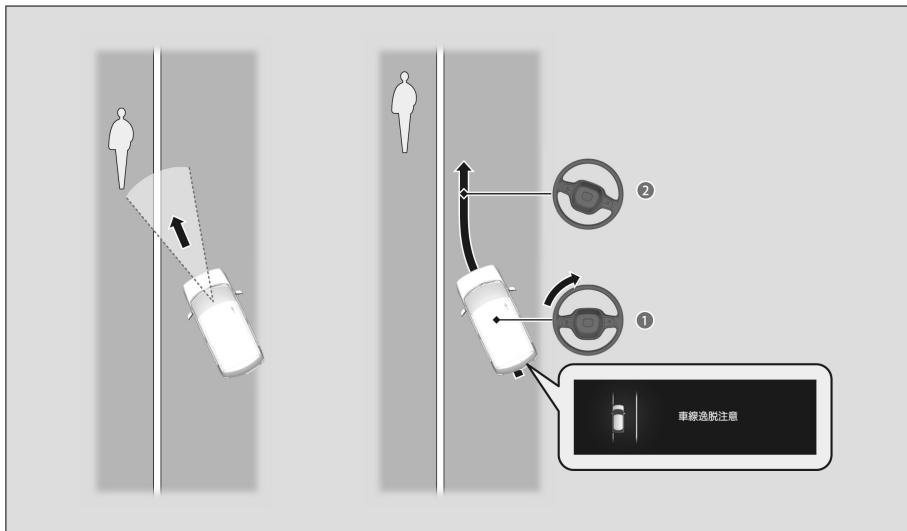
- カーブ走行などで自車の正面に対向車両がいるとき

歩行者事故低減ステアリング

歩行者事故低減ステアリングについて

歩行者と白線（黄線）を検出し、路肩の歩行者と衝突のおそれがある場合、警告表示と警報音でお知らせします。さらに、ステアリング操作を支援して運転者の衝突回避操作を促します。

○ フロントワイドビューカメラ ▶P.153



① 警報と支援

② 運転者の回避操作

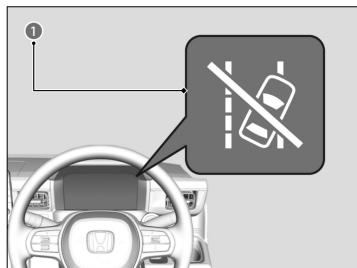
⚠ 警告

歩行者事故低減ステアリング機能は、運転者の運転操作を支援するシステムです。

あらゆる状況での歩行者事故を、軽減したり回避できるものではありません。

機能に頼った運転をすると衝突などの事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。

運転者は周囲の状況を確認し、歩行者と適切な距離を保ち安全運転を行ってください。



繰り返し機能が作動しても運転者の操作がない場合は警報音が鳴ります。その後、路外逸脱抑制機能操舵アシスト一時停止警告灯（①）が点灯し操舵アシストが一時停止して、警報音のみで警告します。

数分経過すると、警告灯が消灯し機能が復帰します。



路外逸脱抑制機能の設定で「操舵アシストなし警報のみ」を選択すると、歩行者事故低減ステアリングのステアリング支援が OFF になります。

Q 時計*/車両設定 ▶ P.226

- 車両と歩行者の位置関係によっては衝突軽減ブレーキ（CMBS）の作動を優先する場合があります。
- 運転者が操作していたり、路面の状況により支援が感じられないことがあります。

作動条件

以下の条件を満たすとき作動します。

- 白線（黄線）が連続しているとき
- 車速が約 10~40km/h で走行しているとき
- 直線の道路を走行しているとき
- 方向指示器（ウィンカー）を使用していないとき
- システムがアクセル、ブレーキ、ハンドルの操作の量と頻度から運転意志がないと判断したとき

パワーシステムを起動後、約 15 秒の間は歩行者事故低減ステアリングは作動しません。

歩行者事故低減ステアリングの ON/OFF

歩行者事故低減ステアリングは、路外逸脱抑制機能を ON にすると作動します。メーカーで路外逸脱抑制機能の ON/OFF を切り替えてください。

Q 表示の切り換えかた ▶ P.219

Q 安全支援情報 ▶ P.223

- 機能を OFF にすると、機能を ON にするまで OFF の状態を保持します。

歩行者事故低減ステアリングシステムの制限

以下の条件下では、機能の支援が遅れたり支援できない場合があります。

■ 環境によりシステムが正しく検知できない事例

- ・白線（黄線）と道路表面の区別ができないとき
- ・雨、霧、雪などの悪天候のとき
- ・路面に雪が残っていたり湿っているとき
- ・夜明けや夕暮れ時に太陽に向かって走行するとき
- ・白線（黄線）の付近に影が映っているとき（木々、建物、ガードレール、車両など）
- ・トンネルの出入り口や、木、建物の影などで周囲の明るさが変化したとき
- ・強い光が歩行者や路面に反射しているとき
- ・夜間やトンネル内などで周囲が暗く、車線や路面、歩行者の全体が照らされていないとき
- ・前方の車両との距離が極端に短く、車線や路面がかくれているとき
- ・前方の車両による水しぶきや雪の巻上げがあるとき

■ 道路の状態によりシステムが正しく検知できない事例

- ・車線規制や仮設車線がある区間を走行するとき
- ・道路の修復や劣化などにより重複やかすれている白線（黄線）、タイヤ痕、さまざまな線が道路にあるとき
- ・交差点や横断歩道など車線の数が増減している区間や車線が複雑に交差している区間を走行するとき
- ・車線の幅が極端に狭いときや広いとき、または変化しているとき
- ・車両などが白線（黄線）の一部を隠しているとき
- ・坂道や、丘の頂上に近づいているとき
- ・段差などにより車両が大きく揺れたとき
- ・路上のもの（縁石、ガードレール、パイロンなど）を白線（黄線）と認識したとき
- ・カーブ、うねった道路、起伏のある道など、道路状況により白線（黄線）や歩行者を正しく認識できないとき
- ・車線が二重に描かれている道路を走行するとき
- ・分岐・合流路などを走行するとき
- ・未舗装路やわだちのある道路を走行しているとき
- ・舗装されていない道路や荒れた道路を走行するとき
- ・凍結路や積雪路など滑りやすい路面を走行するとき
- ・雪上路や路上の雪・水溜まりなどで舗装路が部分的に見えているとき

■ 自車の状態によりシステムが正しく検知できない事例

- ・ヘッドライトのレンズが汚れて照射が弱いときや光軸がズれて、暗いところで前方が見にくいとき
- ・フロントガラスの汚れ、曇り、雨粒、泥、湿った雪、シール、アクセサリー、ステッカー、フィルムなどによりカメラ前方が覆われているとき
- ・夜間やトンネル内などの暗いところで、ヘッドライトが点灯していない状態で走行しているとき
- ・運転者がアクセル、ブレーキまたはステアリングを操作したとき
- ・ワイパーの拭き残しがあるとき
- ・フロントガラスの内側が曇っているとき
- ・サイズや種類、構造の違うタイヤやホイールを装着していたり、タイヤ空気圧が適切でないとき
- ・荷室や後席に重い荷物を積んで、車が傾いているとき
- ・サスペンションを変更したとき
- ・タイヤチェーンを装着しているとき

■ 歩行者の状態によりシステムが正しく検知できない事例

- ・歩行者との距離が極端に短いとき
- ・前方に歩行者が飛び出したとき
- ・歩行者がベビーカーや自転車などを押しているとき
- ・歩行者の一部（頭や手足など）が荷物などによりかくれているとき
- ・歩行者が背景に紛れて検知できないとき
- ・歩行者が前かがみやしゃがんだ姿勢をとっていたり、手を挙げたり、走っているとき
- ・歩行者の身長が約1m以下、または約2m以上のとき
- ・歩行者が集団で前方にいるとき

■ その他、作動できない事例

- ・運転者が急加速やステアリング操作をしながら、前方の歩行者に接近したとき
- ・歩行者の形状をシステムが正しく検知できないとき
- ・自転車や二輪車、車いす、特殊な形状の車両などのとき

渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール(ACC)

渋滞追従機能付 ACC について

フロントワイドビューカメラが先行車との車間距離を測定して、高速道路の渋滞時に適切な加減速を行い、設定車間距離を保持しながら、運転者がアクセルやブレーキを操作せずに走行、停車出来るよう支援するシステムです。

○ フロントワイドビューカメラ ▶P.153

⚠ 警告

渋滞追従機能付 ACC は、補助システムとして高速道路や自動車専用道路でのみ使用してください。

渋滞追従機能付 ACC は、自動運転システムではありません。あくまでも運転者をアシストするためのシステムです。

機能に頼った運転をすると衝突などの事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。常に周囲の状況を確認し、安全運転を心がけ、走行してください。

渋滞追従機能付 ACC で停車した車両から絶対に外に出ないでください。

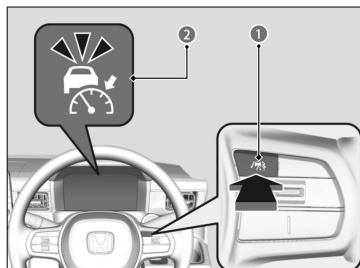
渋滞追従機能付 ACC の作動中に停車した車両から、適切な駐車操作無しで外に出ると車両が操作無しで動き出す可能性があり、思わぬ事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。

! 以下の状況では、渋滞追従機能付 ACC を使用しないでください。

- ・車線変更や急な加減速を繰り返すような交通状況
- ・急カーブのある道
- ・起伏のある坂道を走行しているとき
- ・急な上り坂や急な下り坂を走行しているとき
- ・高速道路などで、料金所、インターチェンジ、サービスエリア、パーキングエリアに進入するとき

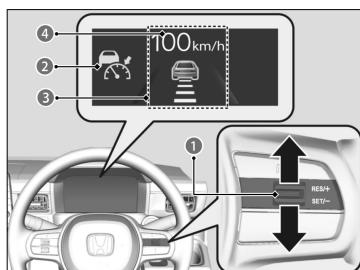
- ・凍結路や積雪路などの滑りやすい路面ではタイヤが空転して車のコントロールを失うおそれがあります。
- ・道路状況（カーブなど）や自車の状況（ハンドル操作や車線内の位置）によっては、一時的に隣の車線の車や周囲の物に対して車間距離制御を行う場合があります。

渋滞追従機能付 ACC の作動方法



[1] シフトポジションが **D** のときに  スイッチ (1) を押す。

⇒ メーター内に、 表示灯 (ホワイト) (2) が点灯します。



[2] **RES/+SET/-** スイッチ (1) を上か下に押す。

⇒ 設定された車速で作動を開始します。

⇒ メーターにアイコンや設定車速が表示されます。

⇒ 条件を満たせば、同時に車線維持支援システム (LKAS)、トラフィックジャムアシスト (渋滞運転支援機能) が作動します。

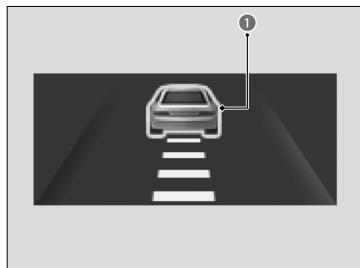
②  表示灯 (グリーン)

③ 渋滞追従機能付 ACC 開始時に点灯

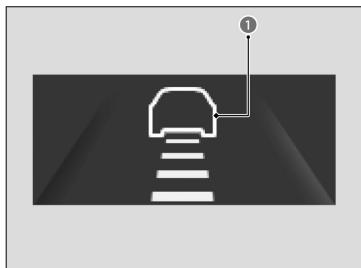
④ 設定車速 (ホワイト)

- ブレーキペダルを踏んでいるときは、渋滞追従機能付 ACC は作動しません。

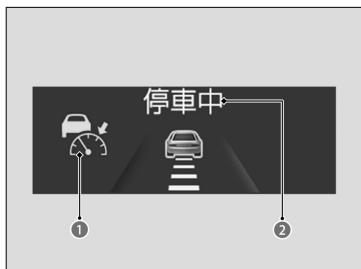
- 30km/h 以下で走行しているときは、設定車速が 30km/h にセットされます。車両が動いていない場合は、ブレーキペダルを踏んでいても作動することができます。



先行車が検知範囲に入ると、アイコン (1) が表示され、先行車の車速変化に合わせ、設定車速の範囲内で車間距離を保ちながら追従走行します。



先行車がないときは実線の車のアイコン（①）が表示され、設定した車速で定速走行します。先行車が車線変更などでいなくなると、設定車速までゆるやかに加速してから定速走行します。



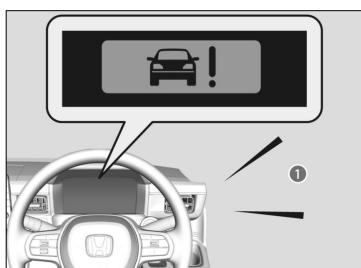
先行車が停車すると、自車も自動で停車して、メッセージ（②）が表示されます。先行車の動きに合わせて、**RES/+ /SET/-**スイッチを上か下に押すか、アクセルペダルを踏むことで発進し、以前の設定車速の範囲内で追従走行します。

» 先行車に追従して停車したときの車間距離は設定により変わります。

○ 車間距離の設定方法 ▶ P.182

① 表示灯（グリーン）

- ・ 設定車速より遅い速度で走行する先行車や割り込み車が前方にあらわれた場合、システムは減速制御を行います。
- ・ 先行車または割り込み車の車速が自車よりも速く、次第に離れていく場合、先行車との距離が短くても警報が出ず、そのまま追従することができます。
- ・ 先行車がインターチェンジやサービスエリアなどに入る際、自車の前から先行車がいなくなるときは、車間距離制御が少しの間継続する場合があります。
- ・ 渋滞追従機能付 ACC によるブレーキが作動しているときは、制動灯が点灯します。
- ・ 急な下り坂では、過度な加速を防ぐと共に設定した車速を保持するために減速制御を行いますが、設定した車速を超えてしまう場合があります。



先行車が急減速したり、遅い車両が割り込んできたときは、警告表示と警告音（①）により、衝突のおそれがあることを運転者に知らせます。
» ブレーキを踏み、適切な車間距離を保ってください。

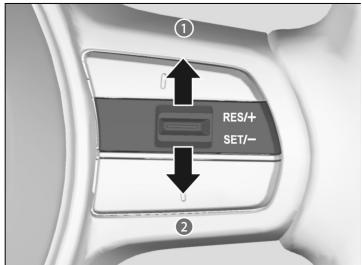
- ・ アクセルペダルを踏み込むと、渋滞追従機能付 ACC が一時的に解除され車速が上がります。このとき、先行車がいても警告音や警告表示は出ません。アクセルペダルを離すと復帰します。



先行車検知音の有り/無しを設定することができます。

○ 時計*/車両設定 ▶P.226

車速の調整方法



① RES/+側

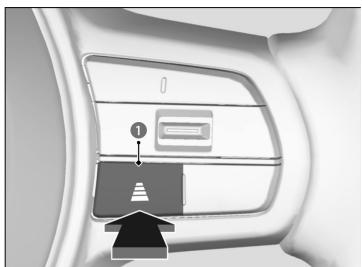
- ①回押すごとに1km/hずつ設定車速が上がる
- 押し続けると10km/hずつ設定車速が上がり、手を離したときの設定車速に固定

② SET/-側

- ①回押すごとに1km/hずつ設定車速が下がる
- 押し続けると10km/hずつ設定車速が下がり、手を離したときの設定車速に固定

- 検知した先行車の車速が自車が上げた設定車速よりも遅い場合は、自車の車速を加速させない場合があります。
- アクセルペダルを踏み、**RES/+SET/-**スイッチを下に押すと、現在の車速が設定車速になります。

車間距離の設定方法



▲スイッチ (1) を押し、車間距離を設定する。
○先行車との車間距離設定は、4段階に切り換えることができます。

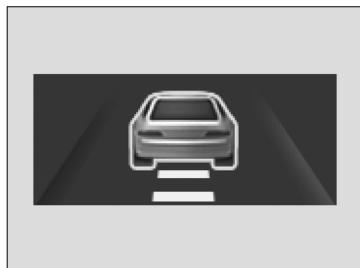
○常に周囲の状況を確認し、交通状況に応じた車間距離の設定を選択してください。

○車速が低くなるほど、車間距離は短くなります。

車間距離

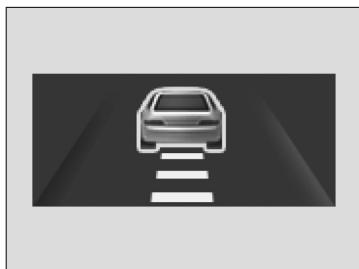
- 約27m (車速80km/h)
- 約33m (車速100km/h)





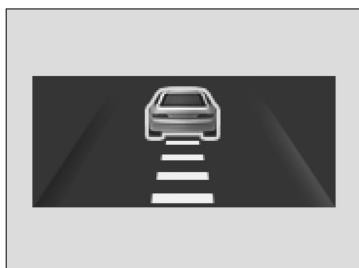
車間距離

- ・約 35m (車速 80km/h)
- ・約 43m (車速 100km/h)



車間距離

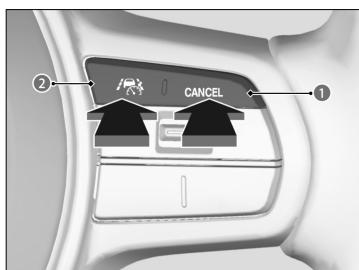
- ・約 44m (車速 80km/h)
- ・約 55m (車速 100km/h)



車間距離

- ・約 54m (車速 80km/h)
- ・約 67m (車速 100km/h)

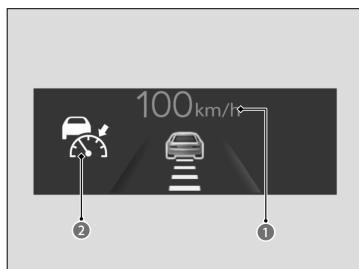
渋滞追従機能付 ACC の解除方法



以下のいずれかの操作をすると、渋滞追従機能付 ACC が解除されます。このとき同時にLKAS、トラフィックジャムアシストが解除されます。

- ・**CANCEL** スイッチ (①) を押す
 - » メーター内の 表示灯 (グリーン) が 表示灯 (ホワイト) になります。
- ・車両が前進しているときにブレーキペダルを踏む
 - » メーター内の 表示灯 (グリーン) が 表示灯 (ホワイト) になります。
- ・**車両アイコン** スイッチ (②) を押す
 - » メーター内の 表示灯 (グリーン) が消灯します。

■ 解除前の設定車速での復帰



CANCEL スイッチまたは、ブレーキペダルで渋滞追従機能付 ACC を解除すると、直前の設定車速がグレー (1) で表示されます。

グレーの設定車速が表示されている場合は、**RES/+SET/-**スイッチを上に押すとグレーの設定車速で作動を再開することができます。

② 表示灯 (ホワイト)

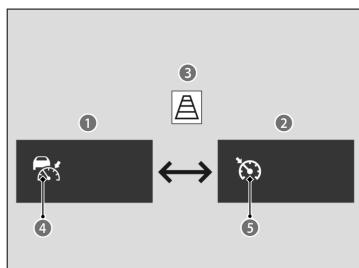
■ 停車中の解除

自車が自動的に停車しているときに渋滞追従機能付 ACC が解除された場合は、警告音が鳴りメーターに警告が表示されることがあります。すみやかにブレーキを踏み、適切な車間距離を保ってください。



加減速を多く繰り返す走行や長い下り坂の走行、重い荷物を積んで走行しているときなどに渋滞追従機能付 ACC が自動解除された後、条件が継続する場合は、その後一時的に渋滞追従機能付 ACC をセットできない場合があります。

クルーズモードへの切換え



▲スイッチ (3) を約 1 秒間押し続ける。

⇒メーター内の 表示灯 (ホワイト) (4) が、 表示灯 (ホワイト) (5) に変わり、クルーズモードに切り換わります。

再度スイッチを約 1 秒間押し続けると、 表示灯 (ホワイト) に切り換わり、渋滞追従機能付 ACC に戻ります。

① 渋滞追従機能付 ACC 表示

② クルーズモード表示

4 安全運転支援システム 〉 渋滞追従機能付アダプティブルーズコントロール (ACC)

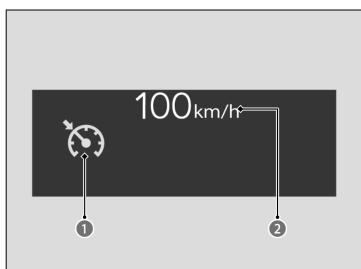
車速をセットしているとき、または  スイッチが OFF のときはモードを切り換えるできません。

クルーズモードへ切り換えた状態でも  スイッチを押して ON にし直すたびに、渋滞追従機能付 ACC に戻ります。



現在のモードがどちらなのかを常に意識して使用してください。
クルーズモード中は先行車との車間距離を保持しません。

クルーズモードの作動方法



約 30km/h 以上で走行しているとき、
RES/+SET/-スイッチを上か下に押す。

- » 設定された車速で自動定速走行を開始します。
- » メーターに設定車速やアイコンが表示されます。

- ①  表示灯 (グリーン)
- ② 設定車速 (ホワイト)

車速の調整方法

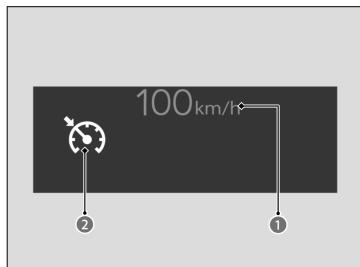
車速の調整方法は、渋滞追従機能付 ACC の操作と同じです。

解除方法

次の操作をすると、自動定速走行が解除されます。また、車速が 25km/h 未満になると自動的に自動定速走行が解除になります。

- **CANCEL** スイッチを押す
 - » メーター内の  表示灯 (グリーン) が  表示灯 (ホワイト) になります。
- ブレーキペダルを踏む
 - » メーター内の  表示灯 (グリーン) が  表示灯 (ホワイト) になります。
-  スイッチを押す
 - » メーター内の  表示灯 (グリーン) が消灯します。

■ 解除前の設定車速での復帰



CANCEL スイッチまたは、ブレーキペダルで自動定速走行を解除すると、直前の設定車速がグレー（①）で表示されます。

グレーの設定車速が表示されていて車速が30km/h以上の場合は、**RES/+SET/-**スイッチを上に押すとグレーの設定車速で作動を再開することができます。

② 表示灯（ホワイト）

渋滞追従機能付 ACC の制限

一定の条件でシステムは自動解除する場合があります。

以下の条件では渋滞追従機能付 ACC の機能の一部を発揮できない場合があります。

■ 環境によりカメラが正しく検知できない事例

- ・雨、霧、雪などの悪天候のとき
- ・トンネルの出入り口や、木、建物の影などで周囲の明るさが変化したとき
- ・強い光が車両や路面に反射しているとき
- ・前方の車両による水しぶきや雪の巻上げがあるとき
- ・夜間やトンネル内などで周囲が暗く、車両の全体が照らされていないとき
- ・夜明けや夕暮れ時に太陽に向かって走行するとき

■ 道路の状態によりカメラが正しく検知できない事例

- ・カーブ、うねった道路、坂道などのとき
- ・雪道や未舗装路などわだちのある道路
- ・路面に水溜まりや水膜があるとき
- ・段差などにより車両が大きく揺れたとき

■ 自車の状態によりカメラが正しく検知できない事例

- ・ヘッドライトのレンズが汚れて照射が弱いときや光軸がずれて、暗いところで前方が見にくいとき
- ・フロントガラスの汚れ、曇り、雨粒、泥、湿った雪、シール、アクセサリー、ステッカー やフィルムなどによりカメラ前方が覆われているとき
- ・夜間やトンネル内などの暗いところで、ヘッドライトが点灯していない状態で走行しているとき

- ・ワイパーの拭き残しがあるとき
- ・フロントガラスの内側が曇っているとき
- ・サイズや種類、構造の違うタイヤやホイールを装着していたり、タイヤ空気圧が適切でないとき
- ・カーゴスペースや後席に重い荷物を積んで、車が傾いているとき
- ・サスペンションを変更したとき
- ・タイヤチェーンを装着しているとき

■ 前方の車両の状態によりカメラが正しく検知できない事例

- ・前方に車両が急に割り込んだとき
- ・前方の車両との距離が極端に短いとき
- ・前方の車両が背景に紛れて検知できないとき
- ・前方の車両の車高が低いとき
- ・暗がりで前方の車両が片側点灯または無灯火のとき

■ その他、システムが正しく作動しない事例

- ・前方の車両が駐停車していたり、自車との速度差が大きいとき
- ・前方の車両が急減速したとき
- ・前方の車両が特殊な形状の車両
- ・荷物を積んでいないトラックなど前側に対して後側の高さが低い、もしくは幅が狭い車両
- ・自車または前方の車両が、車線の片側にかたよって走行しているとき
- ・前方の車両が二輪車など幅の狭い車両のとき
- ・前方の車両の最低地上高が極端に高いとき
- ・前方の車両の形状をカメラが正しく検知できないとき

■ 渋滞追従機能付 ACC の自動解除

次の場合は、メッセージが表示されてブザーが鳴り、渋滞追従機能付 ACC が自動解除されます。

- ・雨、霧、雪などの悪天候のとき
 - ・先行車を安定して検知できないとき
 - ・タイヤの異常を検知したとき
 - ・悪路の走行や山岳路を長時間走行したとき
 - ・急なハンドル操作をしたとき
 - ・ABS、VSA、衝突軽減ブレーキ (CMBS)、踏み間違い衝突軽減システム、または衝突後ブレーキシステムや急アクセル抑制機能*が作動したとき
 - ・VSA 警告灯が点灯したとき
 - ・急斜面で停車しているとき
 - ・パーキングブレーキをかけたとき
- ❖: タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

- ・前方の車両による水しぶきや雪の巻上げがあるとき
- ・夜明けや夕暮れ時に太陽に向かって走行するとき
- ・検知した先行車との車間距離が短すぎるとき
- ・停車状態で先行車がいなくなったとき
- ・急加速したとき
- ・フロントガラスの汚れ、曇り、雨粒、泥、湿った雪、シール、アクセサリー、ステッカー やフィルムなどによりカメラ前方が覆われているとき
- ・カーゴスペースや後席に重い荷物を積んでいるとき
- ・夜間やトンネル内などの暗いところを走行したとき
- ・ブレーキシステム警告灯（オレンジ）が点灯したとき
- ・長い下り坂などで減速を繰り返したとき
- ・LKAS が作動しているときに、システムが一定時間運転者の操作がないと判断したとき
- ・パワーモードを OFF モードにしたとき
- ・停車中に運転席のシートベルトを外したとき
- ・車両が 10 分以上停車しているとき

車線維持支援システム (LKAS)

LKASについて

車線の中央付近を走行しているときに、フロントワイドビューカメラによって、左右の白線（黄線）をとらえ、ステアリングの操作をアシストし、車線維持走行を補助するためのシステムです。

Q フロントワイドビューカメラ ▶P.153

⚠️ 警告

LKASは補助システムとして使用してください。

LKASは、自動運転システムではありません。あくまでも運転者をアシストするためのシステムです。機能に頼った運転をすると衝突などの事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。常に周囲の状況を確認し、安全運転を心がけて走行してください。また、高速道路や自動車専用道路を走行するときに使用してください。

- ! システムが作動しているときに、左右の白線（黄線）に偏る場合は、システムを停止し Honda 販売店で点検を受けてください。

車線維持支援機能

車が車線中央を走行するようにアシストします。白線（黄線）に近づくと電動パワーステアリングのアシストが強くなります。

車線逸脱警告機能

運転状況により、車が車線逸脱を検知すると車線逸脱の警報をハンドルの振動、音およびメーター表示で行います。



作動条件

- ・渋滞追従機能付 ACC が作動しているとき
- ・約 65~120km/h で走行しているとき
- ・左右に白線（黄線）が引かれている車線の中央付近を走行しているとき
- ・直線またはゆるやかなカーブの道路を走行しているとき
- ・方向指示器（ウィンカー）を出していないとき

LKAS の作動方法

渋滞追従機能付 ACC を作動させる。

»車線中央付近を走行中に車線を検知すると、LKAS 表示灯（①）と車線表示（②）がホワイトからグリーンに切り替わり、LKAS が作動します。

Q 渋滞追従機能付 ACC の作動方法 ▶P.180



システムが作動中にハンドルから手を離したり、ハンドル操作量が少ない場合は警告を表示します。繰り返し表示されても操作がされない場合は警報音がなりシステムが解除されます。



ハンドルを握ってください

LKAS の解除方法

 スイッチを押すと、LKAS が解除されます。

⇒LKAS を作動させるには、再度  スイッチを押してください。

自動的に一時解除される場合

次の場合、LKAS 表示灯がホワイトに切り替わり、LKAS が自動解除されます。

- ・白線（黄線）を検知できないとき
- ・急なハンドル操作をしたとき
- ・ハンドル操作をしていないとき
- ・急なカーブを走行したとき
- ・作動車速を超えたとき
- ・ABS、VSA が作動しているとき
- ・渋滞追従機能付 ACC が作動していないとき

これらの条件が続かなければ、システムは自動的に再開されます。



LKAS の自動解除ブザーの ON/OFF を設定できます。

 時計*/車両設定 ▶P.226

LKAS の制限

以下の条件では、システムは白線（黄線）を検知できず、LKAS が正しく機能しない場合があります。

■ 環境によりカメラが正しく検知できない事例

- ・白線（黄線）と道路表面の区別ができないとき
- ・雨、霧、雪などの悪天候のとき
- ・路面に雪が残っていたり湿っているとき
- ・夜明けや夕暮れ時の太陽に向かって走行するとき
- ・白線（黄線）の付近に影が映っているとき（木々、建物、ガードレール、車両など）
- ・トンネルの出入り口や、木、建物の影などで周囲の明るさが変化したとき
- ・夜間やトンネル内などで周囲が暗く、車線や路面が照らされていないとき
- ・前方の車両との距離が極端に短く、車線や路面がかくれているとき
- ・強い光が路面に反射しているとき

■ 道路の状態によりカメラが正しく検知できない事例

- ・車線規制や仮設車線がある区間を走行するとき

- ・道路の修復や劣化などにより重複やかすれている白線（黄線）、タイヤ痕、さまざまな線が道路にあるとき
- ・交差点や横断歩道など車線の数が増減している区間や車線が複雑に交差している区間を走行するとき
- ・車線の幅が極端に狭いときや広いとき、または変化しているとき
- ・車両などが白線（黄線）の一部を隠しているとき
- ・坂道や、丘の頂上に近づいているとき
- ・段差などにより車両が大きく揺れたとき
- ・路上のもの（縁石、ガードレール、パイロンなど）を白線（黄線）と認識したとき
- ・舗装されていない道路や荒れた道路を走行するとき
- ・車線が二重に描かれている道路を走行するとき
- ・凍結路や積雪路など滑りやすい路面を走行するとき
- ・雪上路や路上の雪・水溜まりなどで舗装路が部分的に見えているとき
- ・路面に水溜まりや水膜があるとき
- ・カーブ、うねった道路、起伏のある道など、道路状況により白線（黄線）を正しく認識できないとき
- ・未舗装路やわだちのある道路を走行しているとき
- ・分岐・合流路などを走行するとき

■ 自車の状態によりカメラが正しく検知できない事例

- ・ヘッドライトのレンズが汚れて照射が弱いときや光軸がズれて、暗いところで前方が見にくいとき
- ・フロントガラスの汚れ、曇り、雨粒、泥、湿った雪、シール、アクセサリー、ステッカー、フィルムなどによりカメラ前方が覆われているとき
- ・夜間やトンネル内などの暗いところで、ヘッドライトが点灯していない状態で走行しているとき
- ・ワイパーの拭き残しがあるとき
- ・フロントガラスの内側が曇っているとき
- ・サイズや種類、構造の違うタイヤやホイールを装着していたり、タイヤ空気圧が適切でないとき
- ・カーゴスペースや後席に重い荷物を積んで、車が傾いているとき
- ・サスペンションを変更したとき
- ・タイヤチェーンを装着しているとき

トライックジャムアシスト(渋滞運転支援機能)

トライックジャムアシストについて

フロントワイドビューカメラによって、左右の白線（黄線）をとらえ、車線の中央を走行するようにステアリング操作をアシストし、車線維持走行を補助するためのシステムです。

○ フロントワイドビューカメラ ▶P.153

⚠ 警告

トライックジャムアシストは補助機能として使用してください。

トライックジャムアシストは、自動運転システムではありません。あくまでも運転者をアシストするための機能です。

機能に頼った運転をすると、思わぬ事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。

常に周囲の状況を確認し、安全運転を心がけて走行してください。高速道路や自動車専用道路でのみ使用してください。

!
下記の状況のときは、トライックジャムアシストを使用しないでください。

- 急カーブのある道のとき
» 道路状況に応じた走行ができなくなることがあります。
- 高速道路などで、料金所、インターチェンジ、サービスエリア、パーキングエリアに進入するとき
- 悪天候（雨、霧、雪など）のとき
- 凍結路や積雪路などの滑りやすい路面のとき
» タイヤが空転して車のコントロールを失うおそれがあります。

!
システムが作動しているときに車線に寄って走行する場合は、システムを停止し Honda 販売店で点検を受けてください。

車線維持支援機能

車線維持支援システム（LKAS）作動中の渋滞時に白線（黄線）を検知すると、車線の中央を走行するようにハンドル操作をアシストします。

- » 機能の作動中に運転者が操作した場合は運転者の操作を優先します。
- » 運転者による操作が行われているときや、路面の状況によってはアシストが感じられないことがあります。

車線逸脱警報機能

運転状況により、車が車線逸脱を検知すると車線逸脱の警報をハンドルの振動、音およびメーター表示で行う場合があります。



作動条件

- ・渋滞追従機能付 ACC と LKAS が ON のとき
- ・左右に白線（黄線）が引かれている車線の中央付近を走行しているとき
- ・車速が約 0~65km/h で走行しているとき
- ・直線またはゆるやかなカーブの道路を走行しているとき
- ・ハンドル操作をしているとき

LKAS の取り扱いについては下記を参照してください。

Q LKAS について ▶ P.189

各機能のステアリングスイッチと表示については下記を参照してください。

Q 各機能を作動させるための装備と表示 ▶ P.151

トライックジャムアシストの作動方法



車線の中央付近を走行する。

⇒両側の白線（黄線）を検知するとシステムが作動を開始し、車線表示（①）とLKAS表示灯（②）がホワイトからグリーンに切り替わります。



ハンドルを握ってください

システムが作動中にハンドルから手を離したり、ハンドル操作量が少ない場合は警告を表示します。繰り返し表示されても操作がされない場合は警報音がなりシステムが解除されます。

トライックジャムアシストの解除方法

スイッチを押すと、トライックジャムアシストが解除されます。

⇒トライックジャムアシストを作動させるには、再度スイッチを押してください。

一時的に待機状態となる場合

- ・白線（黄線）を検知できないとき
- ・急なハンドル操作をしたとき
- ・作動中に運転者がハンドルから手を放したり、ステアリングの操作量が少ないととき
- ・急なカーブを走行したとき
- ・渋滞追従機能付ACCが作動していないとき

これらの条件が長く続かなければ、機能は自動的に再開されます。



メーターの「LKAS(車線維持支援システム)制御解除警報音」設定で自動解除ブザーのON/OFFを設定できます。

時計*/車両設定 ▶P.226

トライックジャムアシストの制限

以下の場合、システムは白線（黄線）を検知できず、トライックジャムアシストが正しく機能しない場合があります。

■ 環境によりカメラが正しく検知できない事例

- ・白線（黄線）と道路表面の区別ができないとき
- ・雨、霧、雪などの悪天候のとき
- ・路面に雪が残っていたり湿っているとき
- ・夜明けや夕暮れ時に太陽に向かって走行するとき
- ・白線（黄線）の付近に影が映っているとき（木々、建物、ガードレール、車両など）
- ・トンネルの出入り口や、木、建物の影などで周囲の明るさが変化したとき
- ・夜間やトンネル内などで周囲が暗く、車線や路面が照らされていないとき
- ・前方の車両との距離が極端に短く、車線や路面がかくれているとき
- ・強い光が路面に反射しているとき

■ 道路の状態によりカメラが正しく検知できない事例

- ・車線規制や仮設車線がある区間を走行するとき
- ・道路の修復や劣化などにより重複やかすれている白線（黄線）、タイヤ痕、さまざまな線が道路にあるとき
- ・交差点や横断歩道など車線の数が増減している区間や車線が複雑に交差している区間を走行するとき
- ・車線の幅が極端に狭いときや広いとき、または変化しているとき
- ・車両などが白線（黄線）の一部を隠しているとき
- ・坂道や、丘の頂上に近づいているとき
- ・段差などにより車両が大きく揺れたとき
- ・路上のもの（縁石、ガードレール、パイロンなど）を白線（黄線）と認識したとき
- ・舗装されていない道路や荒れた道路を走行するとき
- ・車線が二重に描かれている道路を走行するとき
- ・凍結路や積雪路など滑りやすい路面を走行するとき
- ・雪上路や路上の雪、水溜まりなどで舗装路が部分的に見えているとき
- ・路面に水溜まりや水膜があるとき
- ・カーブ、うねった道路、起伏のある道など、道路状況により白線（黄線）を正しく認識できないとき
- ・未舗装路やわだちのある道路を走行しているとき
- ・分岐・合流路などを走行するとき

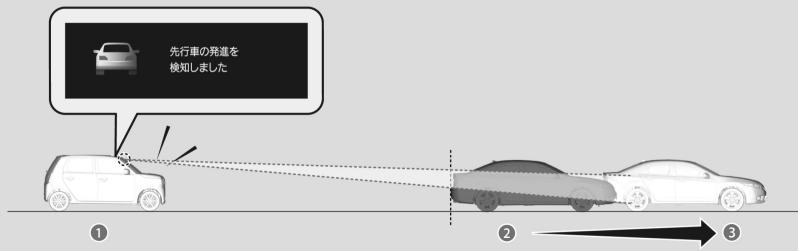
■ 自車の状態によりカメラが正しく検知できない事例

- ・ヘッドライトのレンズが汚れて照射が弱いときや光軸がズれて、暗いところで前方が見にくいとき
- ・フロントガラスの汚れ、曇り、雨粒、泥、湿った雪、シール、アクセサリー、ステッカー、フィルムなどによりカメラ前方が覆われているとき
- ・夜間やトンネル内などの暗いところで、ヘッドライトが点灯していない状態で走行しているとき
- ・ワイパーの拭き残しがあるとき
- ・フロントガラスの内側が曇っているとき
- ・サイズや種類、構造の違うタイヤやホイールを装着していたり、タイヤ空気圧が適切でないとき
- ・カーゴスペースや後席に重い荷物を積んで、車が傾いているとき
- ・サスペンションを変更したとき
- ・タイヤチェーンを装着しているとき

先行車発進お知らせ機能

先行車発進お知らせ機能について

信号待ちなど、先行車の発進に気づかず停止を続けると、音と表示で運転者にお知らせします。



- ① 停止
- ② 先行車停止
- ③ 先行車発進

⚠ 警告

先行車発進お知らせ機能は、運転者をアシストするための補助システムです。

安全に発進できる状況を知らせるシステムではありません。機能に頼った運転をすると衝突などの事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。発進するときは、運転者が目視で周囲と前方の安全を十分に確認し、適切な車間距離を保ち運転してください。



先行車発進お知らせ機能を OFF にしたり、作動のタイミングを変更することができます。

⌚ 時計*/車両設定 ▶ P.226

作動条件

- ・ブレーキペダルを踏んでいるとき
- ・オートマチックブレーキホールドのブレーキ保持機能が作動しているとき
- ・渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール (ACC) が作動中で停車しているとき

4 安全運転支援システム 〉先行車発進お知らせ機能

- ・**N**でパーキングブレーキをかけているとき
- ・シングルペダルコントロールのブレーキ保持機能が作動しているとき

先行車との車間距離が約 10m 以上離れているとき、また渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール (ACC) 警告灯が点灯しているときは作動しません。

先行車発進お知らせ機能の制限

次のような場合、先行車が発進していなくてもシステムが作動したり、先行車が発進していてもシステムが作動しないことがあります。

■ 環境によりカメラが正しく検知できない事例

- ・雨、霧、雪などの悪天候のとき
- ・前方の車両による水しぶきや雪の巻上げがあるとき
- ・トンネルの出入り口や、木、建物の影などで周囲の明るさが変化したとき
- ・強い光が車両や路面に反射しているとき
- ・夜間やトンネル内などで周囲が暗く、車両の全体が照らされていないとき
- ・夜明けや夕暮れ時に太陽に向かっているとき

■ 道路の状態によりカメラが正しく検知できない事例

- ・カーブ、うねった道路、右左折直後、坂道などのとき

■ 自車の状態によりカメラが正しく検知できない事例

- ・自車の停車している時間が短いとき
- ・フロントガラスの汚れ、曇り、雨粒、泥、湿った雪、シール、アクセサリー、ステッカー やフィルムなどによりカメラ前方が覆われているとき
- ・夜間やトンネル内などの暗いところで、ヘッドライトが点灯していない状態で走行しているとき
- ・ワイパーの拭き残しがあるとき
- ・フロントガラスの内側が曇っているとき
- ・ヘッドライトのレンズが汚れて照射が弱いときや光軸がズれて、暗いところで前方が見にくいたとき
- ・サイズや種類、構造の違うタイヤやホイールを装着していたり、タイヤ空気圧が適切でないとき
- ・カーゴスペースや後席に重い荷物を積んで、車が傾いているとき
- ・サスペンションを変更したとき
- ・タイヤチェーンを装着しているとき

■ 先行車の状態によりカメラが正しく検知できない事例

- ・先行車の停車している時間が短いとき
- ・先行車との距離が極端に短いとき
- ・先行車が極端に遅い速度で移動しているとき
- ・先行車が右左折や急旋回したとき
- ・先行車が背景に紛れて検知できないとき
- ・暗がりで先行車が片側点灯または無灯火のとき

■ その他、カメラが正しく検知できない事例

- ・歩行者や自転車、二輪車、特殊な形状の車両など
- ・自車と先行車の間に別の車両や歩行者、自転車などが割り込んできたとき
- ・先行車が自車の正面にいないとき

■ その他、作動できない事例

- ・先行車の形状をカメラが正しく検知できないとき
- ・先行車の最低地上高が極端に高いとき
- ・先行車が荷物を積んでいないトラックなど前側に対して後側の面積が小さい車両

標識認識機能

標識認識機能について

走行中に、フロントワイドビューカメラで認識した道路標識のアイコンをメーターに表示して、運転者にお知らせします。

Q フロントワイドビューカメラ ▶P.153

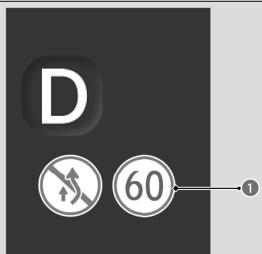
- すべての標識が表示されるわけではありません。また、表示される道路標識であっても新しいデザインの道路標識は表示されません。

⚠ 警告

標識認識機能は補助機能として使用する。

標識認識機能は、あらゆる状況で作動する機能ではありません。あくまで、運転者をアシストするための機能です。常に周囲の状況を確認し、安全運転を心がけ、走行してください。

システムの作動



最高速度（①）、はみ出し通行禁止、一時停止、車両進入禁止の道路標識アイコンを同時に二つまで表示します。

»認識された最高速度の標識に対して、速度超過したときは表示された最高速度アイコンが点滅します。

»車両進入禁止区域に進入すると車両進入禁止アイコンが5秒間点滅します。その後、アイコンは消えます。

»一時停止、車両進入禁止は自車の速度が約60km/h以下のときに表示します。

道路標識の表示が別ものに切り替わるとき：

- 表示中の最高速度と異なる最高速度標識を認識したとき
- 一時停止標識または、車両進入禁止標識を認識したとき

道路標識の表示が消えるとき：

- 最高速度、はみ出し通行禁止：標識ごとに設定された距離を走行した、または制限終了の補助標識を認識したとき
- 一時停止：標識を通過したとき
- 車両進入禁止：進入せず標識を通過したとき

- ・交差点で方向指示器（ウィンカー）を出しながら右左折したとき



標識認識機能表示の ON/OFF を設定できます。

○ 時計*/車両設定 ▶ P.226



速度超過お知らせの ON/OFF や、お知らせを開始する速度超過量を設定できます。

○ 時計*/車両設定 ▶ P.226



！ 標識認識機能が故障した場合はメーターに  が表示されます。 アイコンが消えないときは、Honda 販売店で点検を受けてください。

パワーシステムを起動後、約 15 秒の間は標識認識機能は作動しません。

標識認識機能の制限

以下の場合などにおいては、標識を正しく認識できない場合や、標識の認識が遅れたり、認識できない場合があります。

■ 環境によりカメラが正しく検知できない事例

- ・夜明けや夕暮れ時の太陽に向かって走行するとき
- ・強い光が路面に反射しているとき
- ・夜間やトンネル内などの暗いところ
- ・雨、霧、雪などの悪天候のとき
- ・トンネルの出入り口や、木、建物の影などで明るさが変化したとき
- ・先行車による水しぶきや雪の巻上げがあるとき

■ 道路の状態によりカメラが正しく検知できない事例

- ・段差などにより車両が大きく揺れたとき

■ 自車の状態によりカメラが正しく検知できない事例

- ・ヘッドライトのレンズが汚れて照射が弱いときや光軸がずれて、暗いところで前方が見にくいとき
- ・フロントガラスの汚れ、曇り、雨粒、泥、湿った雪、シール、アクセサリー、ステッカー やフィルムなどによりカメラ前方が覆われているとき
- ・夜間やトンネル内などの暗いところで、ヘッドライトが点灯していない状態で走行しているとき
- ・ワイパーの拭き残しがあるとき

- ・フロントガラスの内側が曇っているとき
- ・サイズや種類、構造の違うタイヤやホイールを装着していたり、タイヤ空気圧が適切でないとき
- ・カーゴスペースや後席に重い荷物を積んで、車が傾いているとき
- ・サスペンションを変更したとき
- ・タイヤチェーンを装着しているとき

■ 標識の位置や状態によりカメラが正しく検知できない事例

- ・標識の周囲が煩雑で標識を見つけにくい場合
- ・自車から遠く離れた位置にある標識
- ・自車のヘッドライトの光が届きにくい位置にある標識
- ・曲がり角やカーブの先に設置された標識
- ・色あせた標識や折れ曲がった標識
- ・向きが変えられた標識や破損した標識
- ・泥、雪、又は、霜で覆われた標識
- ・一部が樹木などで隠れてしまったり、車両などの陰になった標識
- ・標識の表面上に光（街灯など）や影が映り込んでいる場合
- ・明るすぎたり、暗い標識（電光式標識）
- ・小さいサイズの標識（終了を示す補助標識など）

■ その他、カメラが正しく検知できない事例

- ・高い速度で走行しているとき

以下の場合などにおいては、標識認識が正しく作動せず、自車の走路に対する規制内容とは異なる表示をしたり、実際には対象となる標識が無いのに表示したりすることがあります。（最高速度標識においては、実際の規制速度よりも高い数値を表示したり、低い数値を表示したりすることがあります。）

- ・標識の上や下に、規制の地点（始まり、終わりなど）や条件（曜日、時間帯など）を示す補助標識がある場合
- ・数字の判別がつきにくい標識（電光式標識、数字がかすれた標識など）
- ・自車の走路に対しての標識ではないが、自車の走路付近にあり、標識が自車の走路に向いている場合（側道が本線に合流する地点の一時停止標識など）
- ・認識対象の標識の色、形、図形に似たものがある場合（類似の標識、電光掲示板、看板、のぼり旗、構造物など）

パーキングセンサーシステム

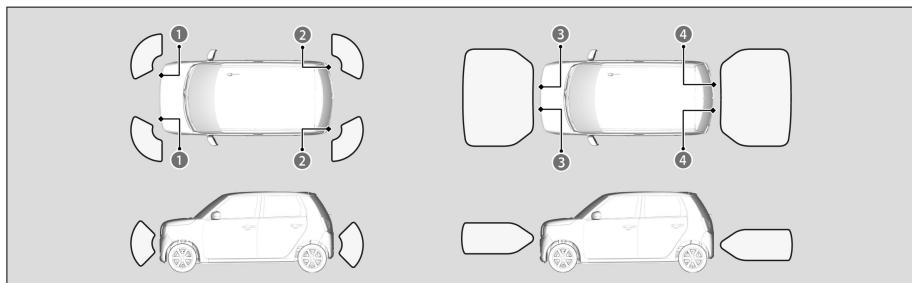
パーキングセンサーシステムについて

パーキングセンサーが障害物を検知し、障害物と車両の距離を警告音と表示で知らせます。

Q ソナーセンサー ▶P.154

!
駐車する前に車両の周りに障害物がないことを確認してください。

パーキングセンサーの取付位置と検知範囲



- ① フロントコーナーセンサー
- ② リヤコーナーセンサー
- ③ フロントセンターセンサー
- ④ リヤセンターセンサー

パーキングセンサーの ON/OFF

メーターでシステムの ON/OFF を切り換えることができます。

Q 表示の切り換えかた ▶P.219

Q 安全支援情報 ▶P.223

- パワーシステム起動時は、パワーモードを OFF する前の状態 (ON または OFF) を保持します。



リヤパーキングセンサーだけを OFF にすることもできます。リヤパーキングセンサーを OFF にすると、後退中の踏み間違い衝突軽減システムは作動しません。

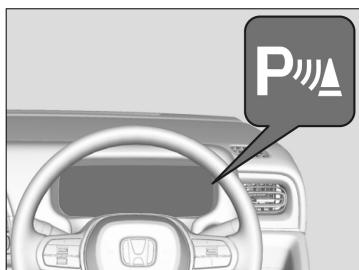
Q 時計*/車両設定 ▶P.226

Q 踏み間違い衝突軽減システムについて ▶P.162

障害物を検知したときの作動

フロントコーナーセンサーおよびリヤセンサーは、シフトポジションが **R** で、車速が 8km/h 以下のとき障害物を検知します。

フロントセンサーは、シフトポジションが **P**、**R** 以外で、車速が 8km/h 以下のとき障害物を検知します。



パーキングセンサー警告灯が点滅します。

» システムを OFF にしても障害物を検知するとパーキングセンサー警告灯のみが点滅します。



検知した場所をインジケーターでお知らせします。

① メーター表示

② インジケーター

インジケーター色	警報音の間隔	障害物との距離	
		コーナーセンサー	センターセンサー
イエロー*	長い	—	フロント：約 80-60cm リヤ：約 110-70cm
オレンジ	短い	フロント：約 60-45cm リヤ：約 55-45cm	フロント：約 60-50cm リヤ：約 70-55cm
	非常に短い	フロント：約 45cm-35cm リヤ：約 45cm-35cm	フロント：約 50-35cm リヤ：約 55-45cm

インジケーター色	警報音の間隔	障害物との距離	
		コーナーセンサー	センターセンサー
レッド	連続	約 35cm 以下	フロント：約 35cm 以下 リヤ：約 45cm 以下

※：イエローのときは、センターセンサーのみが障害物を検知します。

警報音を一時的に OFF にするには、警報音がなっているときにレフトセレクターホールドを押してください。シフトポジションを切り替えるか 14km/h 以上で走行すると一時 OFF が解除されます。

パーキングセンサーの制限

次のようなときは、システムが正常に働かないことがあります。

- ・センサーが雪、氷、泥などで覆われているとき
- ・車両が高温または低温の状況にあるとき
- ・超音波や周波数の高い音を発するものが近くにあるとき
- ・雨・霧・雪など悪天候のとき

次のようなときは、システムが障害物を検知できないことがあります。

- ・障害物が細いとき、または低いとき
- ・雪、布、スponジなど吸音しやすい材質があるとき
- ・バンパーの真下に障害物があるとき

次のようなときは、システムが誤って障害物を検知することがあります。

- ・凸凹な路面や、草地、段差があるとき
- ・他の車両のソナーセンサーなど、超音波を発するものが付近にあるとき
- ・大雨などによりセンサー付近に水しぶきがかかったとき



センサーの近くにアクセサリーを取り付けないでください。

リヤセンサー や、その周囲にアクセサリー（自転車ラックなど）を取り付けた場合、アクセサリーを障害物として検知して踏み間違い衝突軽減システムが作動する恐れがありますので、リヤパーキングセンサーを OFF にしてください。

Q 時計*/車両設定 ▶ P.226

メーターについて

警告灯と表示灯

- 警告灯と表示灯一覧 208
警告灯が点灯/点滅したときは 209

メーター

- メーターの種類 215

マルチインフォメーションディスプレ

イ

- マルチインフォメーションディスプレイについて 219
表示について 219

警告灯と表示灯

警告灯と表示灯一覧

 <p>ブレーキ警告灯 (レッド) Q.P.210</p>	 <p>ブレーキシステム警告灯 (オレンジ) Q.P.210</p>	 <p>12Vバッテリー充電警告灯 Q.P.210</p>	 <p>シートベルト非着用警告灯 Q.P.210</p>	 <p>エアバッグシステム警告灯 Q.P.211</p>
 <p>パワーシステム警告灯 Q.P.211</p>	 <p>ABS (アンチロックブレーキシステム)警告灯 Q.P.211</p>	 <p>VSA (ビーコルスタビリティアシスト)警告灯 Q.P.211</p>	 <p>VSA OFF 警告灯 Q.P.211</p>	 <p>EPS (電動パワーステアリング)システム警告灯 Q.P.212</p>
 <p>パーキングセンサー警告灯 Q.P.212</p>	 <p>インフォメーション表示灯 Q.P.228</p>	 <p>トランスミッション警告灯 Q.P.212</p>	 <p>シフトポジション表示灯 Q.P.82</p>	 <p>オートマチックブレーキホールドシステム表示灯 Q.P.89</p>
 <p>オートマチックブレーキホールド表示灯 Q.P.89</p>	 <p>READY 表示灯 Q.P.80</p>	 <p>シングルペダルコントロール表示灯 Q.P.115</p>	 <p>急アクセル抑制機能表示灯* Q.P.167</p>	 <p>ECON モード表示灯 Q.P.117</p>
 <p>クルーズコントロール表示灯 (ホワイト/グリーン) Q.P.184</p>	 <p>方向指示器表示灯 Q.P.105</p>	 <p>非常点滅表示灯</p>	 <p>ライト点灯表示灯 Q.P.105</p>	 <p>オートハイビーム表示灯 Q.P.108</p>

*: タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

 <p>ハイビーム表示灯 Q. P.106</p>	 <p>※1 渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール(ACC) 警告灯(オレンジ) Q. P.212</p>	 <p>渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール(ACC) 表示灯(ホワイト/グリーン) Q. P.151</p>	 <p>※1 車線維持支援システム(LKAS) 警告灯(オレンジ) Q. P.212</p>	 <p>車線維持支援システム(LKAS) 表示灯(ホワイト/グリーン) Q. P.151</p>
 <p>衝突軽減ブレーキ(CMBS) 警告灯(オレンジ) Q. P.213</p>	 <p>衝突軽減ブレーキ(CMBS) 表示灯(グレー) Q. P.223</p>	 <p>※1 路外逸脱抑制機能警告灯(オレンジ) Q. P.213</p>	 <p>路外逸脱抑制機能表示灯(グレー) Q. P.223</p>	 <p>路外逸脱抑制機能操舵アシスト一時停止警告灯 Q. P.213</p>
 <p>※1 安全支援情報警告灯(オレンジ) Q. P.213</p>	 <p>安全支援情報表示灯(グリーン/グレー) Q. P.223</p>	 <p>※1 イモビライザーシステム表示灯 Q. P.47</p>	 <p>セキュリティアラームシステム作動表示灯 Q. P.47</p>	

※1: これらの警告灯と表示灯は、パワーモードをONモードにしたときに点灯し、パワーシステム起動後または、数秒後に消灯します。点灯しない場合や消灯しないときは、システム異常のおそれがありますので、取扱説明書の指示に従い対処してください。

警告灯が点灯/点滅したときは

警告灯は、車両状態に応じて点灯/点滅します。点灯/点滅と同時にメッセージが表示されることがあります。メッセージの内容に従いHonda販売店で点検を受けてください。

走行できないメッセージが表示されている場合は、ただちに安全な場所に停車し、Honda販売店にご連絡ください。



ブレーキ警告灯（レッド）

パーキングブレーキをかけると点灯

ブレーキフルード量が低下したときに点灯

» ただちに安全な場所に車を停めてください。

Q ボンネット内のメンテナンス項目 ▶ P.233

» ブレーキペダルを軽く踏んで、ペダルの圧力を確認してください。ブレーキペダルに抵抗がない場合は、回生ブレーキを用いて減速し安全な場所に車を停めてください。

ブレーキシステムが異常のときに点灯

» ブレーキの効きが弱くなることがありますので、ブレーキペダルをしっかりと踏んでください。

電子制御パーキングブレーキが異常のときに点滅

» パーキングブレーキを使用しないでください。

» パーキングブレーキが作動していない可能性があるため、車両が動き出さないように、シフトポジションを **P** にしてください。



ブレーキシステム警告灯（オレンジ）

ブレーキに関係するシステムが異常のときに点灯

電子制御パーキングブレーキシステム、オートマチックブレーキホールドシステムが異常のときに点灯

» パーキングブレーキを使用しないでください。



12V バッテリー充電警告灯

充電システムに異常があるときに点灯



シートベルト非着用警告灯

シートベルトを着用していないときに点灯もしくは点滅

» すみやかにシートベルトを正しく着用してください。

- リアシートはシートベルトを外すと点灯もしくは点滅し、しばらくすると消灯します。

- シートベルトを正しく着用していても警告灯が点灯もしくは点滅する場合は、センサーの誤検知などの要因が考えられるため、Honda 販売店に修理を依頼してください。
- 各シートの着用状況は、マルチインフォメーションディスプレイで確認することができます。

Q 表示の切り換えかた ▶P.219



エアバッグシステム警告灯

エアバッグシステム、シートベルトプリテンショナーシステムが異常のときに点灯

Q エアバッグについて ▶P.35



パワーシステム警告灯

パワーシステム、プラグイン充電システムが異常のときに点灯



ABS (アンチロックブレーキシステム) 警告灯

ABS が異常のときに点灯

- 点灯の場合でも通常のブレーキ機能としての性能は確保されていますが、ABS は作動しません。急ブレーキ時に車両が不安定になる可能性がありますので、高速走行や急ブレーキを避けてください。



VSA (ビーグルスタビリティアシスト) 警告灯

VSA が作動しているときは点滅

VSA システム、ヒルスタートアシストシステム、アジャイルハンドリングアシストのいずれかが異常のときに点灯

- 点灯の場合でも通常のブレーキ機能としての性能は確保されています。



VSA OFF 警告灯

VSA を OFF にしたときに点灯

○ VSA (ビーコルスタビリティアシスト) ▶P.118



EPS (電動パワーステアリング) システム警告灯

EPS システムが異常のときに点灯

» 安全な場所に停車し、パワーシステムを再起動してください。常時点灯する場合は、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。



パーキングセンサー警告灯

パーキングセンサーが障害物を検知したときに点滅

○ パーキングセンサーシステムについて ▶P.204



トランスマッision警告灯

トランスマッisionが異常のときに点滅

トランスマッisionの異常が発生し、シフトポジションを **P** にできないときに点滅
» 停車するときはパーキングブレーキをかけてください。

- 状況によっては、システムを起動できなことがあります。



渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール (ACC) 警告灯 (オレンジ)

渋滞追従機能付 ACC システムが異常のときに点灯

- カーゴスペースやリヤシートに重い荷物を積んで、車が傾いているときに点灯する場合があります。



車線維持支援システム (LKAS) 警告灯 (オレンジ)

LKAS が異常のときに点灯

» LKAS とトラフィックジャムアシスト (渋滞運転支援機能) は作動しません。

- カーゴスペースやリヤシートに重い荷物を積んで、車が傾いているときに点灯する場合があります。



衝突軽減ブレーキ (CMBS) 警告灯 (オレンジ)

CMBS が異常のときやカメラ付近のフロントガラスの汚れなどで機能停止しているときに点灯

- 安全支援情報警告灯 (オレンジ) が同時に点灯します。

Q 安全支援情報警告灯 (オレンジ) ▶P.213



路外逸脱抑制機能警告灯 (オレンジ)

路外逸脱抑制機能が異常のときやカメラ付近のフロントガラスの汚れなどで機能停止しているときに点灯

- 安全支援情報警告灯 (オレンジ) が同時に点灯します。

Q 安全支援情報警告灯 (オレンジ) ▶P.213



路外逸脱抑制機能操舵アシスト一時停止警告灯

路外逸脱抑制機能の操舵アシストが一時停止しているときに点灯

- Q 路外逸脱抑制機能について ▶P.170



安全支援情報警告灯 (オレンジ)

安全支援システムが異常のときに点灯

- Q 安全支援情報 ▶P.223

- カーゴスペースやリヤシートに重い荷物を積んで、車が傾いているときに点灯する場合があります。

パーキングセンサーが異常のときに点灯

※パーキングセンサー周辺に泥、氷、雪などの付着物がないか確認してください。

Q パーキングセンサーシステムについて ▶P.204

カメラの温度が高温になり、運転支援システムの一部が使用できなくなると点灯

Q フロントワイドビューカメラ ▶P.153

雨、霧、雪などの悪天候や、夜間やトンネル内、夜明け、夕暮れなど周囲が暗いときなどのカメラ視界不良により、運転支援システムの一部が使用できなくなると点灯

- カメラ付近に遮蔽物があるときにも点灯します。

Q フロントワイドビューカメラ ▶P.153

ソナーセンサーに遮蔽物があり、踏み間違い衝突軽減システムが使用できなくなると点灯

Q ソナーセンサー ▶P.154

Q 踏み間違い衝突軽減システムについて ▶P.162

メーター

メーターの種類



- ① 標識認識機能表示
- ② 渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール (ACC) / 車線維持支援システム (LKAS) / トラフィックジャムアシスト (渋滞運支援機能) 表示
- ③ スピードメーター
- ④ 航続可能距離表示
- ⑤ 高電圧バッテリー残量計
- ⑥ オドメーター
- ⑦ 時計
- ⑧ 外気温表示

スピードメーター

走行速度を表示します。

高電圧バッテリー残量計

高電圧バッテリー内の充電量を表示します。

- ・次のような場合は、高電圧バッテリー残量表示が下がることがあります。

⇒12V バッテリーを交換したとき

⇒12V バッテリーの端子を外したとき

⇒高電圧バッテリー制御システムが残量の誤差を補正したとき

- ・高電圧バッテリーの温度が変化すると、高電圧バッテリー残量計の表示が変化することがあります。

外気温表示

外気温を表示します。



外気温低下
路面凍結の
おそれがあります

パワーモードを ON モードにしたとき、外気温が 3°C 以下の場合は、外気温低下メッセージがホワイトで表示されます。

運転中に外気温が 3°C 以下に低下した場合は、外気温低下メッセージがオレンジで表示されます。

- ・温度センサーはフロントバンパー付近に付いています。
- ・速度がおよそ 30km/h 以下のときは、表示される温度が、自車、周囲の車、路面の熱の影響を受けることがあります。また、温度の読み取り値が安定するまで更新されないため、温度表示の更新に数分かかることがあります。



メーターに表示される温度を補正することができます。

Q 時計*/車両設定 ▶P.226

標識認識機能表示

走行中に認識した道路標識情報を表示します。

認識した最高速度の道路標識に対して、速度超過したときは点滅してお知らせします。

Q 標識認識機能について ▶P.201

渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール (ACC) / 車線維持支援システム (LKAS) / トラフィックジャムアシスト (渋滞運転支援機能) 表示

渋滞追従機能付 ACC/LKAS/トラフィックジャムアシストの現在の状態を表示します。

Q 渋滞追従機能付 ACC について ▶P.179

Q LKAS について ▶P.189

Q トラフィックジャムアシストについて ▶P.193

オドメーター

走行距離の累計を表示します。

マルチインフォメーションディスプレイで「シンプル」を選択しているときはオドメーターは表示されません。

Q 表示の切り換えかた ▶P.219

航続可能距離表示

高電圧バッテリー残量と平均電費をもとに推定航続可能距離を表示します。

- 表示される航続可能距離は、実際に航続可能な距離とは異なる場合があります。

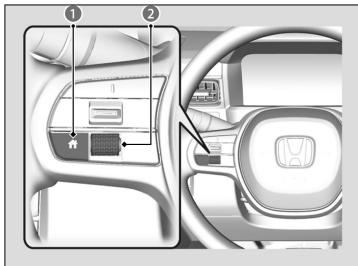
時計

時刻を表示します。

■ 時計設定

マルチインフォメーションディスプレイに「時計設定」が表示されない場合は、時計は人工衛星からの情報を利用していますので、時刻合わせは不要です。

その他の設定については、装備されているナビゲーションもしくはオーディオの取扱情報をご覧ください。



パワーモードがONモードでシフトポジションが**P**のときに、**Home**スイッチを押します。レフトセレクターホイールを回して表示を切り替え、レフトセレクターホイールを押して決定します。

① **Home**スイッチ

② レフトセレクターホイール

[1] マルチインフォメーションディスプレイの「時計/車両設定」を選択する。

○ 時計*/車両設定 ▶P.226

[2] レフトセレクターホイールで「時計設定」を表示させ、決定する。

[3] レフトセレクターホイールで「時刻調整」を表示させ、決定する。

⇒「時」の調整ができます。

[4] レフトセレクターホイールで希望の数値を表示させ、決定する。

⇒「時」が設定され、「分」の調整ができます。

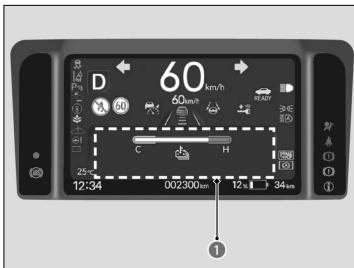
[5] レフトセレクターホイールで希望の数値を表示させ、決定する。

⇒「分」が設定されます。

・手順3で「時計表示」を選択すると12h/24hの切り替えができます。

マルチインフォメーションディスプレイ

マルチインフォメーションディスプレイについて



① マルチインフォメーションディスプレイ

マルチインフォメーションディスプレイは、車両状態などの表示や、異常を検知すると警告メッセージが表示されます。

警告メッセージが表示された場合は、メッセージの内容を確認して必要に応じて Honda 販売店にご連絡し、点検を受けてください。

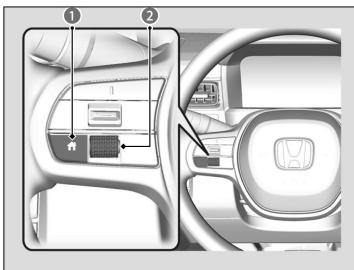
マルチインフォメーションディスプレイに「ブレーキ性能低下」または、「高電圧バッテリー熱異常」が表示した場合は、下記を参照してください。

Q 「ブレーキ性能低下」の警告メッセージが表示された ▶P.272

Q 「高電圧バッテリー熱異常」のメッセージが表示された ▶P.272

表示について

表示の切り換えかた



① スイッチを押し、レフトセレクターホイールを回すと表示が切り換わります。レフトセレクターホイールを押して決定してください。

- ① スイッチ
② レフトセレクターホイール

- 機能の表示/ 非表示をお好みに合わせて設定変更することができます。

Q メーター表示設定 ▶P.228

シンプル

シンプルモードを選ぶことで、メーター表示を必要最小限に設定することができます。

パワー/チャージ

モーター出力と高電圧バッテリーへの充電の状態を表示します。

パワーフロー

高電圧バッテリーからの電力の供給（ブルー）や、回生電力による充電（グリーン）を表示します。

航続可能距離

高電圧バッテリー残量と平均電費をもとに推定航続可能距離を表示します。ECONモードをONにした際や、エアコンをOFFにした際に増加する航続可能距離が表示されます。

Q ECONモード ▶P.117

Q オートエアコンの使用方法 ▶P.136

- 表示される航続可能距離は、実際に航続可能な距離とは異なる場合があります。

瞬間電費

瞬間電費をバーグラフで表示します。



① 瞬間電費

トリップメーター



リセットしてからの走行距離を表示します。レフトセレクターホイールを回すと、トリップメーターの A、B が切り換わります。トリップメーター A と、トリップメーター B があり、それぞれ独立して計測するため 2 つの走行距離を知ることができます。

- ① トリップメーター A
- ② トリップメーター B

- トリップメーターをリセットするには、リセットしたいトリップメーターが表示されている状態でレフトセレクターホイールを押し、「リセット」を選択してください。トリップメーターが 0.0 にリセットされます。また、平均電費、平均車速、経過時間も同時にリセットされます。
- トリップメーターは走行距離が 9999.9km を超えると、0.0km に戻ります。



トリップメーターを充電と連動させて自動的にリセットさせることができます。

○ 時計*/車両設定 ▶ P.226

平均電費

トリップメーター A、B と連動し、それぞれの平均電費を一定時間ごとに更新して表示します。

- 表示される平均電費は、実際に走行した電費とは異なる場合があります。
- 停車時または低速走行中にリセットした場合は、走行を始めてから電費の計算を開始します。

平均車速

トリップメーター A、B をリセットしてからの平均車速を表示します。

経過時間

トリップメーター A、B をリセットしてからの経過時間を表示します。

オーディオ*

オーディオの表示を行います。

- *: タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

ナビゲーションまたはオーディオの取扱情報をご覧ください。

電話*

ハンズフリー電話の表示を行います。

ナビゲーション*

■ コンパス

コンパスが表示されます。

■ 交差点案内表示

ナビゲーションシステムによるルート案内の際に、交差点や分岐点などで進路案内を表示します。



交差点案内表示の ON/OFF を設定することができます。

Q 時計*/車両設定 ▶ P.226

高電圧バッテリー温度計

高電圧バッテリーの温度を表示します。

- 高電圧バッテリーの温度は、外気温や走行条件、充電状況などにより変化します。

Q 高電圧システム・バッテリーについて ▶ P.14

Q 充電方法 ▶ P.99

全席シートベルト

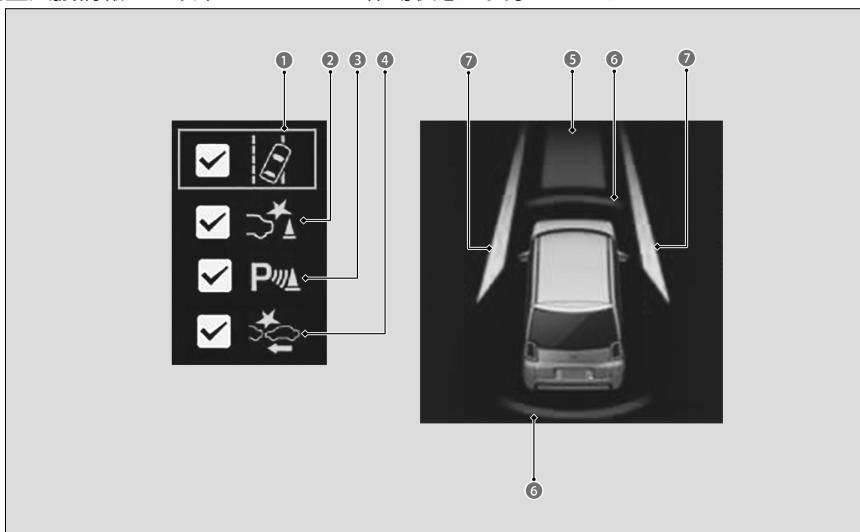
全席シートベルトの使用状況を表示します。

Q シートベルトリマインダー ▶ P.70

*: タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

安全支援情報

安全支援情報は、以下のシステムの作動状態を表示します。



- ① 路外逸脱抑制機能
- ② 踏み間違い衝突軽減システム
- ③ パーキングセンサー警報
- ④ 衝突軽減ブレーキ
- ⑤ 衝突軽減ブレーキ作動状態
- ⑥ パーキングセンサー警報作動状態/踏み間違い衝突軽減システム作動状態
- ⑦ 路外逸脱抑制機能作動状態

- 次の色は、上記システムの作動状態を示します。

- グリーン：作動中
- グレー：停止中
- オレンジ：システムが異常のとき

- 各機能の ON と OFF を切り換えるには、レフトセレクターホイールを回して機能を選択し、次にレフトセレクターホイールを押して ON/OFF を切り替えます。

Q 路外逸脱抑制機能について ▶P.170

Q CMBSについて ▶P.156

Q 踏み間違い衝突軽減システムについて ▶P.162

Q 歩行者事故低減ステアリングについて ▶P.175

Q パーキングセンサーシステムについて ▶P.204

- 歩行者事故低減ステアリングは、路外逸脱抑制機能が ON のときに作動します。

- すべての機能が ON のとき、⑧ 安全支援情報表示灯がグリーンで点灯します。いずれかが ON のときは、グリーン/グレーで点灯し、すべてが OFF のときはグレーで点灯します。

- 衝突軽減ブレーキが OFF のときは、 衝突軽減ブレーキ (CMBS) 表示灯 (グレー) も点灯し、路外逸脱抑制機能が OFF のときは、 路外逸脱抑制機能表示灯 (グレー) も点灯します。
 - オレンジで点灯したときは下記を参照してください。
- Q 衝突軽減ブレーキ (CMBS) 警告灯 (オレンジ) ▶P.213**
- Q 路外逸脱抑制機能警告灯 (オレンジ) ▶P.213**
- Q 路外逸脱抑制機能操舵アシスト一時停止警告灯 ▶P.213**
- Q 安全支援情報警告灯 (オレンジ) ▶P.213**
- 踏み間違い衝突軽減システムアイコンがグリーンのときでも、「リアパーキングセンサー警報設定」を OFF にしている場合は、後退時の踏み間違い衝突軽減システムは作動しません。
 - パーキングセンサーシステムアイコンがグリーンのときでも、「リアパーキングセンサー警報設定」を OFF にしている場合は、後方のパーキングセンサーシステムは作動しません。
- Q 時計*/車両設定 ▶P.226**

カレンダー

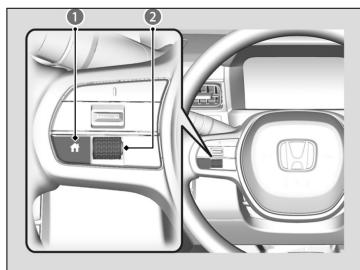
日付、時刻を表示します。

Q 時計 ▶P.218

- カレンダーの背景はランダムに表示します。
 - 背景の ON/OFF を選択することができます。
- Q 時計*/車両設定 ▶P.226**
- 誕生日や記念日を設定することができます。
- Q 時計*/車両設定 ▶P.226**
- 設定した日付にパワーモードを ON モードにするとメッセージを表示します。

■ 日付の調整

マルチインフォメーションディスプレイに「時計設定」が表示されない場合は、日付は人工衛星からの情報を利用していますので、日付合わせは不要です。



パワーモードがON モードでシフトポジションがPのときに、**①**スイッチを押します。
レフトセレクター ホイールを回して表示を切り替え、レフトセレクター ホイールを押して決定します。

① スイッチ

② レフトセレクター ホイール

[1] マルチインフォメーションディスプレイの「時計/車両設定」を選択する。

時計*/車両設定 ▶P.226

[2] レフトセレクター ホイールで「時計設定」を表示させ、決定する。

[3] レフトセレクター ホイールで「日付調整」を表示させ、決定する。

»「年」の調整ができます。

[4] レフトセレクター ホイールで希望の数値を表示させ、決定する。

»「年」が設定され、「月」の調整ができます。

[5] 手順4と同様の操作で「月」、「日」の調整をする。

明るさ設定

メーターの明るさ設定を表示します。

レフトセレクター ホイールを回して明るさ調整を行います。

・明るくする：レフトセレクター ホイールを上に回す

・暗くする：レフトセレクター ホイールを下に回す

レフトセレクター ホイールを押すと設定が完了します。

・車外の明るさに応じて、メーター内の照明の明るさが自動で変化します。

»周囲が暗いときは照明が暗くなる

»周囲が明るいときは照明が明るくなる

・周囲が明るいときも設定変更はできますが、画面の明るさが変わらないことがあります。

VSA モード設定

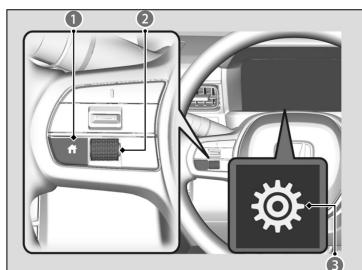
VSA の ON/OFF を選択することができます。

レフトセレクター ホイールを回して「TCS 制限モード」を選択し、押して ON と OFF を切り替えます。

Q VSA (ビーカルスタビリティアシスト) ▶P.118

時計* / 車両設定

■ 設定変更のしかた



パワーモードが ON モードでシフトポジションが **P** のときに、**①** スイッチを押し、レフトセレクター ホイールを回して、**②** を選択します。レフトセレクター ホイールを押したあと、レフトセレクター ホイールを回して、設定を変更したい項目を選択してください。

- ①** スイッチ
- ②** レフトセレクター ホイール
- ③** マルチインフォメーションディスプレイ

■ 設定項目

時計設定*

日付調整*

年、月、日

時刻調整*

時、分

時計表示*

24h、12h*¹、非表示

運転支援システム設定

衝突軽減ブレーキ(CMBS)警報距離

遠め、標準*¹、近め

ACC 先行車検知音

有り、無し*¹

先行車発進お知らせ設定

標準*¹、早め、OFF

*: タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

路外逸脱抑制機能設定

アシストタイミング早め、アシストタイミング標準^{※1}、アシストタイミング遅め、操舵アシストなし警報のみ

LKAS(車線維持支援システム)制御解除警報音

ON、OFF^{※1}

標識認識機能表示

ON^{※1}、OFF

標識認識機能速度超過お知らせ

ON^{※1}、OFF

標識認識機能速度超過量

+0km/h^{※1}、+5km/h、+10km/h、+15km/h

リアパーキングセンサー警報設定

ON^{※1}、OFF

メーター設定**外気温表示補正**

-3 ℃ ~ ±0 ℃^{※1} ~ +3 ℃

TRIP A 自動リセットタイミング

充電連動、IGN OFF 時、手動のみ^{※1}

TRIP B 自動リセットタイミング

充電連動、IGN OFF 時、手動のみ^{※1}

アラーム音量^{※2}

大、中^{※1}、小

交差点案内表示^{※2}

ON^{※1}、OFF

リアシートリマインダー^{※2}

ON^{※1}、OFF

❖: タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

航続距離変化通知^{※2}

ON^{※1}、OFF

タイヤ角度モニター^{※2}

ON^{※1}、OFF

カレンダー背景^{※2}

ON^{※1}、OFF

誕生日設定 1^{※2}

月、日

誕生日設定 2^{※2}

月、日

記念日設定 1^{※2}

月、日

記念日設定 2^{※2}

月、日

記念日設定 3^{※2}

月、日

Honda スマートキーシステム設定**アンサーバックブザー音量^{※2}**

大^{※1}、小

ドアハンドル操作アンサーバックブザー^{※2}

作動^{※1}、非作動

ライティング設定**オートハイビーム**

ON^{※1}、OFF

インテリアライト点灯時間^{※2}

60 秒、30 秒^{※1}、15 秒

デイタイムランニングライト^{※2}ON^{※1}、OFF**ワンタッチターンシグナル^{※2}**ON^{※1}、OFF**ドア設定****降車時オートドアロック^{※2}**作動、非作動^{※1}**キーレス アンサーバック^{※2}**作動^{※1}、非作動**オートリトラミラー格納^{※2}**キーレス連動^{※1}、手動のみ**初期化設定**

中止、実行

※1：工場出荷時の設定

※2：Honda スマートキーごとに設定を記憶することができます。

メーター表示設定

機能の表示/非表示をお好みに合わせて設定変更することができます。

- [1] 「メーター表示設定」の画面が表示されますので、レフトセレクターホイールを回す。
- [2] レフトセレクターホイールを回して表示または非表示にしたい機能を選択する。
- [3] レフトセレクターホイールを押して決定する。

※ チェックマークが入っている項目は表示され、入っていない項目は非表示になります。

- 文字色がグレーの機能を非表示にすることはできません。
- 設定変更するときはシフトポジションを **P** にしてください。

警告メッセージ

警告メッセージがある場合は、警告メッセージが表示されます。

- 複数のメッセージがある場合は、レフトセレクターホイールを回すとその他のメッセージが表示されます。
- 警告メッセージがある場合は、**①** インフォメーション表示灯が点灯します。

タイヤ角度モニター

以下のとき、車速が約 15km/h になるまで、ハンドルの回転量とタイヤの角度に合わせ、タイヤの向きを 7 段階で表示します。

- ハンドル角度が左右 90 度以上で、パワーモードを ON モードにしたとき
- ハンドル角度が左右 90 度以上で、シフトポジションを **D** にしたとき
- シフトポジションを **R** にしたとき

※: タイプやオプションなどにより、装備が異なります。



タイヤ角度モニターの ON/OFF を選択することができます。

Q、時計*/車両設定 ▶P.226

メンテナンス

メンテナンスの前に

メンテナンスについて	231
メンテナンス時の備品や場所に関する注意事項	232
メンテナンス時の車に関する注意事項	232

ボンネット内のメンテナンス

ボンネット内のメンテナンス項目	233
ボンネットの開閉方法	234
ウィンドウォッシャー液の補給方法	235

ワイパー

フロントワイパー・ブレードラバーの交換方法	236
リヤワイパー・ブレードラバーの交換方法	237

タイヤ

タイヤのメンテナンスについて	239
タイヤとホイールの交換について	241
冬期のタイヤ	242
タイヤのローテーション	242

エアコンのお手入れ

エアクリーンフィルターの交換方法	244
------------------	-----

清掃

車内の清掃方法	245
車外の清掃方法	247

メンテナンスの前に

メンテナンスについて

道路運送車両法により、定期点検（法定点検）と日常点検が義務づけられています。正しい点検整備で、車を安全・快適にお使いください。

普段と違う点（音、におい、ブレーキフルードの不足、地面に油のあとが残っているなど）に気づいたら、Honda 販売店で点検を受けてください。

メンテナンスを行う際は、メンテナンスノートと下記の安全に関する注意事項をよくお読みのうえ、安全を確保して行ってください。

お客さま自身でメンテナンスを実施したときは、メンテナンス点検整備記録簿のメンテナンスレコードに記録してください。

■ 定期点検（法定点検）

12か月および24か月ごとに実施する点検です。法律で定められているものと、Honda が指定するものがあります。

■ 日常点検

長距離走行前や洗車・充電時などに、お客様自身の判断で行う点検です。

■ その他

新車時の無料点検や定期交換、厳しい使われかたをしたときの点検整備があります。

- 作業に不慣れな場合や難しい場合は、Honda 販売店にご相談ください。

⚠ 警告

適切なメンテナンスを行い、走行前に故障がないようにする。

走行時に故障がある状態や、適切なメンテナンスがなされていないと、重大な傷害や死亡に至る事故を引き起こす可能性があります。必ず、取扱説明書に記載されている点検とメンテナンスに関する注意事項や別冊のメンテナンスノートに記載の点検時期を守ってください。

メンテナンスは、指示と注意事項を守って行う。

メンテナンスの指示と注意事項を守らないと重大な傷害や死亡のおそれがあります。

メンテナンス時の備品や場所に関する注意事項

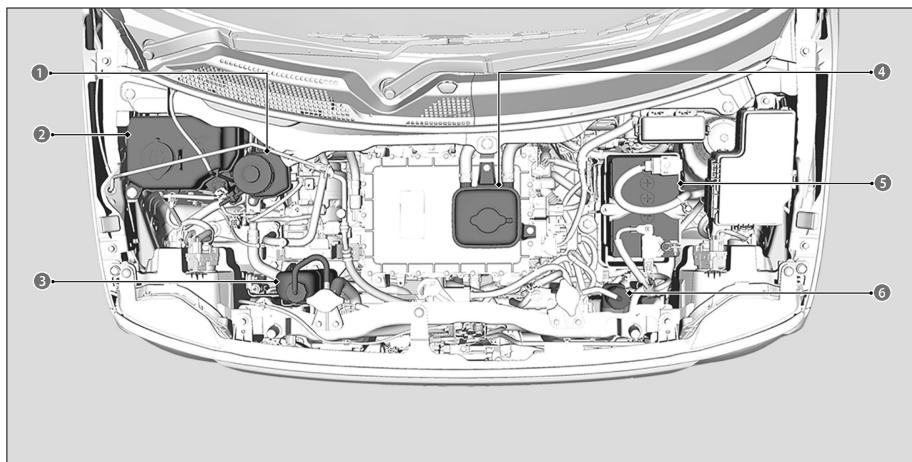
- タバコの火、火花、炎を引火性の液体やガスから遠ざけているか
- タオルや可燃物をボンネット内に置き忘れていないか
⇒火災や爆発などの思わぬ事故につながるおそれがあります。

メンテナンス時の車に関する注意事項

- 冷却ファンが止まっているか
⇒車両の状態によっては、パワーモードを OFF モードにしていても冷却ファンが作動することがあります。ボンネット内を点検するときは、冷却ファンに手や衣類が巻き込まれないように注意してください。
- ボンネット内の部品が十分に冷えているか
⇒ボンネット内の部品には高温になるものがあり、やけどをするおそれがあります。
- パワーモードを OFF モードにしているか
⇒パワーモードを ON モードにしていると、可動部品によってけがをするおそれがあります。
- メンテナンスサービスを受けるときは、Honda 純正部品やオイル類を使用することをおすすめします。Honda 純正部品は、車で使われている部品と同じ高品質の基準に基づいて製造されているため、性能と耐久性の面で安心です。

ボンネット内のメンテナンス

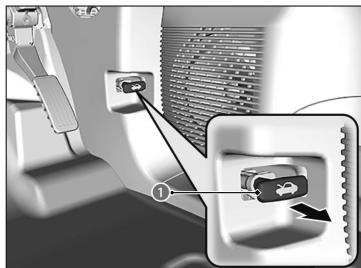
ボンネット内のメンテナンス項目



- ① ブレーキフルードリザーブタンク*
- ② ウィンドウォッシャー液注入口
- ③ 高電圧システム冷却水タンク A*
- ④ エアコン冷却水タンク*
- ⑤ 12V バッテリー*
- ⑥ 高電圧システム冷却水タンク B*

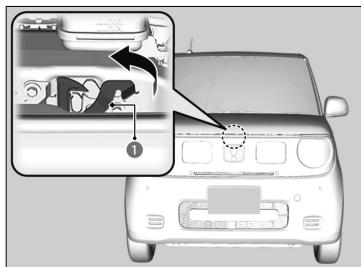
※: 点検整備については、メンテナンスノートをご覧ください。

ボンネットの開閉方法



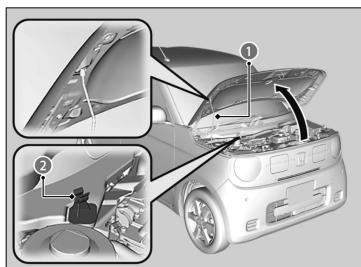
- [1] ボンネット解除ノブを引く。
⇒ ボンネットが少し浮き上がります。

① ボンネット解除ノブ



- [2] ボンネット中央のレバーを左に押し、ボンネットを開ける。

① レバー



- [3] ステーを持って、クランプから取り外し、ボンネットにかける。

① ステー

② クランプ

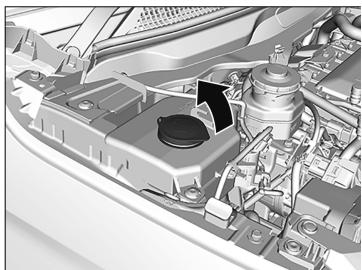
- ・車を停め、パーキングブレーキをかけた状態で作業してください。
- ・ボンネットを閉める場合は、約 30cm の高さから手を離して閉めてください。
- ・ボンネットを閉めたときは、ボンネットが確実にロックされていることを確認してください。

⚠ 注意

ボンネットを閉めるときは、手などをはさまないように注意する。

- ! ワイパー アームを起こした状態で、ボンネットを開けないでください。
ボンネットがワイパーに当たり、ボンネットやワイパーが損傷するおそれがあります。

ウィンドウォッシャー液の補給方法



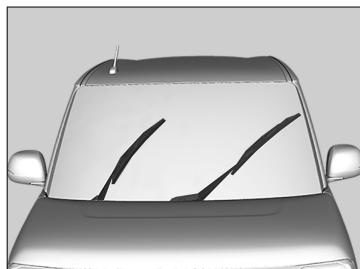
ウォッシャー液が減っていた場合は、ウォッシャー液を補給してください。

- ・ウォッシャー液以外の液体を、タンクに入れないでください。
- ・ウォッシャー液は必要に応じて水（軟水）で薄めてください。
- ・冬期はウォッシャー液の凍結を防ぐため、ウォッシャー液の濃度を上げてください。

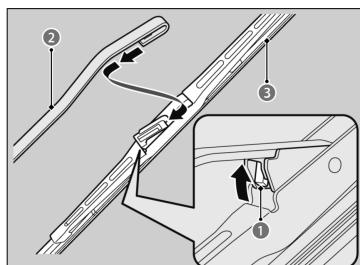
ワイパー

フロントワイパープレードラバーの交換方法

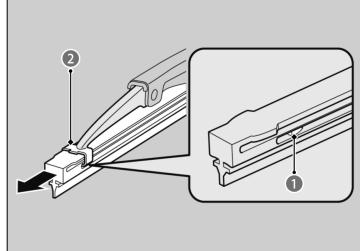
ウィンドーガラスに拭きムラがでたり、傷ついたりする場合は、ワイパープレードラバーを交換してください。



[1] 運転席側、助手席側の順にワイパーアームを起こす。

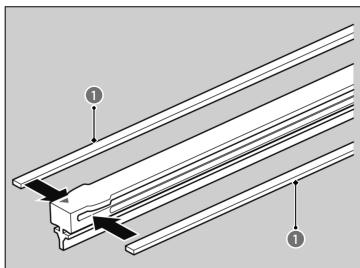


[2] ノブを押し上げながら、ワイパーアームからブレードをスライドさせて外す。



[3] ラバーのストッパーがブレードのツメから外れるまで引き、そのままラバーをブレードから引き抜く。

①ストッパー
②ツメ

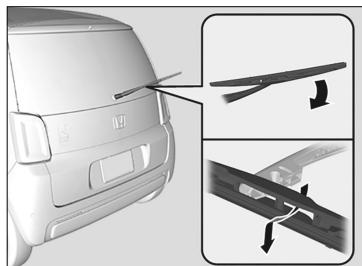


- [4] 引き抜いたラバーからリテナーを外し、新しいラバーに取り付ける。
- [5] ラバーをブレードの端から差し込む。
※正しく固定されているか確認してください。その後、ブレードをワイパーームに取り付けます。
- [6] ワイパーームを戻すときは、助手席側、運転席側の順に戻してください。

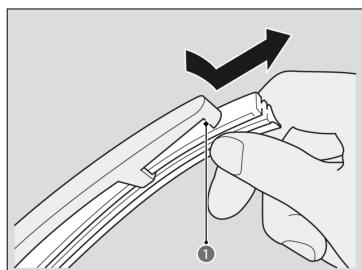
① リテナー

- ・ ラバーの突起部がブレード先端の溝に挿入されるまで差し込んでください。
- ・ 交換後は、ワイパーームを戻してください。
- ・ ブレードをワイパーームに取り付けた後、正しく固定されているか確認してください。
- ・ ブレードを外した状態でワイパーームが倒れると、ガラスが損傷するおそれがあります。
- ・ ワイパーームを起した状態でボンネットを開けたりワイパーを作動させたりすると、ボンネットとワイパーームを損傷します。

リヤワイパー ブレード ラバーの交換方法

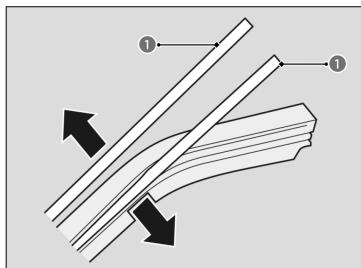


- [1] ワイパーームを起す。
- [2] ブレードを回転させ、アームのホルダー部からブレードを引き抜いて取り外す。



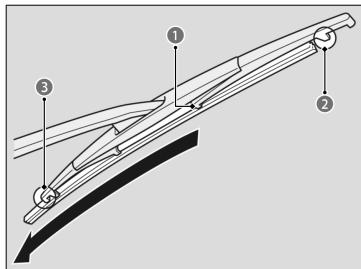
- [3] ラバーを引いて先端部をブレードのストップーから外す。
- [4] ラバーをブレードから引き抜く。

① ストップー



[5] 引き抜いたラバーからリテナーを外し、新しいラバーに取り付ける。

① リテナー

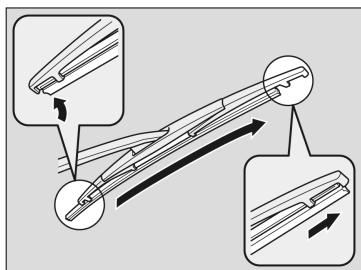


[6] ラバーをブレードの2番目のツメからブレードに沿って差し込み、ラバーをブレードのストッパーから約2cm引き出す。

① 2番目のツメ

② 先端のツメ

③ スッパー



[7] ブレードの先端のツメにラバーを通す。

[8] ブレードの先端のストッパーにラバーを戻して固定する。

- ブレードを外した状態でワイパーームが倒れると、ガラスが損傷するおそれがあります。
- ワイパーームを無理に持ち上げようすると、ワイパーームが破損するおそれがあります。

タイヤ

タイヤのメンテナンスについて

タイヤが摩耗・損傷していたり、適正な空気圧でないと、安全な走行ができないばかりか乗り心地も損なわれます。以下の条件を満たすために点検を行い、常にタイヤを最適な状態に保ってください。

△警告

摩耗が激しいタイヤ、空気圧が適正でないタイヤを使用しない。

不適切なタイヤを使用すると、重大な傷害や死亡に至る事故につながるおそれがあります。

安全な走行のために求められるタイヤの条件

- ・種類とサイズが適正であること
- ・接地面の状態が良好であること
- ・空気圧が適正であること
- ・摩耗、傷、亀裂、異物などがないこと

日常点検

乗車前に必ず行う点検です。状況によってはメンテナンスをしてください。

- ・タイヤがつぶれているように見えないか
⇒つぶれているように見えたら、すぐに空気圧をチェックしてください。
- ・激しい摩耗、傷、亀裂、異物はないか
⇒状況に応じて、タイヤを交換してください。

空気圧測定器による点検

すべてのタイヤの空気圧を測定してください。空気圧が下がっている場合は、パンクを入念に調べます。

タイヤの指定空気圧は、運転席横の車体に貼ってあるラベル、もしくは下記を参照してください。

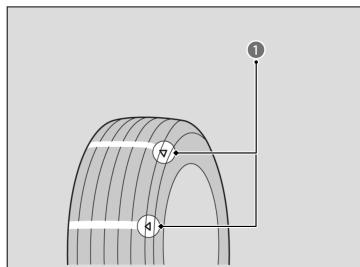
Q 仕様について ▶P.287

- ・タイヤの空気圧は、タイヤ温度が低いときに測定してください。空気圧の調整が必要な場合は、指定空気圧になるまで空気を注入または排出してください。

損傷、異物、摩耗の点検

- ・ タイヤの接地面と側面の突起、膨らみが正常か
» 异常が見られた場合は、タイヤを交換する必要があります。
- ・ タイヤ側面に、裂け目、亀裂がないか
» 裂け目や亀裂がある場合は、タイヤを交換する必要があります。
- ・ 接地面とウェアインジケーター*が同じ高さになっていないか
» 接地面が摩耗して、ウェアインジケーターと同じ高さになったら、タイヤを交換する必要があります。

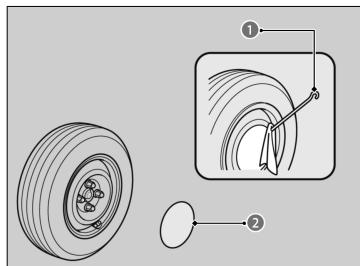
*: ウェアインジケーター (摩耗限界表示)



ウェアインジケーターはタイヤの接地面にあり、他の部分より溝が 1.6mm 浅くなっています。

- ① ウェアインジケーターの位置**
を示すマークの代表例

ホイールカバー*の脱着方法



ジャッキハンドルバー (別売り) または先端が平らな固い金属の棒の先を切り欠き溝に差し込み、タイヤ側にこじってホイールカバーを外す。

» ホイールカバーが傷付かないよう、ジャッキハンドルバーまたは先端が平らな固い金属の棒に布などを巻き付けてください。

» 場所を変えて 2、3 力所繰り返すと楽に外れます。

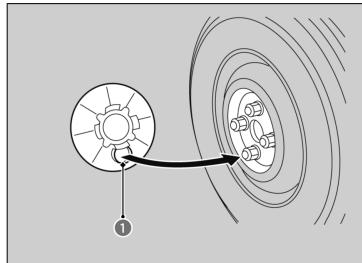
- ① ジャッキハンドルバー (別売り)**
② ホイールカバー

*: タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

△注意

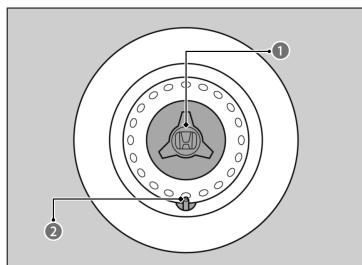
ホイールカバーを取り外すときは、手などをはさまないように十分注意する。

ホイールカバーを取り付ける前に、裏面の爪がリングに正しく組み付いていることを確認してください。正しく組み付いてないとホイールカバーが外れる原因となります。また、爪が折れているときはホイールカバーを取り付けないでください。



ホイールカバーを取り付けるときは、ホイールカバー裏側の位置決め部の中にホイールナットが収まるように合わせて押し込んで下さい。

① 位置決め部



ホイールカバーのホンダマーク下にタイヤバルブがくるように組み付けると、位置決め部がホイールナットに収まる位置となります。

- ① ホンダマーク
- ② タイヤバルブ

タイヤとホイールの交換について

タイヤは、四輪とも指定サイズ、同一種類、同一銘柄および摩耗差のないタイヤをください。

同時にすべての4つのタイヤを交換することをお勧めします。それができない場合は、前輪または後輪タイヤの左右を一緒に交換してください。

ホイールの仕様が純正ホイールと同一のものか確認してください。

⚠ 警告

必ず、サイズと種類が適切なタイヤを使用する。

不適切なタイヤを使用すると、重大な傷害や死亡に至る事故につながるおそれがあります。

冬期のタイヤ

雪道や凍結した道路を走行する場合は、スノータイヤを装着し、速度を落として十分に車間距離をとって運転してください。また、横滑りの原因となりますのでハンドルやブレーキの操作は、特に慎重に行ってください。

スノータイヤおよびタイヤチェーンは、走行条件や法令により装着が必要とされた場合に使用します。

■ スノータイヤを装着する場合

四輪とも同じ種類、指定サイズのタイヤを選び、四輪すべてにスノータイヤを装着してください。

■ タイヤチェーンの場合

Honda 純正スチールチェーンを付属の取扱説明書にしたがって前輪に装着し、ブレーキラインやサスペンションと接触していないか確認してください。

また、チェーン装着時は 30km/h 以下でゆっくりと走行してください。



タイヤサイズに適合したチェーンを装着してください。

サイズが不適切なチェーンを装着したり、装着のしかたが不適切だと、車のブレーキライン、サスペンション、ボディー、ホイールを損傷するおそれがあります。

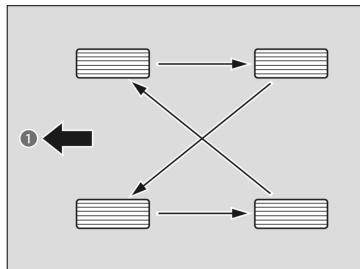


乾燥路面ではタイヤチェーンを装着したまま走行するのは避けてください。タイヤチェーンの摩耗を早めます。

タイヤのローテーション

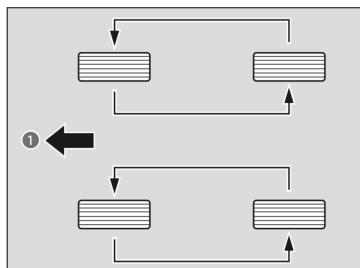
特定のタイヤが摩耗するのを防ぐために、5,000km 走行したときタイヤローテーションをしてください。

■ 回転指示マークがないタイヤの場合



① 前

■ 回転指示マークがあるタイヤの場合



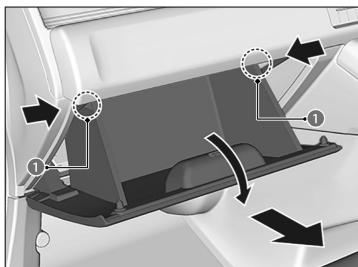
① 前

- 回転指示マークが前へ向くようにタイヤをローテーションさせます。
標準で装着されているタイヤのホイールナット締め付けトルクは $108\text{N}\cdot\text{m}$ ($11\text{kgf}\cdot\text{m}$) です。

エアコンのお手入れ

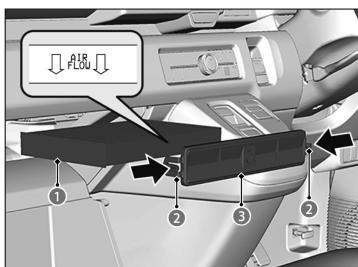
エアクリーンフィルターの交換方法

エアクリーンフィルターは、通常1年または15,000kmごとに交換してください。また、エアコンの風量が著しく減少したり、ガラスが曇りやすくなったと感じる場合は、フィルターを交換してください。



- [1] グローブボックスを開ける。
- [2] グローブボックスの両側に付いているストッパーを下ろし、引き抜く。

①ストッパー



- [3] 左右にあるツメを押しながら、エアクリーンフィルターケースのカバーを外す。
- [4] エアクリーンフィルターを引き出す。
- [5] 新品と交換する。
⇒「AIR FLOW」マークの矢印が、下向きになるように取り付けます。

①エアクリーンフィルター

②ツメ

③カバー

清掃

車内の清掃方法

内装の清掃は、掃除機で塵やほこりを取り除いてから汚れを落としてください。ぬるま湯に中性洗剤を溶かしたものを柔らかい布に軽く含ませ、固く絞って汚れを落とします。その後、真水を含ませたきれいな布で、洗剤分をきれいに落としてください。

- !
室内に水をかけないでください。
室内の部品に水がかかると故障や、さびの原因となります。

- !
オーディオ、スイッチなどの電装品にシリコン系のスプレーを塗布しないでください。
故障や車両火災の原因となるおそれがあります。万一、電装品にシリコン系のスプレーを塗布したときは、Honda 販売店にご相談ください。

- !
ベンジン、ガソリンなどの有機溶剤、酸、アルカリ性の溶剤は使用しないでください。
ケミカル類、液体芳香剤は成分により、樹脂部品、布材の変色、しみ、ひび割れなどを起こすおそれがあります。

- !
ケミカル類を使用したあとは、必ず乾いた布で軽く拭き取り、使用した布をそのまま樹脂部品、布材の上に長時間放置しないでください。

■ シートベルトの清掃

ぬるま湯に中性洗剤を溶かしたものをブラシにつけて清掃し、その後空気乾燥させます。

■ ガラスの清掃

ガラスクリーナーなどで拭いてください。
前席ウィンドー（ドアガラス）の車内側にUVカット膜やIRカット膜がコーティングしてあります。水またはぬるま湯を含ませた布などで汚れを拭き取ってください。

!
リヤガラスは、ガラスの内側に電熱線が装着されています。傷付けないよう、これに沿って柔らかい布で拭いてください。

!
UVカット膜やIRカット膜を長持ちさせるために次のことをお守りください。
 • 汚れがひどいときは、開閉をなるべく行わない
 • みがき粉（コンパウンド）入りガラスクリーナーやワックス、洗剤等は使わない

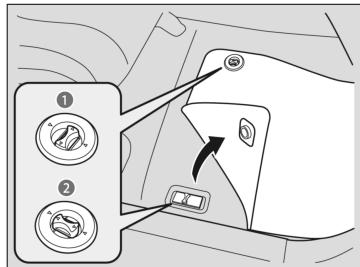
!
ルームミラー周辺にある電子機器のカバーや周辺に水やガラスクリーナーなどの液体がかからないようにしてください。

■ フロアマット

運転席のフロアマットが前方にずれるのを防止するため、フロアアンカーで確実に固定してください。

フロアマットの上に、他のフロアマットを重ねないでください。

フロアマット固定方法（例）



- ① 解錠
② 固定

!
他のフロアマットをご使用の際は、フロアアンカーでしっかりと固定できるものをご使用ください。
後席のフロアマットを使用する際は、正しく取り付けてください。

車外の清掃方法

走行後は、塗装面に付着したほこりなどを毛はたきなどで払い落としてください。飛び石などによる塗装面の傷は鏽の原因になります。見つけたら早めに補修してください。

■ 洗車

月に一度は洗車をするようにしてください。以下の場合は、必ず洗車をしてください。

- ・凍結防止剤を散布した道路を走行したとき
- ・海岸地帯を走行したとき
- ・コールタール、ばい煙、鳥のふん、虫、樹液などが付いたとき
- ・故障の原因になるため、故意に空気取り入れ口に水をかけないでください。
- ・洗車時に水やケミカル類がブレーキに付着した際は、走行してブレーキを数回かけてから駐車してください。ブレーキが濡れたまま駐車しておくと、鏽びて張り付くことがあります。
- ・洗車するときは、運転席ドア（普通充電リッド）を施錠してください。普通充電リッド付近に水をかけると普通充電リッドが勢いよく開いて、車体に傷を付けるおそれがあります。

■ 高圧洗浄機を使用する場合の注意点

- ・洗車ノズルと車体の距離を十分に離す
- ・ドアガラスやドアまわりなど開閉部分を近づけすぎない
⇒ 室内に水が入ることがあります。
- ・ボンネット内には水をかけない
- ・充電口/給電口に直接水をかけないでください。
- ・カメラ*やカメラ周辺には、直接水をかけない
⇒ レンズ内に水が入り、故障の原因となります。
- ・塗装面に細かい傷が残ることがあるため、みがき粉（コンパウンド）入りのワックスは、使わないでください。ワックスはHonda純正ケミカル用品をお使いください。

■ バンパーなどの樹脂塗装部品の清掃

樹脂塗装部品に、ガソリン、オイル、ラジエーター液、12Vバッテリー液などが付着するとしみや塗膜はがれの原因となります。付着した場合は、すぐに柔らかい布で拭き取ってください。

- ・樹脂塗装部品の補修をする場合は、Honda販売店にご相談ください。不適当な塗料を使うと塗膜を傷めます。

*: タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

■ ガラスの清掃

ガラスクリーナーなどで拭いてください。

■ アルミホイール^{*}の清掃

アルミは塩分や汚れを嫌います。道路凍結防止剤や海水が付いたときは、柔らかい布やスポンジに中性洗剤を含ませ汚れを早めに落としてください。洗車後は、水が乾かないうちに拭きとってください。



この車専用のホイールをお使いください。

専用以外のホイールを使うと、走行装置やブレーキ装置に支障をきたすおそれがあります。ホイール交換は、Honda販売店にご相談ください。

^{*}: タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

万一の場合には

工具、発炎筒

工具の種類	250
発炎筒	250

電球が切れたとき

LED 車外灯について	252
電球の交換方法	252

スマートキーの電池が切れたとき

スマートキーの電池交換方法	254
---------------	-----

パンクしたとき

パンクしたときの対処方法	256
タイヤの応急修理方法	258
空気圧の補充方法	262

ジャッキの取り扱い

ジャッキのかけかた	264
-----------	-----

パワーシステムが起動しないとき

確認事項	266
スマートキーの電池が切れたときの起動方法	267
緊急時のパワーシステム停止方法	267
緊急時のパワーシステム起動方法	267

12 V バッテリーがあがつたとき

ジャンプスタートの方法	269
ジャンプスタート後の作業	270

異常がおきたとき

「ブレーキ性能低下」の警告メッセージが表示された	272
「高電圧バッテリー熱異常」のメッセージが表示された	272

ヒューズが切れたとき

ヒューズの確認方法	274
ヒューズの点検と交換方法	278

けん引したいとき

けん引について	280
---------	-----

充電用リッドが開かないとき

充電リッドが開かないときの対処方法	281
-------------------	-----

テールゲートが開かないとき

テールゲートが開かないときの対処方法	282
--------------------	-----

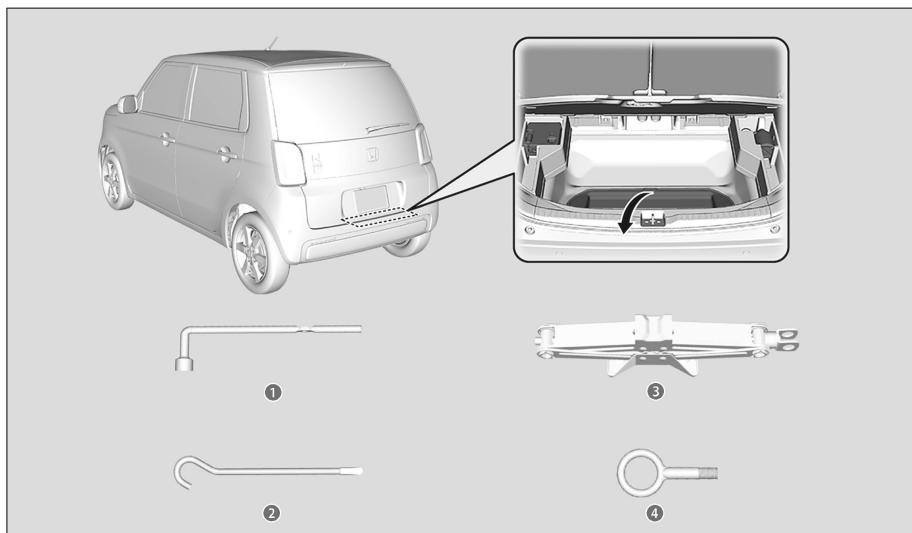
緊急時や車両トラブルのとき*

緊急通報	283
トラブルサポート	284

*: タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

工具、発炎筒

工具の種類



- ① ホイールナットレンチ（兼ジャッキハンドル）（別売り）
- ② ジャッキハンドルバー（別売り）
- ③ ジャッキ（別売り）
- ④ アイボルト

工具はカーゴスペース内に収納できます。

発炎筒

高速道路や踏切などの危険な場所で故障したときに使います。発炎筒に記載されている次のことをよく読んであらかじめ確認しておいてください。

- ・使い方
- ・使用上の注意
- ・発炎時間
- ・有効期限

⚠ 警告

ガソリンなどの燃えやすいもののそばで使わない。

火災や爆発のおそれがあります。

⚠ 注意

発炎筒を使うときは、以下のことについて注意する。

- ・お子さまにさわらせないでください。いたずらなどにより発炎筒が発火して思わぬ事故ややけどの原因になります。
- ・顔や身体に向けないでください。思わぬ事故ややけどの原因になります。
- ・トンネル内では視界を悪くするので使用しないでください。トンネル内では非常点滅表示灯を使ってください。

電球が切れたとき

LED 車外灯について

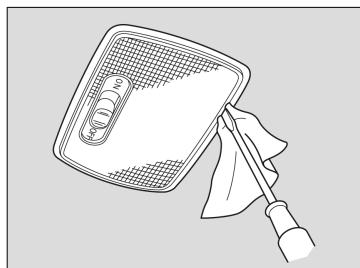
下記のライトは LED を使用しています。点検、交換は Honda 販売店に依頼してください。

- ・ヘッドライト
- ・前面方向指示器/ 前面非常点滅表示灯
- ・デイタイムランニングライト/ 車幅灯
- ・側面方向指示器/ 側面非常点滅表示灯
- ・制動灯
- ・尾灯
- ・番号灯
- ・充電口照明
- ・ハイマウントストップランプ
- ・後面方向指示器/ 後面非常点滅表示灯
- ・後退灯

電球の交換方法

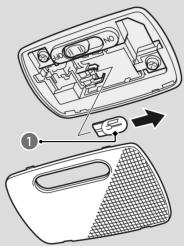
■ 室内灯*

交換する場合は、「12V – 8W」の電球をご使用ください。



- [1] ランプ本体にマイナスドライバーの先端を差し込み、押し開ける。

*: タイプやオプションなどにより、装備が異なります。



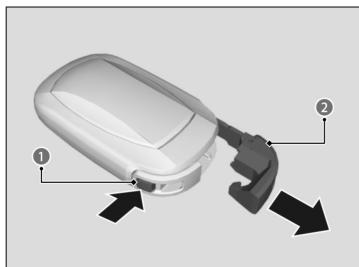
[2] 古い電球 (①) を抜き取り、新しい電球を差し込む。

- ランプが傷付かないよう、ドライバーに布などを巻き付けてください。

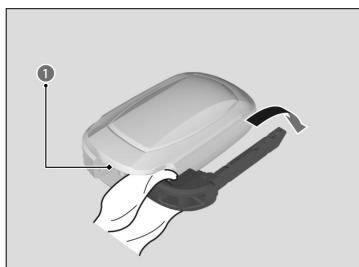
スマートキーの電池が切れたとき

スマートキーの電池交換方法

ボタンを押したときにインジケーターが点灯しない場合は、電池を交換してください。

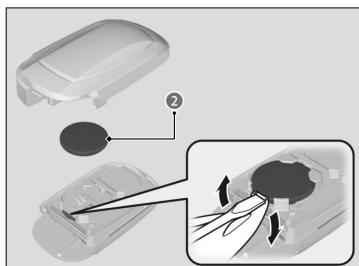


[1] ボタン (1) を押しながら、内蔵キー (2) を取り出す。



[2] ボタンを下にしてカバー (1) を外す。
⇒内蔵キーのグリップを差し込んで回します。

[3] + と- を間違えないよう、電池* (2) を交換する。



※電池は「ボタン電池：CR2032」をご使用ください。

- 電池交換の際は、破損などのおそれがあるため、Honda 販売店での交換をおすすめします。
- カバーに傷が付かないように、内蔵キーのグリップに布などを巻いてカバーを取り外してください。
- ケースに傷が付かないように、マイナスドライバーに布などを巻いて電池を取り外してください。

- 電池交換の際は、カバーを確実に取り付けてください。確実に取り付けられていないと、耐水性能の低下や故障の原因となります。
- 電池は Honda 販売店または時計店、カメラ店などでお求めください。

⚠ 警告

ボタン電池は、お子さまが飲み込まないように注意する。

重大な傷害を受けたり死亡したりするおそれがあります。飲み込んだ時は、ただちに医師の診察を受けてください。

パンクしたとき

パンクしたときの対処方法

スペアタイヤの装備はありません。タイヤの損傷が激しい場合は、乗り物をけん引する必要があります。単にタイヤに小さな穴がある場合、永久的な修理をするために最寄りの販売店へ運転することができるよう、損傷を一時的に補修するタイヤパンク応急修理キットで応急修理ができます。

■ 車の停車方法

パンクしたときは、ハンドルをしっかりと握り徐々にブレーキをかけてスピードを落とし安全な場所に停車してください。

- [1] 地面が固く、滑らない、水平なところに車を停める。
- [2] シフトポジションを[P]に入れ、パーキングブレーキをかける。
- [3] 非常点滅表示灯を点滅させ、パワーモードをOFFモードにする。

! 以下のような場合、タイヤパンク応急修理キットは使用できません。
Honda 販売店またはロードサービスにご連絡ください。

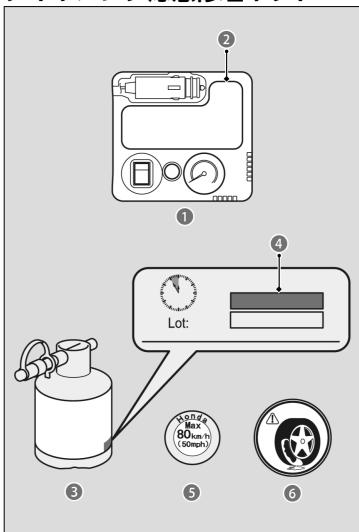
- 応急修理剤の有効期限が切れているとき
- タイヤが2本以上パンクしているとき
- 約4mm以上の切り傷や刺し傷によるパンクのとき
- 路面接地部以外が損傷を受けパンクしたとき
- ほとんど空気が抜けた状態で走行したとき
- ホイールが破損または外れているとき

! タイヤに刺さったクギなどは抜かないでください。
抜いてしまうと、タイヤパンクの応急修理キットでは応急修理が不可能になるおそれがあります。

! 応急修理したタイヤで走行し続けないでください。
応急修理は、最寄りの販売店で本格的な修理をするために車両を移動する目的以外では使用しないでください。

タイヤの応急修理方法（事前準備）

タイヤパンク応急修理キット



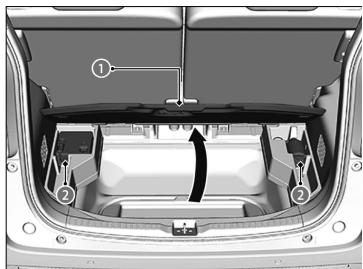
- ① エアコンプレッサー
- ② ラベル
- ③ タイヤパンク応急修理剤
- ④ 有効期限年月 MM／YYYY
(M:月、Y:年)
- ⑤ 速度制限シール
- ⑥ タイヤパンク応急修理剤注入済みシール

- 応急修理をスムーズに行うため、タイヤパンク応急修理キットに付属のラベルをお読みください。



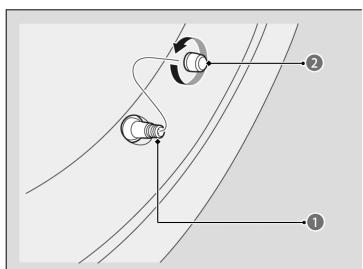
- コンプレッサーを使用する際は、以下の点に注意してください。
- 降雨時などは水がかからないようにしてください。
- 砂埃などを吸い込むと故障の原因になるため砂地など砂埃の多い場所に直接置いて使用しないでください。
- オイルや潤滑油などを注油しないでください。
- 分解、改造などは絶対にしないでください。
- 衝撃を与えないでください。故障の原因になります。

タイヤパンク応急修理キットの取り出し方

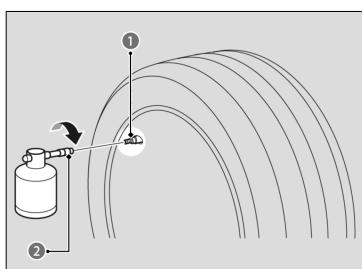


- [1] カーゴリッド (1) を開ける。
- [2] タイヤパンク応急修理キット (2) を取り出します。

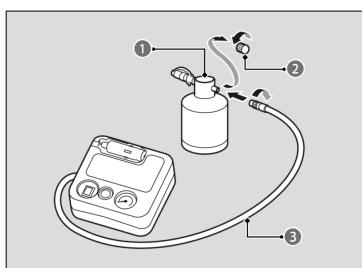
タイヤの応急修理方法



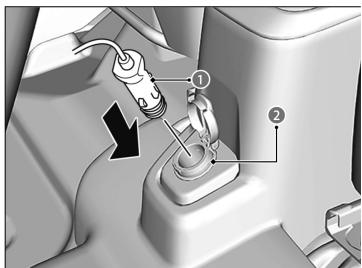
- [1] バルブ (1) からバルブキャップ (2) を取り外す。



- [2] 応急修理剤のボトルをよく振る。
- [3] タイヤのバルブ (1) にボトルホース (2) をきつく締め付ける。
⇒応急修理剤がすべてタイヤに流れ込むようにボトルを垂直にする。



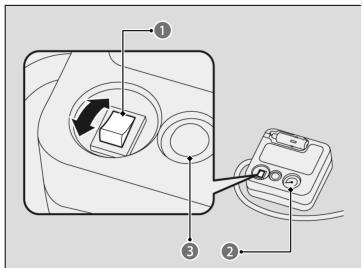
- [4] ボトルアダプター (1) からボトルキャップ (2) を外す。
- [5] ボトルアダプター (1) にエアコンプレッサーのコンプレッサー ホース (3) をきつく締め付ける。



- [6] エアコンプレッサーの電源コードのプラグ (1) を、アクセサリーソケット (2) に差し込む。

○ アクセサリーソケット ▶ P.124

- [7] パワーシステムを起動する。



- [8] エアコンプレッサーのスイッチ (1) を ON にして、空気圧を、運転席横の車体に貼ってあるラベルに記載されている指定空気圧まで高める。

» エアコンプレッサーはタイヤに応急修理剤とエアを注入し始めます。

- [9] 指定の空気圧に達したら、エアコンプレッサーのスイッチ (1) を OFF にする。

» コンプレッサーの空気圧計 (2) を確認してください。

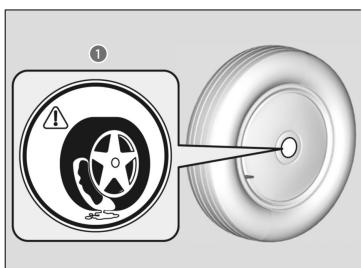
» 空気を入れすぎたときは、減圧ボタン (3) を押して空気を抜きます。応急修理剤のふきこぼれに注意してください。

- [10] エアコンプレッサーの電源コードのプラグを、アクセサリーソケットから外す。

» 使用直後は電源プラグ先端が熱くなるため、素手で触らないように注意してください。

- [11] タイヤバルブからボトルホースを外しバルブキャップを取り付ける。

» ボトルホースを外すときは応急修理剤のふきこぼれに注意してください。ふきこぼれた修理剤は、布などで拭き取ってください。



- [12] 修理が完了したタイヤに、タイヤパンク応急修理剤注入済みシール (1) を貼る。

» ホイールの平らな部分に貼ってください。

- [13] キットを車両に戻す。

- 応急修理剤を注入しているときはパワーシステムを停止しないでください。

7 万一の場合には 〉 パンクしたとき

- 応急修理剤が注入されている間、圧力は一時的に高くなります。注入が完了すると圧力は落ちますが、再度上昇します。
- 正しい空気圧を測定するためには、応急修理剤が注入された後にエアコンプレッサーのスイッチを OFF にしてください。
- 10 分以内に指定空気圧にならないときは、応急修理剤による応急修理はできません。Honda 販売店やロードサービスに連絡してください。
- タイヤパンク応急修理剤の購入および空きボトルの適切な処分については販売店にお尋ねください。
- コンプレッサーホースを取り付けるときは、エアコンプレッサーのスイッチを OFF にしてください。
- エアコンプレッサーのスイッチを ON にすると、振動して音が聞こえます。
- Honda 販売店やロードサービスにタイヤ交換または修理を依頼する際には、タイヤパンク応急修理剤を使用したことを知らせてください。



10 分以上エアコンプレッサーを使用しないでください。

エアコンプレッサーは過熱し、破損するおそれがあります。



応急修理剤の保管、取り扱いに注意してください。

お子さまが誤って手を触れないようにしてください。また、衣類などに付着すると、落ちないおそれがあります。



ボトル・キャップを外した後、ボトルを振らないでください。

修理剤がホースから飛び出るおそれがあります。

△警告

応急用修理剤は、飲用すると有害で、致命的になりうる物質を含んでいます。

誤って飲用した場合、できるだけたくさんの水を飲んで、ただちに医師の診察を受けてください。目に入ったり皮膚に付いた場合、水でよく洗い流してください。異常を感じたときはただちに医師の診察を受けてください。

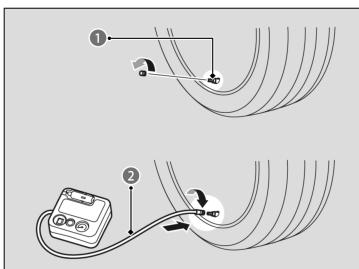
点検走行



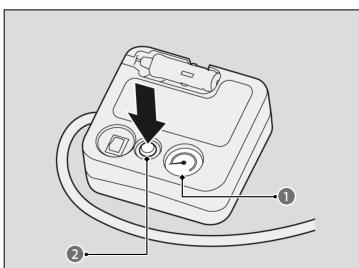
[1] 速度制限シール (1) を、運転者のよく見える位置に貼る。

[2] 点検走行を開始する。

[3] 10分または5km走行したあと安全な場所に車を停める。



[4] タイヤのバルブ (1) にエアホース (2) をきつく締め付ける。



[5] 空気圧計 (1) で空気圧を測定する。

【空気圧が130 kPa未満の場合】

運転を中止して Honda 販売店またはロードサービスに連絡してください。

【空気圧が130 kPa以上、指定空気圧以下の場合】

エアコンプレッサーを使って指定空気圧まで高めてください。

Honda 販売店または専門修理工場に到着するまでステップ 2 から 5 までを繰り返してください。

» 空気を入れすぎたときは、減圧ボタン (2) を押して空気を抜きます。応急修理剤のふきこぼれに注意してください。

【空気圧が指定空気圧の場合】

応急修理は完了です。

[6] タイヤバルブからエアホースを外しバルブキャップを取り付ける。

[7] キットを車両に戻す。

- ・走行点検で高速道路を走行する場合は、80km/h以下で走行してください。
- ・急ブレーキ、急加速、急ハンドルを避け通常より注意深く慎重に運転してください。
- ・速やかに Honda 販売店または専門修理工場でタイヤの修理、交換を行ってください。

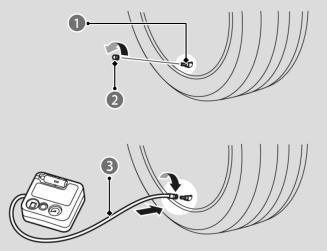
- 走行前に、エアコンプレッサーなどの積み忘れないか、しっかりと確認してください。

△注意

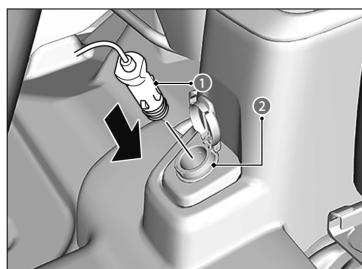
- ハンドルのパッドにシールを貼らない。
SRS エアバッグが正常に機能しなくなります。
- 警告灯やスピードメーターが見えない位置に貼らない。
安全運転の妨げとなります。

空気圧の補充方法

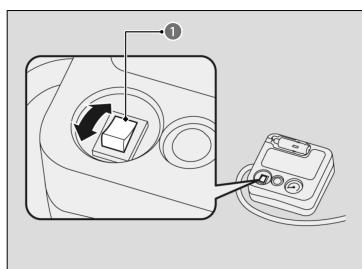
装備されているエアコンプレッサーを使用して、パンクしていないタイヤの空気圧を補充することができます。



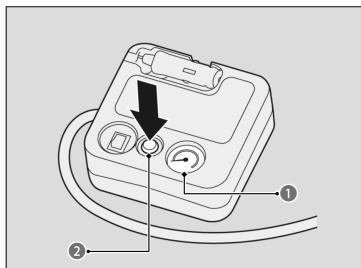
- [1] エアコンプレッサーを準備する。
- [2] 空気を補充するタイヤ付近にキットを水平に置く。
- [3] バルブ (1) からバルブキャップ (2) を取り外す。
- [4] バルブにエアコンプレッサーのホース (3) を確実に取り付ける。



- [5] エアコンプレッサーの電源コードのプラグ (1) を、アクセサリーソケット (2) に差し込む。
Q アクセサリーソケット ▶P.124
- [6] パワーシステムを起動する。



- [7] エアコンプレッサーのスイッチ (1) をONにして、空気圧を、運転席横の車体に貼ってあるラベルに記載されている指定空気圧まで高める。

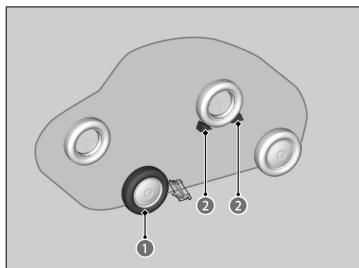


- [8] エアコンプレッサーのスイッチを OFF にする。
 ≫ エアコンプレッサーの空気圧計 (1) を確認し、空気圧が高ければ、減圧ボタン (2) を押して減圧する。
- [9] パワーシステムを停止し、エアコンプレッサーの電源コードのプラグを、アクセサリーソケットから外す。
- [10] タイヤバルブからエアホースを外しバルブキャップを取り付ける。
- [11] キットを車両に戻す。

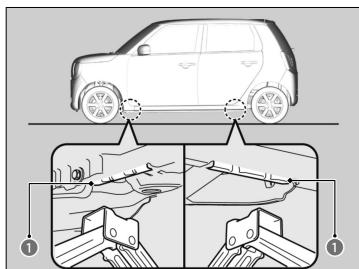
- ・エアを注入しているときはパワーシステムを停止しないでください。
- ・タイヤの空気圧を空気圧計で確認するときは、エアコンプレッサーの電源を OFF にしてください。

ジャッキの取り扱い

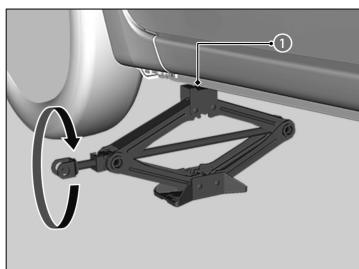
ジャッキのかけかた



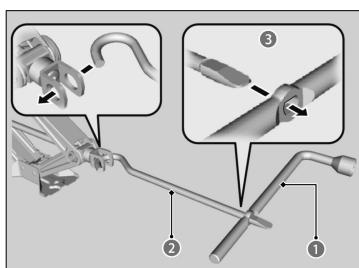
- [1] 地面が固く、滑らない、水平なところに車を停める。
- [2] シフトポジションを **P** にする。
- [3] パーキングブレーキをかける。
- [4] パワーモードを OFF モードにする。
- [5] 交換するタイヤ (1) の対角線上にあるタイヤの前後に、石などで輪留め (2) をする。



- [6] 交換するタイヤにもっとも近いジャッキポイント (1) の下にジャッキ (別売り) を置く。



- [7] ジャッキの上部がジャッキポイント (1) に接触するまで図の部分を矢印の方向に回す。
» ジャッキの溝にジャッキポイントがはまったことを確認してください。



- [8] ジャッキハンドル (別売り) (1) とジャッキハンドルバー (別売り) (2) を使って、タイヤが地面から離れるまで車体を上げる。
» ジャッキハンドルバーはジャッキハンドルに奥まで差し込んでください。 (3)

!
この車には、ジャッキが標準で搭載されていません。ジャッキアップをする場合は、この車専用のジャッキをお使いください。詳しくはHonda販売店にご相談ください。
他のジャッキでは支えられる重量（荷重）が不足したり、形状が合わないことがあります。

⚠ 警告

車がジャッキだけで支えられているときは、車の下に入らない。
車がジャッキから外れて、車の下にいる人が重大な傷害を負うおそれがあります。

⚠ 注意

ジャッキを使うときは安全のため、次のことを必ず守る。

- ・パワーシステムを起動したままにしない
- ・地面が固い平らなところ以外では使用しない
- ・ジャッキポイント以外にかけない
- ・人や荷物を乗せたままにしない
- ・ジャッキ使用中に車内に入らない
- ・ジャッキの上や下にものを入れたりしない

パワーシステムが起動しないとき

確認事項

パワーシステムが起動しない場合、以下のことが考えられます。項目を確認し、適切な処置を行ってください。以下の確認をしてもパワーシステムが起動しない場合は、Honda 販売店で点検を受けてください。

関連した警告灯か警告メッセージが表示されるかどうかを確認する

- 「充電コネクターが接続されています」と表示されたとき
充電コネクターを取りはずしてください。パワーモードをアクセサリーモードにしてから、ON にします。
- 「外気温が低いために起動できません パワーモードを OFF にしてお待ちください」と表示されたとき
ガレージ内で保管するなど、高電圧バッテリーが極低温状態にならないようにしてください。必要に応じて Honda 販売店に相談してください。
- 「キーの Honda エンブレムでスイッチに触れてください」と表示されたとき
ボタンを押してもキーのインジケーターが点灯しないときは
Q スマートキーの電池が切れたときの起動方法 ▶P.267
- トランスマッision警告灯が点滅し、「トランスマッision異常 停車時はパーキングブレーキを確実にかけてください」とメッセージが表示されたとき

シフトポジションの位置を確認する

- 以外のシフトポジションが選択されている
シフトポジションを **P** にしてください。

パワーシステム起動の手順を実行する

- もう一度、正しいパワーシステム起動操作をしてみてください。
Q パワーシステムの起動 ▶P.80

イモビライザーシステム表示灯を確認する

- イモビライザーシステム表示灯が点滅しているときは、パワーシステムの起動ができません。
Q イモビライザーシステム ▶P.47
Q 警告灯と表示灯一覧 ▶P.208

ヒューズを点検する

- 全てのヒューズを確認するか、Honda 販売店で点検を受けてください。
Q ヒューズの点検と交換方法 ▶P.278

すぐに車を動かす必要がある場合は、ブースターバッテリーを利用してジャンプスタートさせます。

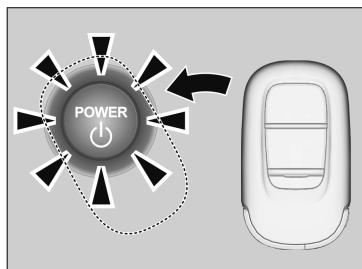
Q ジャンプスタートの方法 ▶P.269

状況によっては、緊急時のパワーシステム起動方法を行うことで、一時的にパワーシステムを起動することができます。

Q 緊急時のパワーシステム起動方法 ▶P.267

スマートキーの電池が切れたときの起動方法

POWERによるパワーモードの操作やパワーシステムの起動ができない場合、以下の手順を行ってください。



- [1] **POWER**を押す。
 - [2] 30秒以内に、スマートキーをキーレスボタンを手前に向けて**POWER**に接触させる。
 - [3] 10秒以内に、ブレーキペダルを踏みながら**POWER**を押す。
- »ペダルを踏んでいないときは、アクセサリーモードになります。

緊急時のパワーシステム停止方法

走行中、緊急事態の場合にパワーシステムを停止することができます。パワーシステムを停止しなければならない場合は、以下のいずれかを行ってください。

- **POWER**を約2秒以上押す。
- **POWER**を連続して3回押す。
- この操作を行った場合は、ハンドルはロックしません。



緊急時など必要な場合以外は、走行中にパワーシステムを停止しないでください。

緊急時のパワーシステム起動方法

通常のパワーシステムの起動方法で、パワーシステムが起動しない場合は、次の操作でパワーシステムが起動する場合があります。

7 万一の場合には 〉 パワーシステムが起動しないとき

緊急時など必要な場合以外は、この操作をしないでください。

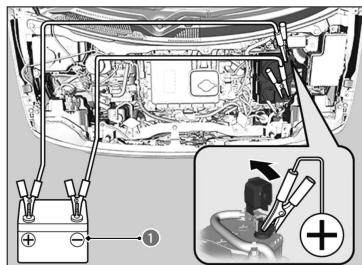
- [1] パーキングブレーキがかかっていることを確認する。
- [2] シフトポジションが **P** であることを確認し、パワーモードをアクセサリーモードにする。
- [3] ブレーキペダルをしっかりと踏んだまま、**POWER** を約 15 秒以上押し続ける。

上記の操作でパワーシステムが起動できてもシステムの異常が考えられます。

ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。

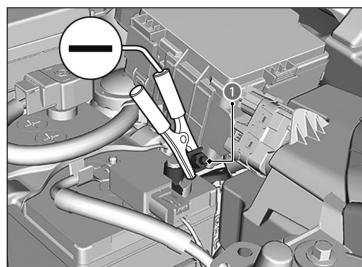
12 V バッテリーがあがったとき

ジャンプスタートの方法



- [1] ボンネットを開け、12 V バッテリー液の状態を確認する。
※バッテリー液が凍っている場合はバッテリー液が溶けるまでジャンプスタートはできません。
- [2] オーディオやライトなどの電源を OFF にする。
- [3] 自車と救援車のパワーモードを OFF モードにする。
- [4] ブースターケーブルを、自車の 12 V バッテリーの①端子に接続する。
- [5] ケーブルの反対側を、救援車のバッテリー (①) の①端子に接続する。
- [6] もう 1 本のブースターケーブルを、救援車のバッテリーの①端子に接続する。

- [7] ケーブルの反対側を、自車の 12 V バッテリーの①端子 (①) に接続する。
- [8] 救援車のエンジンを始動し、回転数を少し高めにする。
- [9] 自車のパワーシステムを起動する。



- ・救援車には、12 V のバッテリーを装着している車を使用してください。
- ・自動車用充電器を使用する場合は、電圧を 15 V 以下に設定してください。
- ・金属どうしがきちんと接続されているか確認してください。
- ・ケーブルを 12 V バッテリーの①端子以外に接続しないでください。

! 気温が極端に低い場所に 12 V バッテリーを長時間にわたって置かないでください。

内部のバッテリー液が凍結するおそれがあります。バッテリー液が凍結した 12 V バッテリーでジャンプスタートすると、12 V バッテリーが壊れることがあります。

!
寒冷時は、12 V バッテリーの液量、比重の確認をし、必要に応じて液の補給や補充電をしてください。
12 V バッテリーの性能が低下し、パワーシステム起動に支障をきたすことがあります。

!
12 V バッテリー液が不足しているときは、使用しないでください。
12 V バッテリー内部の劣化が進むことがあります。

⚠ 警告

ジャンプスタートは、正しい手順で慎重に行う。

ジャンプスタートの操作を間違えると、12 V バッテリーが爆発し、重大な傷害を受けることがあります。タバコの火、火花、炎を 12 V バッテリーから遠ざけ、正しい手順で行ってください。

ジャンプスタート後の作業

自車のパワーシステムが起動したら、下記の手順でブースターケーブルを取り外し、Honda 販売店や最寄りのガソリンスタンドなどで点検を受けてください。

- [1] 自車の 12 V バッテリーの \ominus 端子からケーブルを外す。
- [2] ケーブルの反対側を、救援車のバッテリーの \ominus 端子から外す。
- [3] 自車の 12 V バッテリーの \oplus 端子からケーブルを外す。
- [4] ケーブルの反対側を、救援車のバッテリーの \oplus 端子から外す。

- READY 表示灯が点灯すれば走行可能です。
- ブレーキ、ブレーキシステム、ABS、VSA の警告灯が点灯し消灯しない場合は、パワーシステムを OFF にして、再度、自車のパワーシステムを起動してください。警告灯が消灯しない場合は、異常が考えられますので、販売店で点検してください。
- パワーシステムが起動しないときは、ジャンプスタートを繰り返してください。
- ブースターケーブルの端子どうしが接触しないよう注意してください。

△警告

12 V バッテリーを扱うときは、火気を近づけない。

12 V バッテリーから発生する可燃性のガスに引火すると、12 V バッテリーが爆発し、重大な傷害を受けたり死亡したりするおそれがあります。

12 V バッテリーを扱うときは、保護衣・保護面を着用するか、Honda 販売店で 12 V バッテリーのメンテナンスを受けてください。

バッテリー液の取り扱いに注意する。

バッテリー液は希硫酸です。目や皮ふに付くとその部分が侵されますので十分注意してください。万一、付着したときはすぐに多量の水で少なくとも 5 分間以上洗浄してください。飲み込んだときはすぐに多量の飲料水を飲んでください。応急処置後は、専門医の診察を受けてください。

異常がおきたとき

「ブレーキ性能低下」の警告メッセージが表示された



ブレーキ性能低下
急減速・高速走行を
避けください

■ 表示の理由

ブレーキ性能が低下すると表示されます。

■ 表示されたらすぐによること

速度を落として注意して運転してください。
ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。

「高電圧バッテリー熱異常」のメッセージが表示された



高電圧バッテリー熱異常
安全な場所に停車し
車外へ退避してください



■ 表示の理由

高電圧バッテリーで熱異常が生じている可能性があるとき、いずれかのメッセージが表示されます。メッセージの内容に従い対処し、販売店にご連絡ください。

⚠ 警告

車に近づかない。

有害な煙が発生することがあります。

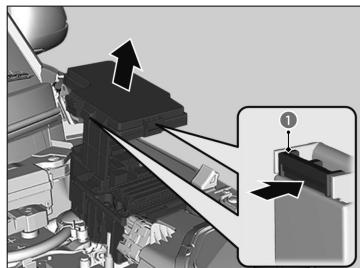
煙が発生しなくなっても、しばらくするとまた発生することがあります。

ヒューズが切れたとき

ヒューズの確認方法

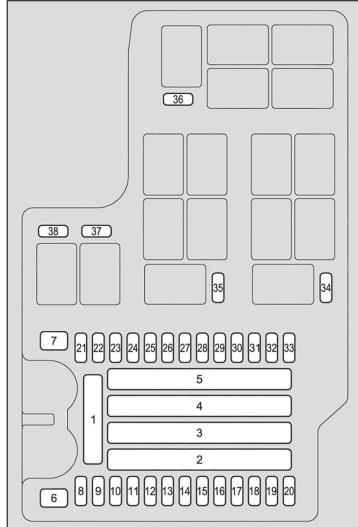
電気装置が作動しない場合、パワーモードを OFF モードにして、ヒューズが切れていないか確認します。ヒューズは、ボンネット内と室内のヒューズボックスに入っています。

ボンネット内のヒューズボックス



ボンネット内の助手席側にあります。
『タブ (1) を押してフタを開けてください。』

ヒューズの場所は次のイラストに示しています。
表のヒューズ番号とイラストで、該当するヒューズの位置を確認してください。



ボンネット内のヒューズボックスの装備と容量

表示	装備	容量
1	メインヒューズ	125A
	—	40A
	—	40A
	—	40A
2	—	40A
	ヒーターモーター	30A
	—	40A
	—	30A
3	サブファン	30A
	—	40A
	—	30A
	ヒューズボックスメイン	60A
	— ABS/VSA FSR	40A
	— ABS/VSA モーター	40A
	— ヒューズボックスメイン 2	40A
4	電動サーボブレーキ	40A
	—	30A
	—	40A
	リレーモジュール 2	30A
	—	30A
	— メインファン	30A
	— EPS	70A
5	リレーモジュール 1	30A
	—	40A
	—	30A
	— イグニッションメイン	60A

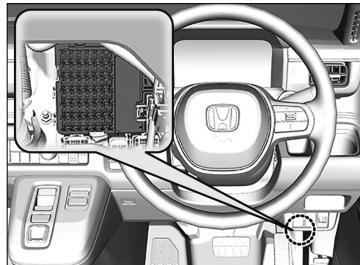
表示	装備	容量
6	—	—
7	—	—
8	— バックアップ	15A
9	— オーディオ	15A
10	—	—
11	— A/C メイン	10A
12	— ECH/ECOMP	10A
13	— リヤデフロスター	20A
14	— EWV ES	10A
15	—	—
16	— ECHE	10A
17	—	—
18	— V2L*	10A
19	— 充電リッドアクチュエータ	10A
20	— バッテリー IR	10A
21	— ワイパー	20A
22	— ドライブコントロール	10A
23	— OBC	10A
24	— 非常点滅表示灯	10A
25	— ECU	7.5A
26	— EWPES	20A
27	— IGB	10A
28	— LCM R	10A
29	— 制動灯・ホーン	10A
30	— IGDTWP	20A
31	— LCM L	10A
32	— IGD*	10A
33	—	—
34	—	—

❖: タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

表示	装備	容量
35	－ EWP・ファン	7.5A
36	－	－

表示	装備	容量
37	－	－
38	－	－

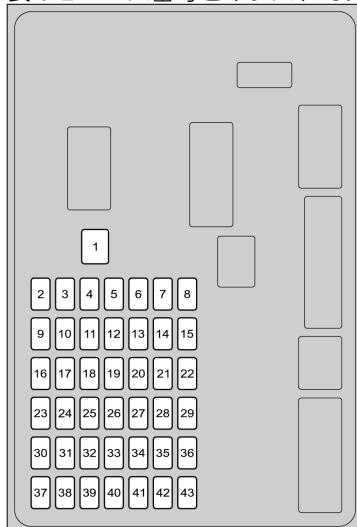
室内運転席側のヒューズボックス



インストルメントパネルの奥にあります。下から確認できます。

ヒューズの場所は次のイラストに示しています。

表のヒューズ番号とイラストで、該当するヒューズの位置を確認してください。



室内運転席側のヒューズボックスの装備と容量

表示	装備	容量
1	－	－
2	－	－

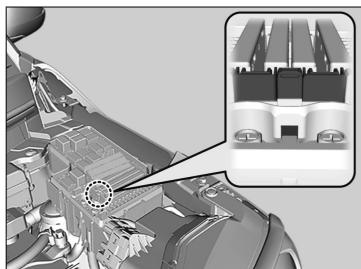
表示	装備	容量
3	－ ウオッシャー	10A
4	－ SRS	10A

表示	装備	容量
5	運転席側リヤパワーウィンドー	15A
6	助手席側リヤパワーウィンドー	15A
7	助手席パワーウィンドー	15A
8	—	—
9	Honda スマートキーシステム	7.5A
10	シフトバイワイヤー	7.5A
11	E-LATCH	7.5A
12	—	—
13	—	—
14	アクセサリーソケット	20A
15	ACC	7.5A
16	USB チャージャー	10A
17	IMG	10A
18	運転席パワーウィンドー	20A
19	—	—
20	SRS	10A
21	VSA	10A
22	後退灯	5A
23	シートヒーター	10A
24	オプション	10A

表示	装備	容量
25	オートリトラミラー*	10A
26	—	—
27	電装ドアミラー	7.5A
28	エアコン	7.5A
29	—	—
30	運転席側ドアロックモータ — (アンロック)	10A
31	—	—
32	助手席側ドアロックモータ — (アンロック)	10A
33	—	—
34	—	—
35	助手席側ドアロックモータ — (ロック)	10A
36	運転席側ドアロックモータ — (ロック)	10A
37	FI (EM)	10A
38	ED	7.5A
39	リヤワイパー	10A
40	フロントワイパー	7.5A
41	メーター	7.5A
42	—	—
43	—	—

*: タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

ヒューズの点検と交換方法

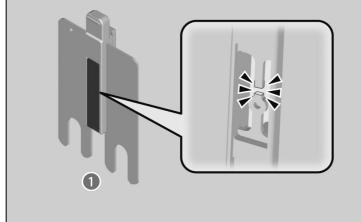


[1] パワーモードを OFF モードにし、ヘッドライトとすべてのアクセサリーを OFF にする。

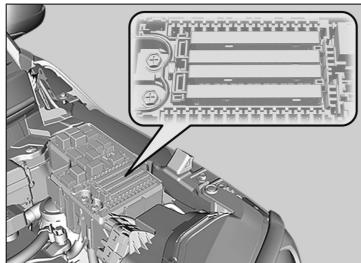
[2] ボンネット内のヒューズボックスのフタを取り外す。

[3] 図の位置からメインヒューズを点検する。

» ヒューズが切れている場合は、Honda 販売店に修理を依頼してください。

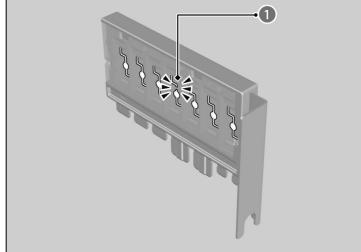


① メインヒューズ

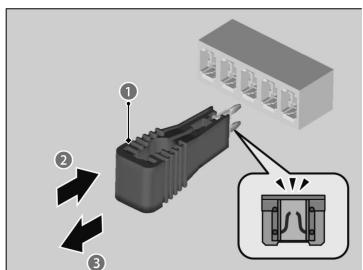


[4] メインヒューズ以外の大きいヒューズを点検する。

» ヒューズが切れている場合は、Honda 販売店に修理を依頼してください。



① 切れているヒューズ



[5] ボンネット内と、室内の小さいヒューズを点検する。

»ヒューズが切れている場合、市販のヒューズプレーで引き抜き、新しいものと交換してください。

- ① ヒューズプレー
- ② 取り付ける
- ③ 外す

- 規定容量より大きいヒューズに交換すると、電気系統を損傷する危険性が高くなります。交換したあと、すぐにヒューズが切れるような場合は、Honda 販売店で点検を受けてください。
- ヒューズは同じ規定容量のヒューズと交換してください。規定容量はヒューズの設置場所に記載している一覧で確認してください。

けん引したいとき

けん引について

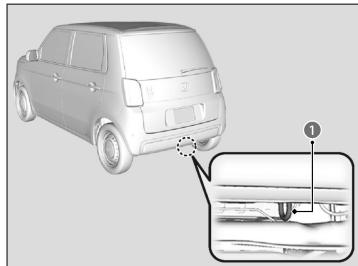
けん引するときは、Honda 販売店またはロードサービスにご連絡ください。

四輪または前輪を持ち上げてけん引してください。

- ・バンパーで車を持ち上げたり、けん引すると、バンパーがいちじるしく損傷します。バンパーは車の重量を支えるようにはできません。
- ・前輪を持ち上げてけん引するときは、パーキングブレーキが解除されていることを確認してください。パーキングブレーキが解除できないときは、必ず四輪を持ち上げてけん引してください。

Q 電子制御パーキングブレーキ ▶P.85

!
車両後方についているフックを他車のけん引や緊急時の脱出に使用することはできません。フックが破損するおそれがあります。



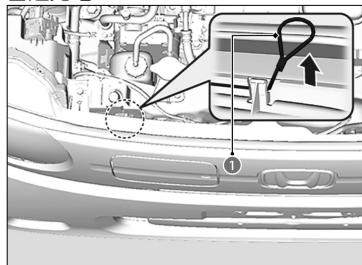
① フック

充電用リッドが開かないとき

充電リッドが開かないときの対処方法

万一、充電リッドを開けることができなくなったときは、応急処置として次の方法で開けてください。

普通充電リッド



[1] ボンネットを開ける。

Q ボンネットの開閉方法 ▶P.234

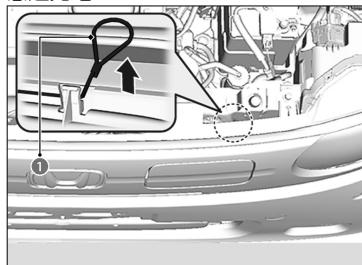
[2] 解錠ケーブル (①) を引き出し、矢印の方向に引く。

» 充電リッドが少し開きます。

Q 普通充電 ▶P.100

Q 急速充電* ▶P.103

急速充電リッド*



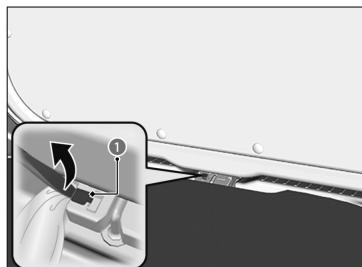
応急処置後は、Honda 販売店で点検を受けてください。

*: タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

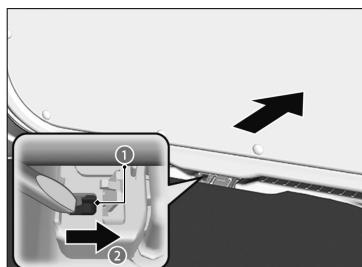
テールゲートが開かないとき

テールゲートが開かないときの対処方法

万一、テールゲートを開けることができなくなったときは、応急処置として次の方法で開けてください。



[1] テールゲートのロック部分のリッド (1) に、マイナスドライバーの先端を差し込み、リッドを開ける。



[2] ドライバーを使ってレバー (1) を右 (2) に動かしたままの状態で、テールゲートを押し開ける。

- リッドが傷つかないよう、ドライバーに布を巻き付けてください。
- 応急処置後は、Honda 販売店で点検を受けてください。

⚠ 注意

テールゲートを内側から開けるときは、周囲の安全と車の上方や後方に十分なスペースがあることを確認する。

人やものにぶつかり思わぬけがをするおそれがあります。

緊急時や車両トラブルのとき*

緊急通報

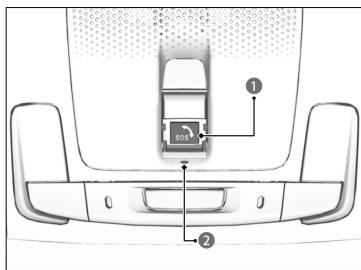
緊急通報とは、事故発生時や急病などの緊急時に、オペレーターがお客様のかわりに警察や消防へ通報するサービスです。

■ 自動通報機能

車両のエアバッグが展開した場合、車両は自動的にオペレーターへの接続を開始します。接続時には車両に関する情報（場所、車両の状態など）がオペレーターに送信されます。

■ 手動通報機能

事故発生時や急病などの緊急時に、緊急通報ボタンを押すことで手動でオペレーターに接続することが可能です。



- [1] 緊急通報ボタン（①）のカバーを開ける。
- [2] 緊急通報ボタンを押す。
⇒オペレーターに接続されます。
⇒オペレーターに接続中はインジケーター（②）が緑色に点滅します。

- ご利用には、Honda Total Care プレミアムのお申込みが必要です。詳しくは Honda Total Care プレミアムのホームページをご確認ください。 <https://www.honda.co.jp/hondatotalcare/premium/>
- 緊急通報はパワーモードがONモードのときに利用可能です。
- オペレーターとの接続は、車両側から終了させることはできません。オペレーターのみが車両との接続を終了することができます。
- エアバッグが展開しなくとも、車両に一定以上の衝撃が加わった場合、車両は自動的にオペレーターへの接続を開始します。

次の場合にはインジケーターが赤色に点滅し、オペレーターに接続できない可能性があります。

- バックアップバッテリーの電圧が低いとき
- トンネル内や地下駐車場など電波環境が悪いとき

*: タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

次の場合にはインジケーターが赤色に点灯し、オペレーターに接続できない可能性があります。

- ・システム、またはマイクやスピーカーなどの機器に問題があるとき
- ・インジケーターが赤色で点灯を続ける場合は Honda 販売店で点検を受けてください。

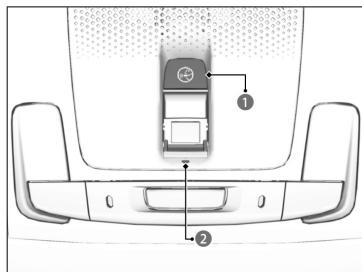


インストルメントパネル上部に物を置かないでください。

通信用のアンテナが内蔵されているため、オペレーターとの通話が繋がりにくくなったり、車両の位置情報がずれる場合があります。

トラブルサポート

トラブルサポートとは、警告灯が点灯した場合や車両トラブルなど、乗車中の困ったときに Honda Total Care 緊急サポートセンターへ接続して、車の使い方やロードサービスの手配をサポートするサービスです。



パワーモードが ON モードのときにトラブルサポートボタン (1) を押すと、Honda Total Care 緊急サポートセンターに接続します。
 »接続中はインジケーター (2) が緑色に点滅します。
 »再度トラブルサポートボタン (1) を押すと接続が終了します。

- ご利用には、Honda Total Care プレミアムのお申込みが必要です。詳しくは Honda Total Care プレミアムのホームページをご確認ください。 <https://www.honda.co.jp/hondatotalcare/premium/>
- 緊急通報はパワーモードが ON モードのときに利用可能です。

次の場合にはインジケーターが赤色に点滅し、Honda Total Care 緊急サポートセンターに接続できない可能性があります。

- ・バックアップバッテリーの電圧が低いとき
- ・トンネル内や地下駐車場など電波環境が悪いとき

次の場合にはインジケーターが赤色に点灯し、Honda Total Care 緊急サポートセンターに接続できない可能性があります。

- ・システム、またはマイクやスピーカーなどの機器に問題があるとき
- ・インジケーターが赤色で点灯を続ける場合は Honda 販売店で点検を受けてください。

- !**インストルメントパネル上部に物を置かないでください。**
通信用のアンテナが内蔵されているため、オペレーターとの通話が繋がりにくくなったり、車両の位置情報がずれる場合があります。

車両情報

仕様

仕様について 287

オープンソースライセンス

一覧 289

仕様

仕様について

基本情報

名称	N-ONE
車体形状	4 ドアステーションワゴン
乗車定員	4 名

走行用モーター

型式	MCF7
----	------

ブレーキペダル

遊び	8.9-17.3mm
床板とのすき間	138mm 以上 [約 196N (20kgf)の力]

12V バッテリー

容量/タイプ	32Ah(5)、40Ah(20)/44B19L
--------	-------------------------

ウォッシャー液

タンク容量	1.5L
-------	------

電球

ヘッドライト(ロービーム)	LED
ヘッドライト(ハイビーム)	LED
前面方向指示器/前面非常点滅表示灯	LED
車幅灯/デイタイムランニングライト	LED
充電口照明	LED
側面方向指示器/側面非常点滅表示灯	LED
制動灯	LED
尾灯	LED
後面方向指示器/後面非常点滅表示灯	LED
後退灯	LED
ハイマウントストップランプ	LED
番号灯	LED
マップランプ*	LED
フロントシート室内灯*	12V-8W
リヤシート室内灯	LED ^{※1} 12V-8W ^{※2}

※1: マップランプ装備車

※2: マップランプ非装備車

ブレーキフルード

指定液	Honda 純正ブレーキフルード DOT3 または DOT4
-----	-----------------------------------

トランスミッションフルード

指定液	Castrol ON EV Transmission Fluid D1
規定量	0.68L (交換時)

*: タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

タイヤ	
サイズ	155/65R14 75S
空気圧 kPa (kgf/cm ²)	前輪 240 (2.4) 後輪 230 (2.3)
リムサイズ	14×4 1/2J

オープンソースライセンス

一覧

■ メーター オープンソースライセンス

本製品に組み込まれたソフトウェアは、オープンソースソフトウェアを含みます。オープンソースソフトウェアの詳細に関しては、以下のウェブサイトをご覧ください。

https://www.nippon-seiki.co.jp/business_ic_meter/

■ TCU オープンソースライセンス

Free/Open Source Software 情報

この製品は、Free/Open Source Software(FOSS)を含みます。

FOSS のライセンス情報及びソースコードは下記 URL を参照ください。

<https://www.denso.com/global/en/opensource/tcu/honda/>

索引

数字

12V バッテリー充電警告灯 210

A

A/C(エアコン) 134

ABS (アンチロックブレーキシステム) 91

ABS 警告灯 87, 211

ACC (アダプティブクルーズコントロール)

ACC 警告灯 212

ACC 表示灯 180

B

Bluetooth®オーディオ 145

C

CMBS (衝突軽減ブレーキ) 156

CMBS 警告灯 213

E

ECON モード 117

ECON モード表示灯 117

EPS (電動パワーステアリング) システム警告灯 212

H

Honda SENSING 150

Honda Total Care プレミアム 2

Honda スマートキー 48

I

IR カットドアガラス 245

ISOFIX/i-Size 28

L

LKAS (車線維持支援システム) 189

LKAS 警告灯 212

P

POWER スイッチ 79

R

READY 表示灯 80

S

SRS エアバッグ 36

エアバッグシステム警告灯 41, 211

U

USB ジャック 125

V

VSA OFF 警告灯 211

VSA (ビーカルスタビリティアシスト) 118

VSA OFF 警告灯 119, 211

VSA 警告灯 118, 211

W

W (ワット) 数 287

ア

アイポルト 250

明るさ設定 225

アクセサリー 35

アクセサリーソケット 124

アジャイルハンドリングアシスト 119

安全支援情報 223

安全支援情報警告灯 (オレンジ) 213

衝突軽減ブレーキ (CMBS) 警告灯 (オレンジ) 213

路外逸脱抑制機能警告灯 (オレンジ) 213

路外逸脱抑制機能操舵アシスト一時停止警告灯 213

安全に関する表示について 1

アンチロックブレーキシステム (ABS) 91

ABS 警告灯 87, 211

イ

イモビライザーシステム 47

イモビライザーシステム表示灯 47

インフォテインメントシステム 142

ウ

ウインカー・ライト

ウインカー (方向指示器) 105

オートハイビーム 108

デイタイムランニングライト	107
ハイビーム	106
ヘッドライト・車幅灯	105
ヘッドライトオートオフ機能	107
ヘッドライトレベリングダイヤル	107
ウィンカー（方向指示器）	105
ウィンドウォッシャー	111
ウィンドー	74
くもり止め	113
ウェアインジケーター	240
運転	
シフト操作	82
パワーシステムの起動	80
ブレーキ	85
運転時の注意事項	20
運転の準備	18

工

エアコン	134
オートエアコンセンサー	137
オートエアコンの使用方法	136
エアバッグ	
SRS エアバッグ	36
エアバッグシステム警告灯	41, 211
エアバッグについて	35
エアバッグのお手入れ	42
サイドエア/バッゲ	38
サイドカーテンエアバッグ	40
エマージェンシーストップシグナル	91

オ

応急修理用（タイヤパンク）	256
オドメーター	217
温度センサー	216
オーディオ	221
オーディオリモートコントロールスイッチ	142
オーディオを聞く	145
オートハイビーム	108
オートハイビーム表示灯	108
オートマチックブレーキホールド	88
オートマチックブレーキホールドシステム表示 灯	89
オートマチックブレーキホールド表示灯	90
オートリトラミラー	72

オープンソースライセンス	289
オープンソースライセンスについて	146

力

外気温表示	216
外部給電	138
鍵(かぎ)	44
カレンダー	224

キ

急アクセル抑制機能	167
急アクセル抑制機能表示灯	167
緊急時や車両トラブルのとき	283
緊急通報	283
キー	44
Honda スマートキー	44
キー閉じ込み防止装置	55
キーナンバータグ	49
キーレスエントリー	50
スマートキーの電池が切れたときの起動方法[ス マートキーノンチガキレタキノキドウ	267
電池交換方法	254
内蔵キー	48
キーレスエントリー	254
電池交換方法	254

ク

空気圧	288
グラブレール	8
車の改造	34
クルーズコントロール表示灯（ホワイト/グリーン）	184
グローブボックス	124

ケ

経過時間	221
警告灯	208
12V バッテリー充電警告灯	210
ABS（アンチロック ブレーキシステム）警告灯	211
ABS 警告灯	87

EPS (電動パワーステアリング) システム警告灯	212
VSA OFF 警告灯	119, 211
VSA (ビーカルスタビリティアシスト) 警告灯	211
安全支援情報警告灯 (オレンジ)	213
エアバッグシステム警告灯	41, 211
シートベルト非着用警告灯	70, 210
車線維持支援システム (LKAS) 警告灯 (オレンジ)	212
渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール (ACC) 警告灯 (オレンジ)	212
衝突軽減ブレーキ (CMBS) 警告灯 (オレンジ)	213
トランスマッision警告灯	212
パーキングセンサー警告灯	212
パワーシステム警告灯	211
ブレーキ警告灯 (レッド)	210
ブレーキシステム警告灯 (オレンジ)	210
路外逸脱抑制機能警告灯 (オレンジ)	213
路外逸脱抑制機能操舵アシスト一時停止警告灯	213
警告メッセージ	228, 272
けん引	280

□

交換

室内灯電球	252
ヒューズ	278
工具	250
交差点案内表示	222
航続可能距離	220
航続可能距離表示	217
高電圧バッテリー温度計	222
高電圧バッテリー残量計	216
高電圧バッテリーの充電	97
高電圧バッテリーの特性	15
後方誤発進抑制機能	163
誤発進抑制機能	163
コンパス	222

サ

サイドエアバッグ	38
サイドカーテンエアバッグ	40

座席	58
サンバイザー	8

シ

室内装備品

USB ジャック	125
アクセサリーソケット	124
グローブボックス	124
ドリンクホルダー	126
パワーサプライコネクター	128
室内灯	122
電球の交換	252
シフト操作	82
シフトポジション	82
シフトポジション表示灯	82
車載インフォテイメントシステムについて	142
車線維持支援システム (LKAS)	189

車線維持支援システム (LKAS) 警告灯 (オレンジ)	212
------------------------------	-----

ジャッキ	250, 264
------	----------

ジャッキハンドルバー	250
------------	-----

ジャッキハンドル (ホイールナットレンチ)	250
-----------------------	-----

車内の清掃	245
-------	-----

車内の施錠/解錠方法	55
------------	----

車幅灯	105
-----	-----

車両接近通報装置	117
----------	-----

車両データの記録について	3
--------------	---

ジャンプスタート	269
----------	-----

渋滞運転支援機能 (トラフィックジャムアシスト)	193
--------------------------	-----

渋滞追従機能付 ACC (アダプティブクルーズコントロール (ACC))	179
--------------------------------------	-----

渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール (ACC) 警告灯 (オレンジ)	212
--	-----

渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール (ACC) 表示灯 (ホワイト/グリーン)	180
---	-----

渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール (ACC) /車線維持支援システム (LKAS) /トラフィックジャムアシスト (渋滞運転支援機能) 表示	217
---	-----

充電	97
普通充電	100

充電口照明	252
充電専用 USB ジャック	126
充電方法	99
充電用リッド	
充電用リッドが開かないとき	281
瞬間電費	220
衝突軽減ブレーキ (CMBS)	156
衝突軽減ブレーキ (CMBS) 警告灯 (オレンジ)	213
衝突後ブレーキシステム	43
衝突後ブレーキシステムについて	43
商標	147
情報	146
仕様	287
使用できる iPod、iPhone	146
シングルペダルコントロール	115
シンプル	220
シート	58
フロントシート	61
リアシートリマインダー	64
リヤシート	62
シートヒーター	133
シートベルト	66
アンカーポイント	71
シートベルトの点検方法	67
シートベルト非着用警告灯	70, 210
シートベルトプリテンショナー	67
シートベルトリマインダー	70
正しい着用法	67
妊娠中の着用法	69

ス

スイッチ	
ECON スイッチ	117
POWER スイッチ	79
ワインカー (方向指示器)	105
エアコン	135
室内灯	122
シングルペダルコントロールスイッチ	116
ステアリングスイッチ	151
デフロスター (くもり止め)	113
パーキングブレーキスイッチ	86
パワーウィンドー	74
パワーウィンドーロックボタン	75

フロントデフロスタースイッチ	113
ヘッドライト・車幅灯	105
マップランプ	123
リヤデフロスタースイッチ	113
リヤワイパー・ウォッシャー	112
ワイパー・ウォッシャー	111
ステアリング	57
ステアリングスイッチ	151
スピードメーター	215
スマートキー	44, 254
電池交換方法	254

セ

制動灯	252
セキュリティアラームシステム	
イモビライザーシステム	47
セキュリティアラームシステム	47
セキュリティアラームシステム作動表示灯	47
施錠と解錠	50
先行車発進お知らせ機能	198
全席シートベルト	222
前面方向指示器/前面非常点滅表示灯	252

ソ

側面方向指示器/側面非常点滅表示灯	252
ソナーセンサー	154

タ

タイヤ	
指定空気圧	288
タイヤのローテーション	242
タイヤパンク応急修理キット	257
パンク	256
タイヤ角度モニター	228
暖房	134

チ

チャイルドシート	21
ジュニアシート	33
取り付けかた	28
乳児のチャイルドシート	23
幼児のチャイルドシート	23
チャイルドブルーフ	55

駐停車の操作 94

ツ

通信/充電用 USB ジャック 125

テ

デイタイムランニングライト 107

デイタイムランニングライト/車幅灯 252

デバイスの接続 143

デフロスター（くもり止め） 113

フロントデフロスタースイッチ 113

リヤデフロスタースイッチ 113

電子制御パークリングブレーキ 85

電子制御ブレーキアシスト 85

電池交換 254

電話 222

データの取り扱いについて 3

テールゲート 76

開閉方法 77

テールゲートが開かないとき 282

ト

ドアの施錠と解錠 50

Honda スマートキーを使わない施錠方法 54

Honda スマートキー 50

Honda スマートキーを携帯した施錠/解錠方法 50

キー閉じ込み防止装置 55

キーナンバータグ 49

キーレスエントリー 50

降車時オートドアロック機能を用いた施錠方法 52

車内の施錠/解錠方法 55

衝撃感知ドアロック解除システム 55

チャイルドブルーフ 55

内蔵キーを使った施錠/解錠方法 54

ドアミラー 72

時計 218

時計/車両設定 226

時計設定 218

トラフィックジャムアシスト（渋滞運転支援機能） 193

トラブルサポート 284

トラブルシューティング トラブルシューティング

警告灯が点灯/点滅した 272

けん引してもらいたい 280

ジャンプスタートしたい 269

パンクした 256

ヒューズが切れた 278

トランスマッision警告灯 212

トランスマッisionフルード 287

トリップメーター 221

ドリンクホルダー 126

ナ

内蔵キーを使った施錠/解錠方法 54

ナビゲーション 222

ハ

ハイビーム 106

バッテリー

12Vバッテリー充電警告灯 210

ジャンプスタート 269

容量/タイプ 287

バッテリー加温システム 16

発炎筒 250

バニティミラー 8

パワー/チャージ 220

パワーウィンドー 74

ロックボタン 75

パワーサプライコネクター 128

パワーシステム 79, 266, 269

ジャンプスタート 269

パワーシステムが起動しない 266

パワーシステムの起動 80

パワーシステムの停止 81

パワーモードオートオフ機能 79

パワーモード警告ブザー 79

パワーモードの切り換え 79

パワーシステム警告灯 211

パワーシステムの起動 80

パワーフロー 220

パンク 256

番号灯 252

ハンドル 57

パーキングセンサー警告灯 212

パーキングセンサーシステム 204

パーキングブレーキ 85

ヒ

日付の調整 225
 尾灯 252
 ヒューズ 274
 各ヒューズの装備と容量 274, 276
 ヒューズの点検と交換 278
 標識認識機能 201
 標識認識機能表示 216
 表示灯 208
 ECON モード表示灯 117
 READY 表示灯 80
 イモビライザーシステム表示灯 47
 オートハイビーム表示灯 108
 オートマチックブレーキホールドシステム表示
 灯 89
 オートマチックブレーキホールド表示灯 90
 急アクセル抑制機能表示灯 167
 クルーズコントロール表示灯 (ホワイト/グリー
 ン) 184
 シフトポジション表示灯 82
 渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロ
 ール (ACC) 表示灯 (ホワイト/グリーン) 180
 シングルペダルコントロール表示灯 116
 セキュリティアラームシステム作動表示灯 47
 方向指示器表示灯 105
 ライト点灯表示灯 105
 表示の切り換えた 219
 ビークルスタビリティアシスト (VSA) 118

フ

普通充電 100
 踏み間違い衝突軽減システム 162
 ブレーキ警告灯 (レッド) 210
 ブレーキシステム 85
 ABS (アンチロックブレーキシステム) 91
 エマージェンシーストップシグナル 91
 オートマチックブレーキホールド 88
 電子制御パーキングブレーキ 85
 電子制御ブレーキアシスト 85
 フットブレーキ 85
 ブレーキ警告灯 (レッド) 210
 ブレーキシステム警告灯 (オレンジ) 210

ブレーキシステム警告灯 (オレンジ) 210

ブレーキフルード 287

 ブレーキ警告灯 (レッド) 210

フロントデフロスタースイッチ 113

フロントワイドビューカメラ 153

ブースターケーブル 269

ム

平均車速 221
 平均電費 221
 ヘッドライト 105, 252
 ヘッドライトオートオフ機能 107
 ヘッドライトレベリングダイヤル 107
 ヘッドライト・車幅灯 105
 ライト点灯表示灯 105

ホ

ホイールサイズ 288
 ホイールナットレンチ (ジャッキハンドル) 250
 方向指示器表示灯 105
 歩行者事故低減ステアリング 175
 ホーンスイッチ 10

マ

マップランプ 123
 窓 74
 くもり止め 113
 ロックボタン 75
 マルチインフォメーションディスプレイ 219
 明るさ設定 225
 安全支援情報 223
 オーディオ 221
 カレンダー 224
 経過時間 221
 警告メッセージ 228
 交差点案内表示 222
 航続可能距離 220
 高電圧バッテリー温度計 222
 コンパス 222
 瞬間電費 220
 シンプル 220
 全席シートベルト 222
 タイヤ角度モニター 228

電話	222
時計/車両設定	226
トリップメーター	221
ナビゲーション	222
パワー/チャージ	220
パワーフロー	220
表示の切り換えかた	219
平均車速	221
平均電費	221
メーター表示設定	228

ミ

ミラー	
オートリトラミラー	72
ドアミラー	72
バニティミラー	8
ルームミラー	72

メ

メンテナンス	
スマートキー	254
ライト類の点検と整備	252
メーター	215
オドメーター	217
外気温表示	216
航続可能距離表示	217
高電圧バッテリー残量計	216
渋滞追従機能付アダプティブルーズコントロール (ACC) /車線維持支援システム (LKAS) / トラフィックジャムアシスト (渋滞運転支援機能) 表示	217
スピードメーター	215
時計	218
標識認識機能表示	216
メーター表示設定	228

ラ

ライト	105, 122
ライト点灯表示灯	105
ライト類の点検と整備	
後退灯	252
後面方向指示器/後面非常点滅表示灯	252
室内灯	252

充電口照明	252
制動灯	252
前面方向指示器/前面非常点滅表示灯	252
側面方向指示器/側面非常点滅表示灯	252
デイタイムランニングライト/車幅灯	252
ハイマウントストップランプ	252
番号灯	252
尾灯	252
ヘッドライト	252
ランプ	122

リ

リアシートリマインダー	64
リアワイドカメラシステム	96
リムサイズ	288
リヤデプロスタースイッチ	113

ル

ルームミラー	72
--------	----

レ

冷房	134
----	-----

ロ

路外逸脱抑制機能	170
路外逸脱抑制機能警告灯 (オレンジ)	213
路外逸脱抑制機能操舵アシスト一時停止警告灯	
	213

ワ

ワイパー・ウォッシャー	
フロントワイパー・ウォッシャー	111
リヤワイパー・ウォッシャー	112